

OKI



ユーザーズガイド

Ripcenter™ 19, GamaPrint™ 19

【目次】

| | |
|-----------------------------------|-----------|
| 第1章 インストール | 5 |
| 1.1 準備 | 6 |
| 1.2 ソフトウェアのインストール | 9 |
| 1.3 ポートの設定 | 15 |
| 1.4 メディア (日本語プロファイル) のインポート | 16 |
| 1.5 メディアの設定 | 18 |
| 1.6 プリンタードライバーの更新方法 | 19 |
| 第2章 まずは印刷してみよう | 22 |
| 第3章 便利な使い方 | 30 |
| 3.1 M-64s はこんなに便利、こんなに簡単! | 31 |
| 3.2 基本操作編 | 35 |
| ◆ ジョブ操作 | 35 |
| 再印刷したい | 35 |
| メディアや印刷モードを変えて再印刷したい | 37 |
| ◆ レイアウト | 38 |
| メディアの中央に印刷したい (ラフなセンタリング) | 38 |
| 任意の場所に印刷したい (オフセット) | 39 |
| まとめて印刷したい、余白を減らしたい (ネスト) | 41 |
| コピー時の余白・隙間をもっと広げたい | 42 |
| 特定部分だけを印刷したい (トリミング) | 43 |
| タイリング出力したい | 44 |
| タイリング時に、特定のタイルだけ印刷したい | 45 |
| タイルを反転させて継ぎ目を同じサイドで印刷させたい | 46 |
| タイリング時に、継ぎ目をオーバーラップさせたい | 47 |
| トンボを印刷したい | 48 |
| 折りたたみ線 (ソーイング線) を挿入したい | 49 |
| ◆ 色の調整 | 50 |
| 純色で印刷したい | 50 |
| 色を置換したい | 51 |
| 特色指定した色を印刷したい (スポットカラーの印刷) | 53 |
| Vivid 出力と Natural 出力を使い分けたい | 54 |
| Vivid 出力と Natural 出力を使い分けたい | 55 |

| | |
|---|----|
| ◆ プリンター動作の変更..... | 57 |
| ヒーター温度を変更したい..... | 57 |
| 片方向で印刷したい..... | 58 |
| データ幅で印刷したい / メディア幅で印刷したい..... | 59 |
| ◆ もっと便利に..... | 60 |
| いつも同じ設定で RIP したい (クイックセット)..... | 60 |
| 【クイックセットの作り方】..... | 61 |
| 【クイックセットの選び方】..... | 62 |
| インクの使用量とコストが知りたい..... | 63 |
| アプリケーションから印刷したい..... | 68 |
| 新しいメディアプロファイルを使いたい..... | 69 |
| 入手方法①..... | 69 |
| 入手方法②..... | 70 |
| 【参考：プロファイルのインポート方法】..... | 72 |
| RIP を再インストールしたい..... | 73 |
| 警告類の表示時間を変えたい..... | 76 |
| ◆ もっと速く..... | 77 |
| RIP 時間を短縮したい..... | 77 |
| 印刷開始前にヒーターを温めておきたい (CP_Manager での設定)..... | 78 |
| RIP キューに送信するジョブを、一旦保留状態にしておきたい..... | 79 |
| ジョブに特有の情報を登録したい..... | 81 |
| ジョブを検索したい..... | 82 |
| ◆ 輪郭カット..... | 83 |
| カット用ファイルの作成..... | 83 |
| クイックセットの設定..... | 83 |
| CUT サーバーの設定..... | 84 |
| 印刷とカット..... | 85 |

第4章 困ったときに (FAQ)

87

| | |
|-------------------------------|----|
| ◆ 動作のトラブル..... | 88 |
| データ送信ができない①..... | 88 |
| データ送信ができない②..... | 89 |
| RIP エラーが起きて印刷できない..... | 90 |
| RIP すると自動的に印刷されてしまう..... | 91 |
| ◆ レイアウトのトラブル..... | 92 |
| 画像が切れてしまう..... | 92 |
| 【参考：カスタム用紙幅の設定】..... | 93 |
| 厳密にメディア中央に印刷したい (センタリング)..... | 94 |

| | |
|-------------------------------------|-----|
| ◆ 色・画質のトラブル | 96 |
| 印刷すると色の違う領域が出る (カラースティッチ) | 96 |
| ベクターデータの色が鮮やかでない | 98 |
| ジャギが発生する | 99 |
| Illustrator で配置した画像の色が沈む | 101 |
| 【参考：リンクと埋め込みについて】 | 102 |
| グラデーションを含むデータのトラブル① | 103 |
| グラデーションを含むデータのトラブル② | 104 |
| Illustrator 上でのプレビューと印刷結果が異なる | 105 |
| 【参考：オーバープリントとは】 | 107 |
| バンディング・スジムラが目立つ | 108 |

第5章 機能辞書 109

| | |
|-----------------------------------|-----|
| ◆ プリンタとメディア | 110 |
| ◆ プレビューとサイズ | 111 |
| ◆ タイル設定 | 112 |
| ◆ カラーコレクション | 114 |
| ◆ 仕上げマーク | 116 |
| ◆ 印刷 | 117 |
| ◆ メディアプロファイルについて (M-64s の例) | 119 |
| ◆ 16 ビットレンダリングと 8 ビットレンダリング | 120 |
| ◆ CP_Manager について | 121 |

付 録 122

第1章 インストール

本章では RIP ソフトのインストール方法とセットアップ方法を説明します。
この章以降の説明は RIPCenter と ColorPainter M-64s の組み合わせで説明します。

商標について

Microsoft、Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

「ONYX」および ONYX ロゴは、ONYX Graphics, Inc の登録商標です。

ONYX RIPCenter および ONYX GamaPrint は、ONYX Graphics, Inc の商標です。

PANTONE® およびその他の Pantone 商標は Pantone LLC の登録商標です。

1.1 準備

インストール前にご確認ください。

● PC の準備

以下のスペック以上の Windows® PC をご準備ください。

ONYX 12以降では、64bit Windows® OSのみサポートされることにご注意ください。32bitOSへはインストールできません。

CPU: Intel Core i7 2コア以上

メモリー: 8GB (16GB 以上推奨)

HDD: 500GB 以上

USBポート: USB 2.0 以上 2ポート (3ポート以上推奨)

画面解像度: 1280 x 1024 以上、16bit カラー

ネットワーク: (インターネット接続を推奨、パッチやメディアプロファイルダウンロードのため)

OS: 下記いずれの場合でも、64bit OSが必須。

Windows® 7 Professional, Enterprise, Ultimate

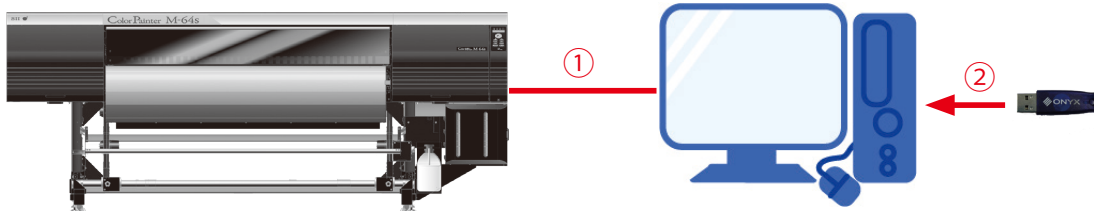
Windows® 8.1 Professional, Enterprise

Windows® 10 Professional, Enterprise

● プリンターとの接続、ライセンスキーの準備

① パソコンとプリンターを USB ケーブルで接続してください。

② ONYX 付属のライセンスキー (USB キー) を差し込んでください。



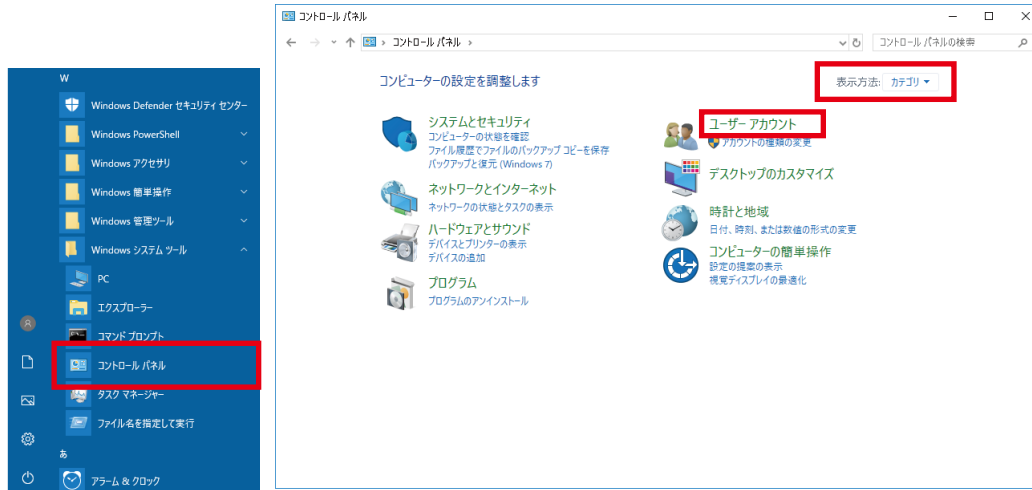
※プラグ & プレイが立ち上がりますが、いったん閉じてください。

● OS の準備

- ① 管理者権限を持つアカウントで、OS にログインしてください。
- ② アンチウイルスソフトがインストールされている PC の場合、インストール開始前にアンチウイルスソフトを無効化してください。
- ③ UAC などの OS のセキュリティシステムを緩和してください。

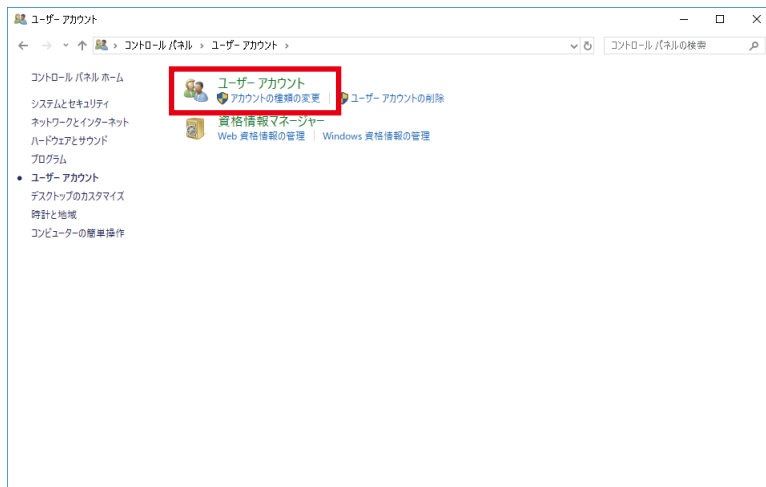
【やり方】

「スタートメニュー」→「コントロールパネル」を開きます。

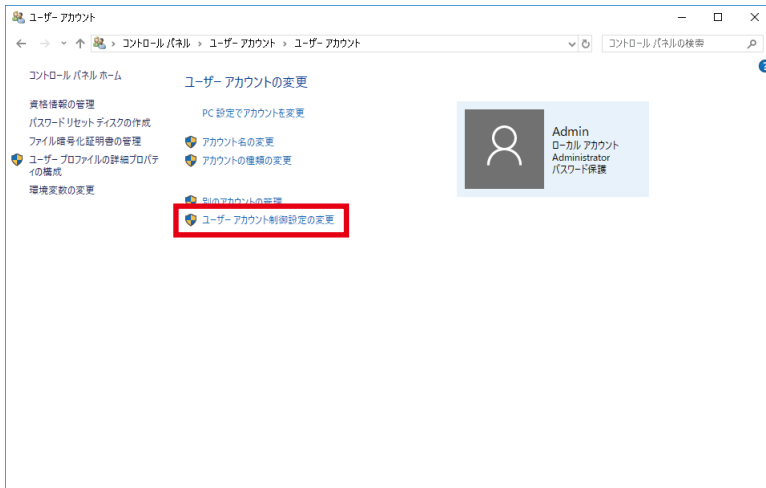


「表示方法」が「カテゴリ」になっていることを確認し、「ユーザーアカウント」をクリックします。

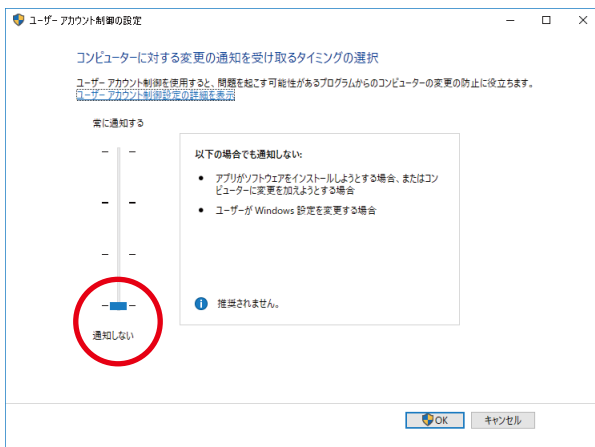
※ 表示方法がアイコンの場合は「ユーザーアカウント」をクリックします。



更に「ユーザーアカウント」をクリックします。



「ユーザーアカウント制御の変更」をクリックします。



スライダを一番下 (通知しない) まで下げます。

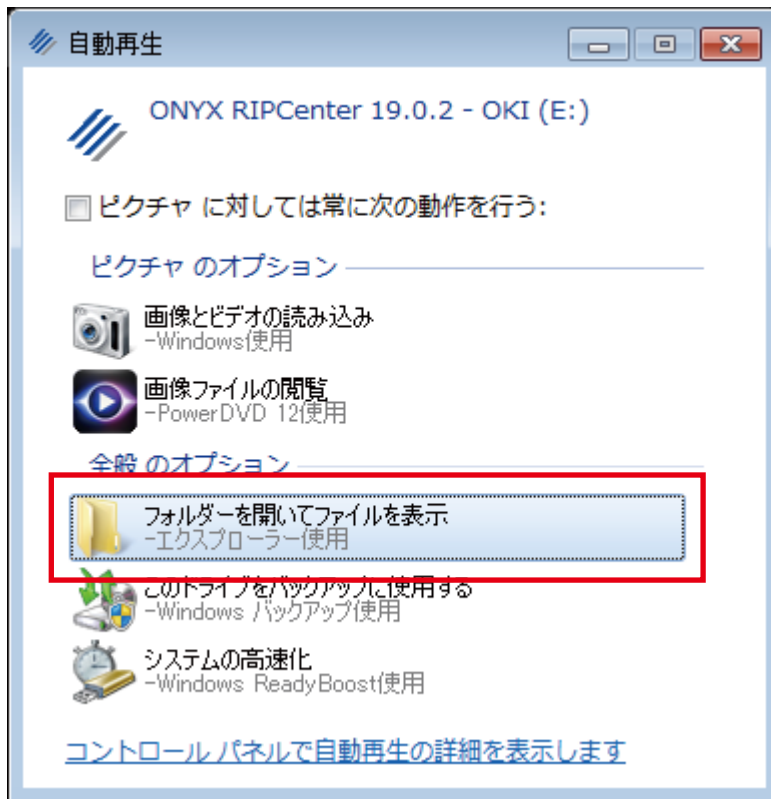
OK をクリックして変更します。

この時以下の画面が表示された場合には、「はい」を選択してください。

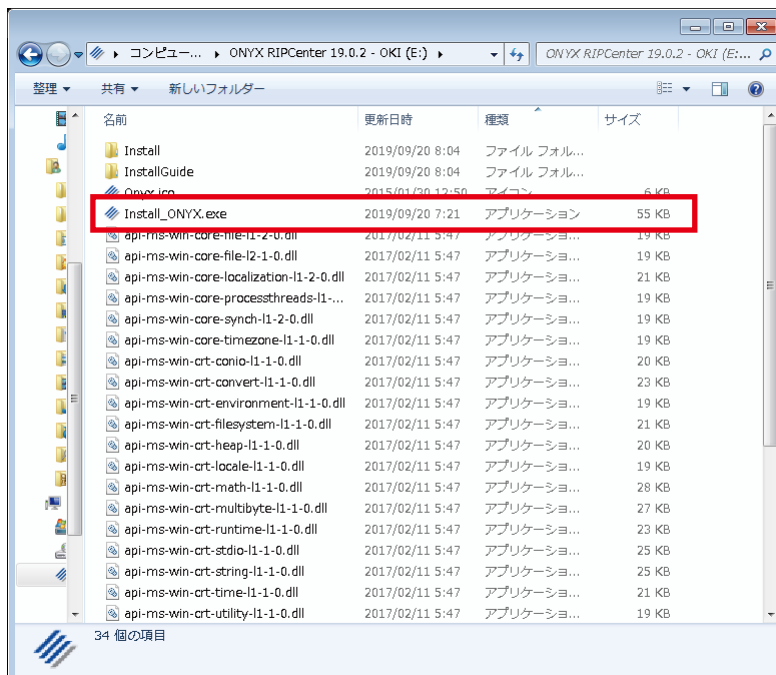


1.2 ソフトウェアのインストール

インストールメディア (USB フラッシュドライブ) を USB ポートに挿入します。
「Install_ONYX.exe」を実行します。



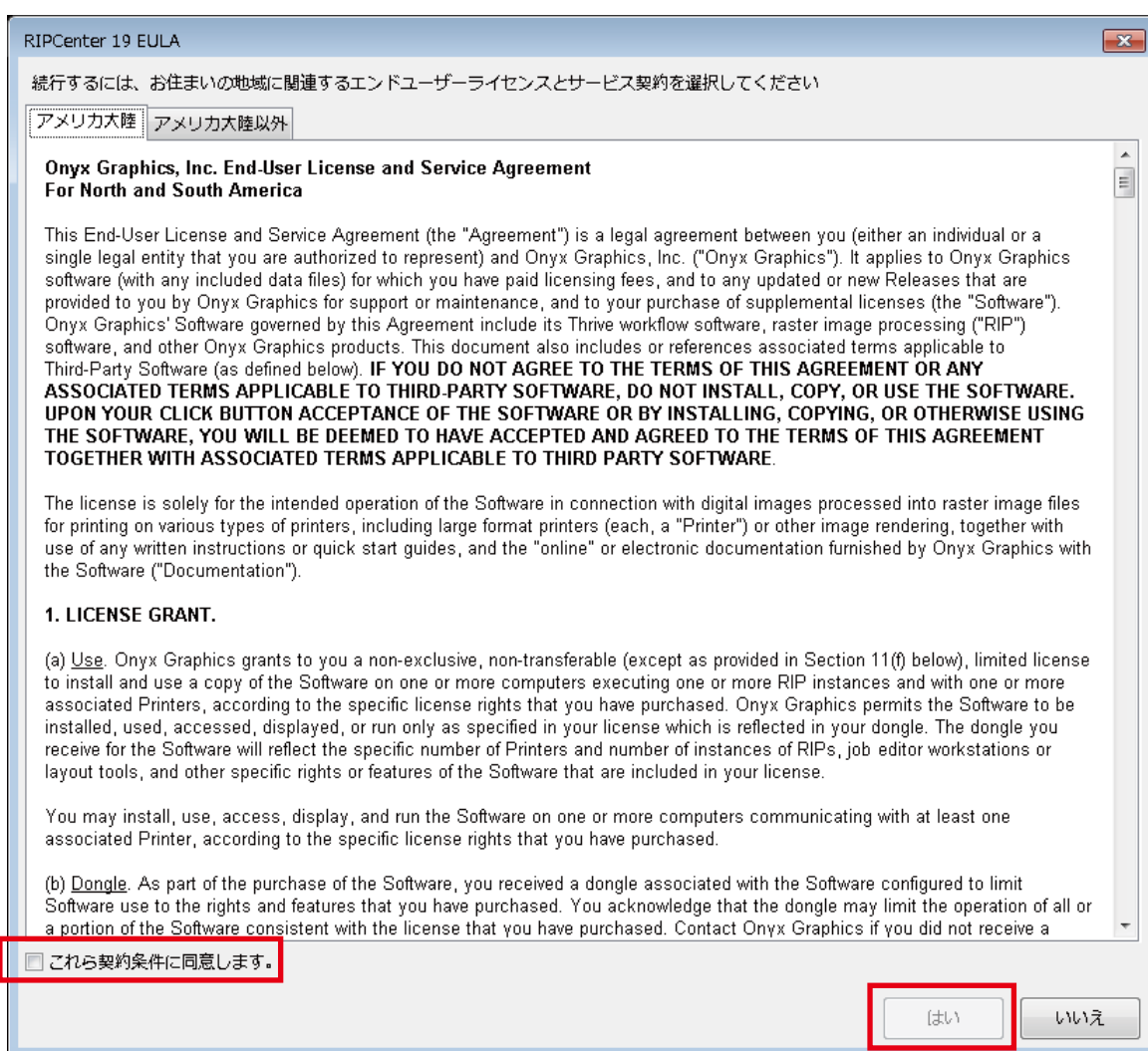
インストールメディアの「フォルダを開いて表示する」を選びます。



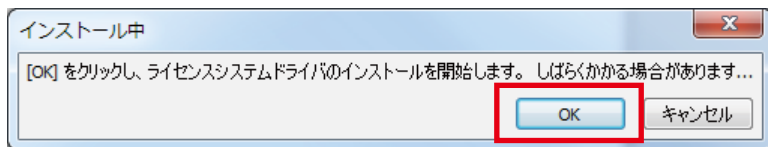
「Install_ONYX.exe」をダブルクリックし、インストールを開始します。



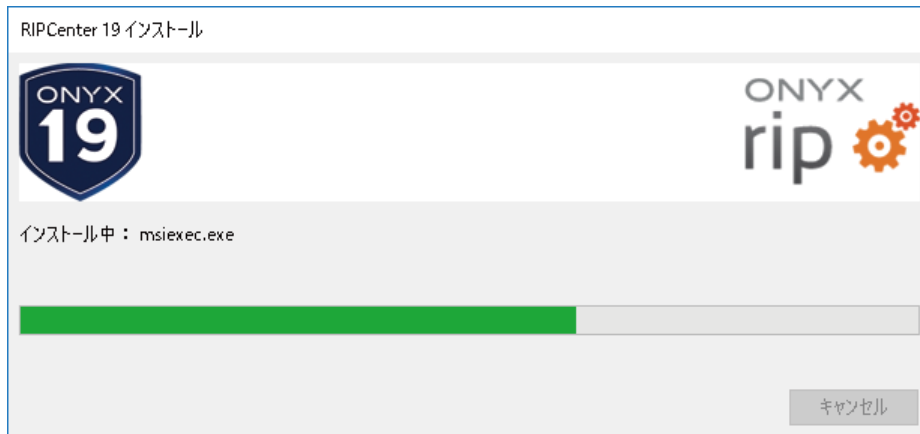
「インストールする」をクリックします。



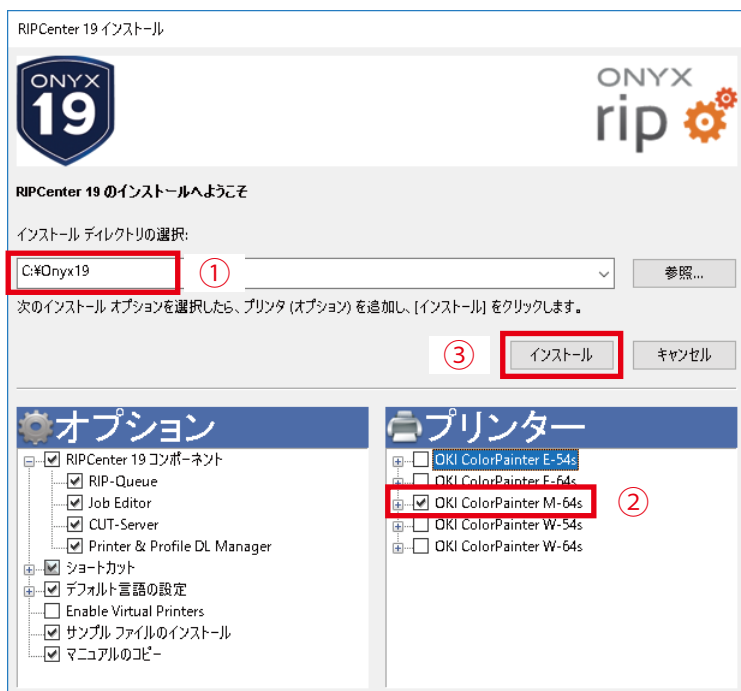
「これら契約…」にチェックを入れて「はい」をクリックしてください。



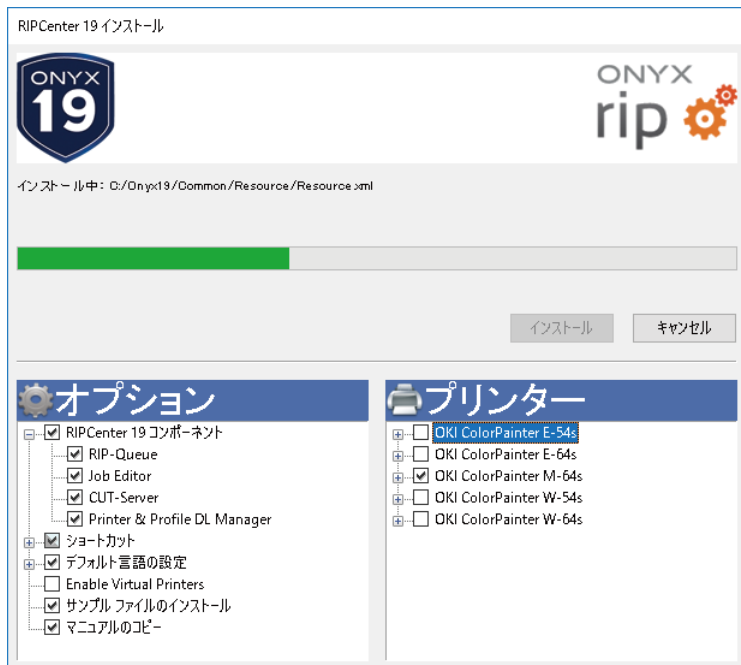
ライセンスキーのドライバーがインストールされます。「OK」をクリックします。
(ドライバーのインストールには時間がかかります。)



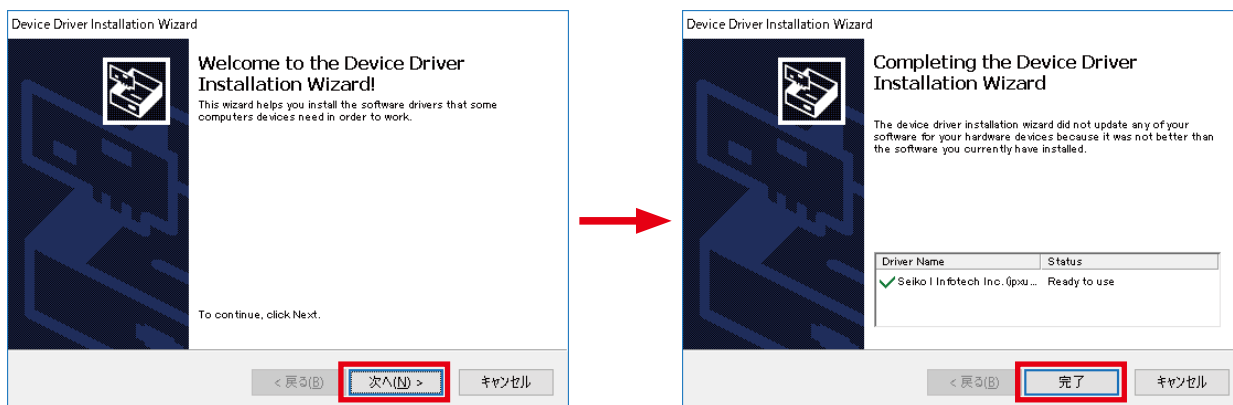
プログラムのインストール準備が始まります。



- ① インストールフォルダを選択します。
- ② インストールするプリンターを展開し、必要なメディアにチェックを入れます。
(日本語名のメディア(プロファイル)をインストールする場合は **P.16** を参照ください。)
- ③ 「インストール」 ボタンをクリックします。
(オプションのチェックマークは変更不要です。)



インストールが始まります。(プログラムのインストールには時間がかかります。)



デバイスドライバーのインストールウィザードが表示されたら、「次へ」をクリックします。

インストールが終わったら「完了」をクリックします。

※お使いの OS によっては「このプログラムは認証されていない」という旨の警告が出ることがあります。
その場合も「インストールする」を選択してください。

| UAC (User Account Control) State | Administrator Privileges | Effects on the Application and Virtual Printers |
|----------------------------------|--------------------------|--|
| Off | Yes | The application runs normally and the user has complete access to Virtual Printer settings. |
| Off | No | User must right-click the application icon and select Run as administrator... The application will then run normally and changes to virtual printers can be made. UAC State should not affect access to Virtual Printer settings. If this action does not give you administrative privileges and access to printer settings, log off and log back on with an administrative account or turn on UAC. |
| On | Yes | User must right-click the application icon and select Run as administrator... a warning will open asking whether you want to cancel or allow this action. Select Yes . |
| On | No | User must right-click the application icon and select Run as administrator... A dialog opens displaying user accounts with administrative privileges. Select the desired account and type in the password. The application will then run normally and changes to virtual printers can be made. UAC State should not affect access to Virtual Printer settings. |

*Adjustable settings for Virtual Printers include: add/remove/edit page sizes, add/remove/rename media, add/remove/edit keywords, rename printer, activate/deactivate printer, add/remove/rename quicksets, add/remove/rename modes.

お使いの OS によっては、ブラウザが立ち上がり UAC と管理者権限についての説明が表示されます。
ウィンドウを閉じます。



プログラムのインストールが終わりました。

「終了」をクリックします。

自動的に RIP キューが起動します。

※ ドライバーは、新バージョンが不定期にリリースされます。

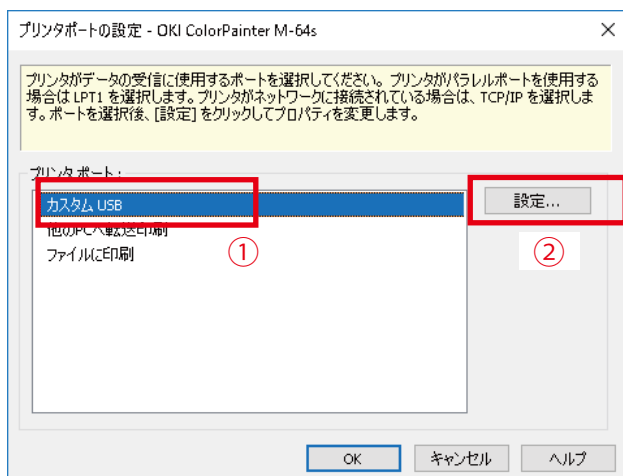
定期的にドライバーの更新作業を行ってください。

ドライバーの更新作業については、「1.6 プリンタードライバーの更新方法」を参照ください。



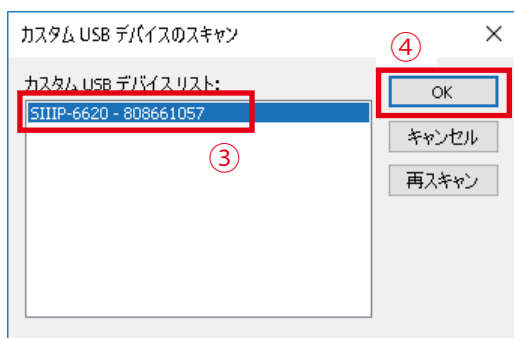
RIP キューが起動すると、myonyx アカウント作成とソフトウェア登録のご案内が表示されます。必要に応じてアカウントを作成し、ONYX RIP ソフトウェアを ONYX 社へ登録してください。

1.3 ポートの設定

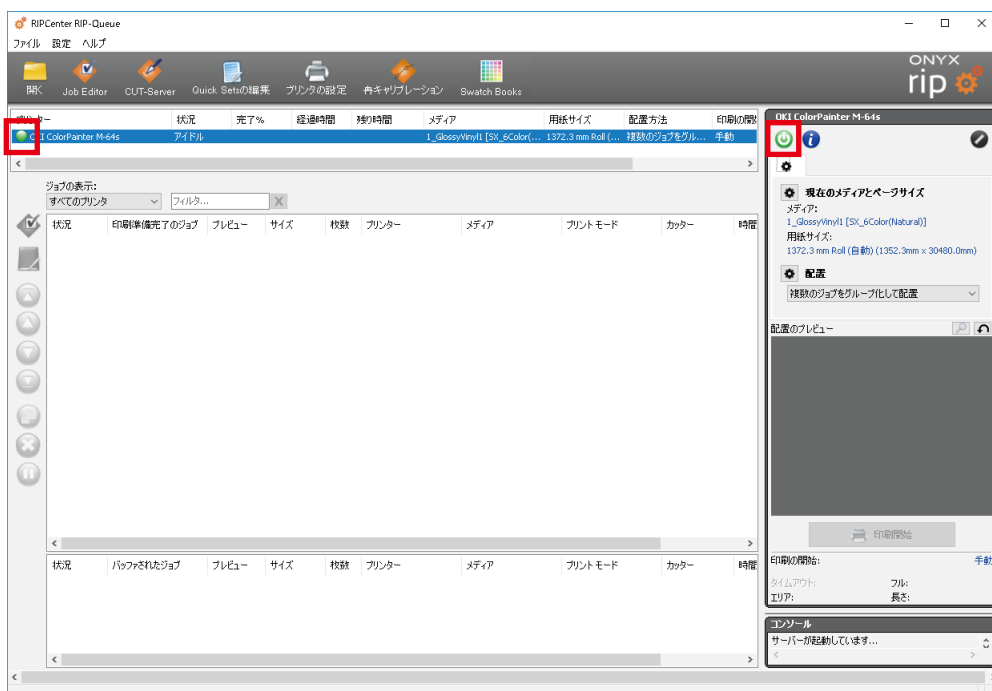


RIP キューが起動するとまず、**プリンターポートの設定**ダイアログが表示されます。

①「**カスタム USB**」を選択し、②「**設定**」ボタンをクリックします。



③表示された USB デバイスを選択し、④「**OK**」をクリックします。

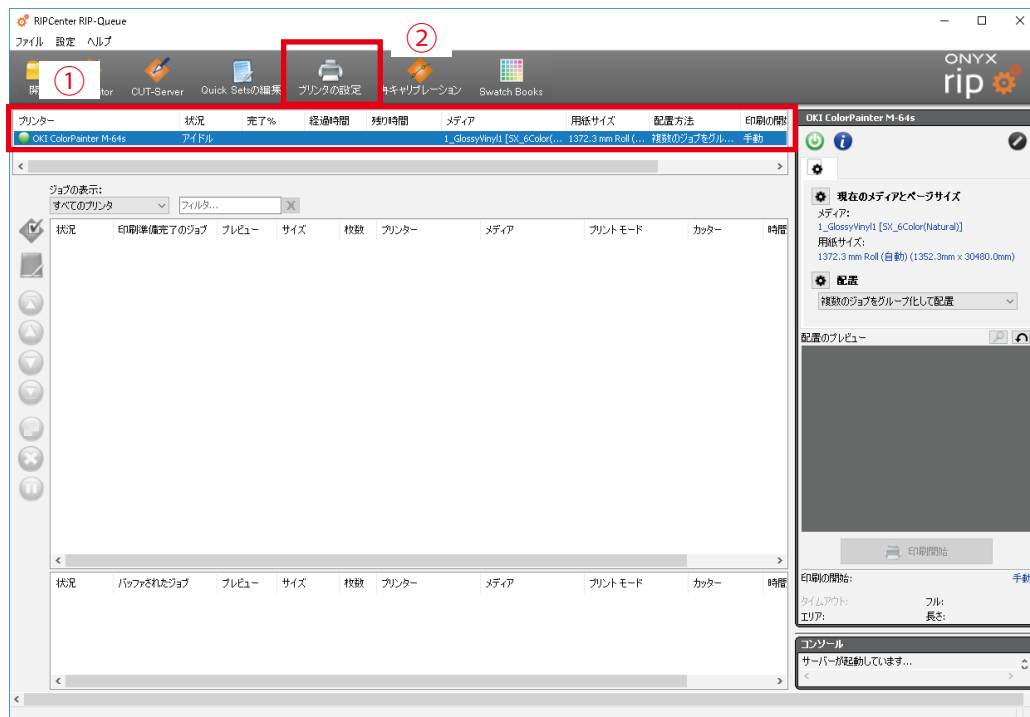


正常に接続されると、ランプが緑色に表示されます。

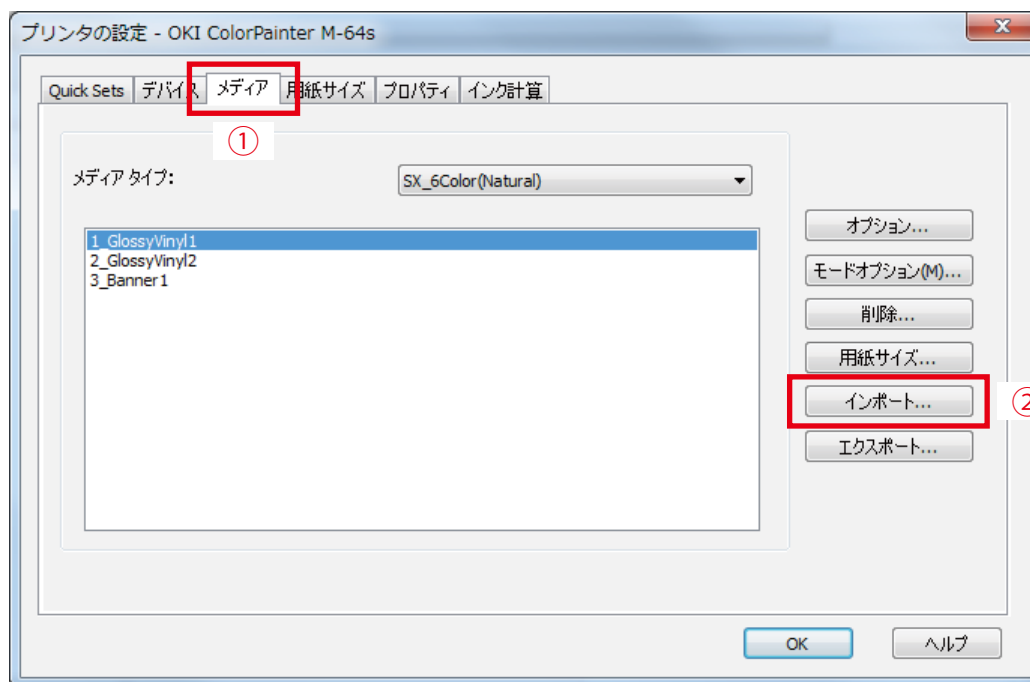
1.4 メディア (日本語プロファイル) のインポート

沖データホームページ (<https://www.oki.com/jp/printing/>) から製品情報タブで大判インクジェットプリンターのお使いの製品のページに移動し、「プロファイルはこちら >」と書かれたリンクをクリックし、標準プロファイルをダウンロードします。

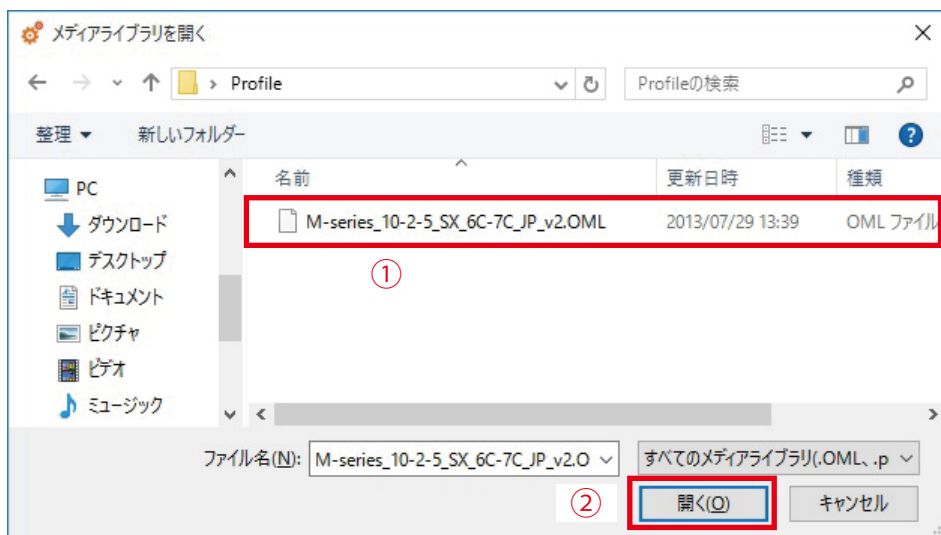
詳しいダウンロード方法は P. 69 を参照ください。



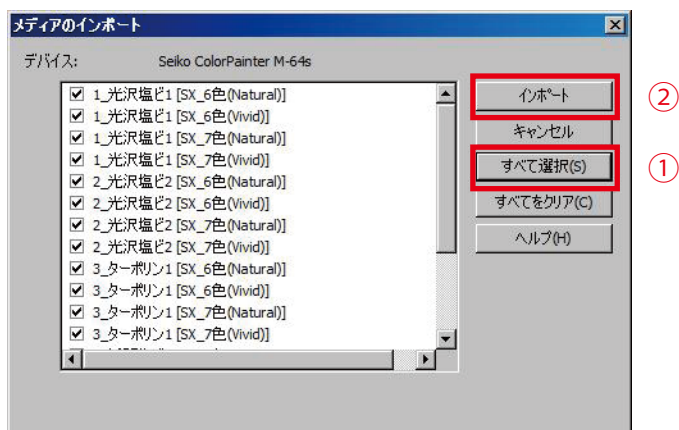
①使用するプリンターを選択し、②「プリンタの設定」をクリックします。



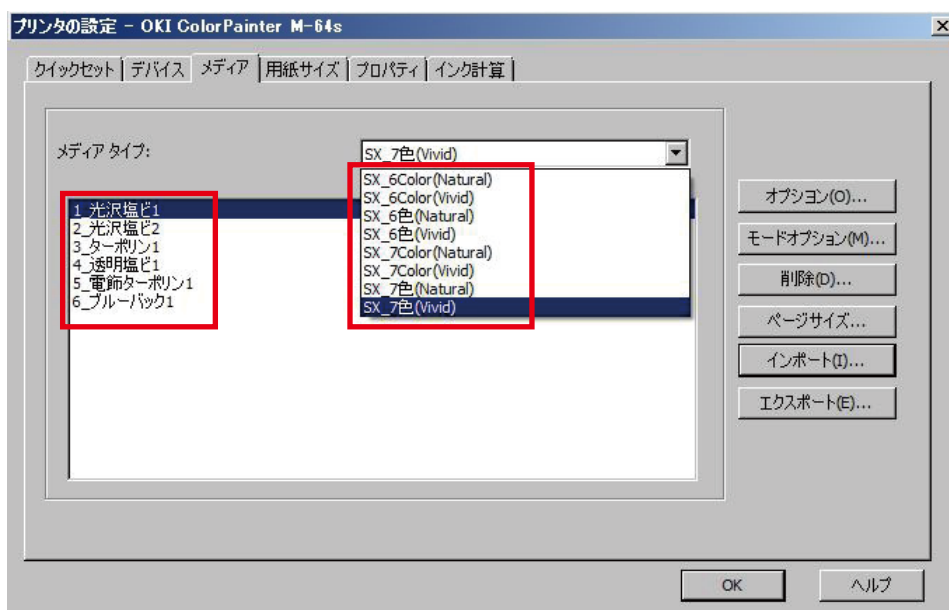
①メディアタブをクリックし、②「インポート」をクリックします。



- ①ダウンロードした日本語プロファイルが格納されたフォルダを開き、OML ファイルを選択します。
- ②「開く」をクリックします。



- ①必要なメディアを選択し、②「インポート」をクリックします。



メディアグループが追加されます。

1.5 メディアの設定

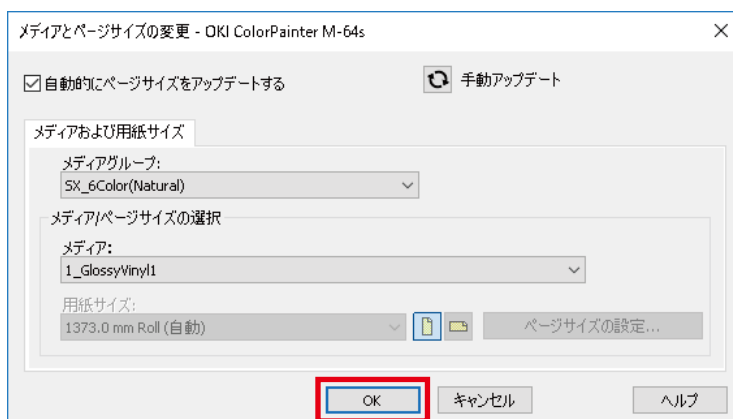
ここでは、プリンターセットされているメディアの種類を設定します。

【解説】

「プリンターにセットされているメディア」と「ジョブに設定されているメディア」が一致していないと、そのジョブを印刷することができません。



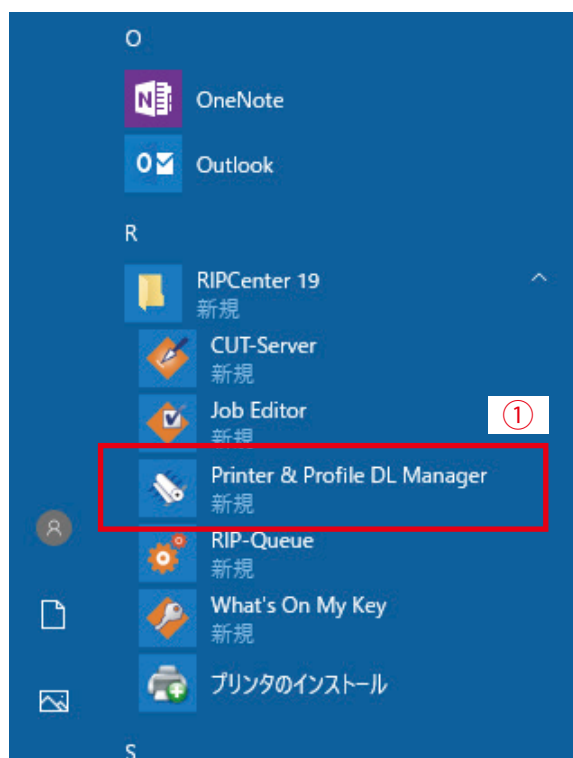
プリンターエリアで、使用するプリンターを選択し、「現在のメディアとページサイズ」の設定アイコンをクリックします。
メディアグループ、メディア、用紙サイズ、配置方法を選択し、「OK」をクリックしてください。



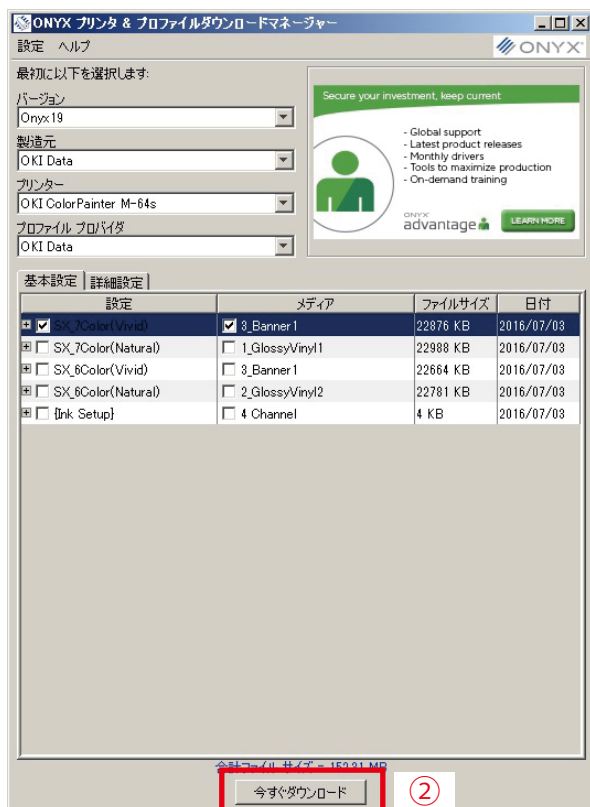
| | |
|---------------------|--|
| 自動的にページサイズをアップデートする | チェックすると、プリンター側のメディア情報を自動的に取得して、以下の設定に反映します。 |
| 手動アップデート | 押下すると、現時点のプリンター情報を取得して、以下の設定に反映します。 |
| メディアグループ | メディアプロファイルはその種類ごとにグループ（フォルダのようなもの）に分けられています。ここでそのグループを選択します。 【例】 M64s の場合 OKI 標準のメディアプロファイルは、以下の 4 種類のメディアグループのいずれかに属しています。 ① SX_7 色 (Vivid) : 通常はこれを推奨します ② SX_7 色 (Natural) ③ SX_6 色 (Vivid) ④ SX_6 色 (Natural) |
| メディア | メディアプロファイルの選択です。 デフォルトとして 1_ 光沢塩ビ 1 をお勧めします。 |
| 用紙サイズ | プリンターにセットされている用紙の幅を選択してください。 なお、選択された用紙サイズに対する印刷可能領域のサイズが、用紙サイズの後ろに括弧に囲まれて表示されます。 |

1.6 プリンタードライバーの更新方法

プリンタードライバーの更新は、Printer & Profile DL Manager というプログラムを使用します。
Printer & Profile DL Manager は RIP Center と一緒にインストールしています。



① Windows の「スタート」→「RIP Center 19」→「Printer & Profile DL Manager」をクリックし、起動します。



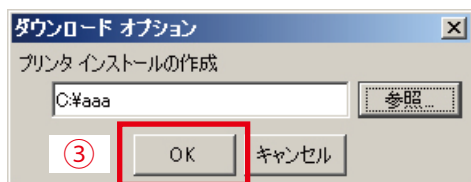
正常に接続されると、左のような画面が表示されます。

- バージョン：Onyx19
- 製造元：OKI Data
- プリンター：使用するプリンター
- プロファイルプロバイダ 最低1つのプロファイルを選択します。

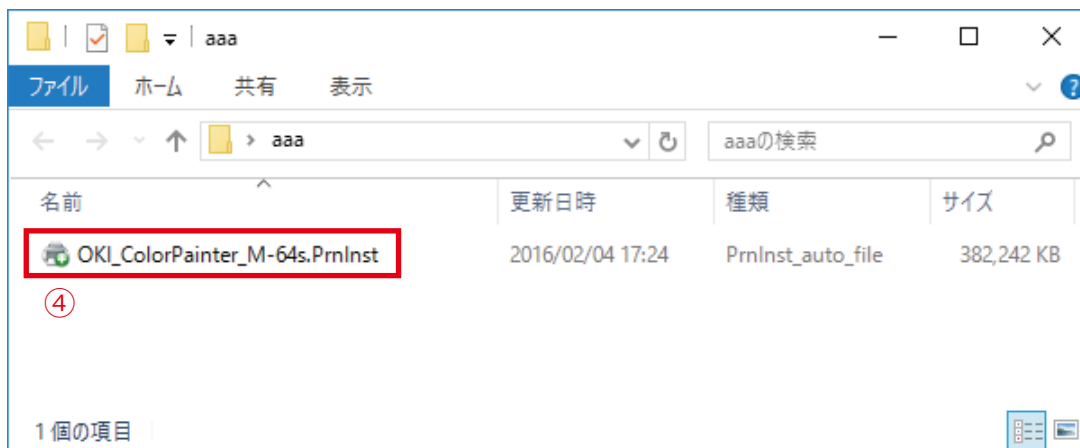
【注意】

必ず正しいバージョンを選択してください。異なるバージョンのファイルをインポートすると、プログラムが正常に動かなくなる場合があります。

② 「今すぐダウンロード」をクリックします。



③ ファイルの保存先フォルダを指定して、「OK」をクリックします。



④ ダウンロードが完了すると、PrnInst ファイルが作成されます。
ONYX 関連のプログラムをすべて終了させます。PrnInst ファイルをダブルクリックします。

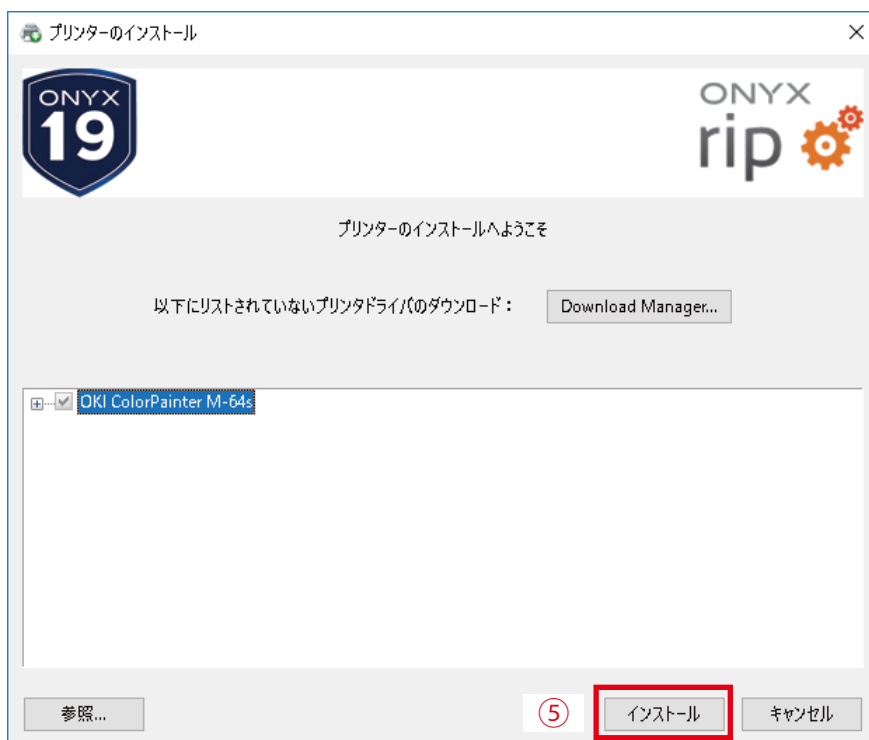
参考：

お使いのネットワーク環境によっては、プロキシの設定が必要な場合があります。

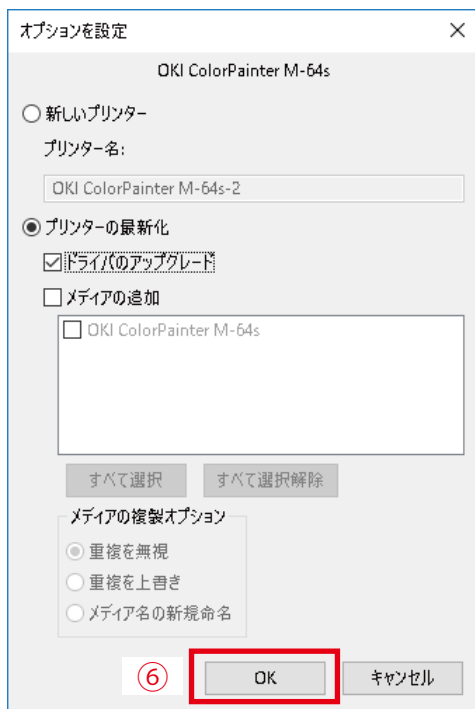
「設定」-「プロキシ設定 ...」を選択し、設定をしてください。

※ HTTP プロキシのみに対応しています。

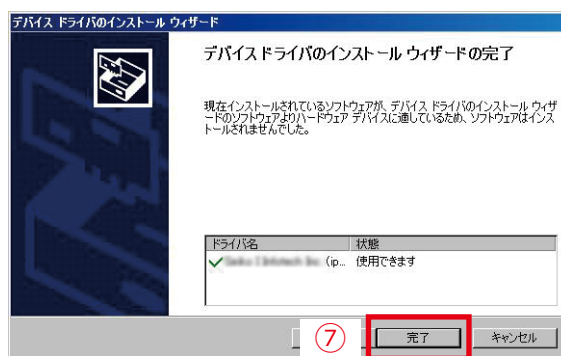
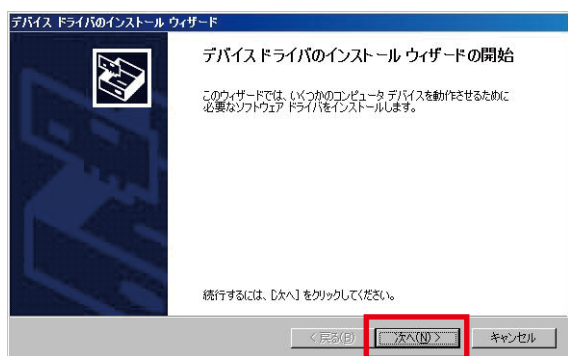
※プロキシの設定については、ネットワークの管理者に相談してください。



⑤ プリンターにチェックを入れ、インストールをクリックします。



- ⑥ プリンターの最新化を選択し、ドライバーのアップグレードにチェックをし、「OK」をクリックします。



- ⑦ 「次へ」をクリックし、インストール完了後に「完了」をクリックします。

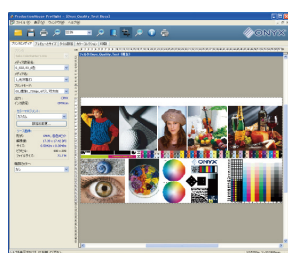


- ⑧ 「終了」をクリックします。

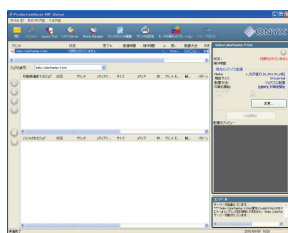
ドライバーの更新作業はこれで終了です。

第2章 まずは印刷してみよう

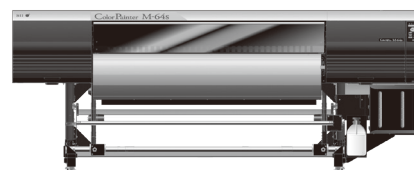
本章では RIP ソフトの立ち上げから印刷までの基本的なワークフローを説明します。



Job Editor

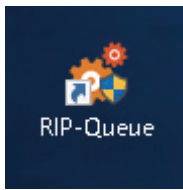


RIP キュー

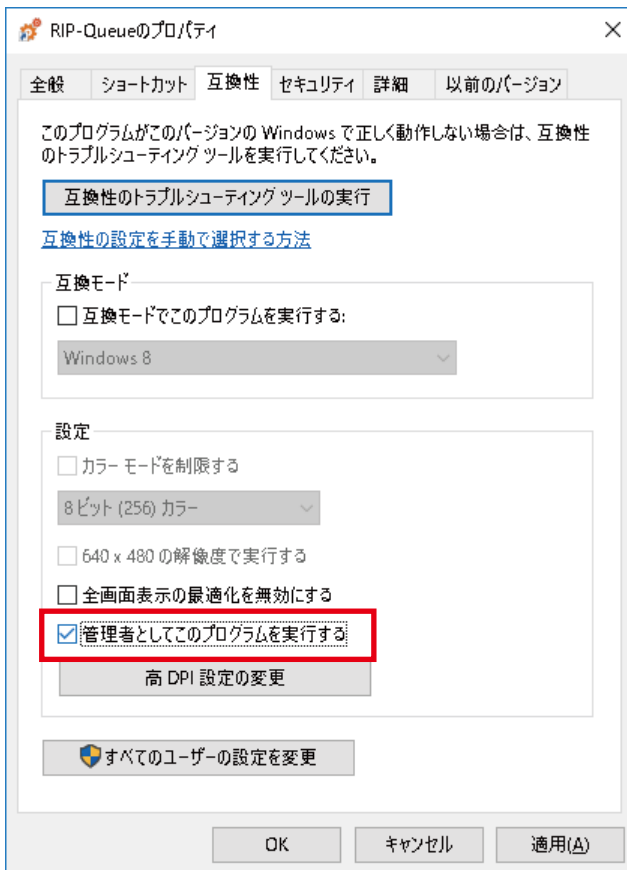


プリンター

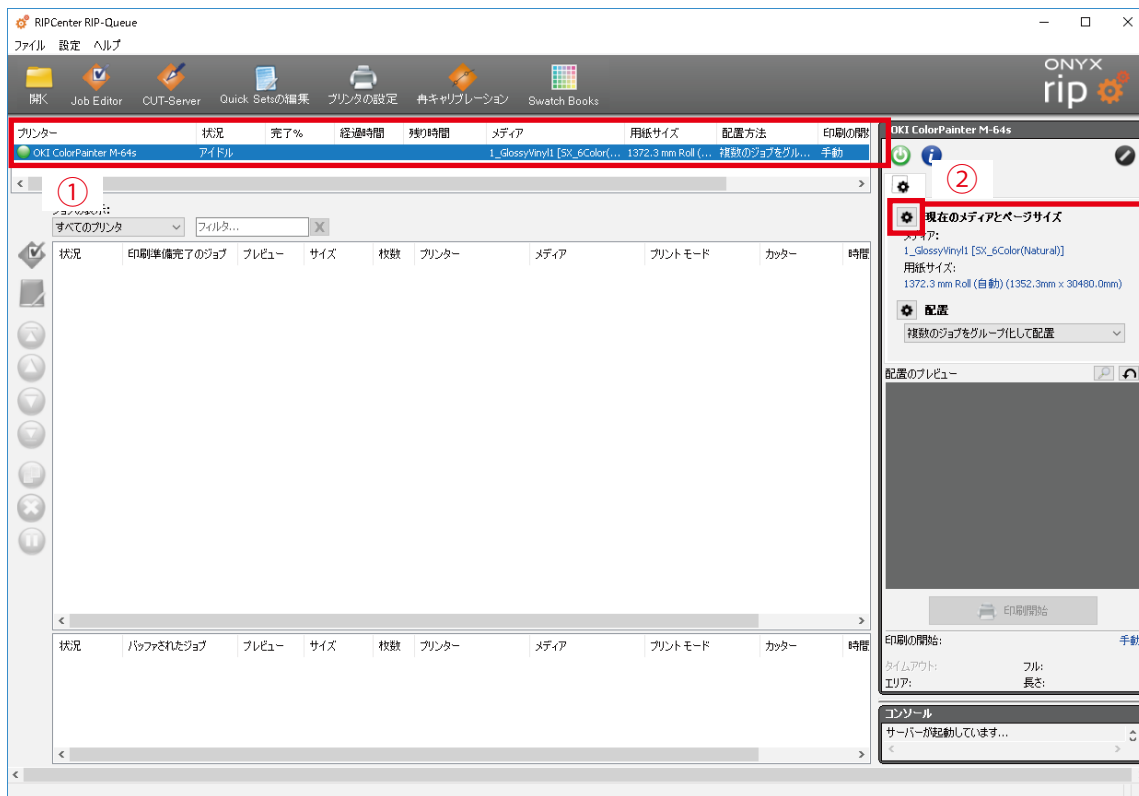
1. RIP キューを立ち上げます。



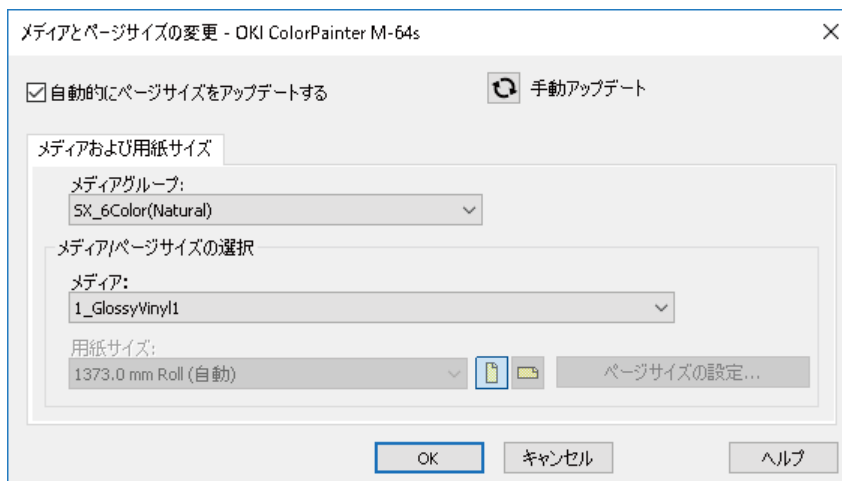
デスクトップにあるショートカットを右クリックして管理者として実行し、RIP キューを立ち上げます。
(予め、ショートカットの互換性設定で「管理者として実行」のチェックを入れておくことをお奨めします)



2. メディアを設定します。

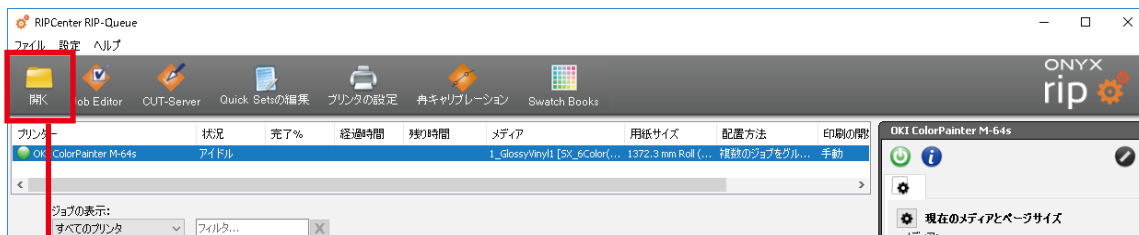


①プリンターをクリックしてから、②「現在のメディアとページサイズ」の設定アイコンをクリックします。
以下のようなダイアログが立ち上がります。

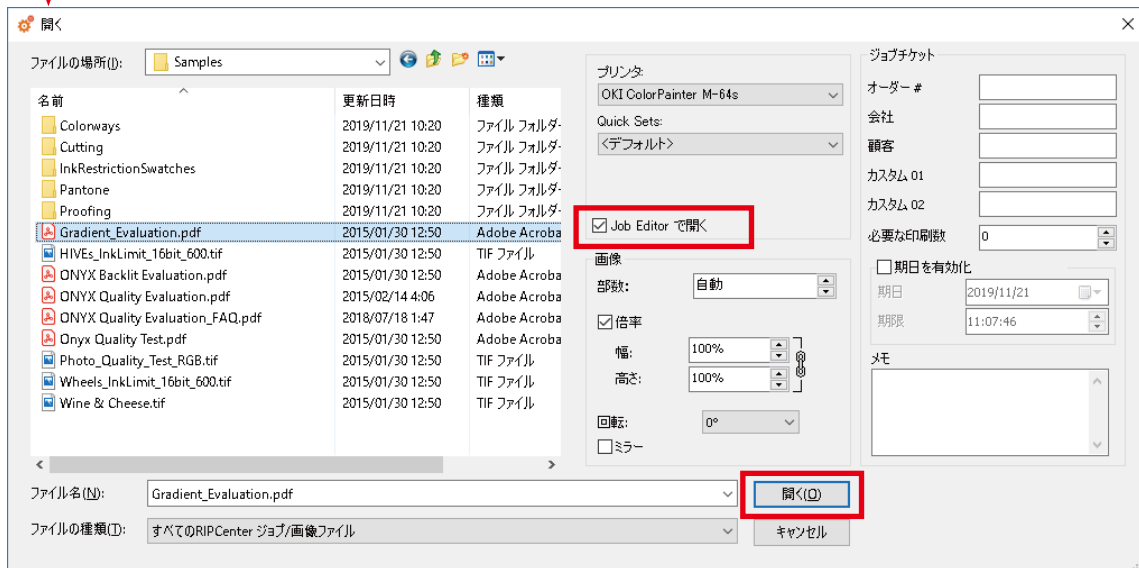


プリンターにセットされているメディア種類と用紙サイズを設定し、「OK」をクリックします。
(ここでは、これから印刷するメディア (とそれに紐付されたメディアプロファイル) を選んでいます。)

3. 印刷データを開きます。



「開く」をクリックして、ファイルを選択します。

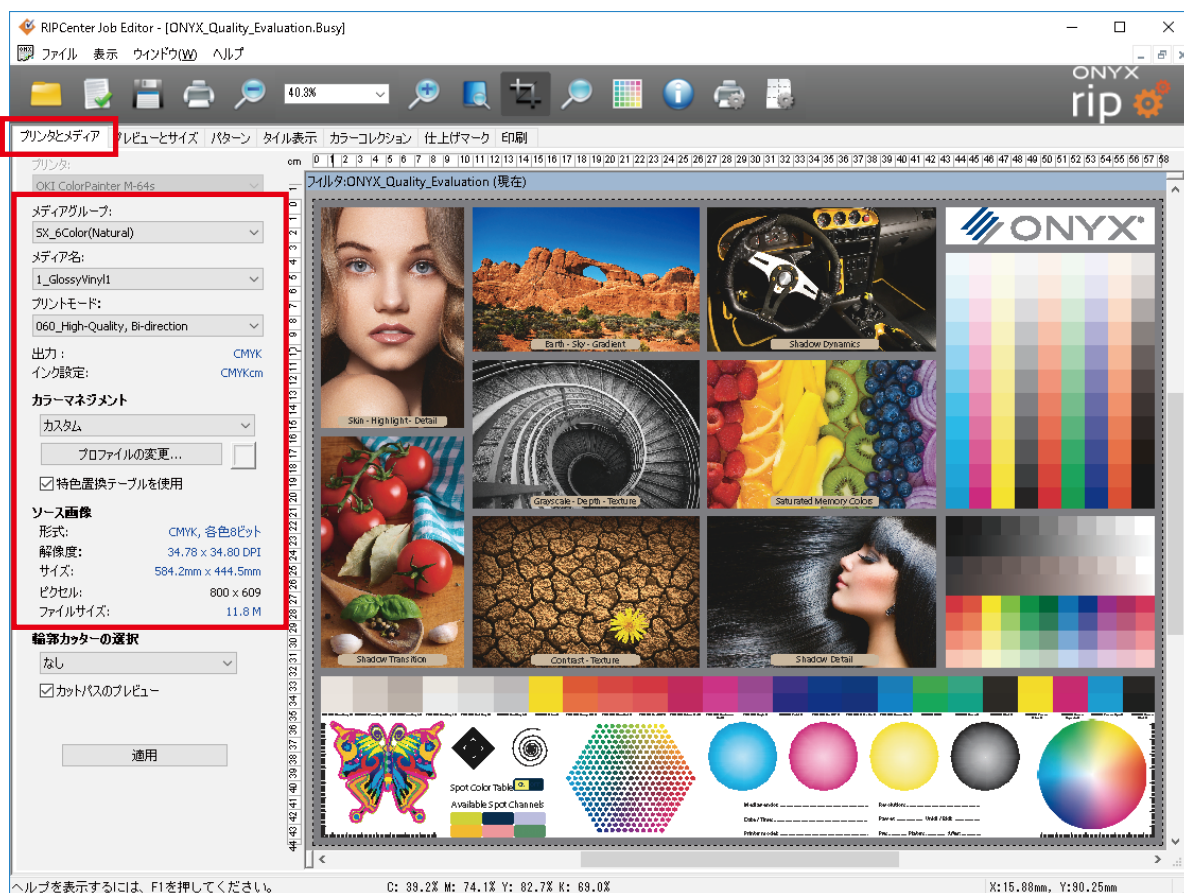


このとき必ず「Job Editor で開く」にチェックを入れます。

ファイルを選択して「開く」をクリックすると、Job Editor が起動します。

4. Job Editor 上で必要な設定をします。

【プリンタとメディア】タブ



プリンターにセットされているメディアの種類を選択します。

ここではこれから RIP するメディアプロファイルを選択しています。

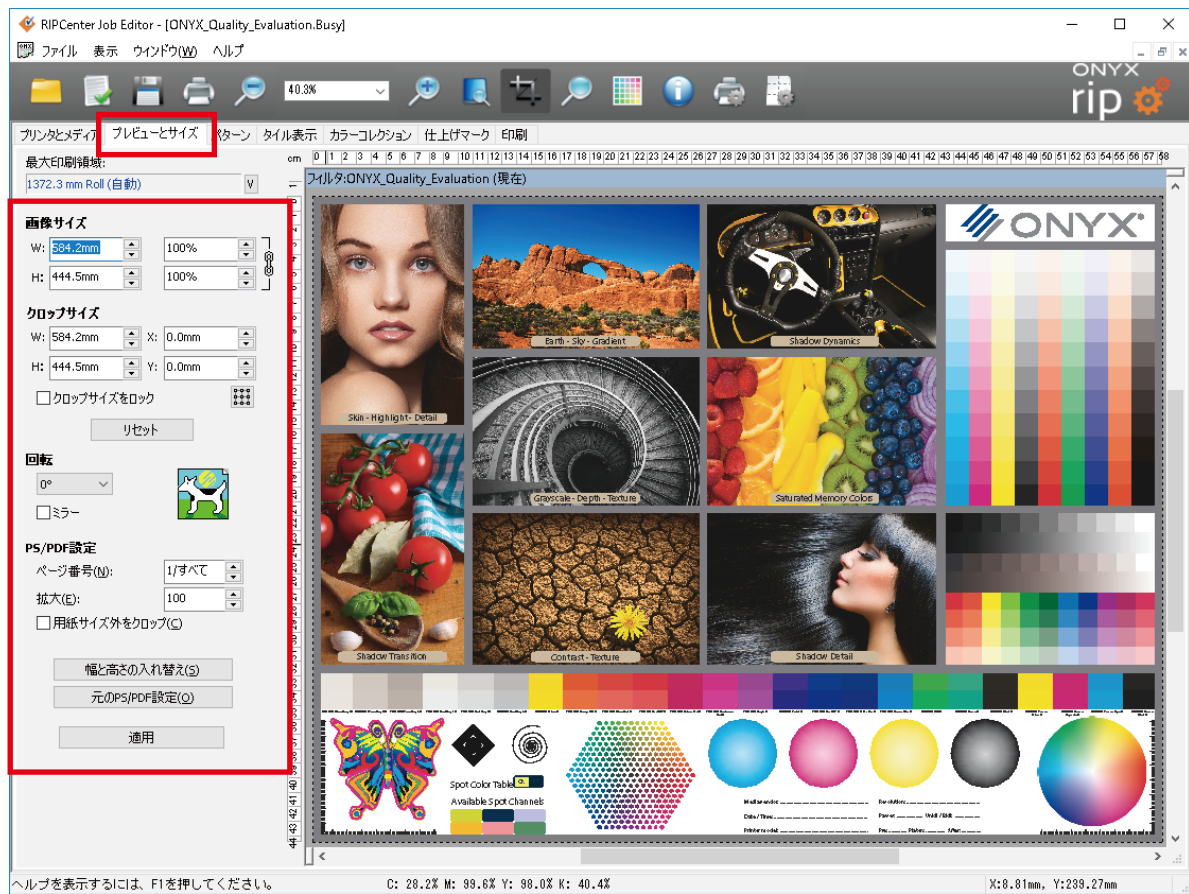
※なお、「2. メディアを設定します」の設定と一致したメディア種類を選択してください。

もし一致しなくてもジョブは RIP 処理されますが、RIP キューでは「メディア待ち:メディアミスマッチ」と表示され、印刷開始されません。

プリントモード:印刷モードを選択します。

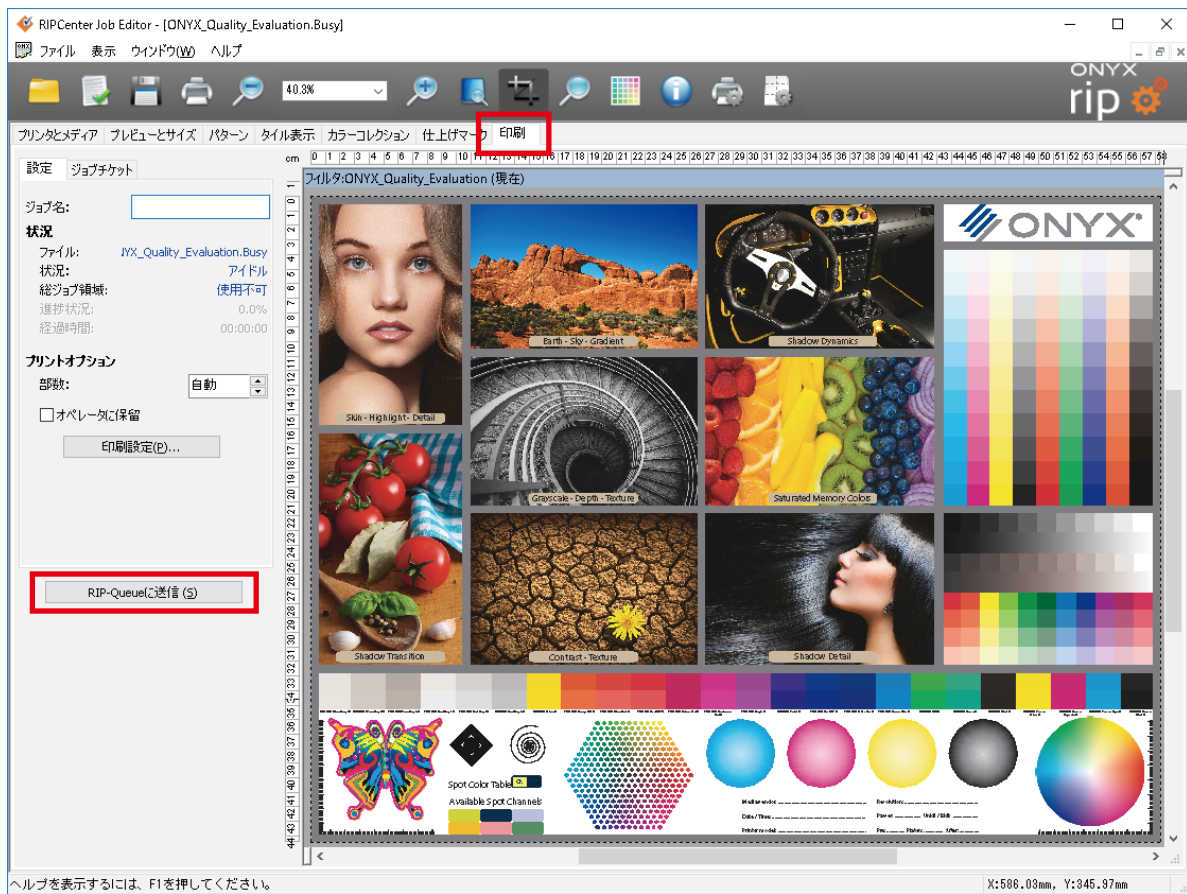
カラーマネージメント:入力プロファイルやレンダリングインテントの設定です。

【プレビューとサイズ】タブ



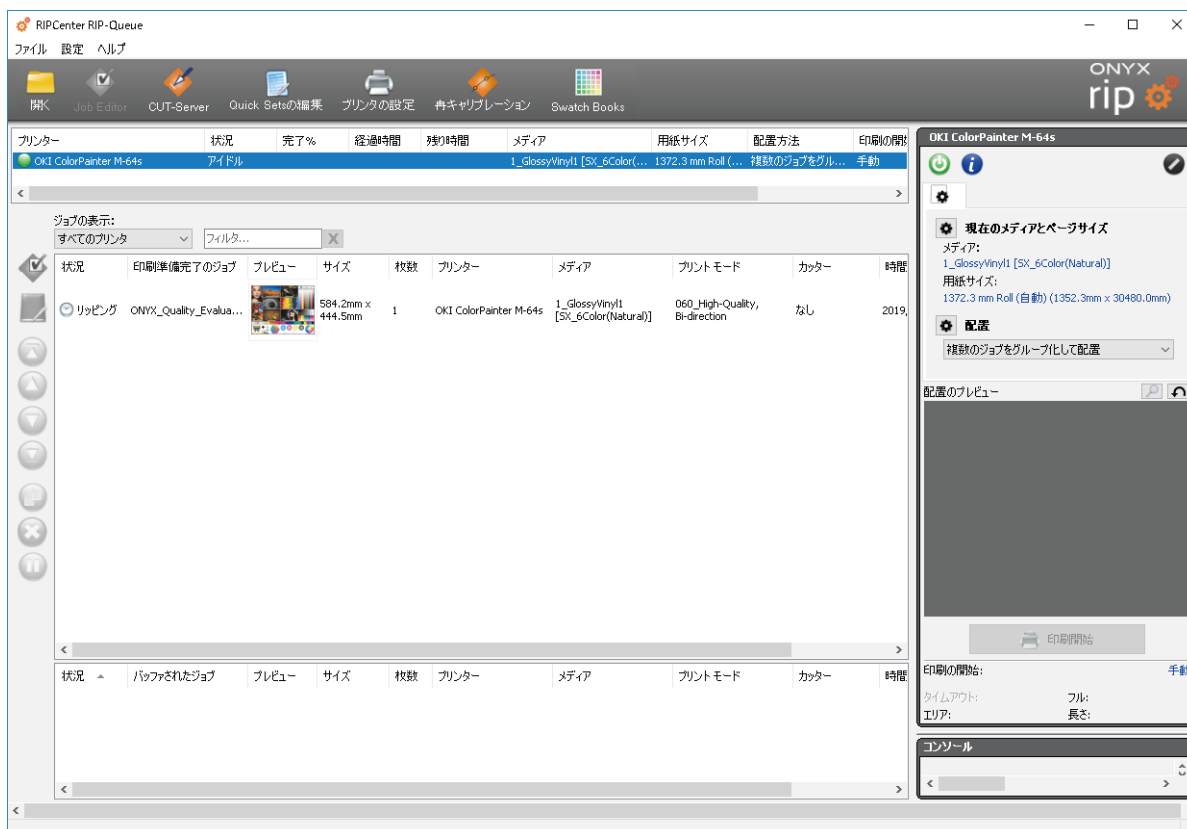
拡大・縮小・回転・左右反転などを必要に応じて設定します。
設定の変更を行ったら、必ず「適用」ボタンをクリックします。

【印刷】 タブ

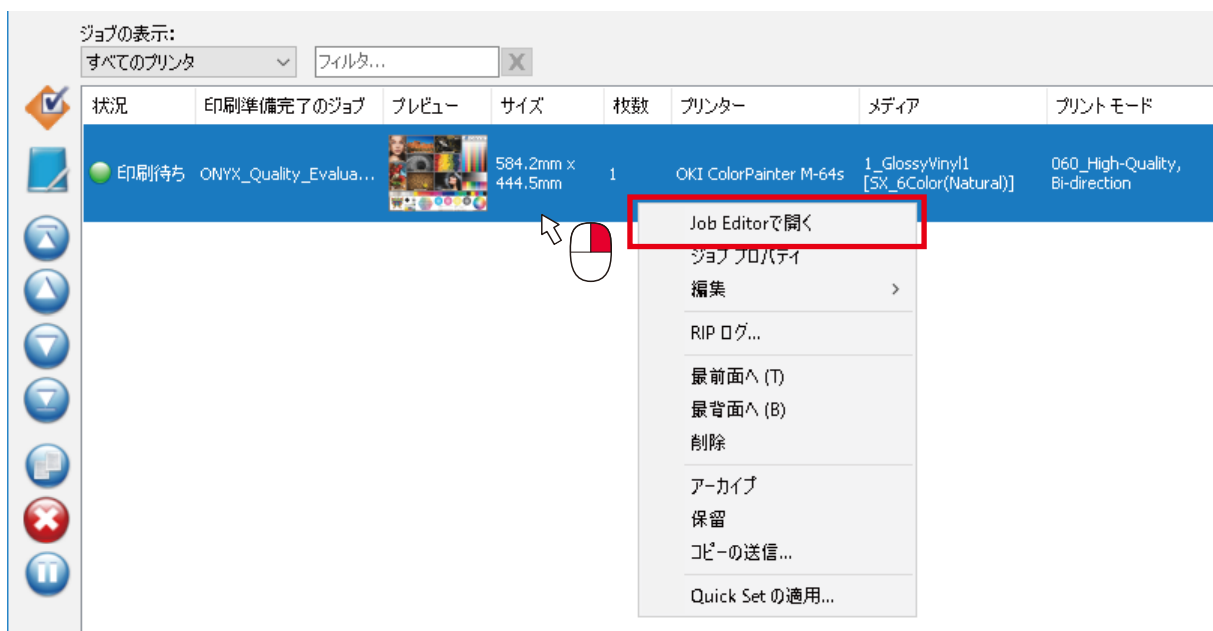


「RIP-Queue に送信」をクリックすると、ジョブが RIP キューに送信されます。

5. 印刷開始



ジョブが RIP キューでリッピング処理され、プリンターで印刷されます。



なお印刷準備完了エリア内にあるジョブは、右クリックして「**Job Editor で開く**」を選択することによって、再編集が可能です。

第3章 便利な使い方

本章では RIP ソフトの便利な機能について詳細を説明します。

3.1 M-64s はこんなに便利、こんなに簡単!

M-64s でできること①

望む色で：Vivid（ビビッド）出力と、Natural（ナチュラル）出力が自在に!

製品に添付されている M-64s 用標準プロファイルでは、

1 種類のメディアに対し、Vivid と Natural の 2 種類のプロファイルを用意しています。

(片方しか用意していないものもあります)

2 種類のプロファイルとクイックセットの組み合わせで、2 通りの色彩表現を簡単に実現します。

(詳細は P. 54 へ)

● Vivid output:

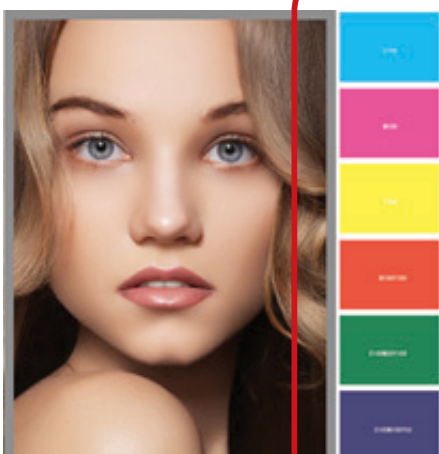


ベクターオブジェクトをカラーマネジメント無しで印刷すると、ビビッドな色味、ソリッドなベタ塗りが可能です。

注意!

Vivid 出力には、Vivid プロファイルを使う必要があります。

● Natural output:



ベクターオブジェクトもビットマップと同じカラーマネジメントを提供する印刷方法です。

M-64s でできること②

望む時に：生産性と画質のバランスをコントロールする。

プリンタードライバーに格納されている以下の標準プロファイルを使えば、M-64s の全ての印刷モードで印刷することができます。

標準プロファイル一覧

| | | Vivid | Natural |
|--|----------|-------|---------|
| 1_GlossyVinyl1 1_ 光沢塩ビ 1 | 最高速 | ● | ● |
| | 高速 | ● | ● |
| | 速度優先 | ● | ● |
| | 標準 | ● | ● |
| | 画質優先 | ● | ● |
| | 高画質 | ● | ● |
| | 最高画質 | ● | ● |
| 2_GlossyVinyl2 2_ 光沢塩ビ 2 (乾燥性の良くないメディア用) | 最高速 | ● | ● |
| | 高速 | ● | ● |
| | 速度優先 | ● | ● |
| | 標準 | ● | ● |
| | 画質優先 | ● | ● |
| | 高画質 | ● | ● |
| | 最高画質 | ● | ● |
| 3_Banner1 3_ ターポリン 1 | 最高速 | ● | ● |
| | 高速 | ● | ● |
| | 速度優先 | ● | ● |
| | 標準 | ● | ● |
| | 画質優先 | ● | ● |
| | 高画質 | ● | ● |
| | 最高画質 | ● | ● |
| 4_Clear1 4_ 透明塩ビ 1 | 速度優先、高濃度 | ● | - |
| | 標準、高濃度 | ● | - |
| | 画質優先、高濃度 | ● | - |
| | 高画質、高濃度 | ● | - |
| | 最高画質、高濃度 | ● | - |
| 5_BltBanner1 5_ 電飾ターポリン 1 | 速度優先、高濃度 | ● | - |
| | 標準、高濃度 | ● | - |
| | 画質優先、高濃度 | ● | - |
| | 高画質、高濃度 | ● | - |
| | 最高画質、高濃度 | ● | - |
| 6_BlueBack1 6_ ブルーバック 1 | 最高速 | ● | - |
| | 高速 | ● | - |
| | 速度優先 | ● | - |
| | 標準 | ● | - |
| | 画質優先 | ● | - |
| | 高画質 | ● | - |
| | 最高画質 | ● | - |

上記全てのプロファイルに共通しているデフォルト設定値：

- ・印刷方向：双方向
 - ・画像幅スキャン：ON
 - ・送り調整値：RIP からコントロールしない
 - ・ヒーター温度：RIP からコントロールしない
- (これらの設定は、各メディアの印刷モードごとに、「モードオプション」で設定変更できます。)

注意！

キャリッジ速度の切り替え・カラーストライプのオン/オフは、RIP からは設定できません。
本体パネルまたは、CP_Manager で設定をおこなってください。

M-64s できること③

望むとおりに：らくらく動作設定で、作業時間の短縮

印刷時の動作設定（印刷方向、送り調整値など）は以下の各段階で設定変更することが可能です。

- (1) あらかじめデフォルト値を変えておき、ジョブ作成時に適用されたデフォルト値のまま印刷する。
- (2) ジョブの作成後（RIP 後、印刷後）に、そのジョブの動作設定を変更する。

常に適用したい設定値は (1) にてデフォルト値として定義しておきます。特定のジョブ限定でデフォルトと違う設定で印刷したい場合は (2) の方法で変更をおこなうと、作業の効率化が図れます。

(1) デフォルト値を変える方法

メディア、モードごとに、オプションでデフォルト値を設定できます。

< 例 >

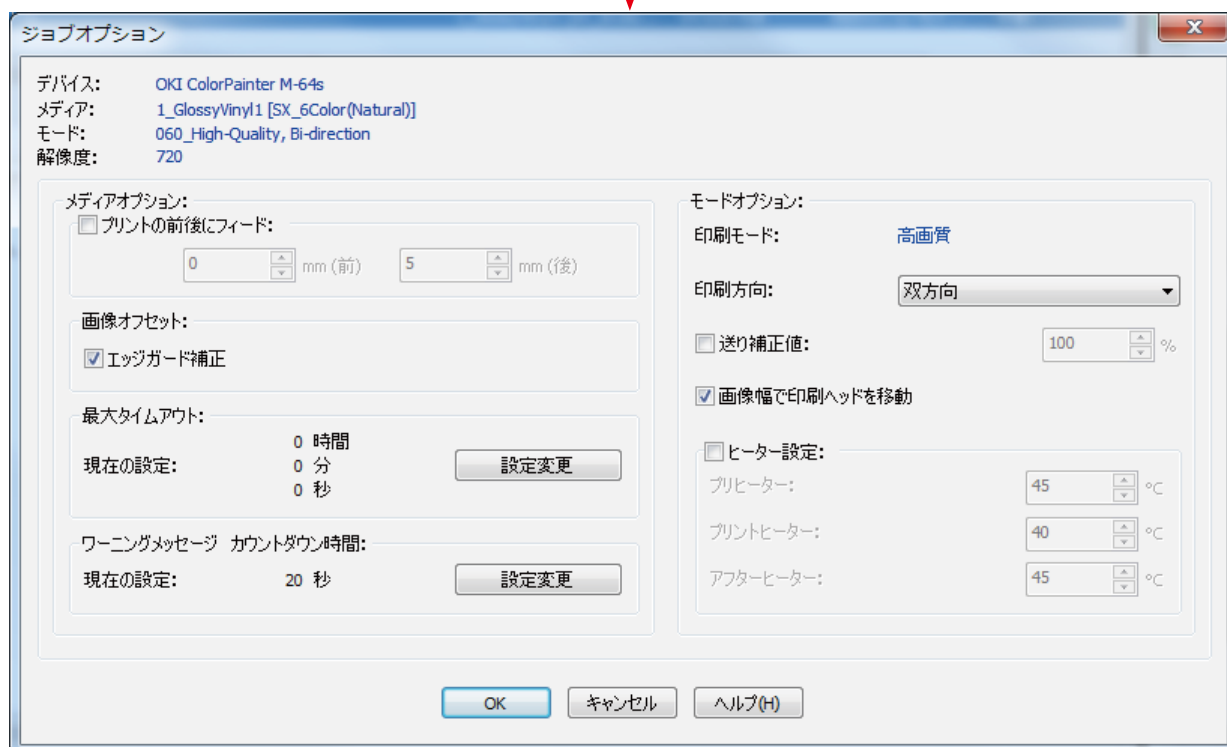
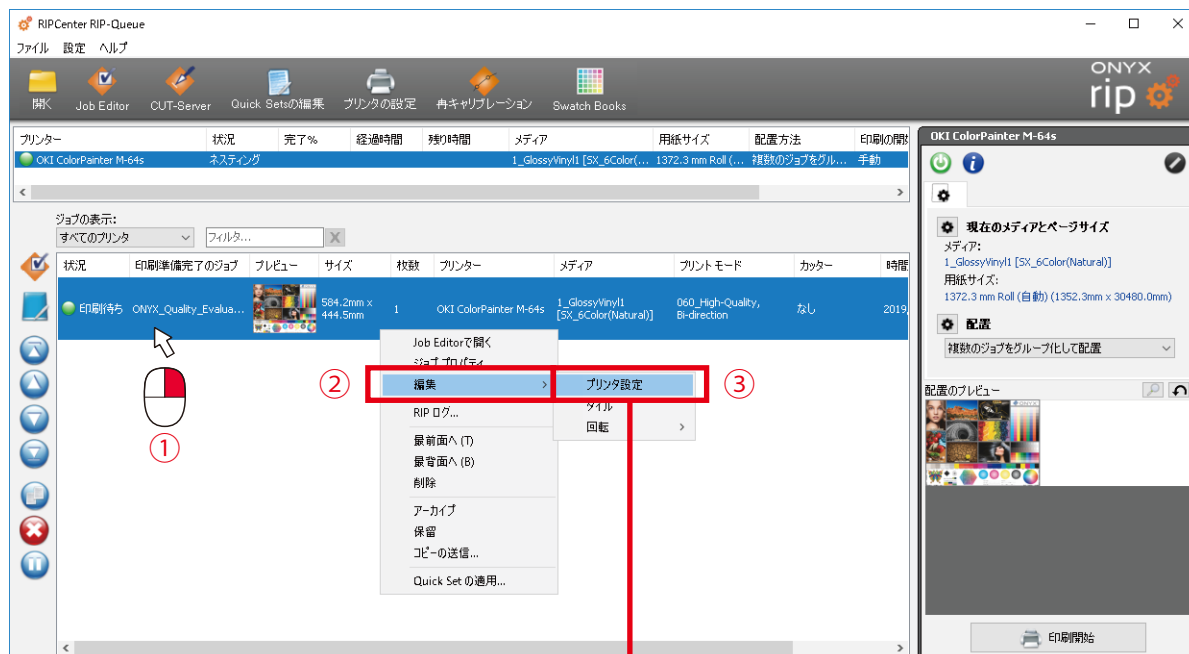
メディアグループ「SX_7Color(Vivid)」に属するメディア「1_GlossyVinyl」の、ドラフトモードのデフォルト設定を確認・変更する場合

The image illustrates the process of changing default settings in RIPCenter. It shows a sequence of windows: 1. The main RIP-Queue window with 'Printer Settings' highlighted. 2. The 'Printer Settings - OKI ColorPainter M-64s' window with the 'Media' tab selected. 3. The 'Media Options' dialog for '1_GlossyVinyl1 [SX_6Color(Natural)]'. 4. The 'Mode Options(M)...' dialog. 5. The '1_GlossyVinyl1 [SX_6Color(Natural)] モード' dialog with '010 Draft, Bi-direction' selected. 6. The 'Mode Options' dialog for the selected mode, showing settings like 'Print Mode: 最高速' and 'Print Direction: 双方向'.

「SX_7Color(Vivid)」のメディア「1_GlossyVinyl」の、ドラフトモードに適用されるデフォルト値

(2) ジョブの作成後 (RIP 後、印刷後) に、そのジョブだけ設定変更する方法

印刷準備完了エリア内に入ったジョブは、右クリックし「プリンタ設定」を選択することで、ジョブに適用された設定を呼び出し、変更することが可能です。



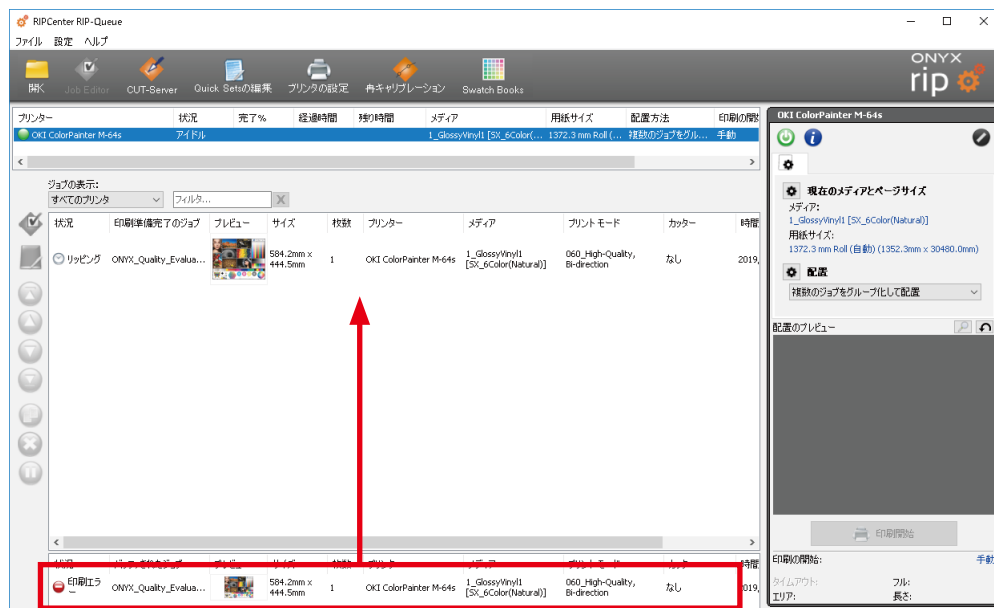
ここでの設定は、このジョブだけに適用されるものです。

ここでの設定項目は印刷時の動作を規定するものです。値を変えても、再度の RIP 処理は不要です。

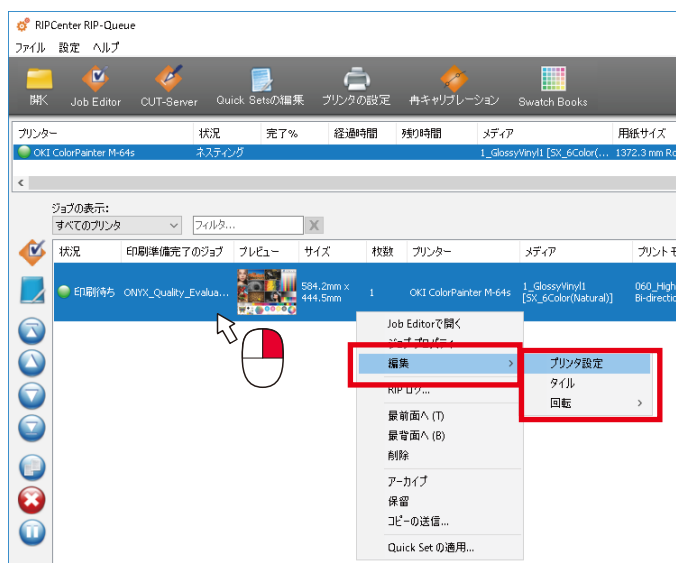
3.2 基本操作編

ジョブ操作

◆ 再印刷したい

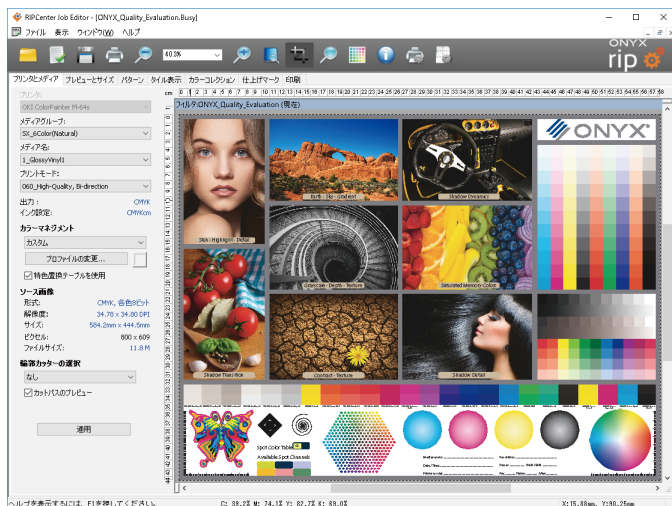


ジョブを選択し、印刷準備完了エリア内へドラッグ&ドロップすることにより再印刷できます。

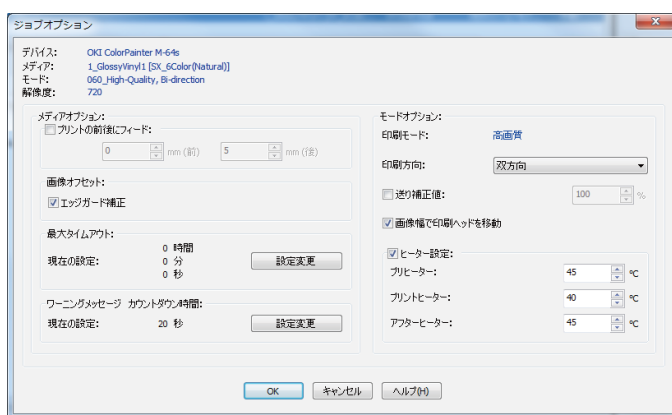


また、エリア内にあるジョブは再編集ができます。「Job Editorで開く」を選択、もしくは「編集」から以下のメニューを選択します。

- ① プリンタ設定
- ② タイル
- ③ 回転

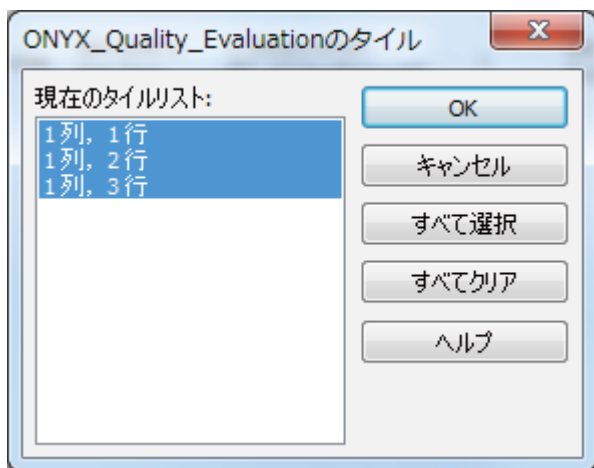


①「Job Editor で開く」を選択した場合
Job Editor上でレイアウトやプロファイルの変更などができます。再度 RIP 処理が必要になります。



②「プリンタ設定」を選択した場合
選択したジョブに限り、ヒーター温度や印刷方向などの変更ができます。再 RIP 処理が必要ありません。

※メディアプロファイルに紐付された「デフォルト値」は、変更されません。このジョブのみに変更が適用されます。

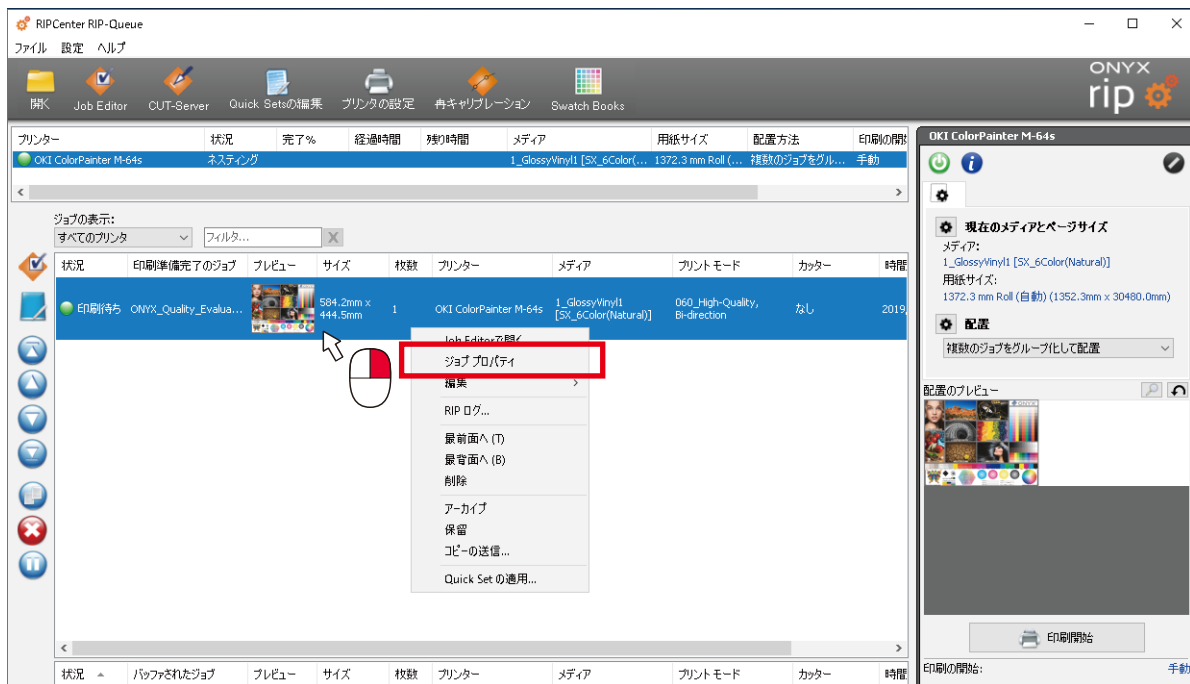


③「タイル」を選択した場合
分割設定を行った場合、印刷するタイルを選択しなおすことができます。

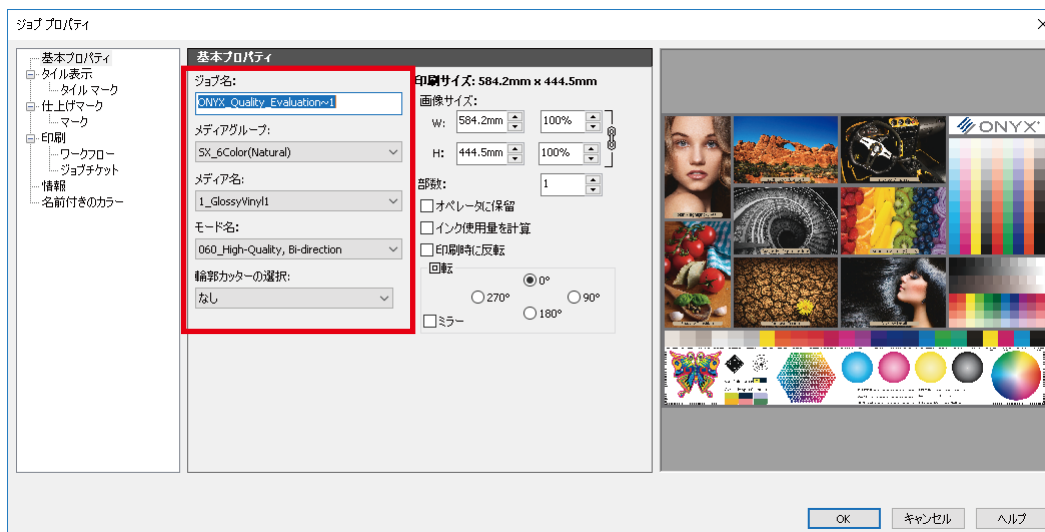


④「回転」を選択した場合
選択したジョブを任意の方向に回転することができます。
回転設定後は再 RIP 処理が自動的に行われます。

◆ メディアや印刷モードを変えて再印刷したい



エリア内にあるジョブは、Job Editorを開かなくてもメディア（プロファイル）や印刷モードを変更することができます。ジョブを右クリックし、「ジョブ プロパティ」を選択します。



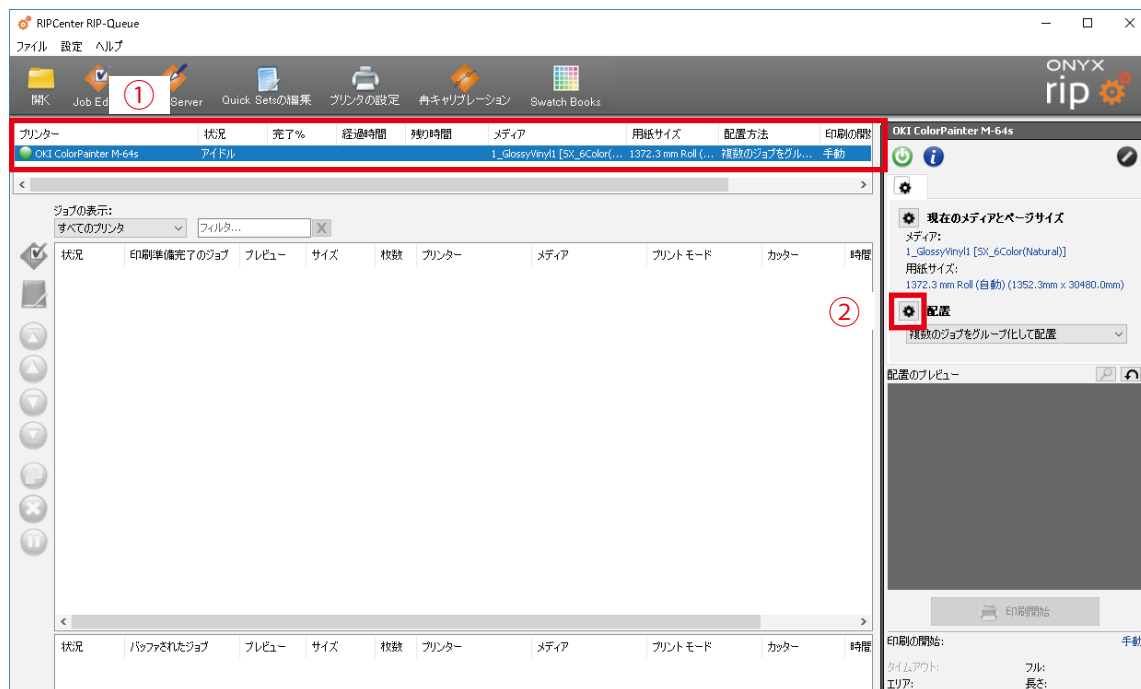
ジョブ名、メディアグループ、メディア名、モード名を選択し直すことができます。（どれか一つでも変更すると、再 RIP が必要になります）

レイアウト

◆ メディアの中央に印刷したい (ラフなセンタリング)

ここでのセンタリングは、ラフな中央合わせです。

メディア中央に厳密にセンタリングしたい場合は、「4章困ったときは」の「◆厳密にメディア中央に印刷したい (センタリング)」を参照ください。



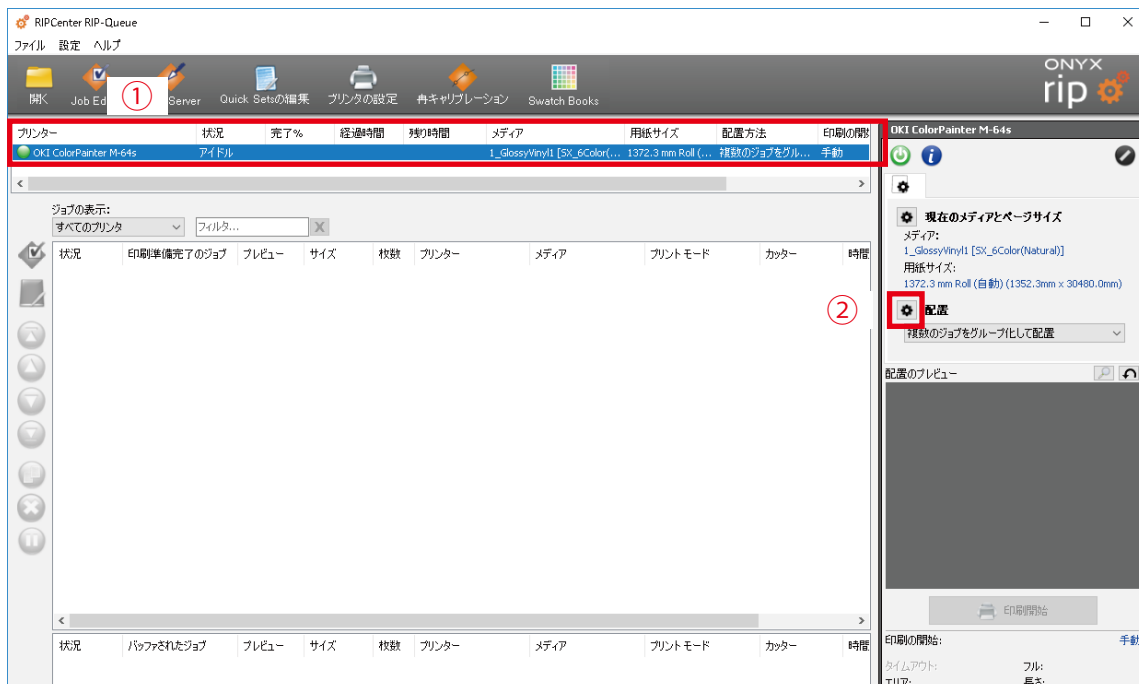
①プリンター名 ②「配置」の設定アイコンの順にクリックします。



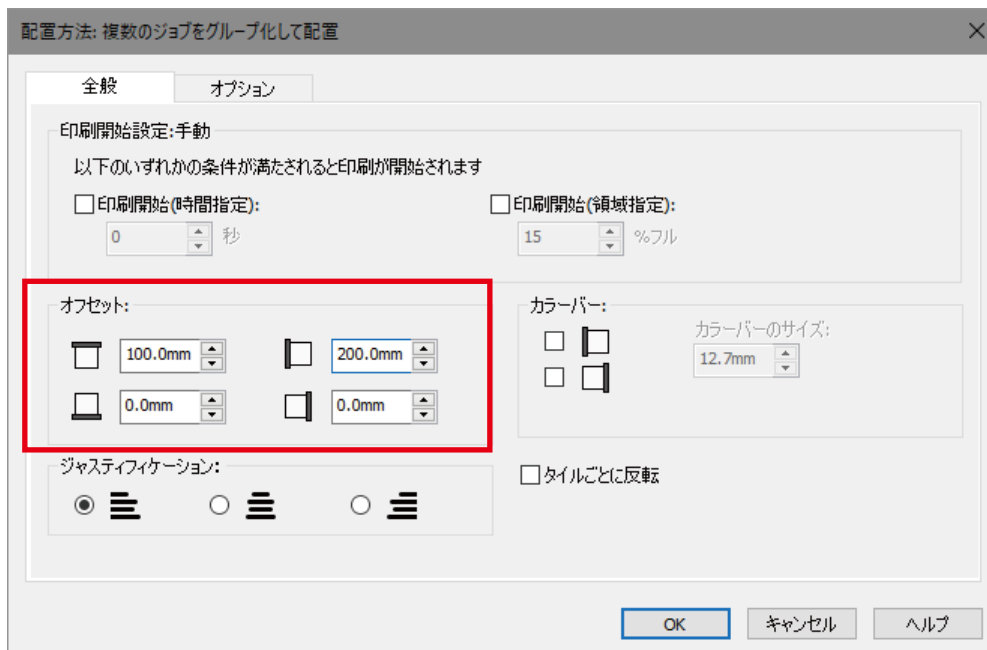
ジャスティフィケーションから真ん中をクリックし、「OK」ボタンで抜けます。

今後受信されるデータは、中央揃え (センタリング) で印刷されます。

◆ 任意の場所に印刷したい（オフセット）



①プリンター名 ②「配置」の設定アイコンの順にクリックします。



オフセットに数値を入力します。 例：左 20cm、上 10cm
 以降の印刷では、指定したオフセット位置に印刷データが配置されます。



オフセットはプレビューで確認できます。

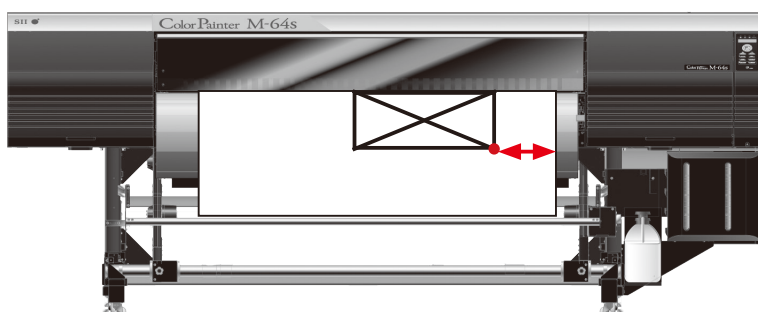
RIP のプレビュー画面と、プリンター正面から用紙を見た場合とでは、向きが異なります。「配置のプレビュー」右にある矢印をクリックすることで、回転して表示することもできます。

(印刷方向にご注意ください。)

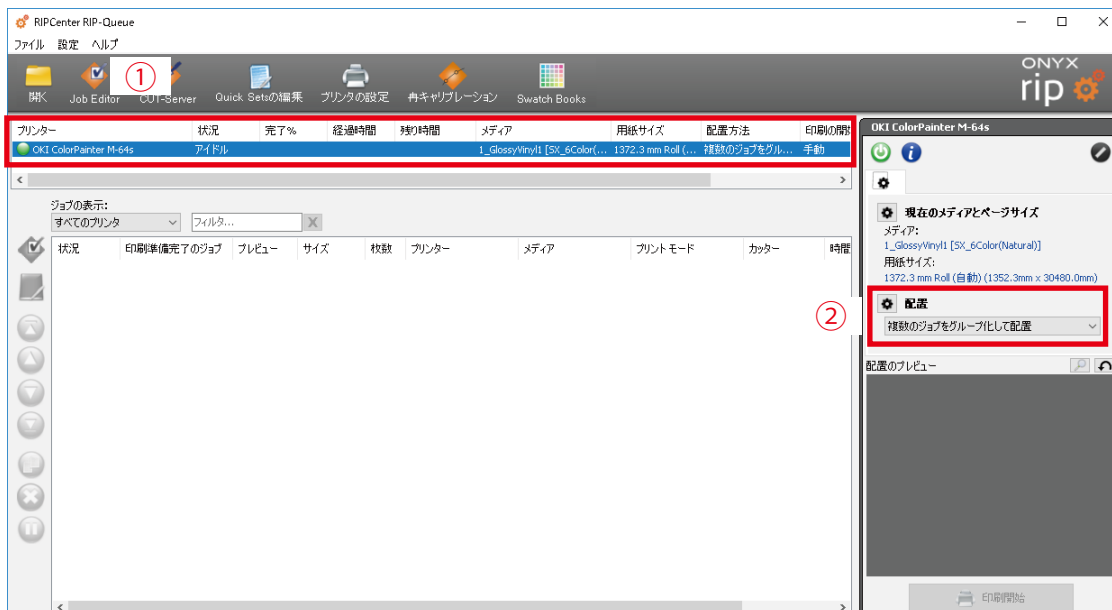
【参考】

プリンター本体にも、書き出し位置を移動する手段（原点設定機能）があります。

プリンターの取扱説明書を参照してください。



◆ まとめて印刷したい、余白を減らしたい(ネスト)



①プリンター名 ②「配置」のプルダウンの順にクリックします。

●「複数のジョブをグループ化して配置」

RIP データリストの上から順にまとめて印刷します。

●「メディアの節約」

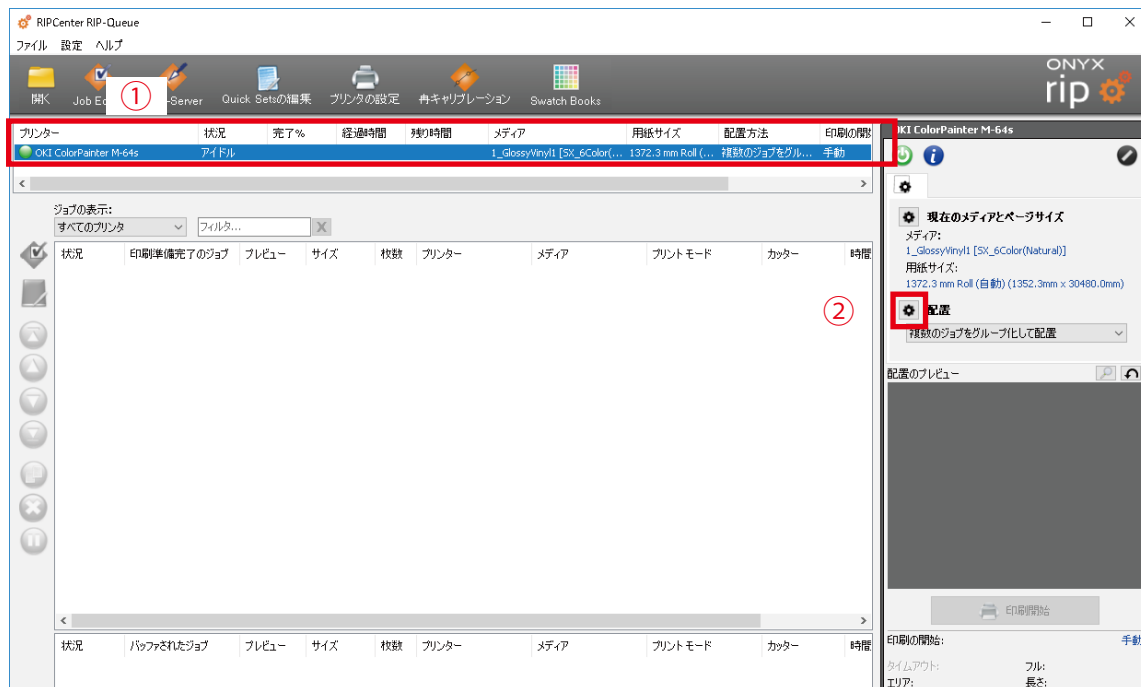
自動的に配置を考えメディアを節約します。

※任意の配置はできません。

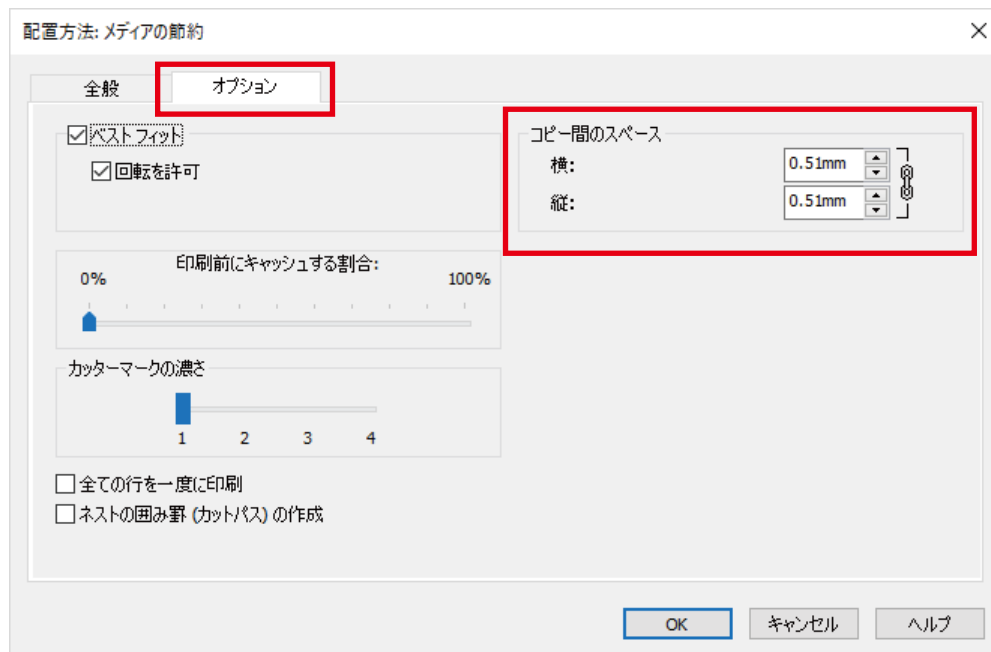
また「配置」の設定アイコン→「オプション」選択後「ベストフィット」と「回転を許可」にチェックを入れると、さらに節約効果が得られます。



◆ コピー時の余白・隙間をもっと広げたい

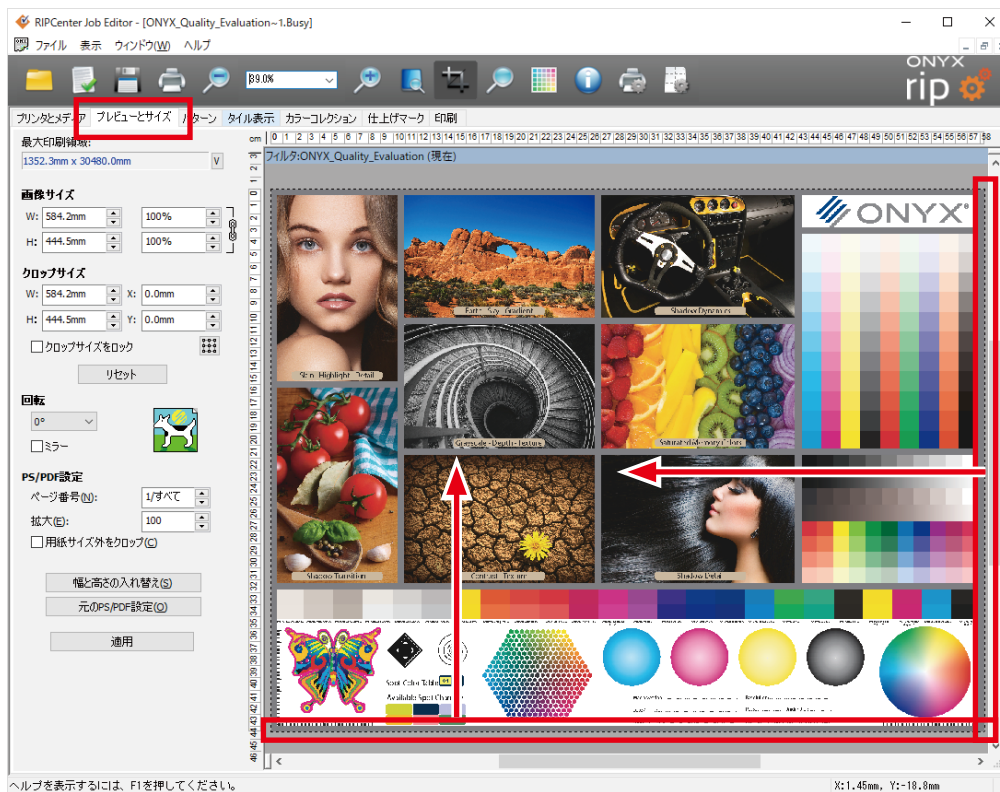


①プリンター名 ②「配置」の設定アイコンの順にクリックします。



「オプション」タブをクリックし、「コピー間のスペース」に任意の余白数値を入力します。

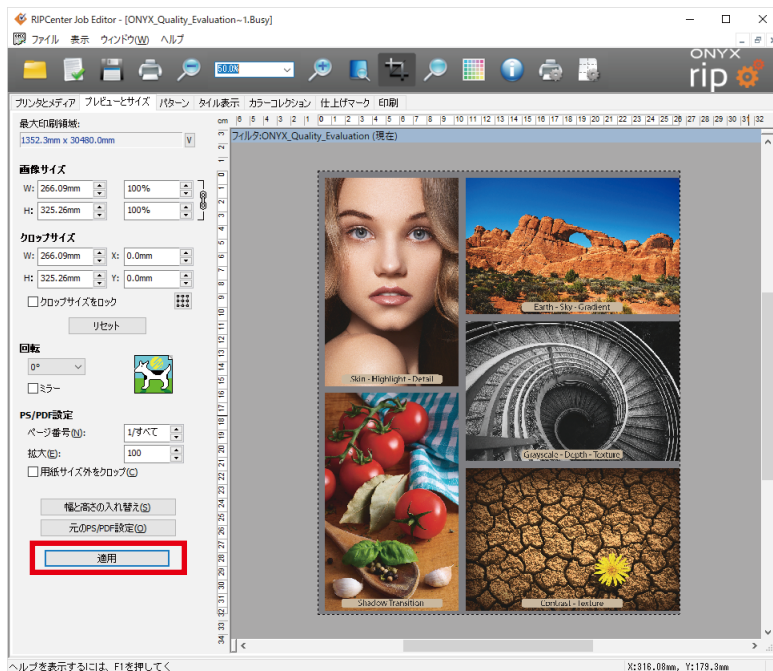
◆ 特定部分だけを印刷したい(トリミング)



Job Editorで「プレビューとサイズ」タブを選択します。

画の縁にカーソルを持ってくると、カーソルの形が「」に変化します。

ドラッグすることで、トリミング枠が自由に設定できます。

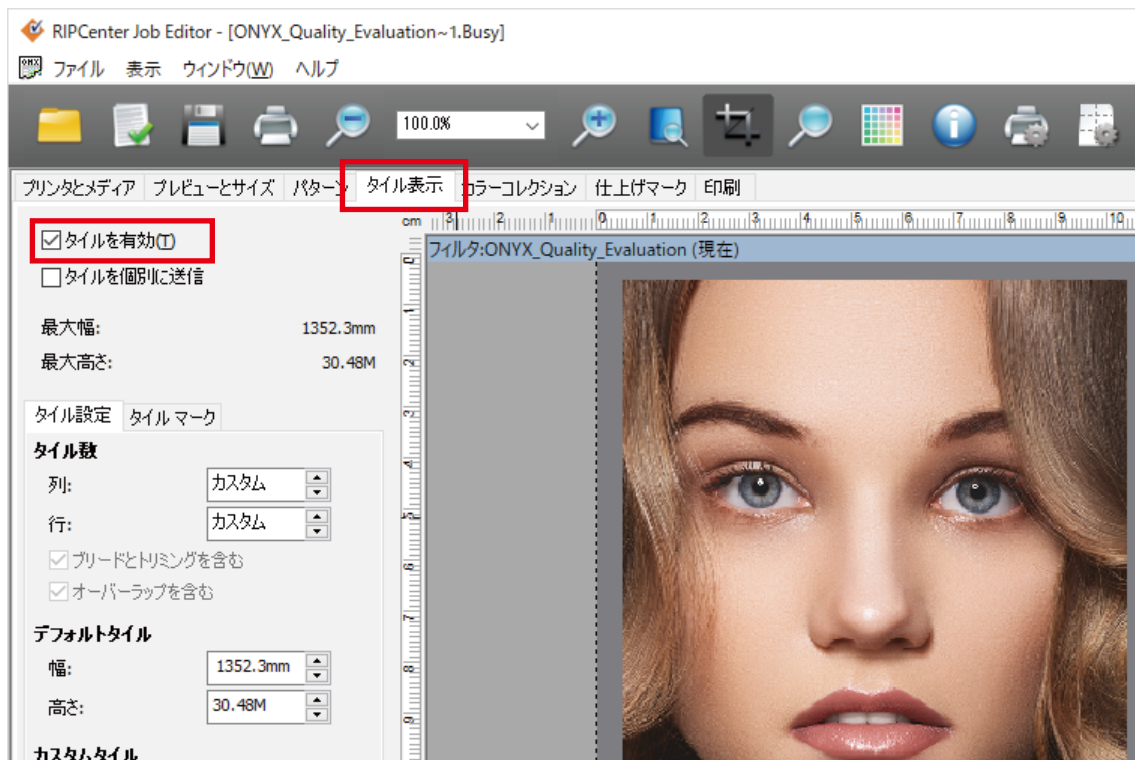


「適用」ボタンをクリックすると、トリミング(切り抜き)されたプレビューが表示されます。

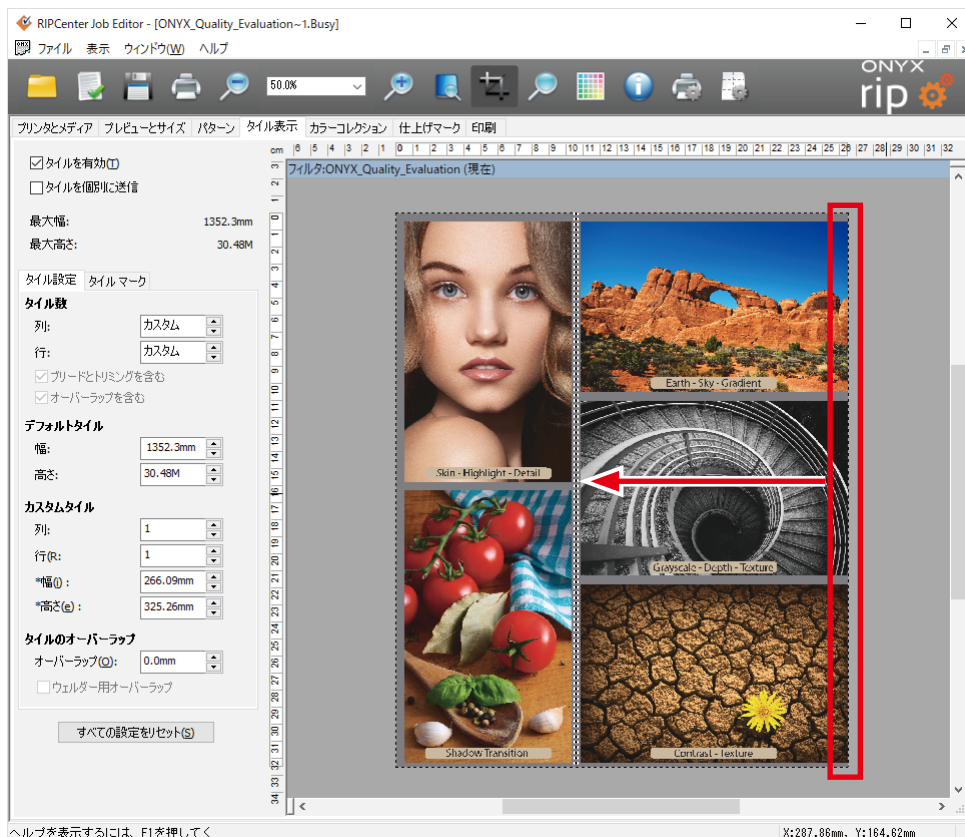
注意!

回転を併用するときは、トリミングより先に回転処理をしてください。

◆ タイリング出力したい

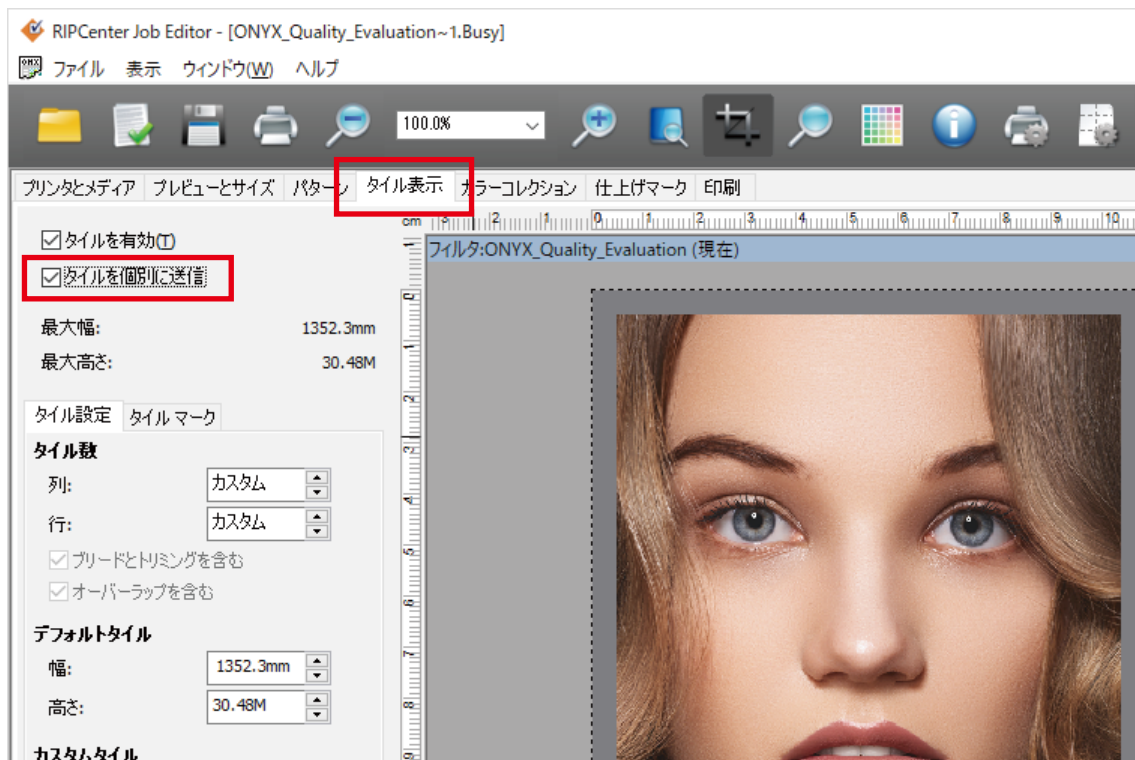


Job Editorで「**タイル表示**」タブを選択して「**タイルを有効**」にチェックを入れてください。

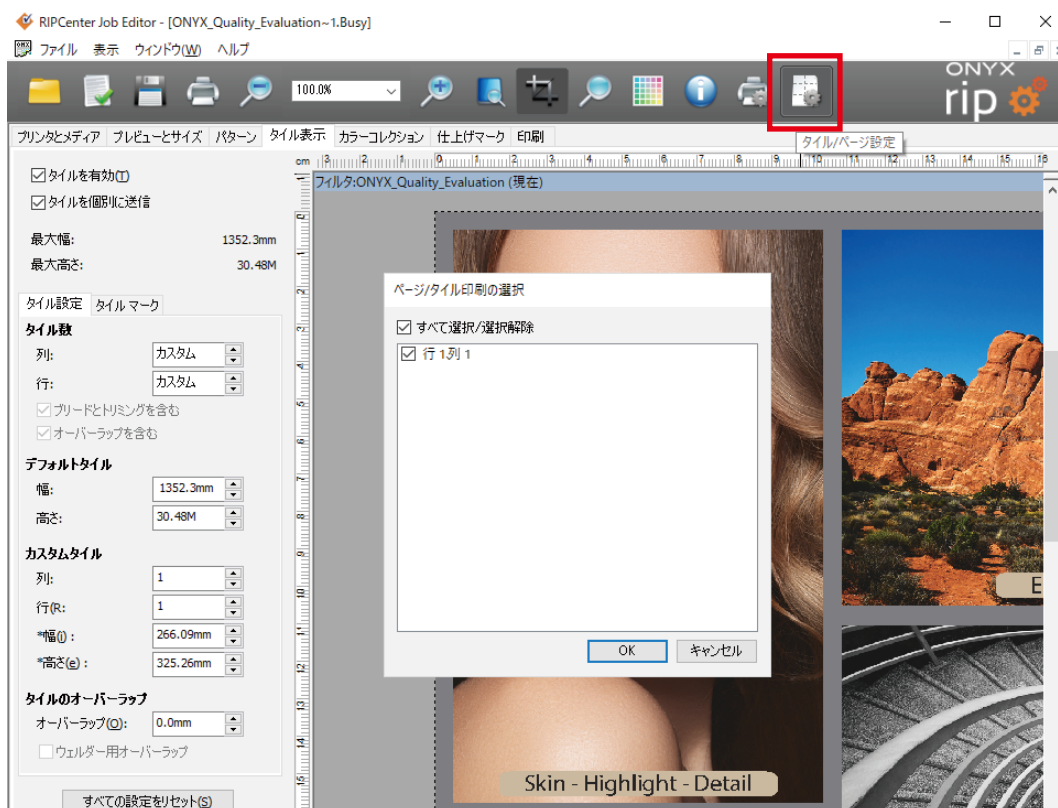


画の右縁にカーソルを持ってくると、カーソルの形が「⇄」に変化します。
左側にドラッグすることで、分割線が何本でも自由に設定できます。
(水平分割の場合は下縁からドラッグしてください。)

◆ タイリング時に、特定のタイルだけ印刷したい



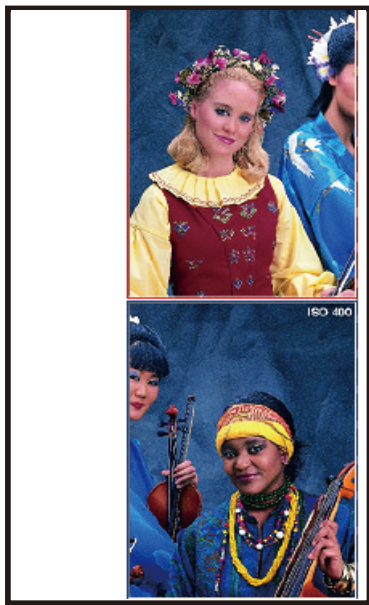
タイル別に印刷する場合は「**タイルを個別に送信**」にチェックを入れます。



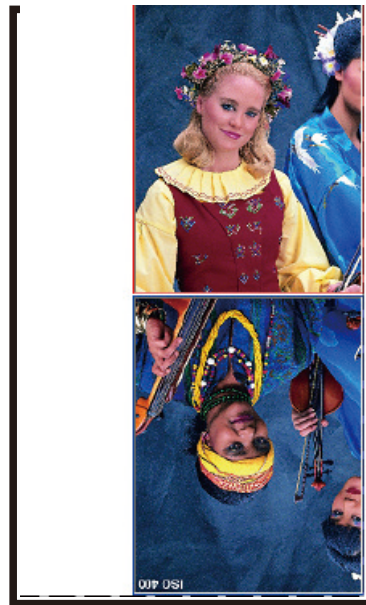
右上の「**タイル/ページ設定**」ボタンをクリックしてください。

タイル選択のダイアログが表示され、出力タイルを自由に選択できます。

◆ タイルを反転させて継ぎ目を同じサイドで印刷させたい

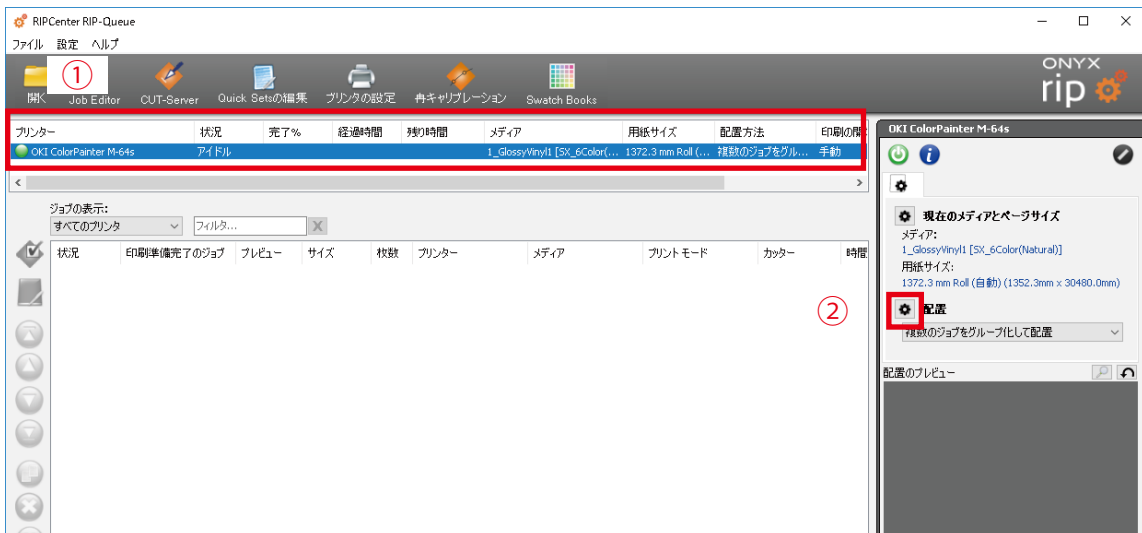


反転 OFF



反転 ON

タイルを回転させて張り合わせる辺を同じサイドに配置

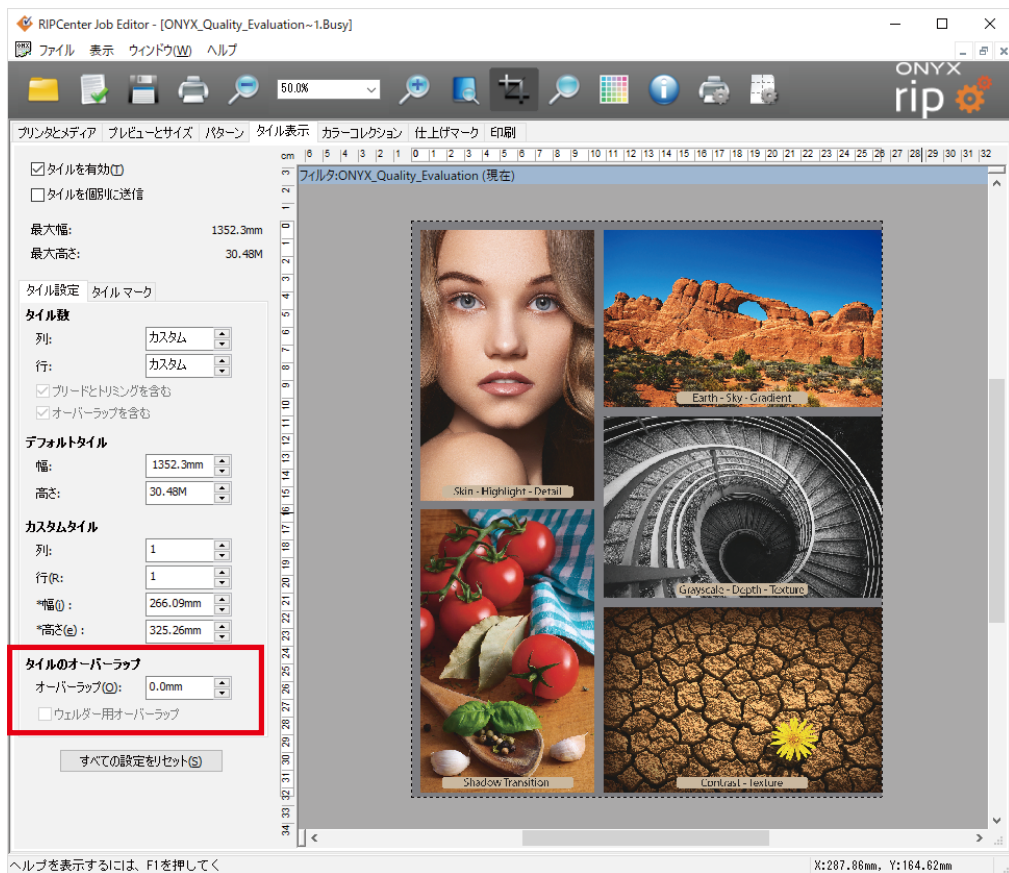


①プリンター名 ②「配置」の設定アイコンの順にクリックします。

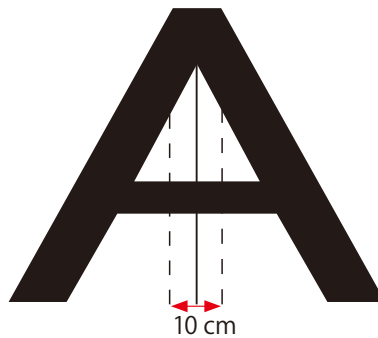


「タイルごとに反転」にチェックを入れて「OK」ボタンで抜けます。

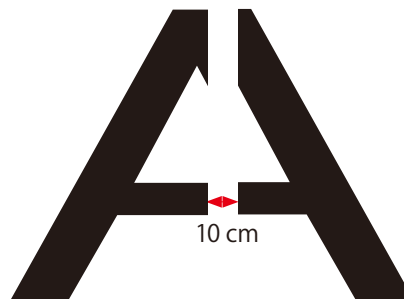
◆ タイリング時に、継ぎ目をオーバーラップさせたい



※オーバーラップの付き方

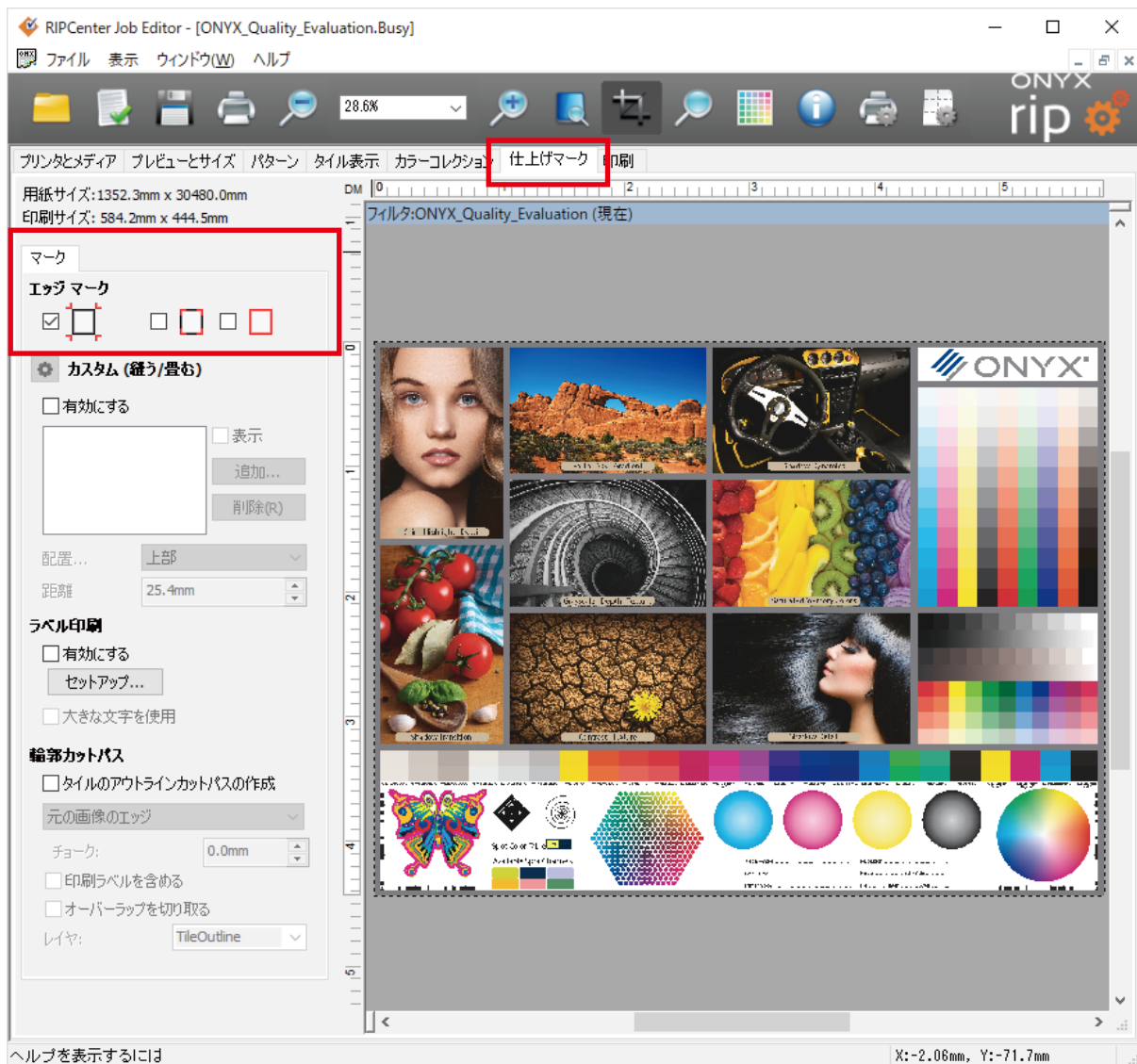


例えばオーバーラップを 10cm とした場合、中心線から左右それぞれ 5cm ずつ、合計 10cm の重ねがつかます。



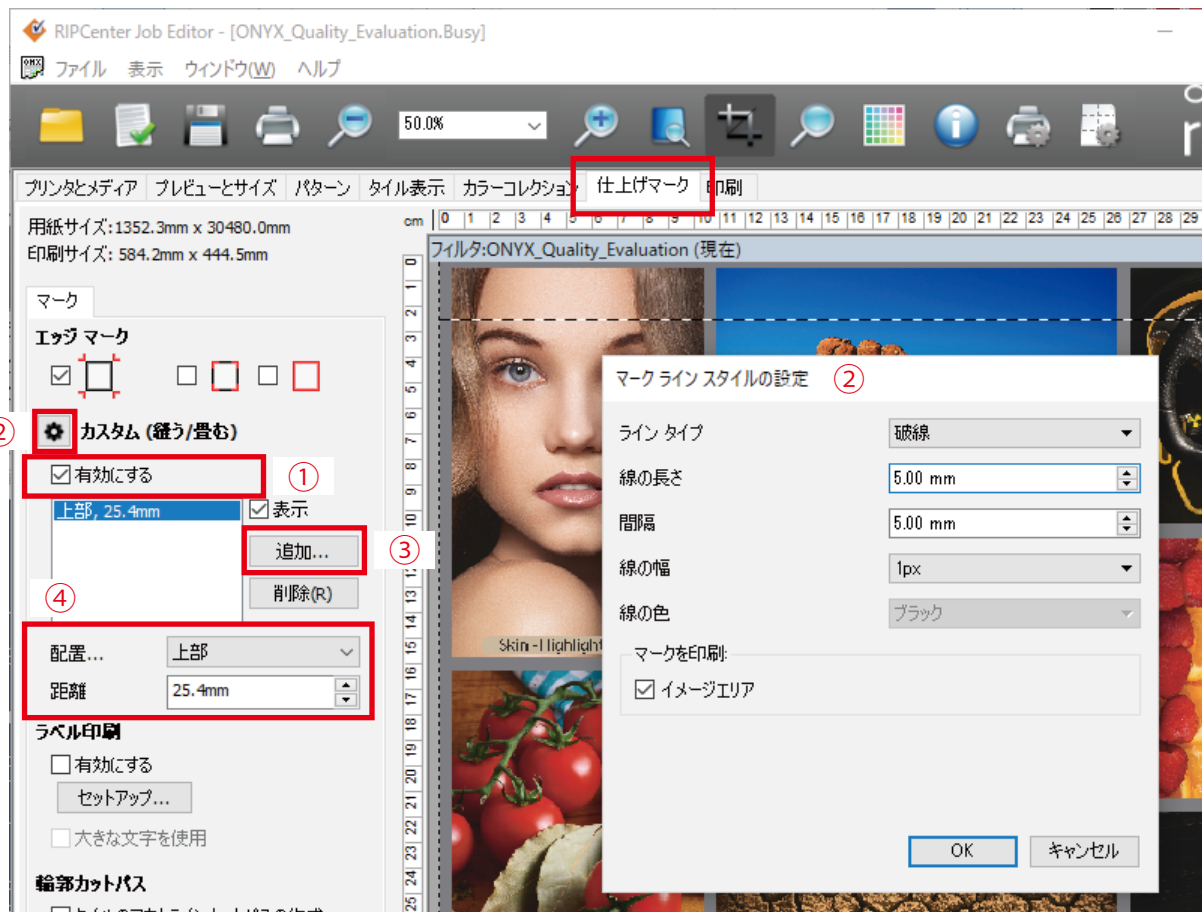
また「ウェルダースタイルオーバーラップ」にチェック入れると、インクを乗せない重ねしろをつけられます。
なお、この機能はオーバーラップ幅 13mm 以上で有効になります。

◆ トンボを印刷したい



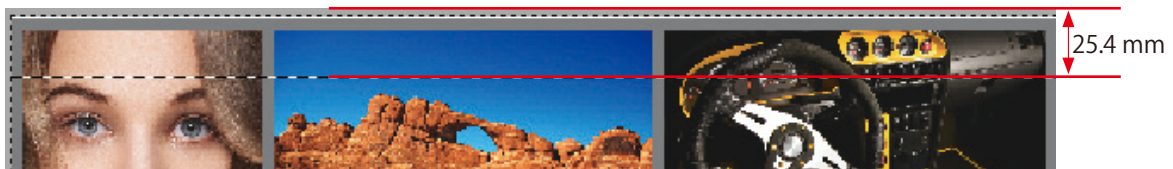
Job Editorで「仕上げマーク」タブを選択して、エッジマークの任意のマークにチェックを入れます。レジスタマークと、クロープマークを両方組み合わせることもできます。

◆ 折りたたみ線（ソーイング線）を挿入したい



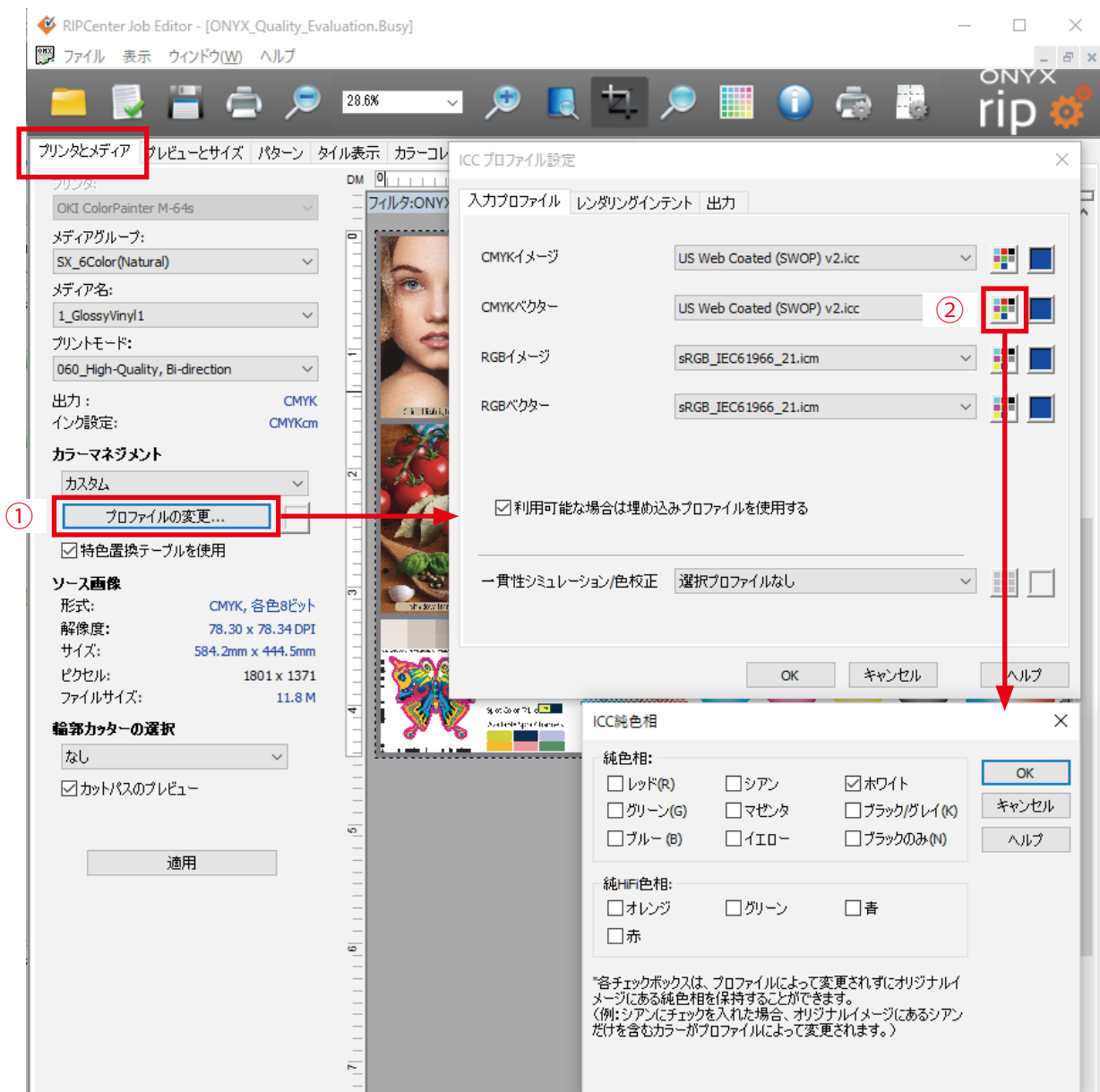
Job Editorで「仕上げマーク」タブを選択します。

- ① 「カスタム (縫う/畳む)」の「有効にする」をチェックします。
- ② 設定アイコンを押して「マークラインスタイルの設定」ダイアログを表示させ、折りたたみ線の種類や幅、長さなどを設定します。
- ③ 「追加」ボタンを押す毎に、折りたたみ線を1本ずつ挿入できます。
- ④ 線を画像の上下左右どこに入れるかを「配置」で決め、画像端からの「距離」を入力します。
例では、画像上部に 25.4mm の位置に設定しています。



色の調整

◆ 純色で印刷したい

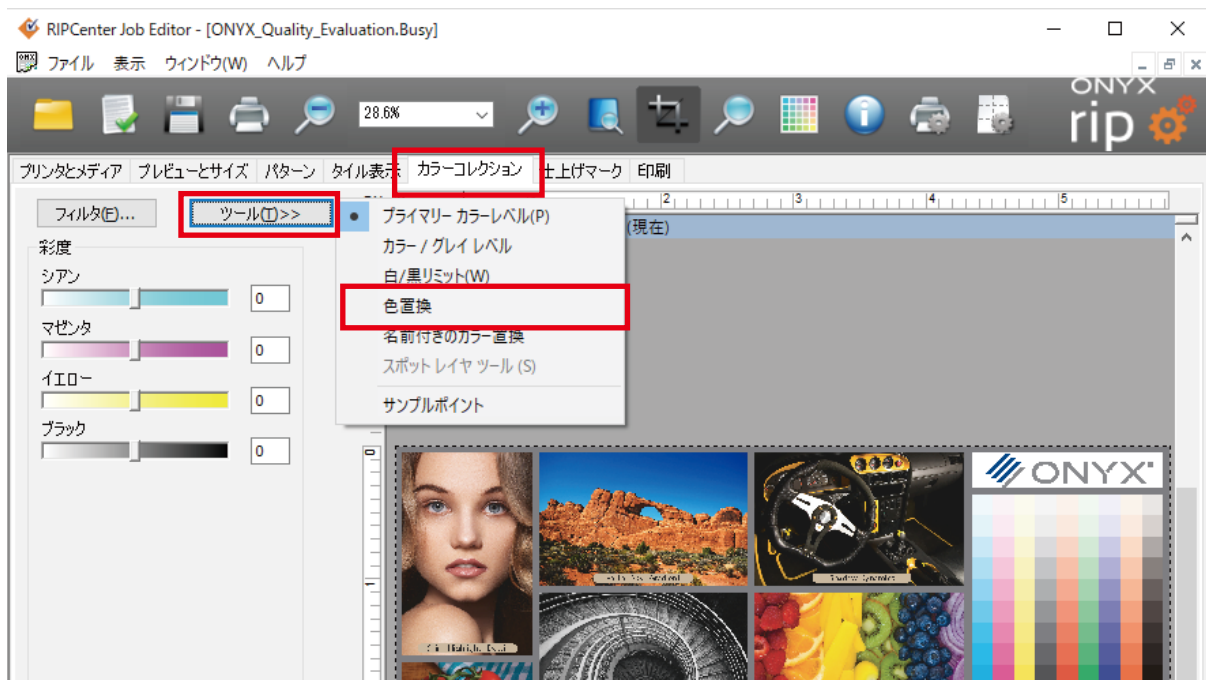


- ① 「プリンタとメディア」タブの「プロファイルの変更」をクリックすると「ICC プロファイル設定」ダイアログが開きます。
- ② このボタンをクリックすると「ICC 純色相」ダイアログが表示されます。

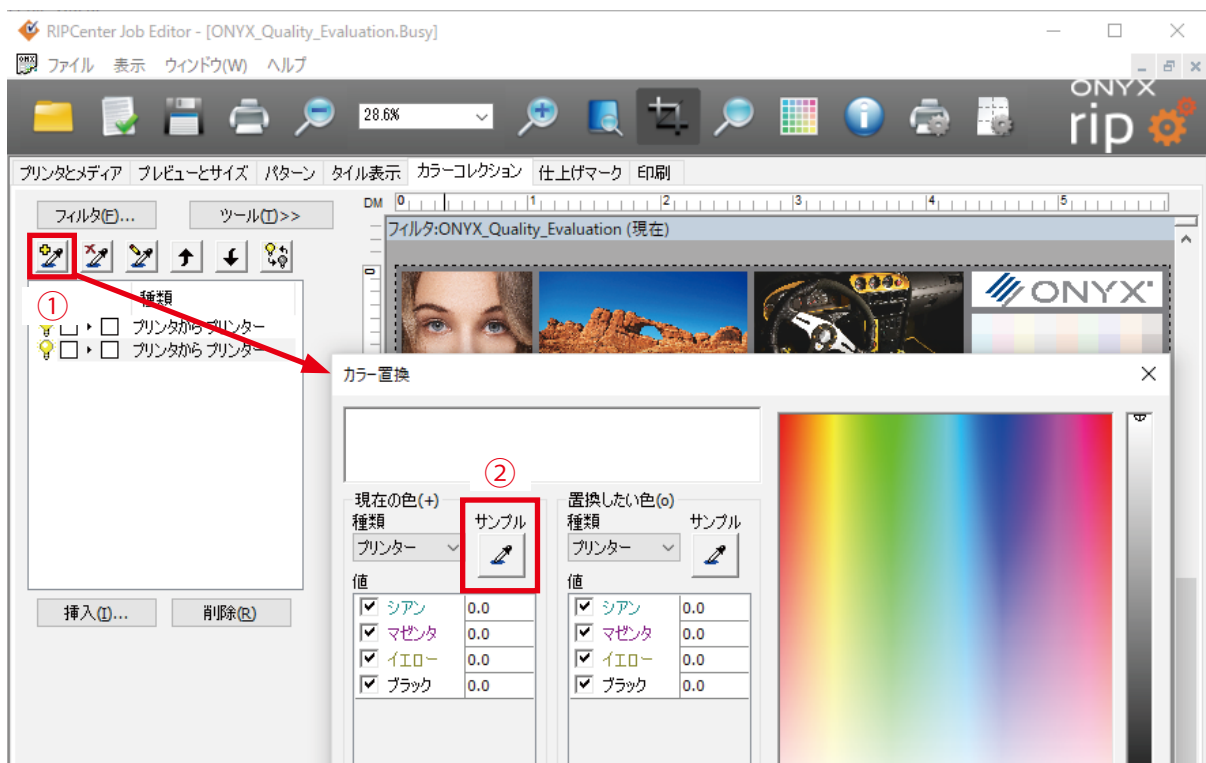
【注意】

この機能は写真画やグラデーションには使用しないでください。階調が崩れる危険性があります。

◆ 色を置換したい

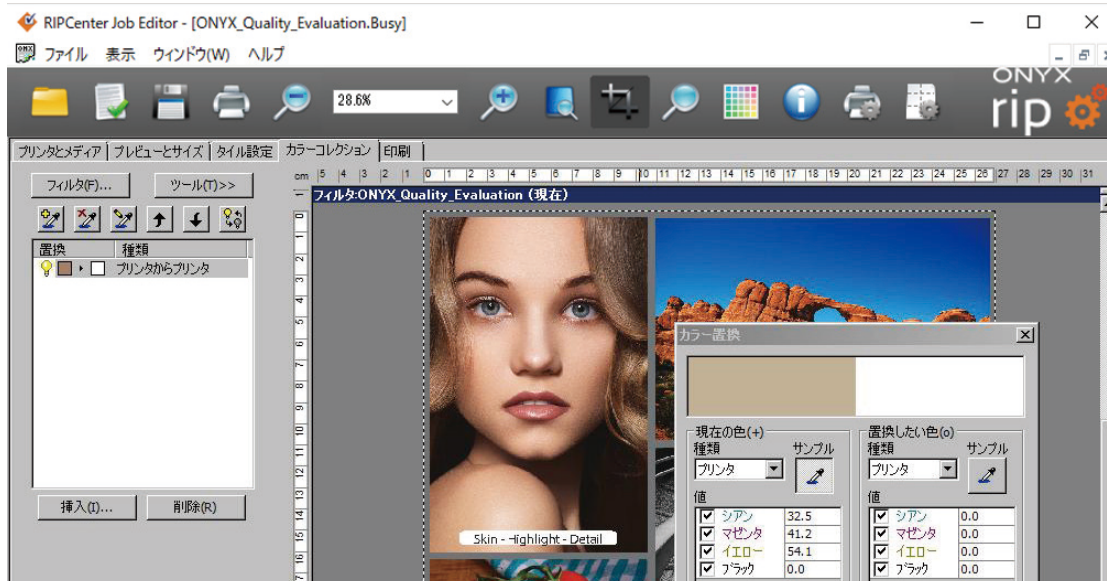


「カラーコレクション」タブの「ツール」ボタンをクリックし「色置換」を選択します。

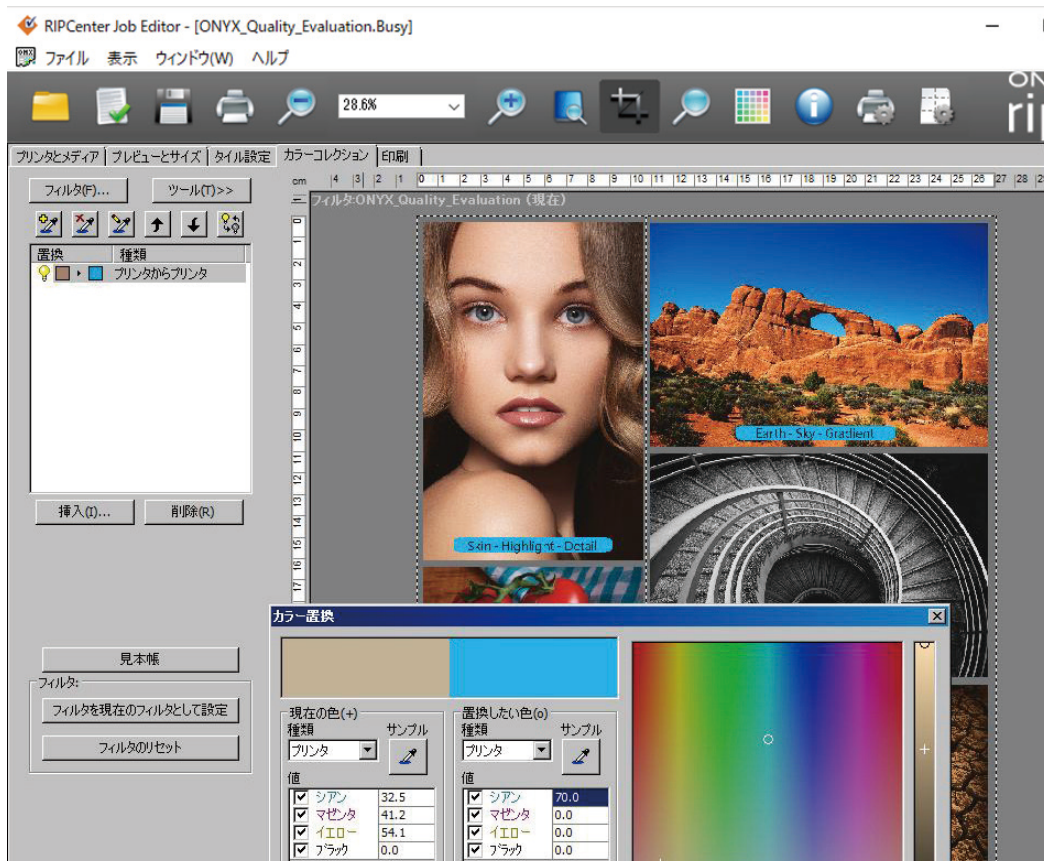


左上にスポイトのアイコンが表示されます。

- ① これをクリックするとカラー置換ダイアログが表示されます。
- ② カラー置換ダイアログ上のスポイトアイコンをクリックします。



- ③ スポイトのカーソルを変換したいオブジェクトの上に移動し、クリックします。
現在の色配分 (C32.5%、M41.2%、Y54.1%) が表示されます。



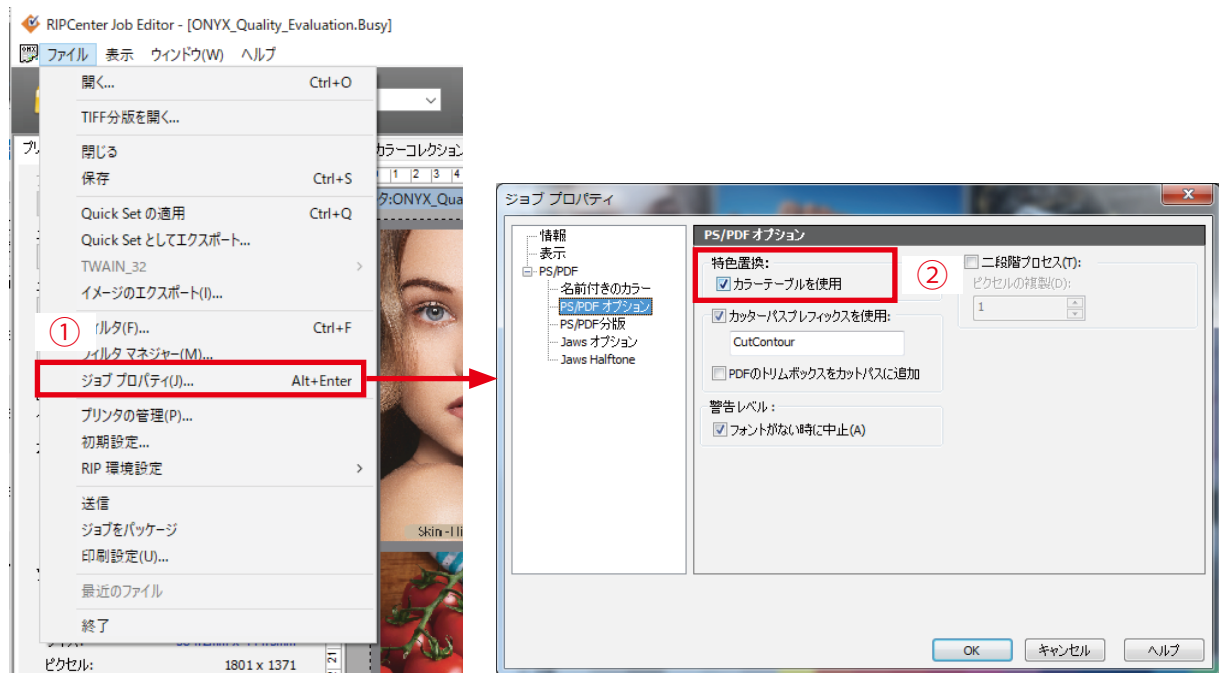
- ④ カラー置換ダイアログの「置換したい色」に任意の色配分を入力できます。(この例の場合はC70%)
数値を入力してリターンキーを押すと、結果プレビューに反映されます。

【注意】

この機能は、設定時に選択したオブジェクトだけでなく、画像中の全てのオブジェクトに対し有効になります。
この例では、全てのオブジェクトの C32.5%、M41.2%、Y54.1%部分が C70% に変換されます。特に写真画を含む場合は意図しない場所の色も同時に変わってしまう可能性がありますので、ご注意ください。

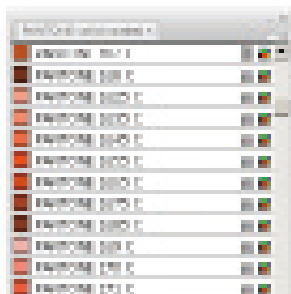
◆ 特色指定した色を印刷したい (スポットカラーの印刷)

ONYX RIP は Pantone® をサポートしています。



- ① Job Editor 画像を開き、「ファイル」メニューから「ジョブプロパティ」を選択してください。
- ② PS/PDF の中の、PS/PDF オプションを選択し、「カラーテーブルを使用」をチェックします。

Illustrator で配色された特色 (Pantone カラー) がマッチングされます。



注意:

カラーマネジメント設定を有効にしてください。

(レンダリングインテントは「相対的な色域を維持」を推奨します。)

Vivid 出力設定のように「選択プロファイルなし」を選んでいると、色合わせがおこなえません。

またパントンのカラーサンプルは以下のフォルダに用意してあります。

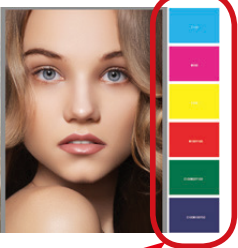

インストールドライブ:\Onyx19\Samples\Pantone



◆ Vivid 出力と Natural 出力を使い分けたい

両者の違いを理解して、ジョブの特性に合わせて使い分けます。

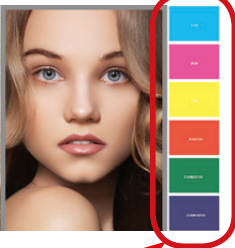
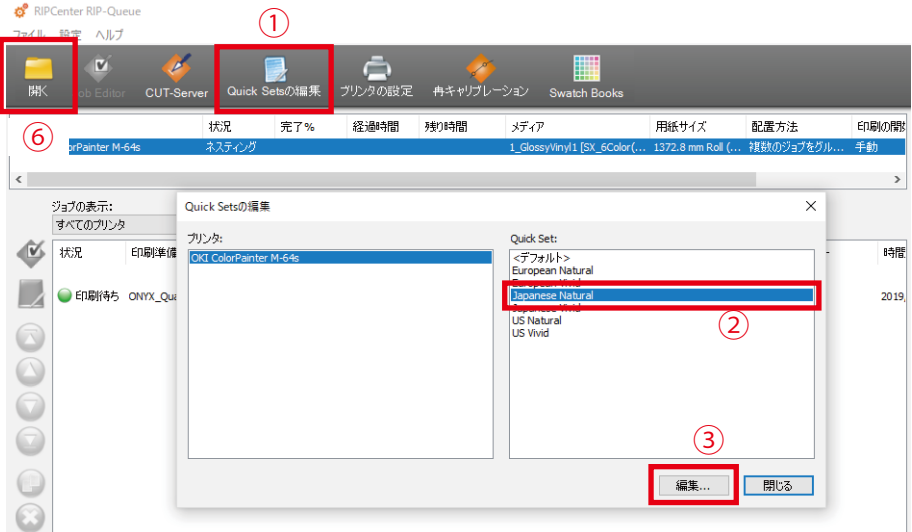

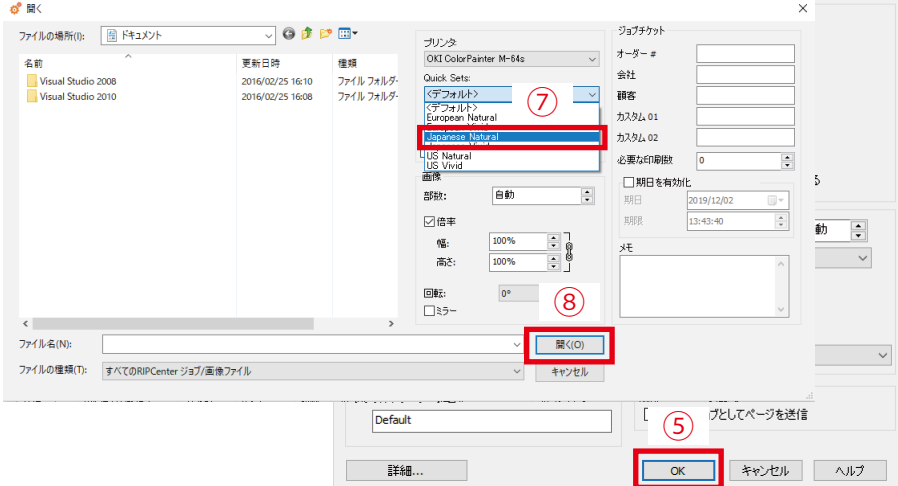
● Vivid 出力

| 印刷結果 | 設定方法 |
|---|--|
|  <p>・濃いベタ ・濁らない ・目標に合わせないが、鮮やか</p> | <p>①～⑤：Vivid 出力用のクイックセットを設定する</p> <ol style="list-style-type: none"> ①「Quick Sets の編集」をクリックします。 ②「Japanese Vivid」を選びます。 ③「編集」をクリックします。④メディアとモードには、「Vivid」と書かれたメディアグループに属するメディアのいずれか（と印刷モード）を引き当てておきます。 ⑤「OK」を押します。  <p>⑥～⑧：Vivid 出力用のクイックセットを適用して、ジョブを開く</p> <ol style="list-style-type: none"> ⑥「開く」をクリックします。開きたいファイルを選択後、⑦クイックセットに「Japanese Vivid」を指定します。 ⑧「開く」をクリックします。 |

◆ Vivid 出力と Natural 出力を使い分けたい

両者の違いを理解して、ジョブの特性に合わせて使い分けます。

● Natural 出力

| 印刷結果 | 設定方法 |
|---|--|
|  <p>・Vividより薄いベタ ・濁る ・Vividと比べ鮮やかでない ・目標に対し、正しい色</p> | <p>①～⑤：Natural 出力用のクイックセットを設定する。</p> <p>①「Quick Sets の編集」をクリックします。②「Japanese Natural」を選択します。 ③「編集」をクリックします。④メディアとモードには、「Natural」と書かれたメディアグループに属するメディアのいずれか（と印刷モード）を引き当てておきます。 ⑤「OK」を押します。</p>    <p>⑥～⑧：Natural 出力用のクイックセットを適用して、ジョブを開く。</p> <p>⑥「開く」をクリックします。開きたいファイルを選択後、⑦クイックセットに「Japanese Natural」を指定します。⑧「開く」をクリックします。</p> |

●参考：プレインストールされているクイックセットの、カラーマネジメント（入力プロファイル）設定一覧

| クイックセット名称 | オブジェクトの種類 | | | |
|------------------|-----------------------------|-----------------------------|----------------------|----------------------|
| | CMYK モードのビットマップ | CMYK モードのベクター | RGB モードのビットマップ | RGB ベクター |
| European Natural | CoatedFOGRA39.icc | CoatedFOGRA39.icc | AdobeRGB1998.icc | AdobeRGB1998.icc |
| European Vivid | CoatedFOGRA39.icc | 選択プロファイルなし | AdobeRGB1998.icc | 選択プロファイルなし |
| Japanese Natural | JapanColor2001Coated.icc | JapanColor2001Coated.icc | AdobeRGB1998.icc | AdobeRGB1998.icc |
| Japanese Vivid | JapanColor2001Coated.icc | 選択プロファイルなし | AdobeRGB1998.icc | 選択プロファイルなし |
| US Natural | US Web Coated (SWOP) v2.icc | US Web Coated (SWOP) v2.icc | sRGB_IEC61966_21.icm | sRGB_IEC61966_21.icm |
| US Vivid | US Web Coated (SWOP) v2.icc | 選択プロファイルなし | AdobeRGB1998.icc | 選択プロファイルなし |

備考：

入力プロファイルを指定しているオブジェクトについては全て、レンダリングインテントを「知覚的 (イメージ)」に設定しています。

プリンター動作の変更

◆ ヒーター温度を変更したい



エリア内のデータを選択し、右クリックをして「編集」→「プリンタ設定」を開きます。



ヒーター設定から任意の温度を入力します。

※上で紹介した方法では、選択したデータのみに対して設定が適用されます。

※プリンター本体パネル側からリアルタイムに温度設定も可能です。

※デフォルト設定を変えておくことも可能です (→ P.33)

◆ 片方向で印刷したい



エリア内のデータを選択し、右クリックをして「編集」→「プリンタ設定」を開きます。



モードオプションの、「印刷方向」で、双方向 / 片方向を切り替えます。

※上で紹介した方法では、選択したデータのみに対して設定が適用されます。

※デフォルト設定を変えておくことも可能です (→ P.33)

◆ データ幅で印刷したい / メディア幅で印刷したい



エリア内のデータを選択し、右クリックをして「編集」→「プリンタ設定」を開きます。



「画像幅で印刷ヘッドを移動」にチェックを入れるとデータ幅で、チェックを外すと用紙幅でヘッドがスキャンします。

※ データ幅スキャンの場合も、そのデータの一番大きな幅に合わせてヘッドが往復します。

(スキャンごとに往復する幅が変わるわけではありません)

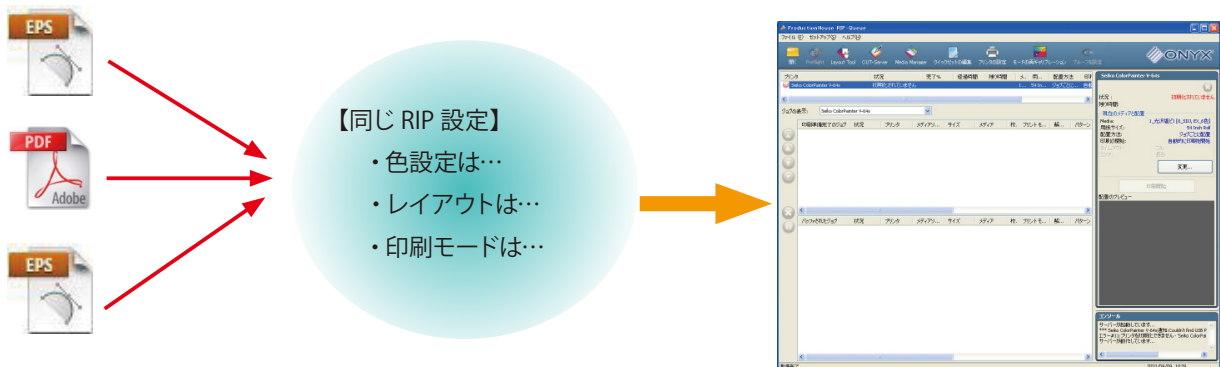
※ 上で紹介した方法では、選択したデータのみに対して設定が適用されます。

※ デフォルト設定を変えておくことも可能です (→ P.33)

※ 紙送り方向のロジカルシーク (白データ部分をフィードでスキップする機能) には対応していません。

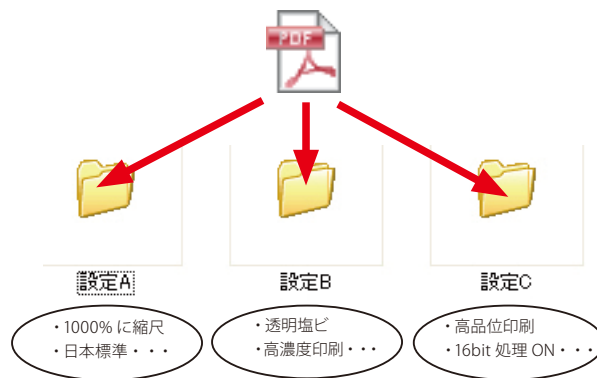
もっと便利に

◆ いつも同じ設定で RIP したい (クイックセット)



図のように異なる複数のジョブを同じ RIP 設定で印刷したい場合、クイックセットが便利です。クイックセットとは、カラーマネージメントや印刷モードなどの一連の設定をまとめたものです。その設定を自動的にジョブに反映させることができます。

またクイックセット作成すると、同名のホットフォルダが作成されます。そこに直接画像ファイルを入れることで、自動的に設定を反映しながら印刷することもできます。

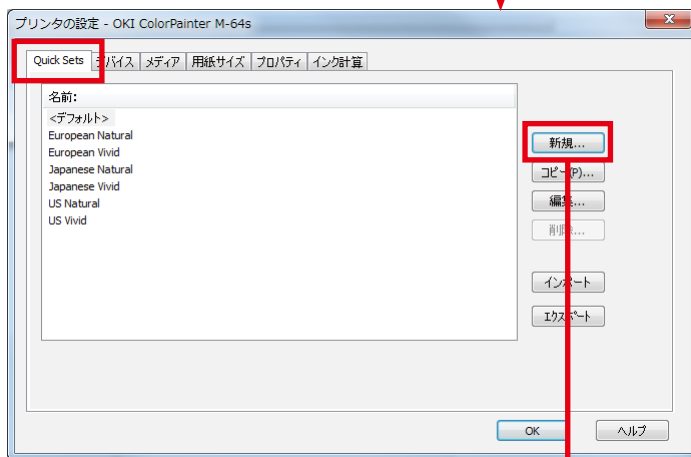


ジョブごとに設定を変更しなくても済むので、大量のジョブを同じ設定で印刷したいときなど、Job Editor で都度設定したくない場合に便利です。

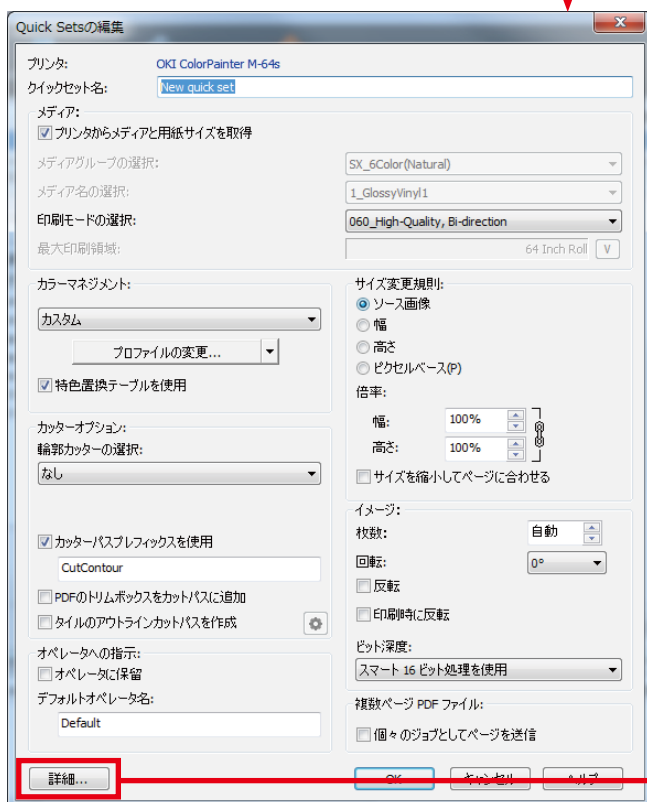
次頁よりクイックセットの作成方法と運用方法を紹介します。

【クイックセットの作り方】

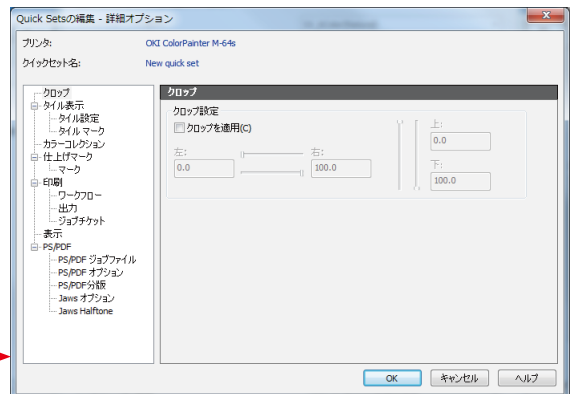
※ Job Editor でジョブを開いている場合は、一旦 Job Editor を閉じてください。



① プリンターエリア内の「プリンタの設定」ボタンをクリックし、クイックセットタブを選択して「新規」ボタンをクリックします。

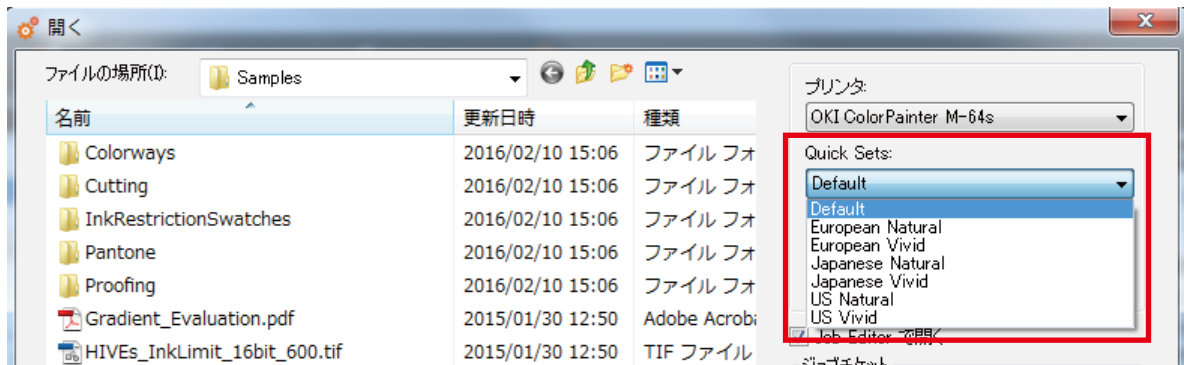


② クイックセット名はメディア名、印刷モード、用途名、使う人の名前など、わかりやすい名称にします。
ここで保存した設定が自動的にジョブに適用されます。
③ また詳細オプションの中では、さらに細かい設定項目を設定できます。



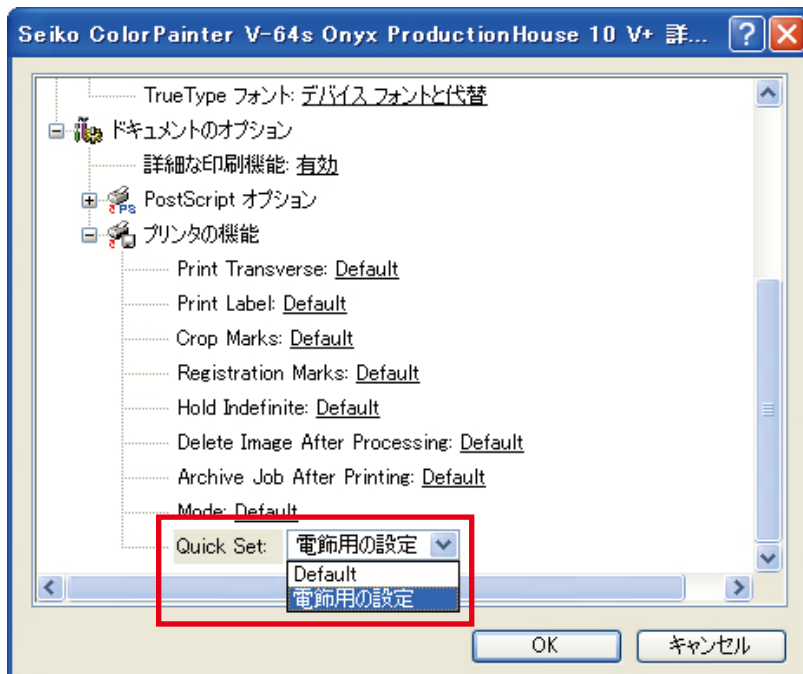
【クイックセットの選び方】

● RIP キューから



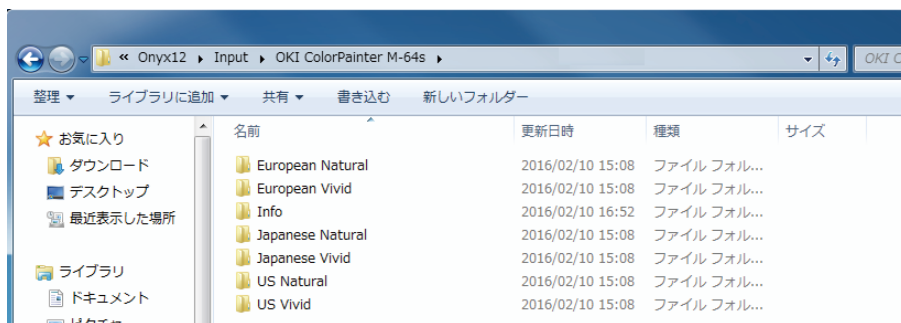
RIP キューからデータを開くときに、選択したクイックセットの設定を適用させることができます。

● プリンタードライバーから



作成したクイックセットは PostScript ドライバーからも選択でき、設定が適用されます。

● Hot Folder

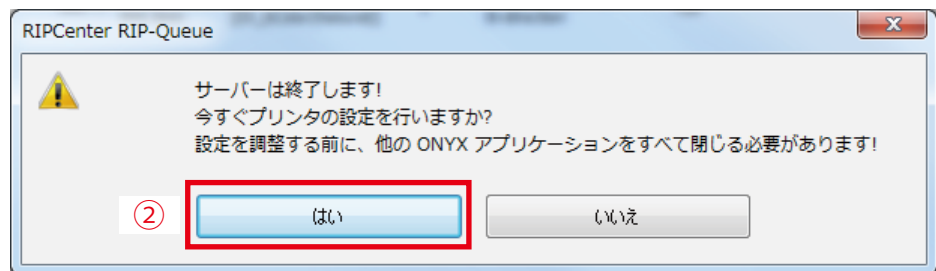
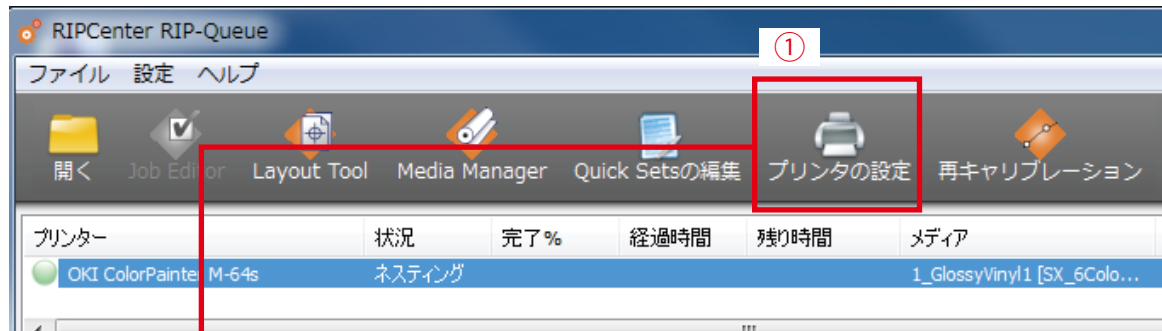


またクイックセットと同名の HotFolder が作成され、ここに直接 PDF ファイルや EPS ファイルを投げ込むことでも、クイックセットの設定を適用させて RIP キューにジョブを登録できます。

パス名: C:¥Onyx19¥Input¥ プリンター名 ¥ クイックセット名

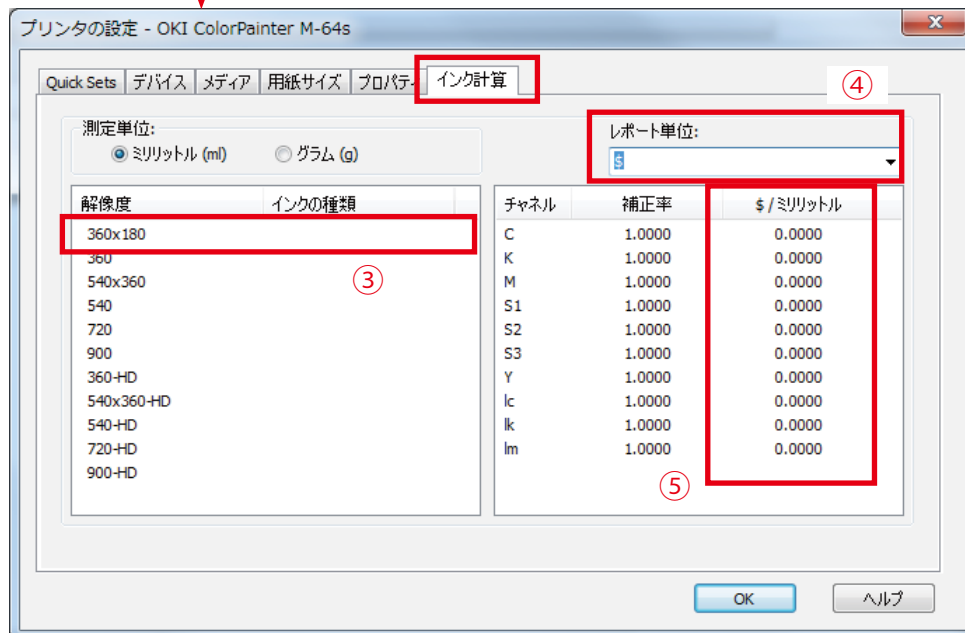
◆ インクの使用量とコストが知りたい

※ Job Editor でジョブを開いている場合は、一旦 Job Editor を閉じてください。



事前準備として①～⑤を行います。

- ① プリンターエリア内の「プリンタの設定」を選びます。
- ② 上のような警告が出るので、「はい」をクリックします。



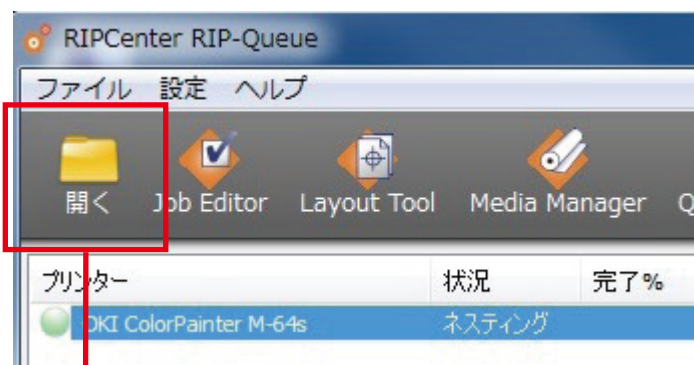
「インク計算」タブを選択します。

- ③ 解像度 (印刷モード) を選びます。
- ④ レポート単位には「¥」を選択します。
- ⑤ 「¥/ミリリットル」にインクの cc 単価を入力してください。

※ プリンターにセットされていないインクカートリッジ色 (例えば S1,S2,S3) などの色が表示されますが、0 のままで構いません。

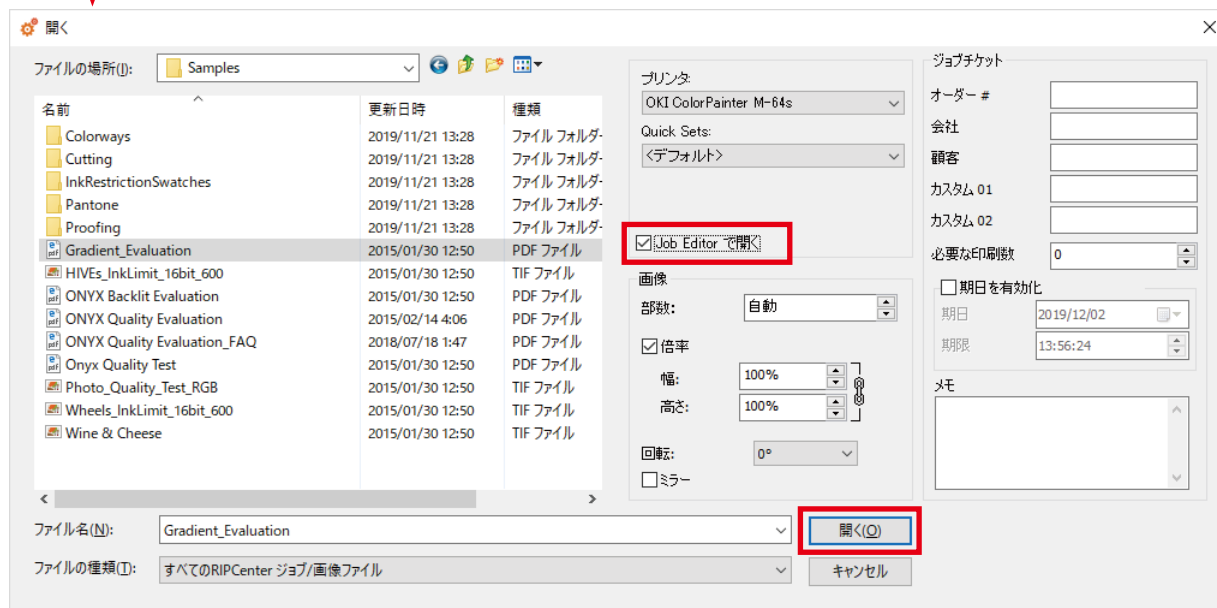
※ 設定は、解像度と濃度 (HD は、高濃度の意味です) の組み合わせ毎に必要です。全ての印刷モードを使用する場合、「解像度」欄の全てについて設定をおこなってください。

設定が終了したら、「OK」をクリックします。

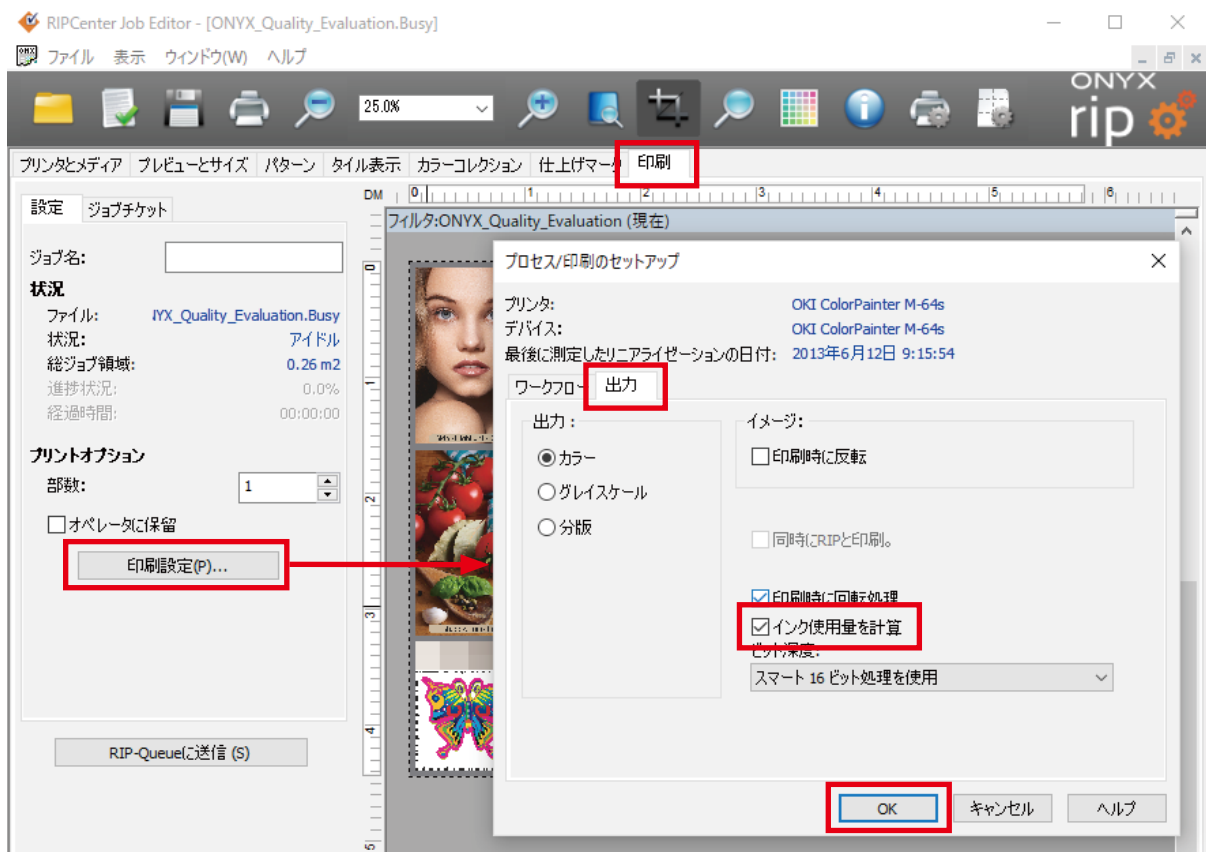


ここからは、個々のジョブでインク使用量を計算させるための設定をおこないます。

- ⑥ RIP キューからデータを開きます。
(Job Editorで開いてください)



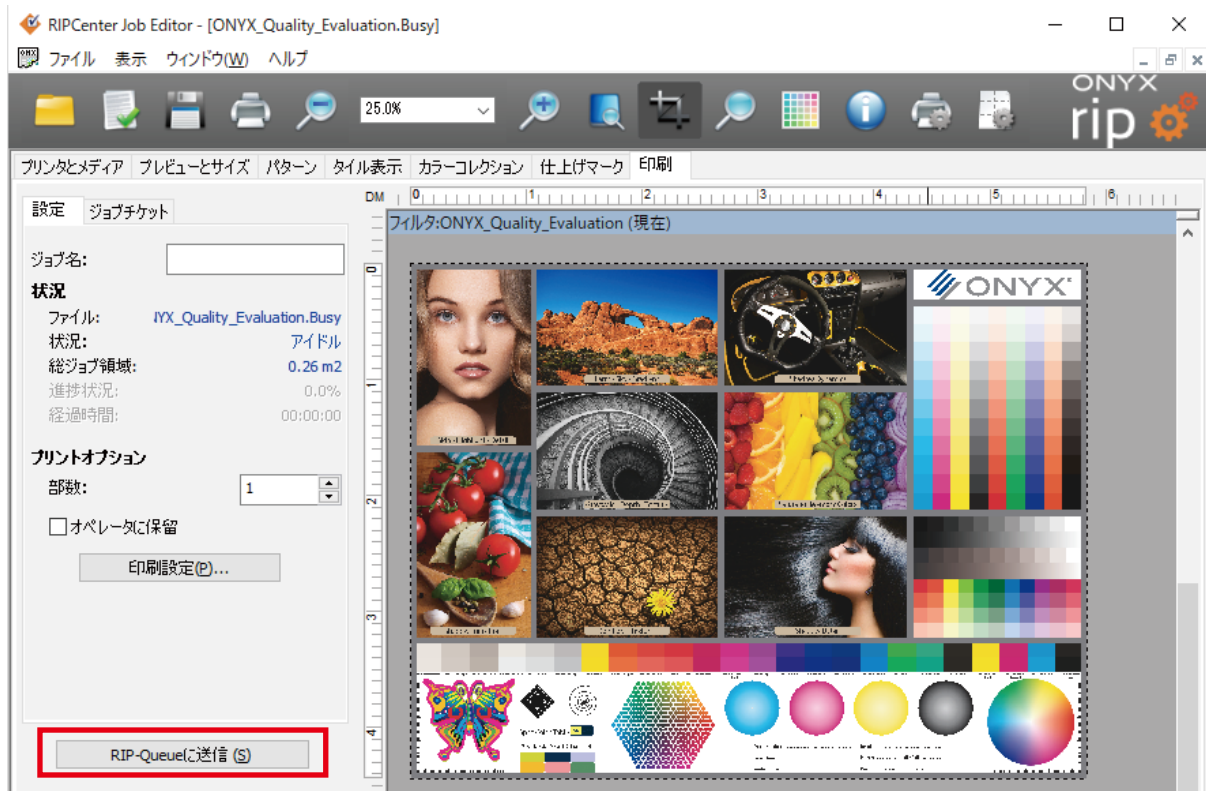
「Job Editor で開く」にチェックを入れ、「開く」をクリックします。



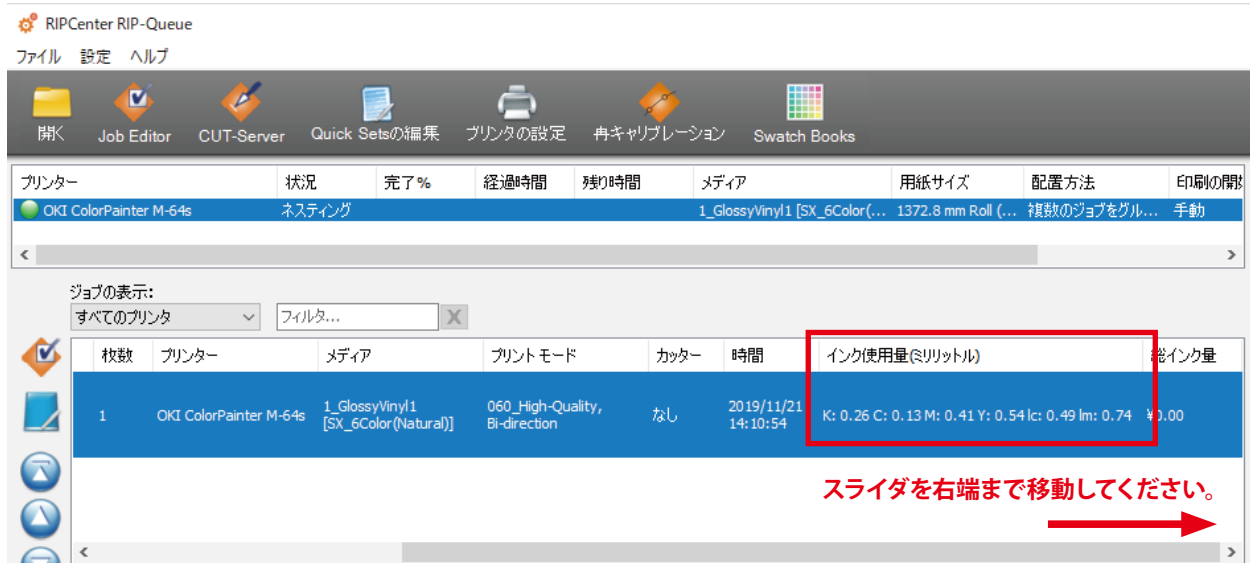
- ⑦ 「印刷」タブを選択して、「印刷設定」ボタンをクリックします。
「出力」タブを選択して、「インク使用量を計算」にチェックを入れます。

設定が終了したら、「OK」をクリックして抜けます。

※常にインク量を計算させたい場合は、クイックセットの詳細オプション内にある「インク使用量を計算」をONにしておく便利です。
詳細は、P.61「クイックセットの作り方」をご覧ください。



- ⑧ 「RIP-Queue に送信」をクリックします。
(インクコストは RIP 処理後に表示されます。)

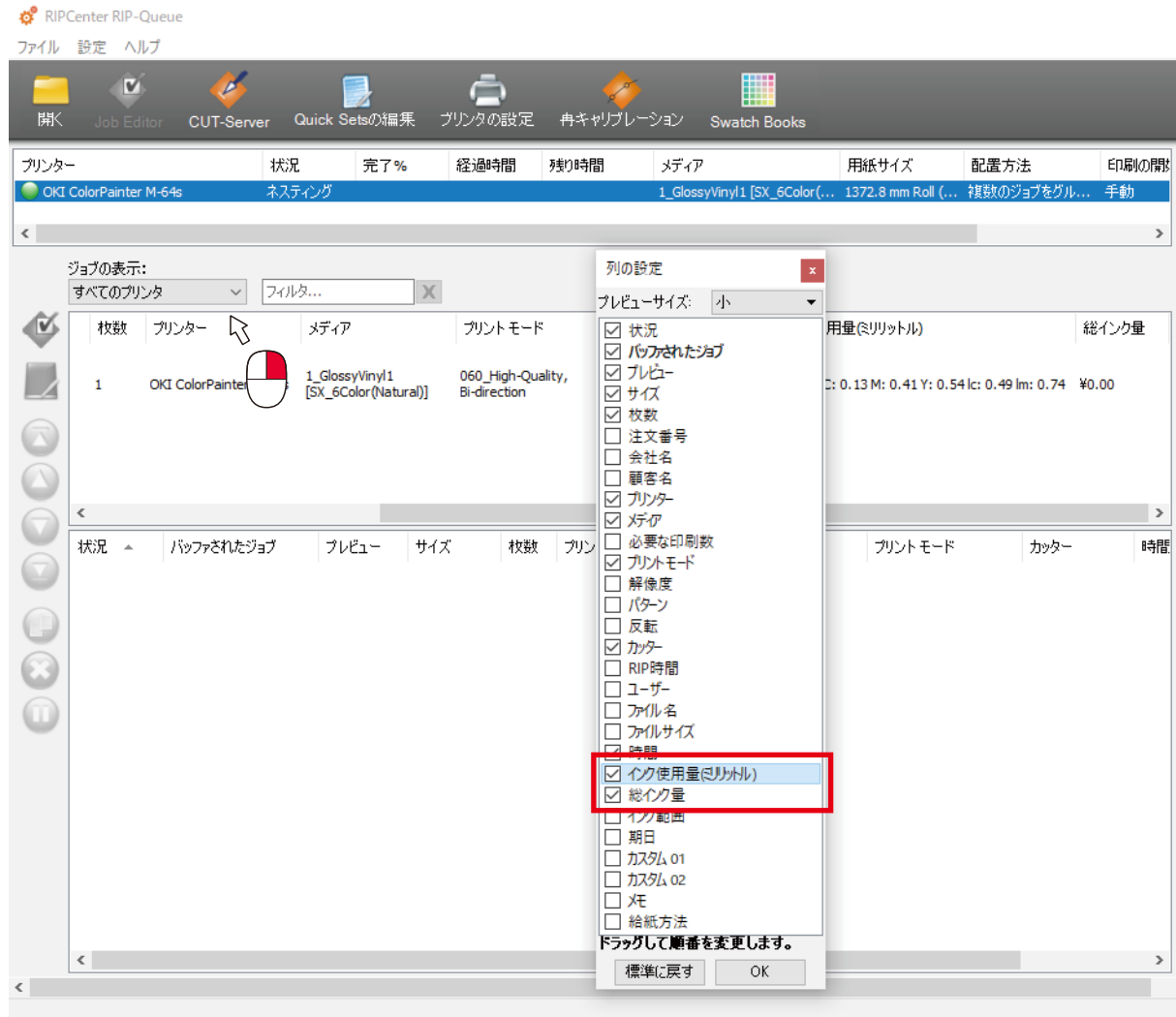


- ⑨ 印刷準備完了エリア内のジョブ情報の最後尾に、インク使用量やコストが表示されます。

【注意】

計算されるインク使用量は、印刷に使用される分だけです。
 カラーストライプやオートクリーニングによるインク消費量は含みません。
 また印刷時に吐出するインクの量も、環境温度によりわずかですが変化します。
 したがって表示される値は、おおよその目安としてお使いください。

※スライダを右端に移動しても、インク使用量計算結果が表示されない場合は以下の作業を行ってください。

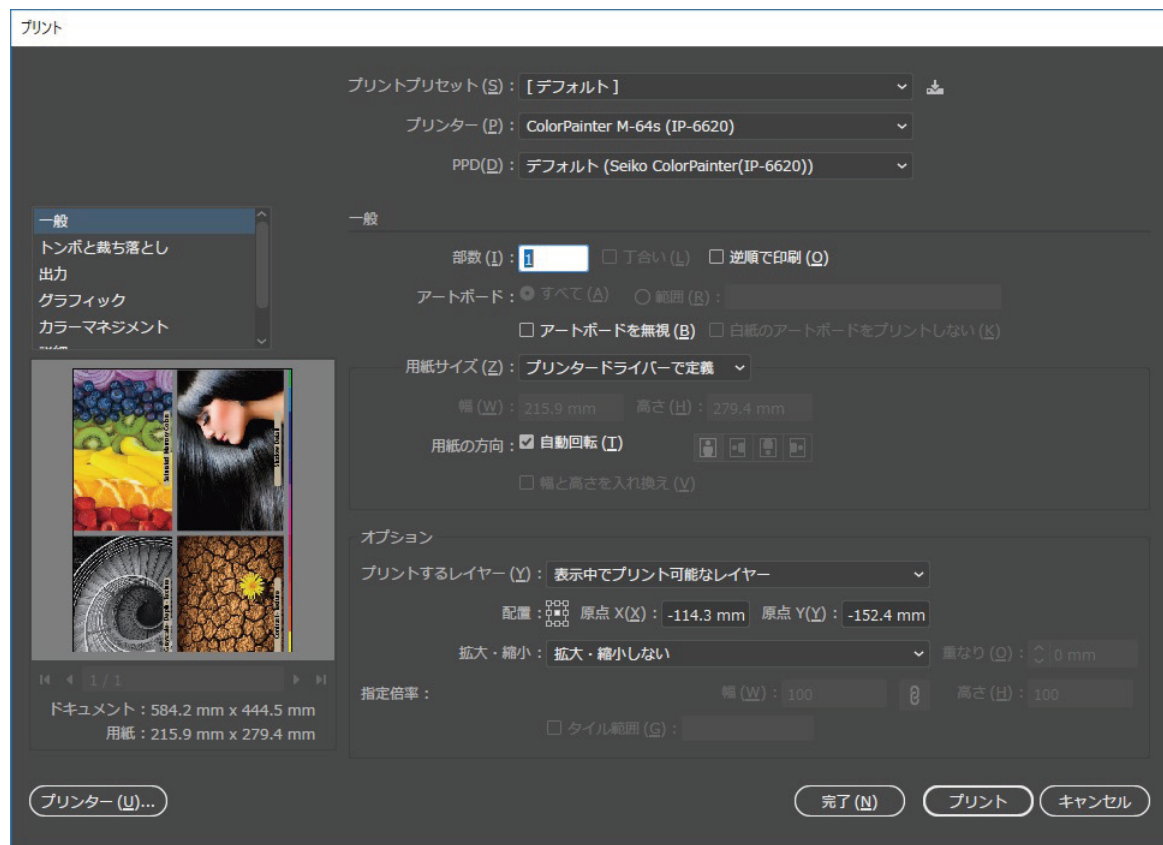
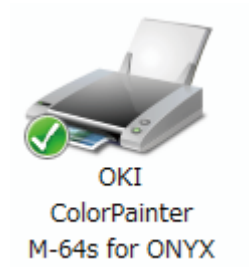


ジョブ情報表示部で右クリックし、**インク使用量 (ミリリットル)** と**総インク量**に入れます。

また、他のチェックを変更することで、表示される情報を選択することができます。

◆ アプリケーションから印刷したい

Windows コントロールパネルの「プリンターと FAX」または「デバイスとプリンター」の中に、以下のプリンタードライバーがあります。



アプリケーションの印刷メニューからプリンターを選択し、必要な設定を行ってからプリントボタンをクリックします。

◆ 新しいメディアプロファイルを使いたい

弊社ウェブサイト、または ONYX 社のダウンロードサイトにて、ColorPainter のメディアプロファイルを多数ご用意しております。どなたでも無償でご利用できますので、ぜひ活用ください。

入手方法①

沖データウェブサイトよりダウンロードする方法（日本国内のみ）

アドレス <https://www.oki.com/jp/printing/> または「沖データ」で検索。

「製品情報」→「大判インクジェットプリンター」→お使いのプリンターの「詳しくはこちら >」→「プロファイルはこちら >」にお進みください。



The screenshot shows a web browser window with the address bar containing <https://www.oki.com/jp/printing/support/graphics-profile>. The page content includes a search bar, a link to '詳細はこちらをご覧ください。', a section titled '標準プロファイル' (Standard Profile) with a warning about the license agreement, a download link for 'ColorPainter M-64s 標準プロファイル' (372.31 MB), and a section titled 'アイケーシー株式会社' (IKESHI Co., Ltd.) with another warning and a download link for 'メディア型番 (種類) UY-011 (光沢塩ビ)' (17.44 MB).

「使用許諾に同意してダウンロード」をクリックすると、ZIP 圧縮されたファイルがダウンロードされます。

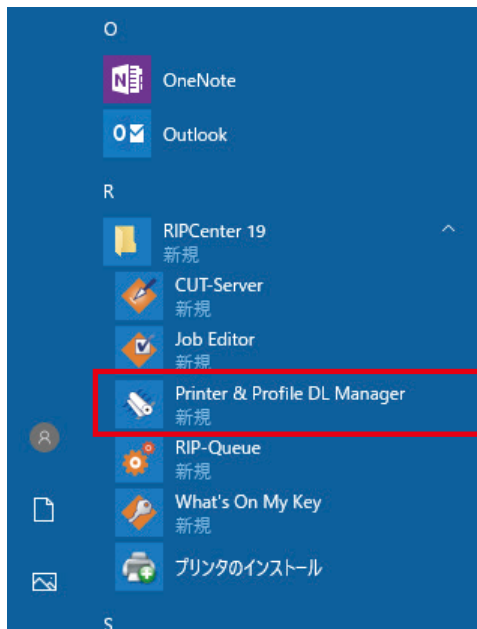
圧縮を解凍し、OML ファイルをわかりやすい場所にコピーしておきます。

OML ファイルのインポート方法は、P.72「プロファイルのインポート方法」を参照してください。

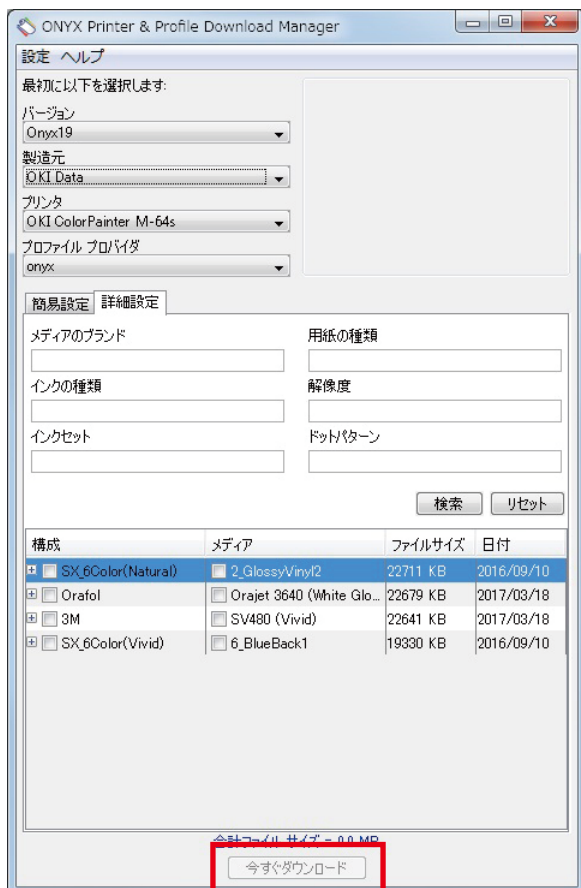
入手方法②

DL Manager を用いて ONYX 社のプロフィールをダウンロードする方法

プロフィールのダウンロードには、Printer&Profile DL Manager を使用します。
Printer&Profile DL Manager は、RIP Center と一緒にインストールされています。



Windows の「スタート」→「すべてのプログラム」→「RIPCenter 19」の「Printer & Profile DL Manager」をクリックして起動します。



正常に接続されると、左のような画面が表示されます。

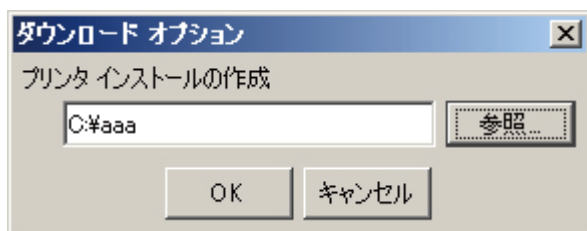
- バージョン：Onyx19
- 製造元（プリンターメーカー）：OKI Data
- プリンター：使用するプリンター
- プロファイルプロバイダ

インストールするメディアプロフィールを選択します。

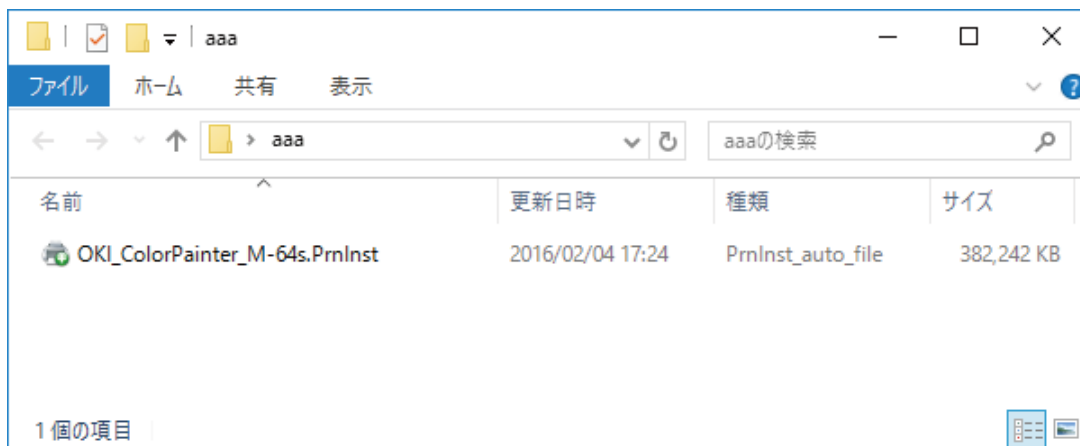
【注意】

必ず正しいバージョンを選択してください。異なるバージョンのファイルをインポートすると、プログラムが正常に動かなくなる場合があります。

チェックを入れたら「今すぐダウンロード」をクリックします。



ファイルの保存先フォルダを指定して、「OK」をクリックします。



ダウンロードが完了すると、PrnInst ファイルが作成されます。

PrnInst ファイルからのプロファイルのインポート方法は、[P.72「プロファイルのインポート方法」](#)を参照してください。

参考：

お使いのネットワーク環境によっては、プロキシの設定が必要な場合があります。

「設定」-「プロキシ設定 ...」を選択し、設定をしてください。

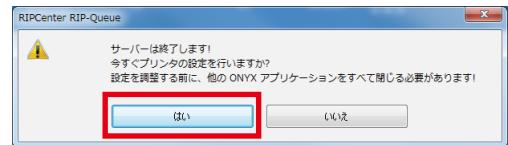
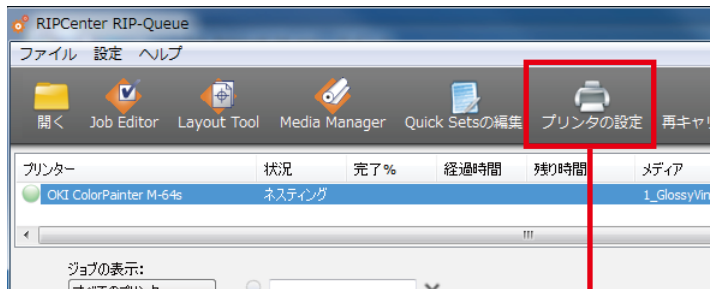
※HTTP プロキシのみに対応しています。

※プロキシの設定については、ネットワークの管理者に相談してください。

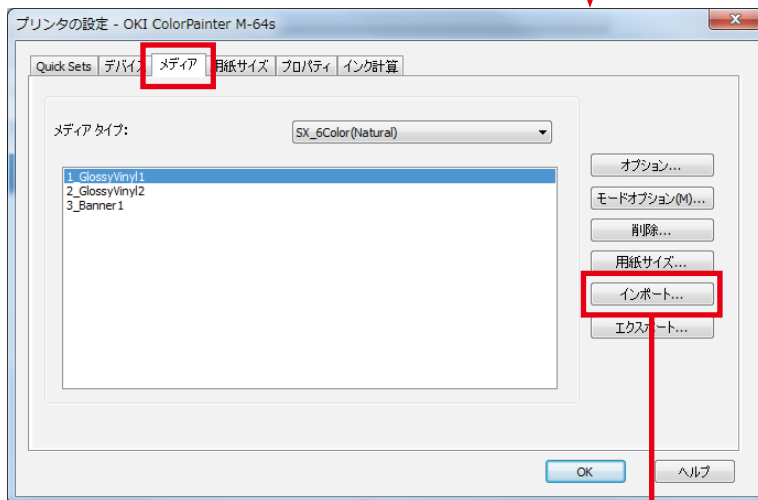
【参考：プロファイルのインポート方法】

メディアプロファイル（拡張子 OML ファイルまたは、PrnInst ファイル）のインポート方法を説明します。

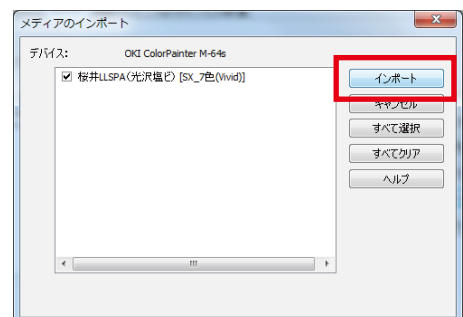
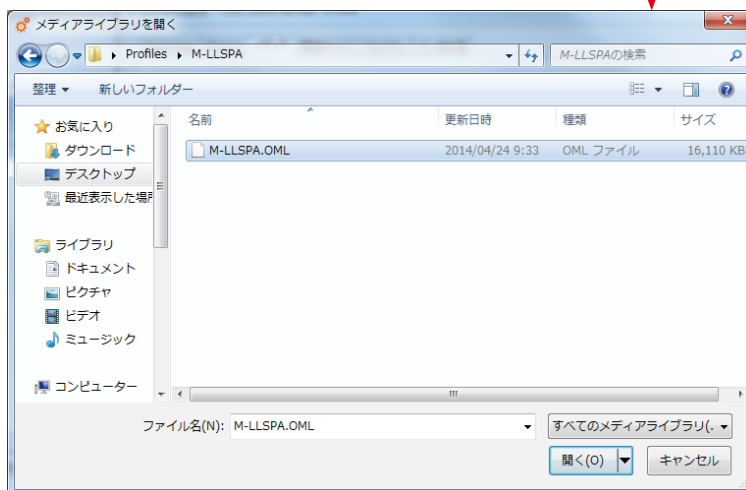
※ Job Editor でジョブを開いている場合は、一旦 Job Editor を閉じてください。



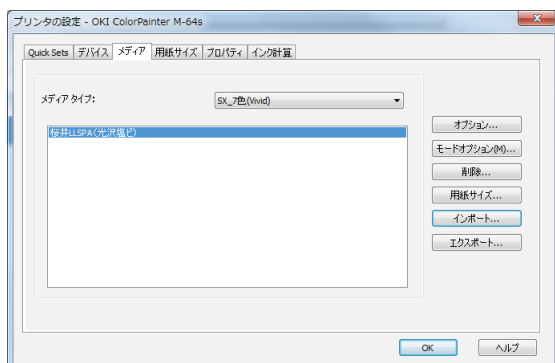
① RIP キューの「プリンタの設定」を選びます。上のような警告が出るので、「はい」をクリックします。



② メディアタブを選択し、「インポート」ボタンをクリックします。



③ ファイル（拡張子は .OML または、.PrnInst）を選択し、チェックマークを入れて「インポート」ボタンをクリックします。

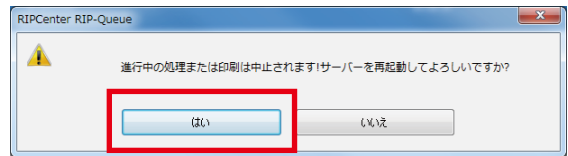
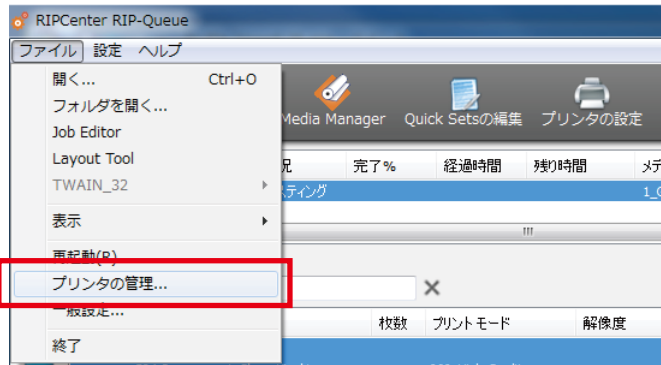


④ RIP キューのメディア欄に、インポートしたメディアが表示されたら終了です。

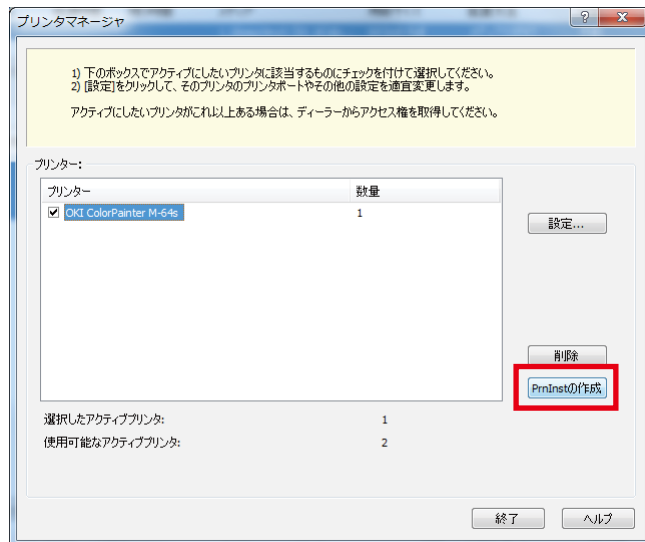
◆ RIP を再インストールしたい

何らかの理由で RIP の再インストールが必要になった場合は以下の手順でおこないます。

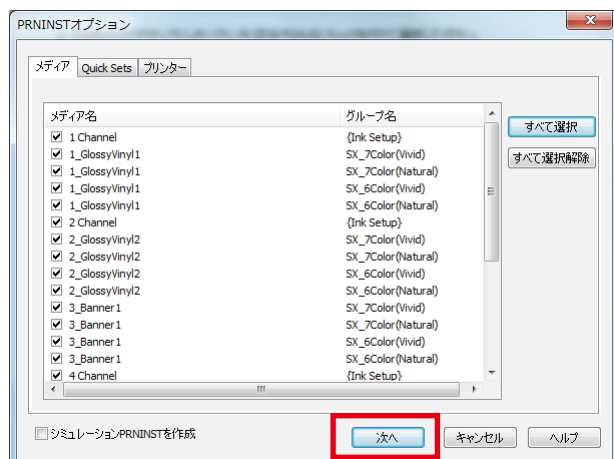
① 設定のバックアップ



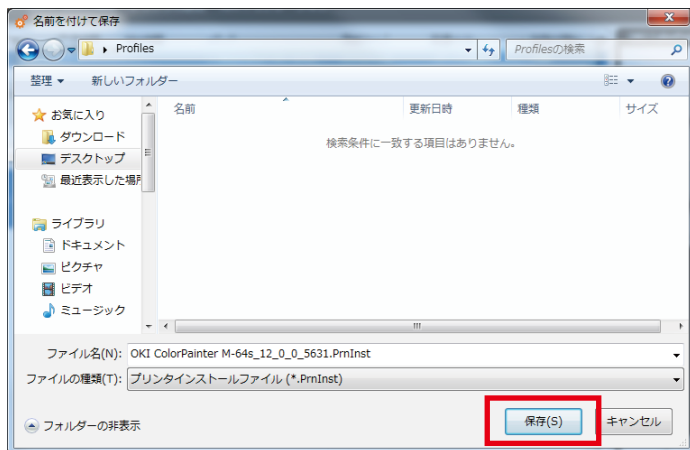
RIP キューのファイルメニューから「プリンタの管理」を選択します。右のような警告が出るので「はい」をクリックします。



プリンターを選択して「PrnInstの作成」ボタンをクリックします。



メディアプロファイルやクイックセットを、まとめて保存できます。必要なものをチェックして「次へ」をクリックします。



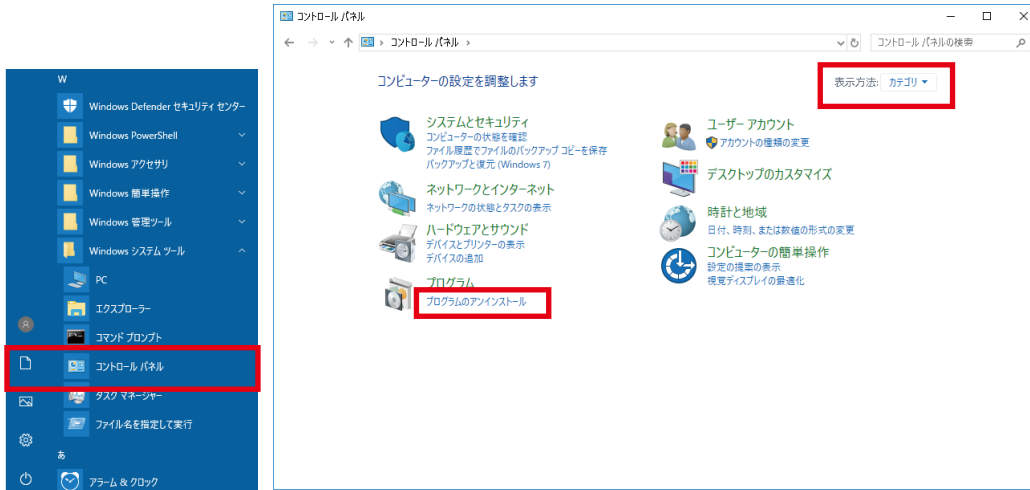
「PrnInst」という拡張子のファイルを保存します。

後程参照するので、わかりやすい場所を指定して「保存」をクリックします。

【参考】RIP キュー内のジョブをバックアップしたい場合

\Onyx19\Work 内の使用しているプリンターのフォルダを開き、フォルダ内のファイルを全て、別の場所に保存します。

② RIP のアンインストール



起動中の Onyx アプリケーションをすべてシャットダウンします。

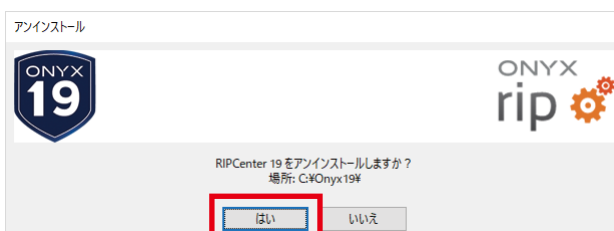
「スタートメニュー」→「コントロールパネル」を開きます。

「表示方法」が「カテゴリ」になっていることを確認し、「プログラムのアンインストール」をクリックします。

※ 表示方法がアイコンの場合は「プログラムと機能」をクリックします。



「RIPCenter 19」→「アンインストールと変更」を選択します。



アンインストールのプログラムが起動するので、「はい」をクリックしアンインストールを実行します。

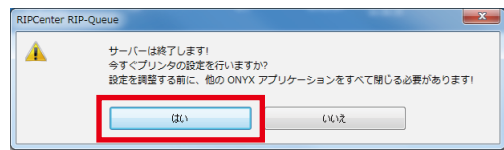
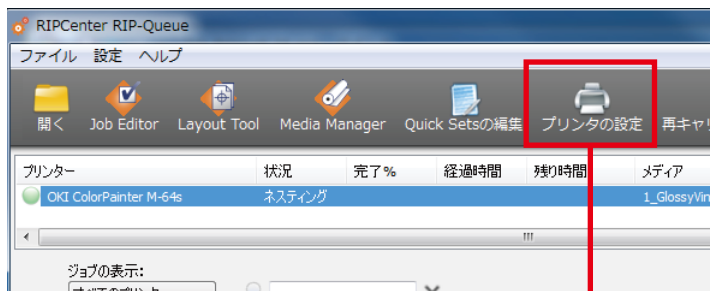
アンインストール完了後、\Onyx19 フォルダを削除します。

③ RIP のインストール

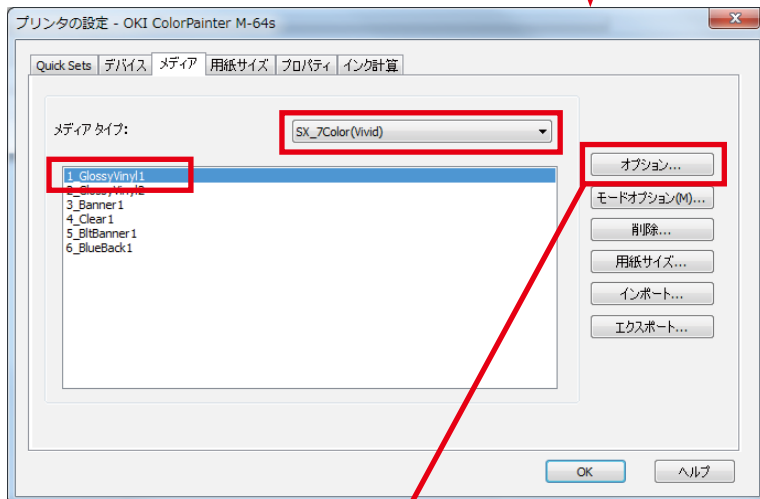
第 1 章のインストールの手順に従って RIP ソフトウェアをインストールしてください。

インストール完了後、全ての Onyx ソフトウェアを終了し、①でバックアップした PrnlInst ファイルをダブルクリックし、ドライバの最新化およびメディアの追加をおこなってください。

◆ 警告類の表示時間を変えたい

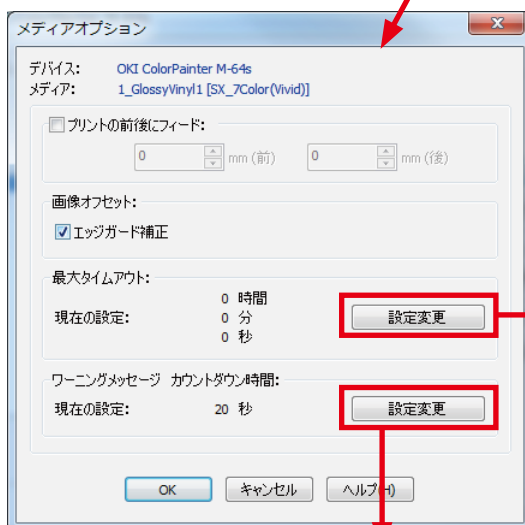


- ① RIP キューの「プリンタの設定」を選びます。上のような警告が出るので、「はい」をクリックします。

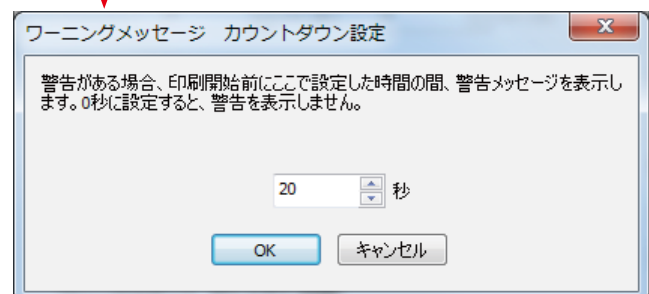
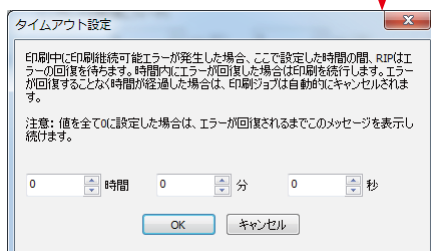


- ② メディアタブを選択し、設定したいメディアグループ、メディアを選択したのち、「オプション」ボタンをクリックします。

※「メディア」毎に設定が必要です。



- ③ 「設定変更」ボタンをクリックします。



- ④ 警告類の表示時間を設定できます。

(各々の設定内容については、設定ウィンドウの説明を参照してください。)

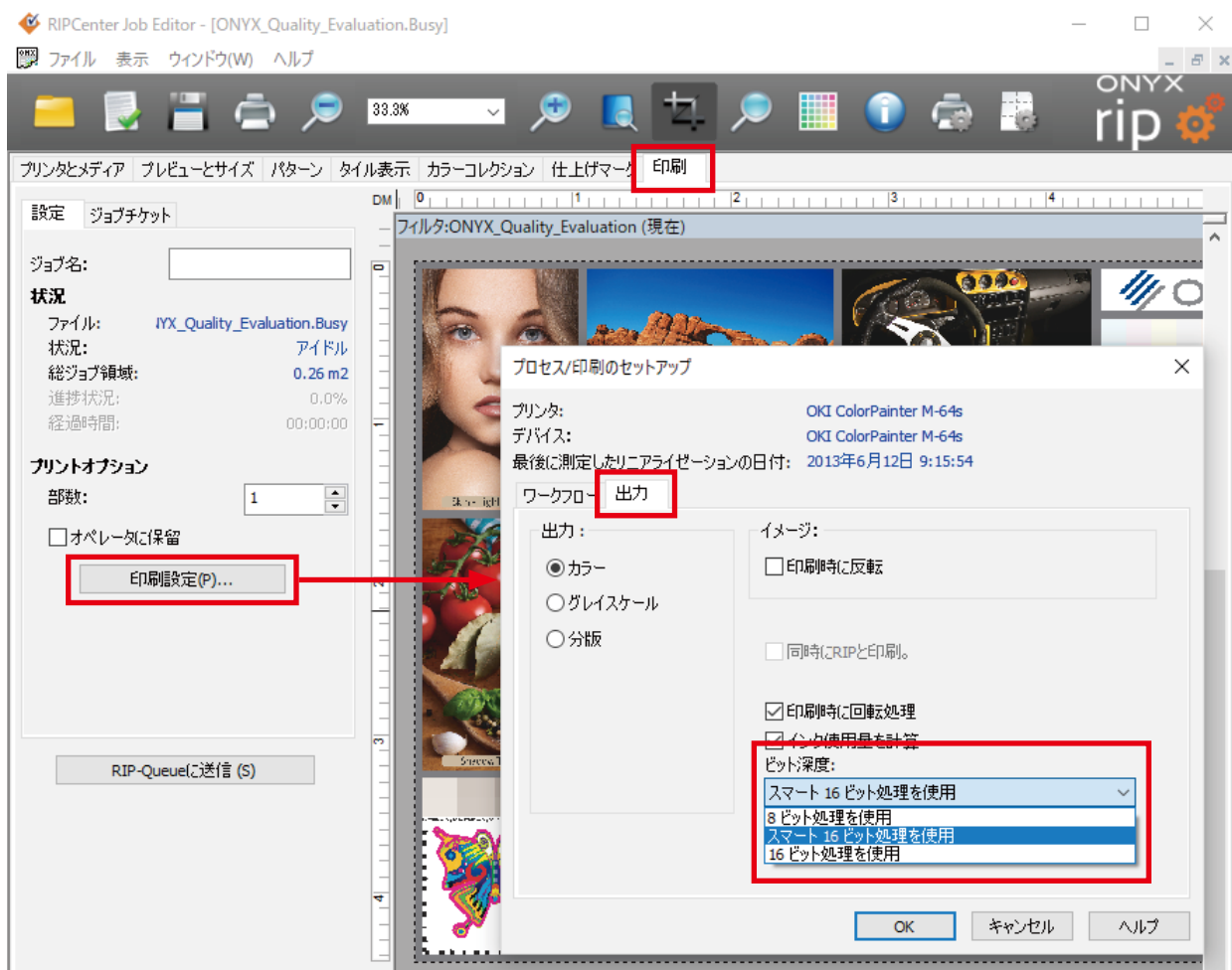
もっと速く

◆ RIP 時間を短縮したい

ビット深度を変更することによって、RIP 速度を向上させることができます。

| | |
|---------------------------|--|
| 8 ビット処理 | ジョブを 8 ビットで処理します。処理は高速ですが、グラデーションのハイライト部分が滑らかに表現されない場合があります。 |
| スマート 16 ビット処理 (デフォルト値) | グラデーションを含むジョブのみ 16 ビットで処理します。 その他のジョブは 8 ビットで処理します。 |
| 16 ビット処理 | ジョブを 16 ビットで処理します。 |

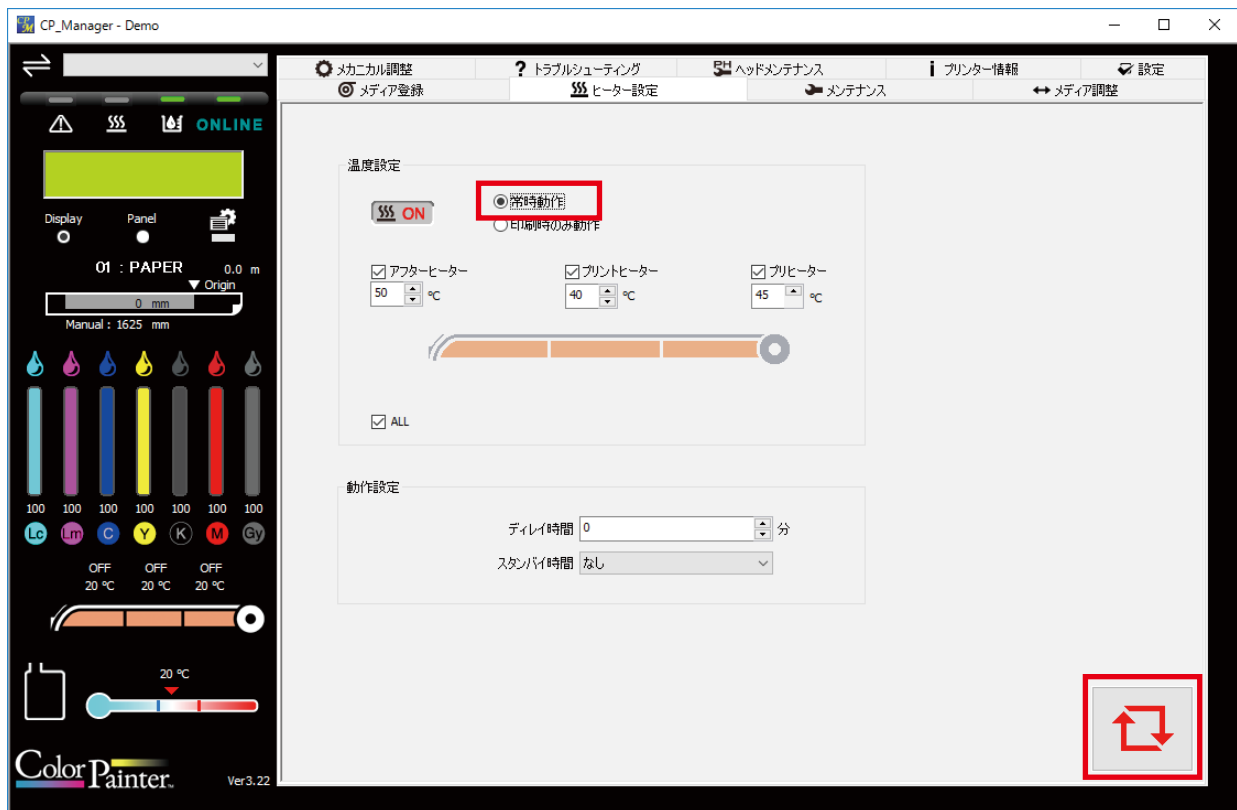
【変更方法】



- ① Job Editor の「印刷」タブを開き「印刷設定」ボタンをクリックします。
- ② 「プロセス / 印刷のセットアップ」ダイアログが表示されるので「出力」タブを選択します。
- ③ 右下の「ビット深度」からレンダリング処理のビット数を選択します。

※ 常に同じビット処理で RIP させたい場合は、クイックセットの詳細オプションで設定しておくとう便利です。

◆ 印刷開始前にヒーターを温めておきたい (CP_Manager での設定)



プリンターをオンライン状態にしてから、パソコンで CP_Manager を起動します。

「ヒーター設定」タブを選択し、各ヒーターの温度を設定します。

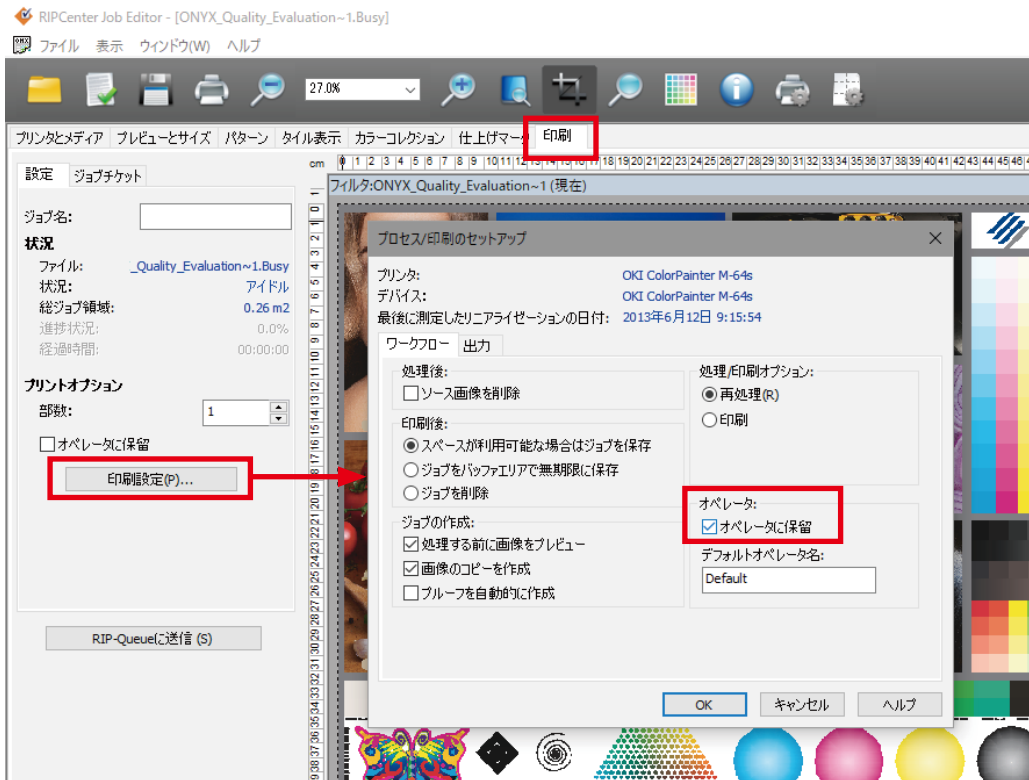
「常時動作」を選択し、右下の「更新ボタン」をクリックします。

プリンターはただちに昇温を開始し、設定温度に到達後、その温度を保持し続けます。

※ プリンターの本体パネルでもヒーター温度の操作は可能です。

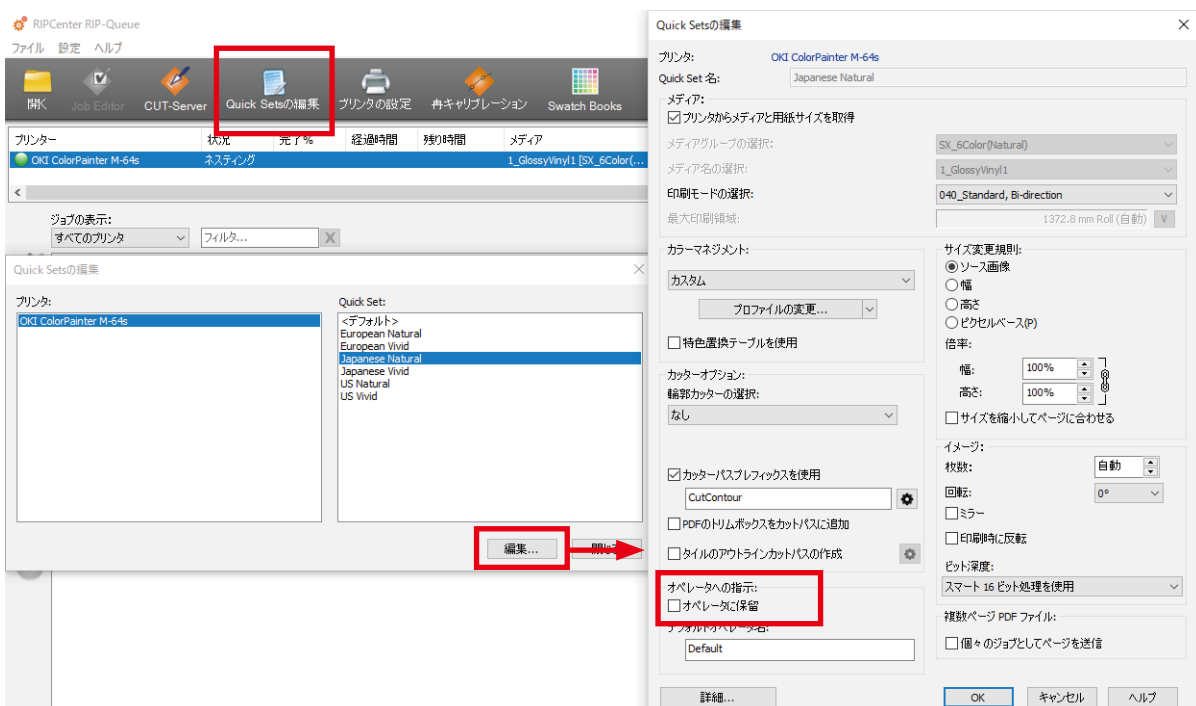
◆ RIP キューに送信するジョブを、一旦保留状態にしておきたい

●ジョブごとの設定

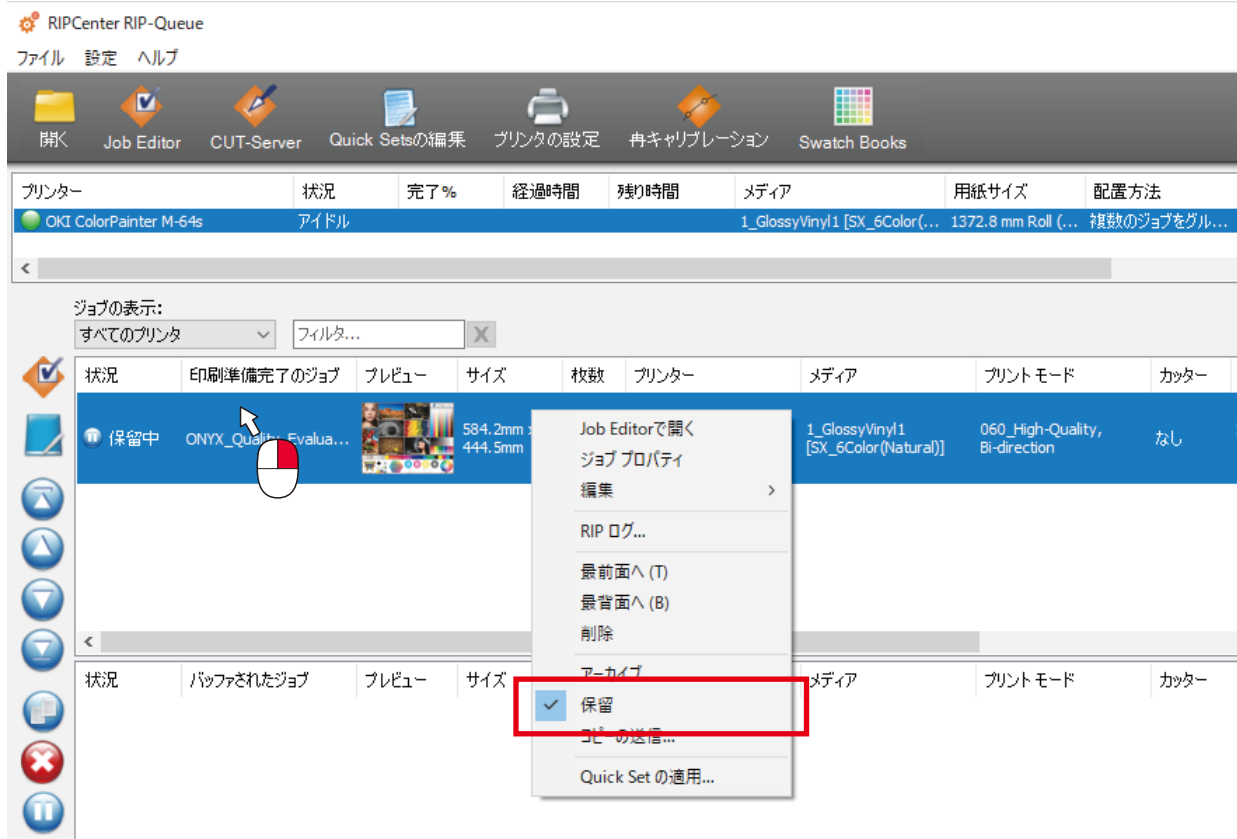


Job Editor でジョブを開き、印刷タブを選択します。「印刷設定」ボタンをクリックし「ワークフロー」のタブで「オペレーターに保留」をチェックします。「OK」で設定画面を抜けます。

●全てのジョブで、登録時に常に保留状態にしておきたい場合



RIP キューの「クイックセットの編集」から編集ダイアログを開きます。「オペレータへの指示」で「オペレーターに保留」をチェックしておきます。

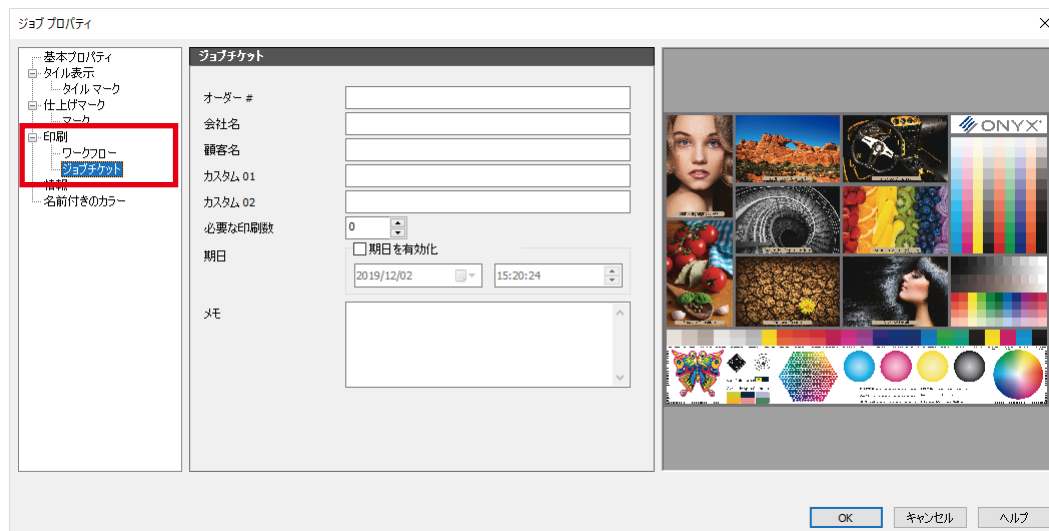


印刷準備完了エリア内のジョブの印刷処理はいったん保留されます。ジョブを右クリックして「保留」のチェックを外すと印刷が開始されます。

◆ ジョブに特有の情報を登録したい



① ジョブを右クリックして「ジョブプロパティ」を開きます。



② 印刷の中のジョブチケットを選択します。

③ ジョブに固有の情報を付与します。

固有情報は、ジョブ番号、会社名、顧客名、カスタム 01、カスタム 02、メモがあります。

この情報は次項のジョブ検索機能で使用できます。

◆ ジョブを検索したい

ProductionHouse RIP-Queue

File Setup Help

Open Job Editor Layout Tool CUT-Server Media Manager Edit Quick Sets

| Printer | Status | % Complete | Elapsed Time | Remaining... | M... |
|------------------------|---------------|------------|--------------|--------------|------|
| OK ColorPainter M-64s | Idle | | | | 1... |
| OK ColorPainter H-104s | Uninitialized | | | | A... |
| OK ColorPainter H2-74s | Uninitialized | | | | 1... |

Show Jobs For: All Printers

| Jobs Ready to Print | Status | Printer | Size | Media |
|---------------------------|---------|---------|-------------|---------------|
| ONVX_Quality_Evaluation~1 | On Hold | Colo... | 0.5842mx... | 1_GlossyVi... |
| ONVX_Quality_Evaluation | Busy | Colo... | 26.7547c... | 1_GlossyVi... |

| Buffered Jobs | Status | Job Num (... | Company ... | Customer ... | Printer |
|---------------|---------|--------------|-------------|--------------|----------|
| 1 | Archive | | | | Seiko Cr |
| 2 | Archive | | | | Seiko Cr |
| 3 | Archive | | | | Seiko Cr |

ProductionHouse RIP-Queue

File Setup Help

Open Job Editor Layout Tool CUT-Server Media Manager Edit Quick Sets

| Printer | Status | % Complete | Elapsed Time | Remaining... | M |
|------------------------|---------------|------------|--------------|--------------|---|
| OK ColorPainter M-64s | Idle | | | | 1 |
| OK ColorPainter H-104s | Uninitialized | | | | A |
| OK ColorPainter H2-74s | Uninitialized | | | | 1 |

Show Jobs For: All Printers

ONV

| Jobs Ready to Print | Status | Printer | Size | Media |
|---------------------------|---------|---------|-------------|-------------|
| ONVX_Quality_Evaluation~1 | On Hold | Colo... | 0.5842mx... | 1_Glossy... |
| ONVX_Quality_Evaluation | Busy | Colo... | 26.7547c... | 1_Glossy... |

検索条件の入力

- ・ファイル名
- ・ジョブチケットの内容
- ・プリンター名

など

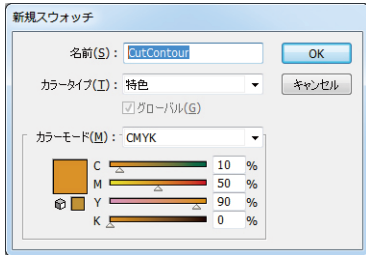
| Buffered Jobs | Status | Job Num (... | Company ... | Customer ... | Prin |
|---------------|--------|--------------|-------------|--------------|------|
|---------------|--------|--------------|-------------|--------------|------|

検索文字を入力することで、検索条件に合ったジョブのみを表示させることが可能です。

輪郭カット

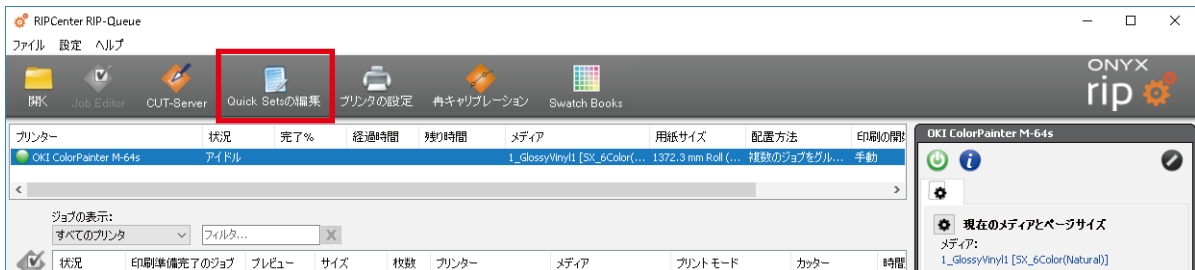
◆ カット用ファイルの作成

Adobe Illustratorなどで eps や pdf 形式のカット用ファイルを作成します。
その際、カットパスに使用するカラータイプは特色を選び、固有の名前を付けます。
この名前をクイックセットのカッターパスプレフィックスの名前に設定します。



◆ クイックセットの設定

RIP-Queue を起動し、Quick Sets の編集を開きます。

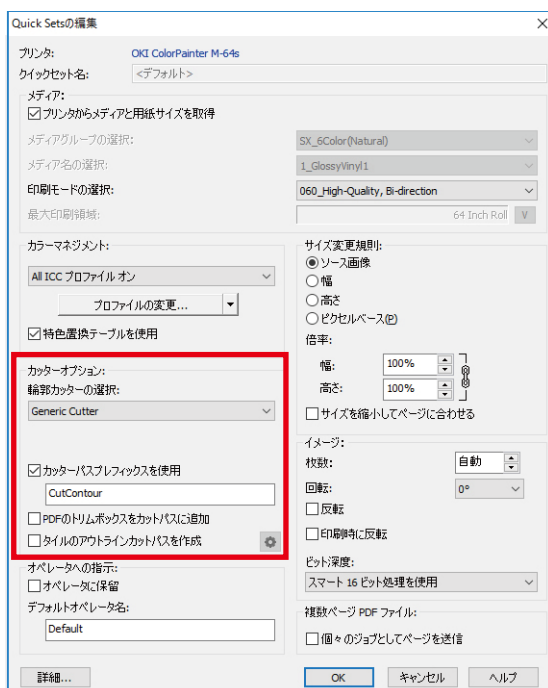


カッターオプションの輪郭カッターの選択の中から所望のカッターを選択し、カッターパスプレフィックスを使用にチェックを入れます。

名前はカットパスの作成に使用した特色名に合わせます。

※この設定を行うことで、プリンターへの印刷と同時に CUT-Server へカットデータが送られるようになります。

必要に応じてその他のオプションを選びます。

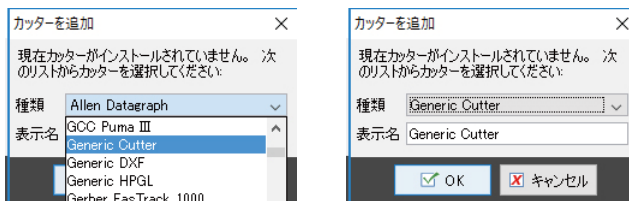


◆ CUT サーバーの設定

CUT-Serverを起動すると、カッターを追加するためのウィンドウが開きます。



プルダウンメニューの中から所望のカッターを選びます。

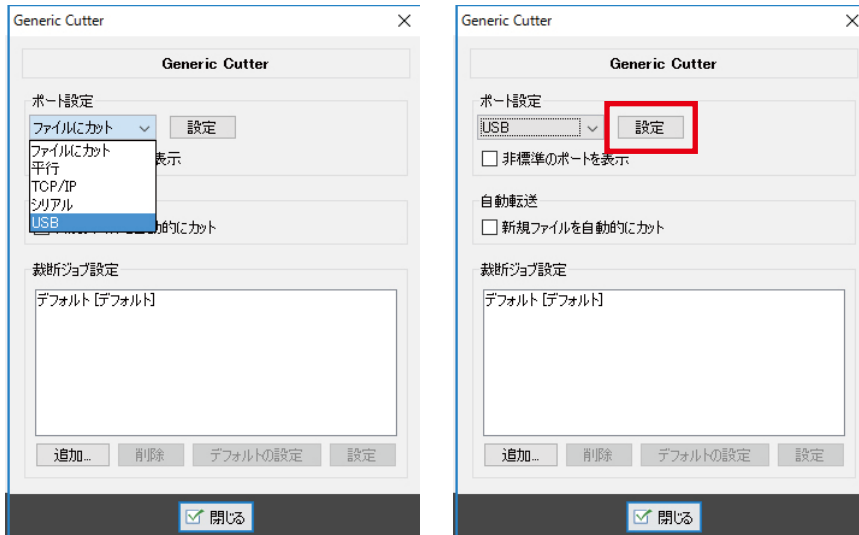


ウィンドウ左側の枠内に選択したカッター名が表示されます。

カッター名の右側にある設定アイコンをクリックします。



ポート設定のプルダウンメニューの中から所望のポートを選択し、設定をクリックします。



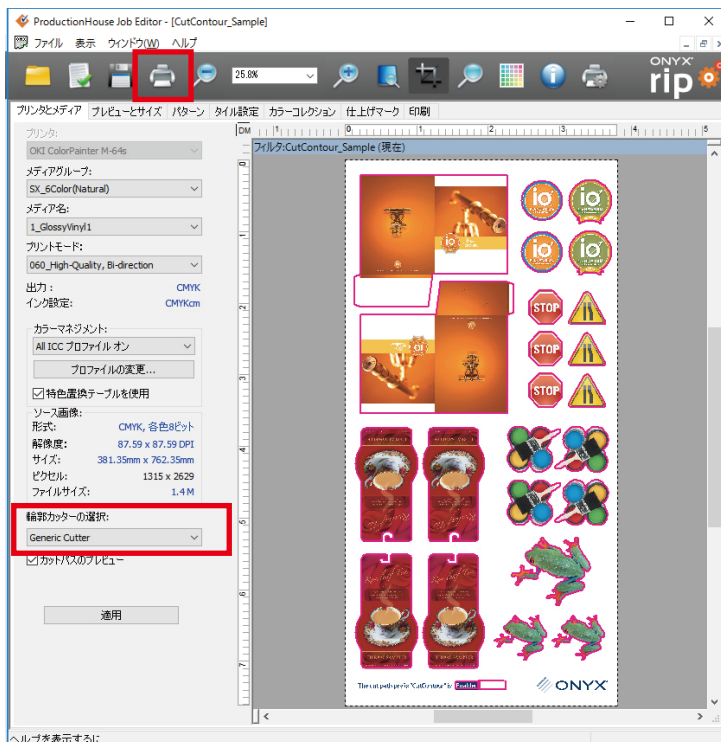
ポート構成を設定します。



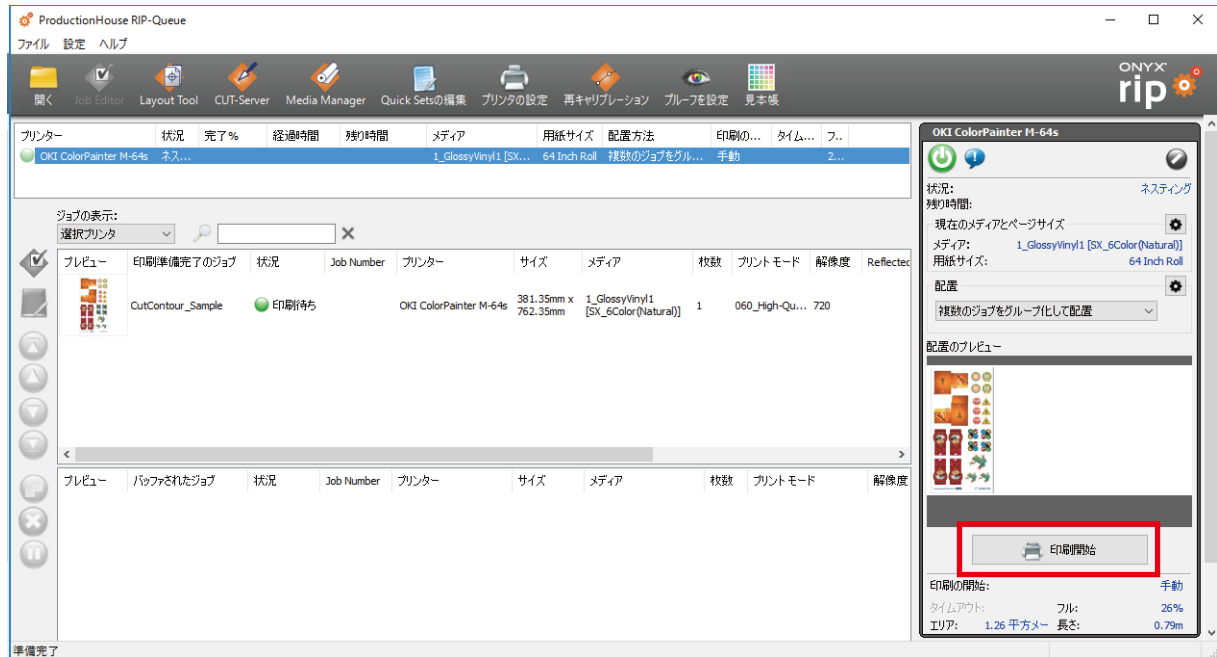
◆ 印刷とカット

カット用ファイルをジョブエディターで開きます。

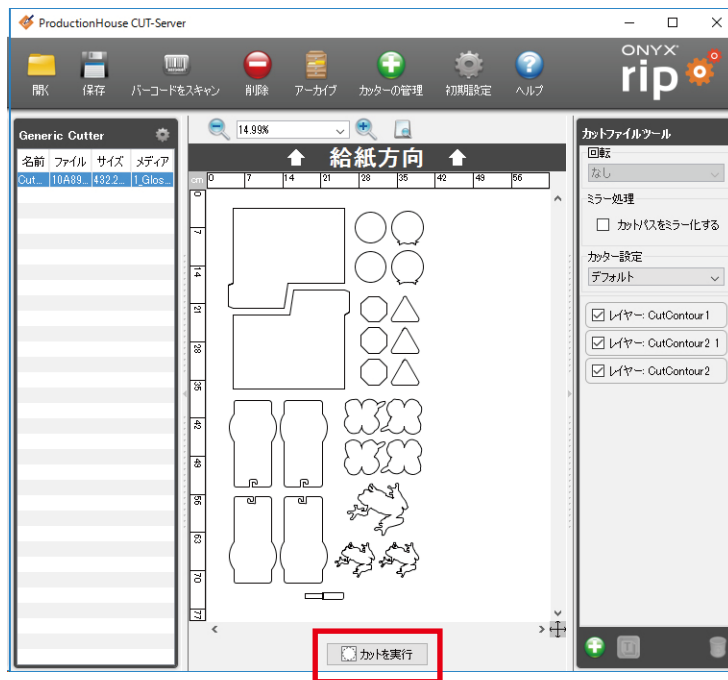
所望のカッターが選択されていることを確認し、送信します。



RIP-Queueの印刷開始ボタンをクリックします。



プリンターへの印刷と同時に、CUT-Serverへカットデータが送信されます。
カッター本体の必要な設定を行い、カットを実行をクリックします。



第4章 困ったときに (FAQ)

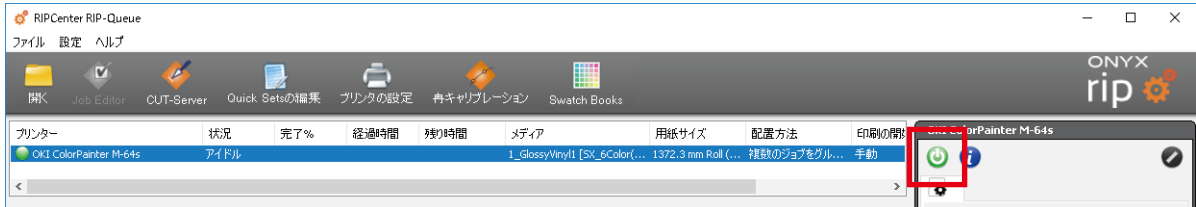
本章ではよくあるトラブルの対象法について説明します。

動作のトラブル

◆ データ送信ができない①

プリンターがオフラインのまま印刷ができない。

【対策】



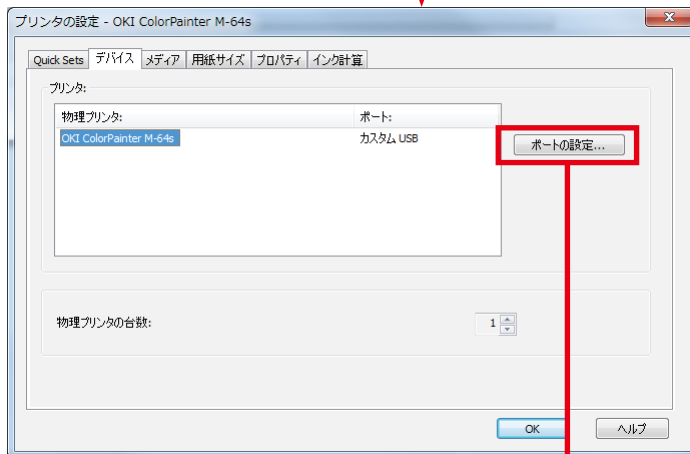
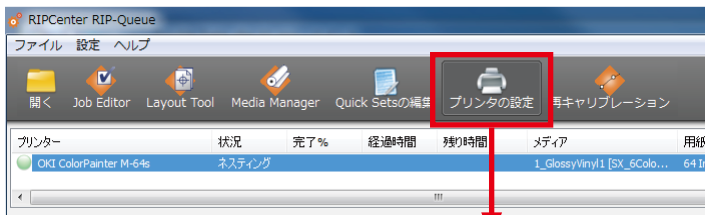
RIP キューの右上にあるランプのアイコンが緑であれば、プリンターは正常に接続されオンライン状態です。ランプのアイコンが赤ければオフライン状態です。ランプのアイコンをクリックしてオンラインにしてください。

● もしオンラインにならないときは・・・

プリンターの接続を確認します。

- ① USB ケーブルが正しく接続されていることを確認します。
- ② プリンターのパネル表示が「プリントデキマス」になっていることを確認します。
- ③ 「USB デバイスのスキャン」をおこないます。

【やり方】

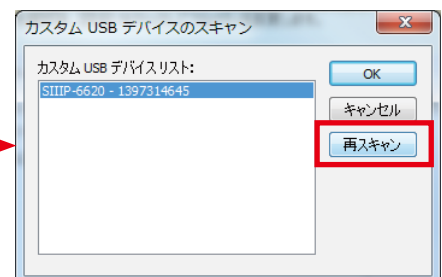
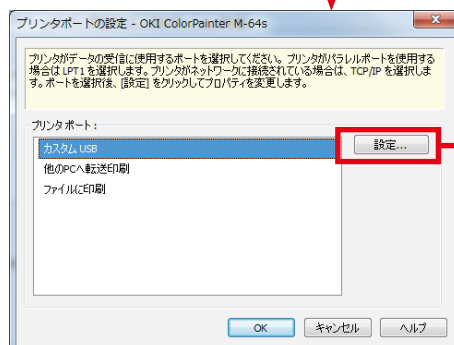


「プリンタの設定」メニューからデバイスタブを開き、プリンターを選択して「ポートの設定」ボタンをクリックします。

※「サーバーは終了します」のメッセージが表示されたら、「はい」を選択します。

「カスタム USB」を選択して、「設定」ボタンをクリックします。

「再スキャン」を実行し、デバイスが表示されたら「OK」をクリックしてください。

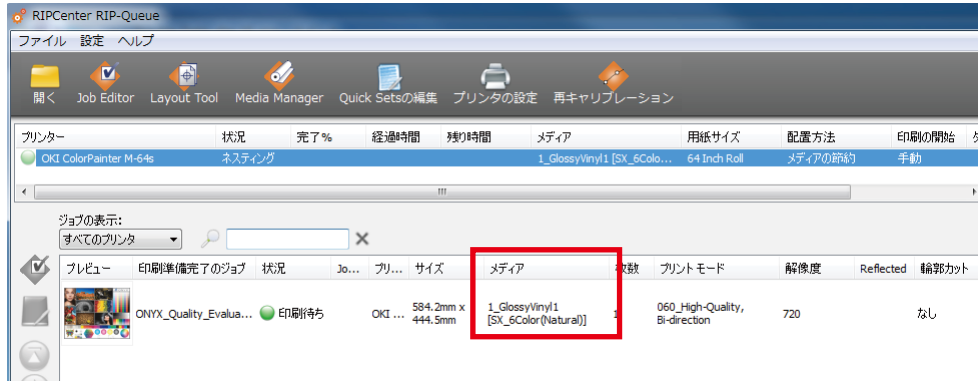


◆ データ送信ができない②

プリンターはオンライン状態だが、「メディア待ち：メディアミスマッチ」と表示され印刷できない。

【対策】

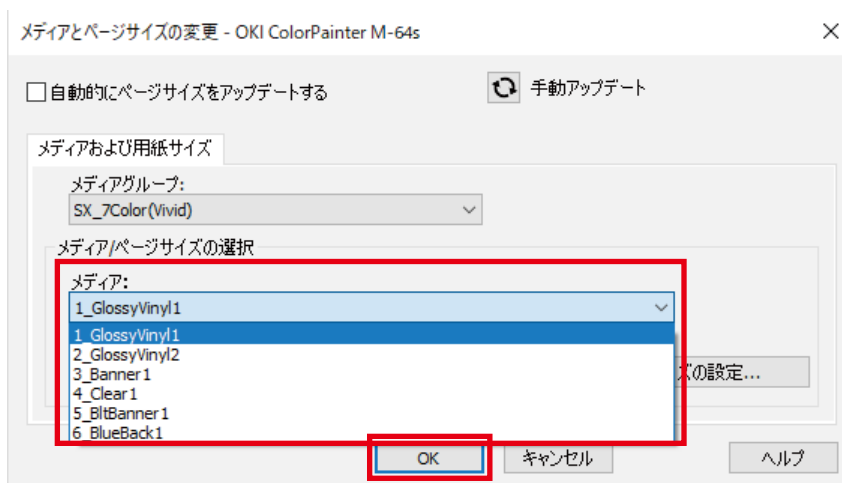
ジョブで選択しているメディア種類と、RIP キューでプリンターに設定しているメディア種類とを、合わせてください。



RIP キューで、ジョブで選択しているメディア種類を確認します。



①プリンターをクリックしてから、②「現在のメディアとページサイズ」の設定アイコンをクリックします。



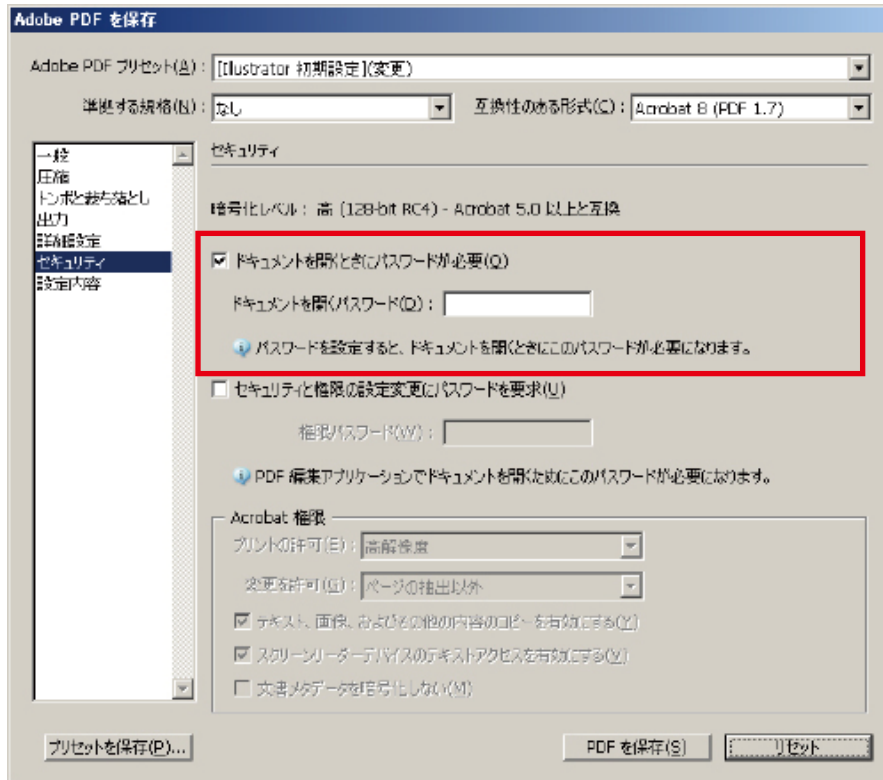
ジョブで選択されているメディアと同じものを選択し、「OK」ボタンで抜けます。

◆ RIP エラーが起きて印刷できない

【原因①：セキュリティロック】

PDF ファイルには、パスワードを付けるなどのセキュリティロック機能があります。

そのセキュリティロックのかかった状態でファイルをそのまま RIP しようとすると、エラーが発生します。



PDF には、ドキュメントを開くためのパスワードを設定することができます。

(EPS には、このオプションはありません。)

【対策】

ファイルを Illustrator で開き、セキュリティロックを解除して保存しなおします。

保存したものを再度 RIP します。

【原因②：スウォッチが原因】

古いバージョンの Illustrator (Ver.7 以前) で作成されたスウォッチパターンに透明効果を用いると、RIP 処理ができない場合があります。

【対策】

原因となっているスウォッチを、Illustrator 上でラスタライズしてから保存しなおします。

保存しなおしたデータを再度 RIP します。

◆ RIPすると自動的に印刷されてしまう

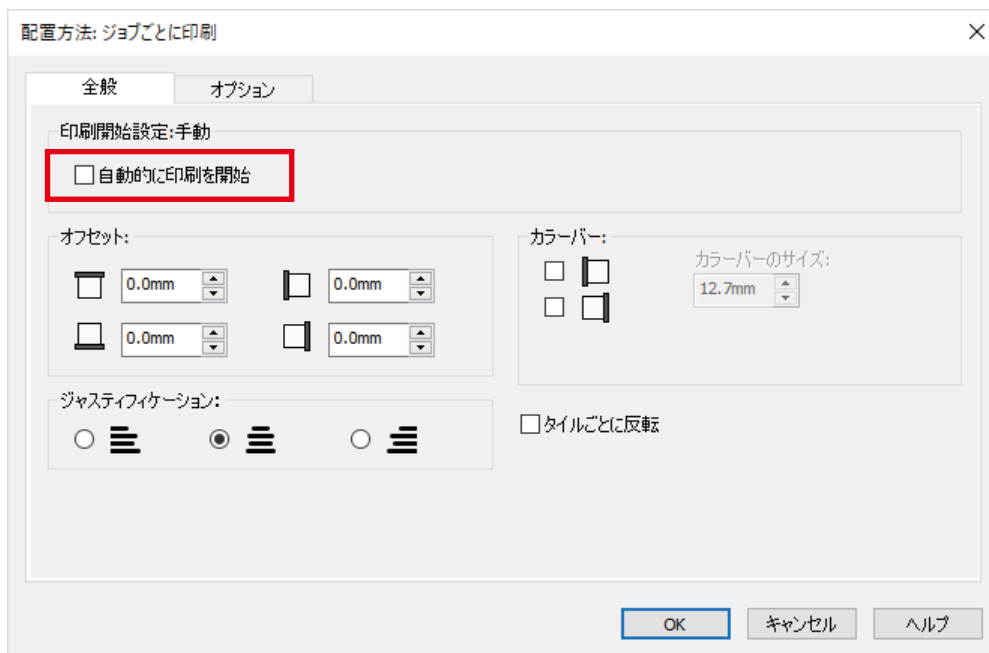
RIP後にジョブが「印刷待ち」にならず、自動的に印刷されてしまう。

【対策】

「印刷開始設定」を確認します。



①プリンターをクリックしてから、②「配置」の設定アイコンをクリックします。



「自動的に印刷を開始」のチェックを外して、「OK」をクリックします。

レイアウトのトラブル

◆ 画像が切れてしまう

印刷すると画の端が欠けて印刷される。

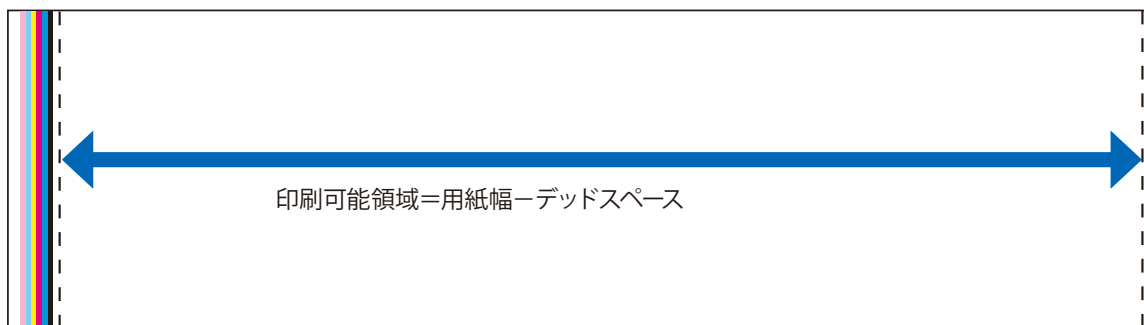
【対策】

データ幅と用紙幅を確認します。

【注意】 用紙の両端には印刷不可能領域（デッドスペース）があります！

例えば 54 インチ（1372mm）幅のメディアの場合、54 インチの用紙幅全域を使用して印刷できるわけではありません。両端に必ず何ミリかのデッドスペースが発生します。

このデッドスペースは、カラーストライプやエッジガードの有無によって値が変わります。



● 印刷可能域の算出方法

| エッジガード | カラーストライプ | 印刷可能幅 | 備考 |
|--------|----------|-----------|----|
| あり | なし | 用紙幅 -20mm | ※ |
| あり | あり | 用紙幅 -43mm | |
| なし | なし | 用紙幅 -10mm | |
| なし | あり | 用紙幅 -33mm | |

※内蔵の「用紙サイズ」は、この条件で印刷可能幅を設定してあります。

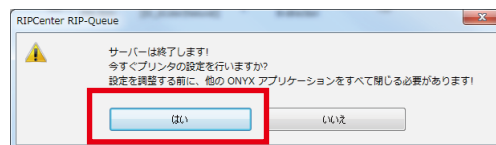
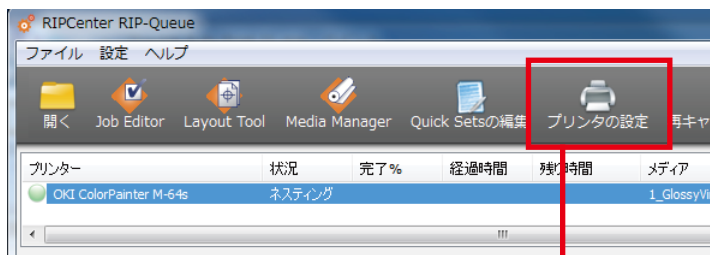
用紙幅いっぱい印刷したい場合は、必ずデッドスペースを考慮してレイアウトしてください。

次頁にカスタム用紙幅の設定方法を紹介します。

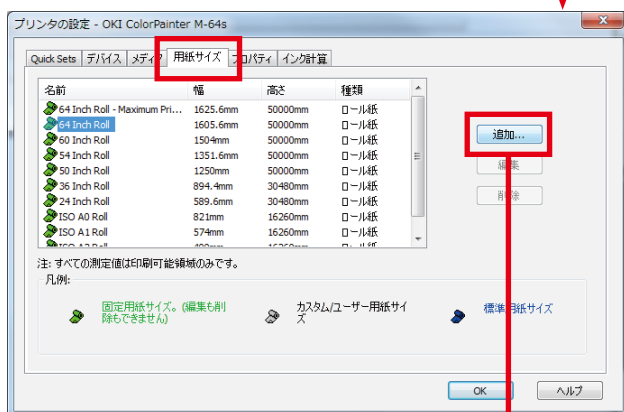
【参考：カスタム用紙幅の設定】

非定型の任意の用紙幅を設定することができます。

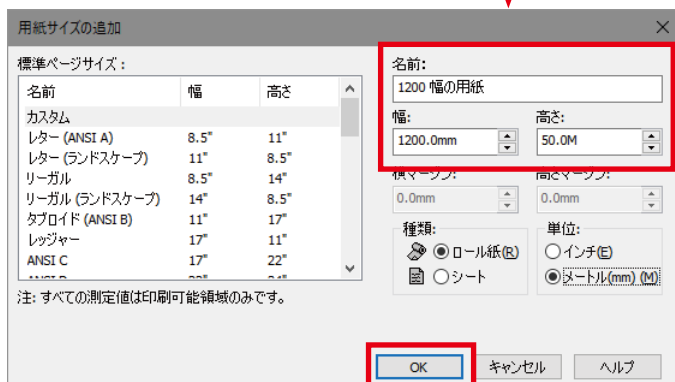
※ Job Editor でジョブを開いている場合は、一旦 Job Editor を閉じてください。



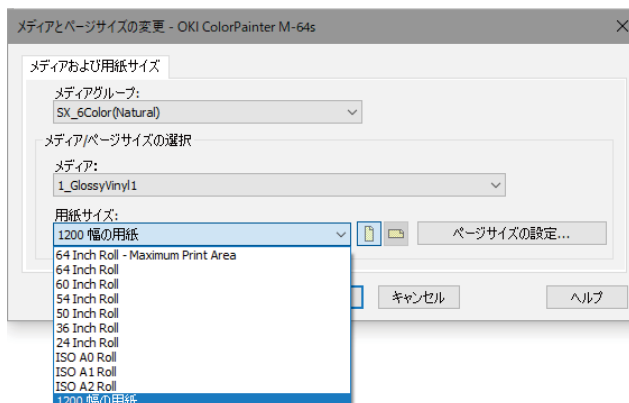
① RIP キューの「プリンタの設定」を選びます。
上のような警告が出るので、「はい」をクリックします。



② 用紙サイズタブを選択し、「追加」ボタンをクリックします。



③ 「名前」「幅」「高さ」を入力し、「OK」をクリックします。



④ RIP-Queue 内部の用紙サイズの欄に、登録した用紙が表示されます。

※ 別の名前を使っても、同一幅×同一高さで2つ以上のカスタム用紙幅を使うことはできません。
(登録はできますが、使うときに選択ができません)
この場合、高さを少しでも変えて登録してください。

◆ 厳密にメディア中央に印刷したい（センタリング）

プリンター本体のカラーストライプの ON/OFF、また、エッジガードを使用する / 使用しないの設定によって、プリンターが印刷することができない（印刷データがクリップされてしまう）非印刷領域が変わります。（下表参照）

印刷データがクリップされないようにセンタリングするためには、以下の設定を行う必要があります。

- ① カスタム用紙サイズの設定
- ② 位置合わせの設定
- ③ エッジガード補正の設定

なお、カラーストライプが ON の場合、カスタム用紙サイズに設定する用紙幅に対して、センタリングできる印刷データの最大幅は小さくなります。（下表参照）

| タイプ | プリンター本体の設定 | | 非印刷領域 | | センタリングするために必要な RIP の設定 | | | センタリングできる印刷データ最大幅 |
|-----|------------|--------|-------|------|------------------------|-------|----------|-------------------|
| | カラーストライプ | エッジガード | CAP 側 | メンテ側 | カスタム用紙サイズに設定する用紙幅 | 位置合わせ | エッジガード補正 | |
| A | ON | 使用する | 10 | 32.6 | メディアの実寸幅 -20.0mm | 中央 | ON | メディアの実寸幅 -65.2mm |
| B | ON | 使用しない | 5 | 27.6 | | | | |
| C | OFF | 使用する | 10 | 10 | | | | |
| D | OFF | 使用しない | 5 | 5 | | | | |

① カスタム用紙サイズの設定

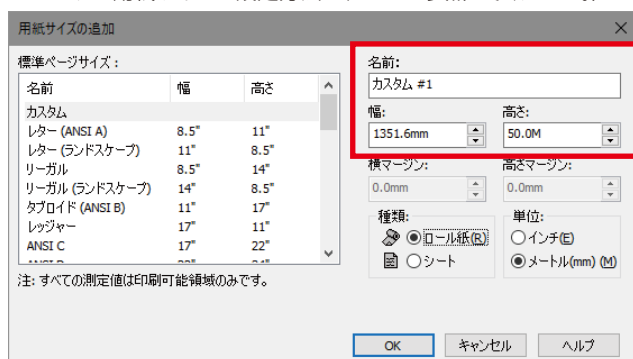
実際に使用するメディアの用紙幅（実寸幅）から 20mm 引きます。

例：1371.6mm（使用メディア実寸幅） - 20.0mm = 1351.6mm（設定する用紙幅）

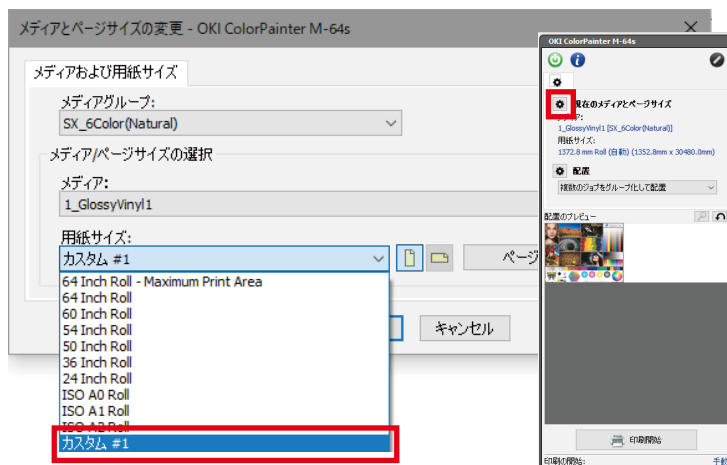
この値をカスタム用紙サイズの用紙幅に設定します。

用紙高さは使用するメディアの巻き長さを設定してください。

※カスタム用紙サイズの設定方法は、P.93 を参照してください。）

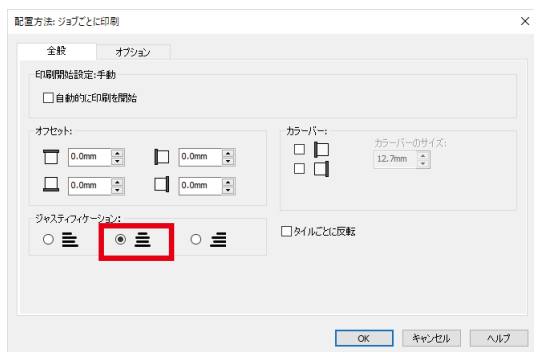


「現在のメディアとページサイズ」の設定アイコンをクリックし、用紙サイズの中から設定したカスタム用紙サイズを選択します。



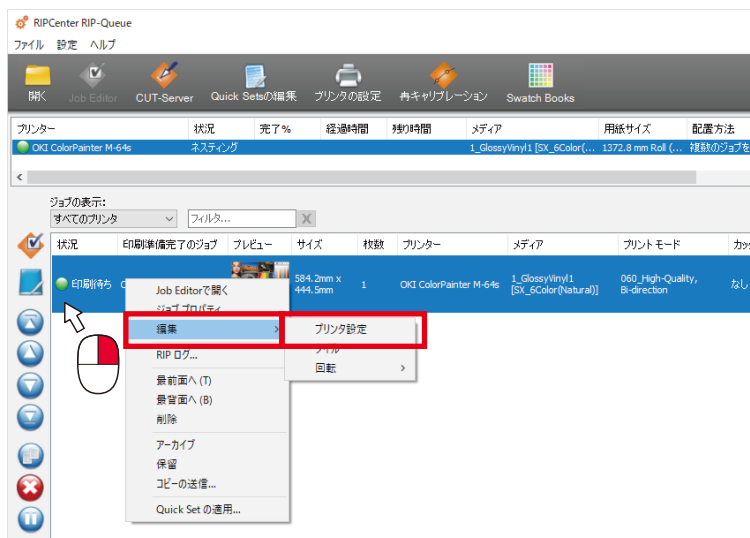
② 位置合わせの設定

「配置」の設定アイコンをクリックし、ジャスティフィケーションの中から真ん中（中央合わせ）を選択します。

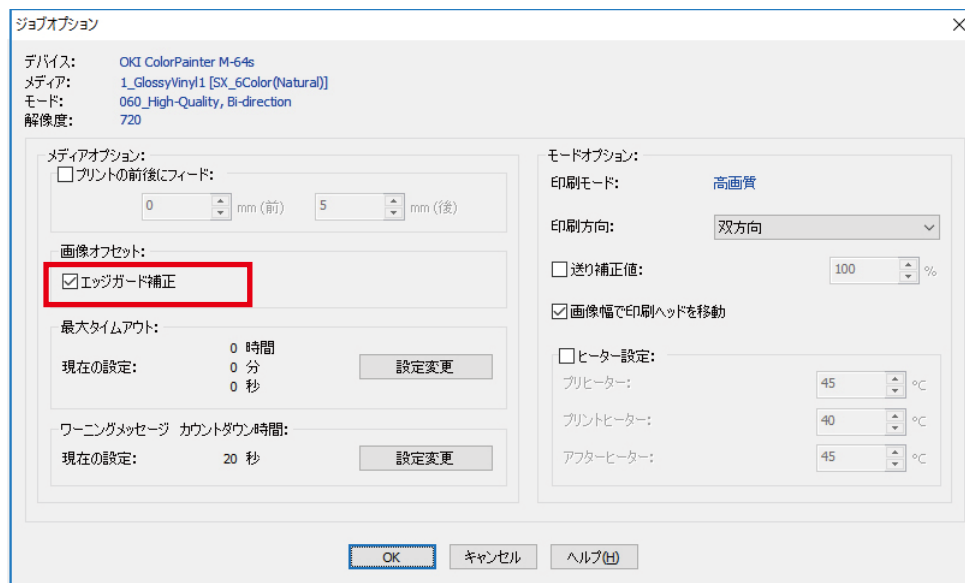


③ エッジガード補正の設定

ジョブデータを右クリックし、「編集」→「プリンタ設定」を選択します。



エッジガード補正のチェックを入れます。



以上で設定は終了です。

センタリングする印刷データを印刷します。

色・画質のトラブル

◆ 印刷すると色の違う領域が出る（カラーステッチ）

印刷すると透明やドロップシャドウなどの効果の周りに色の違う領域が発生する。（下図参照）



【原因】

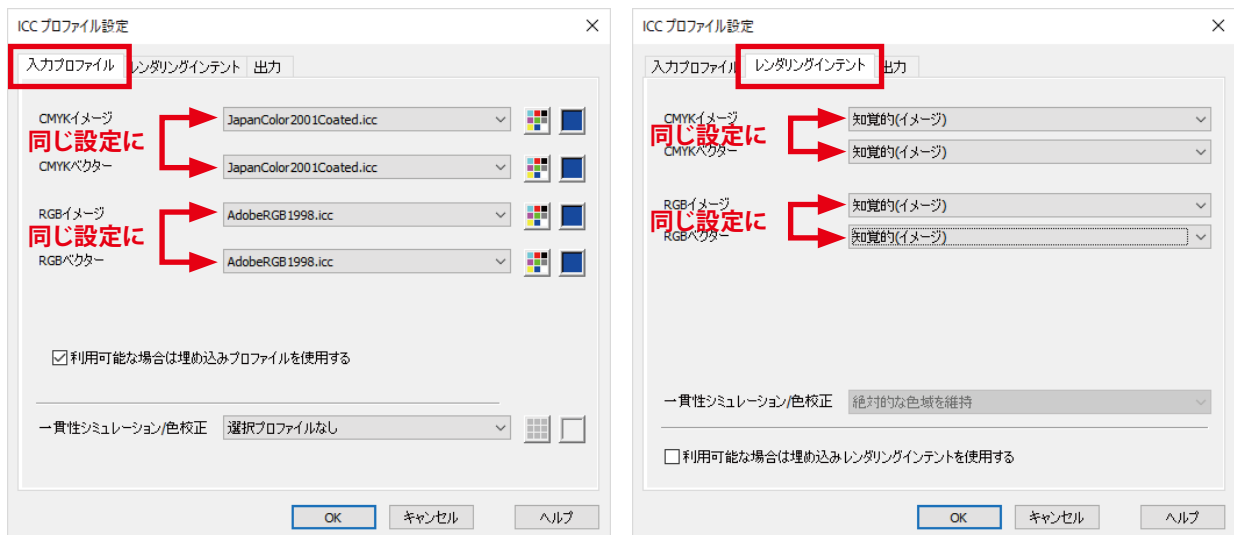
ぼかしやドロップシャドウなどの高度な効果は RIP 側で処理できない場合があるため、Illustrator で EPS 保存すると、自動的にラスターライズ（イメージ化）処理されてしまいます。RIP 側のレンダリングインテントがラスターとベクターで異なる設定の場合、ラスターとベクターのオブジェクト間で色味に差異が生じます。

次の①、②のいずれかの対策をおこないます。

【対策①】

入力プロファイルとレンダリングインテントを、ラスターとベクターで同じ設定にします。

Job Editor の「プリンタとメディア」タブから「プロファイルの変更」ボタンをクリックします。



「入力プロファイル」タブで、イメージ（ラスター）とベクターの入力プロファイルを合わせてください。

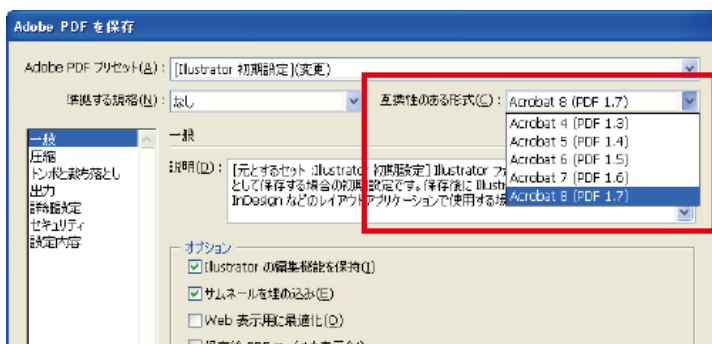
「レンダリングインテント」タブで、イメージ（ラスター）とベクターの設定を合わせてください。

【対策②】

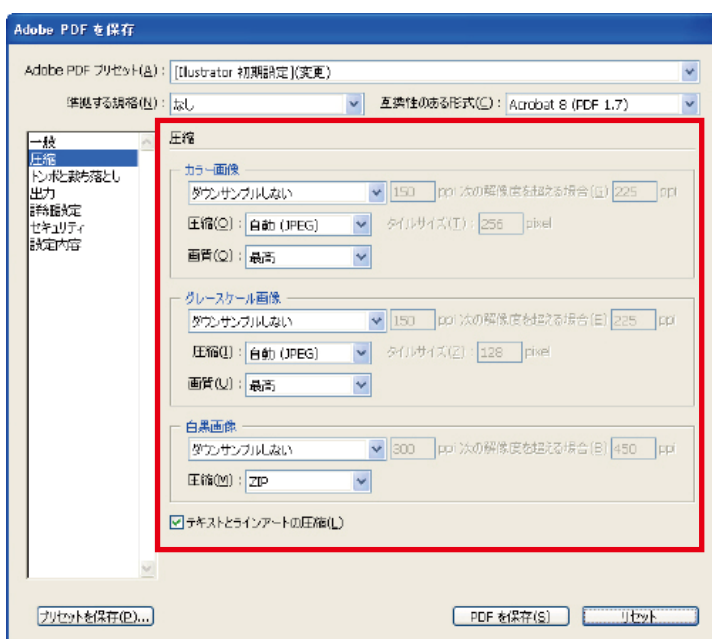
データを Illustrator で PDF 保存します。PDF は透明やドロップシャドウ等の高度な効果に対応しているので、RIP 上でレンダリングインテントを合わせなくてもカラーステッチが発生しません。

【PDF 保存の方法】

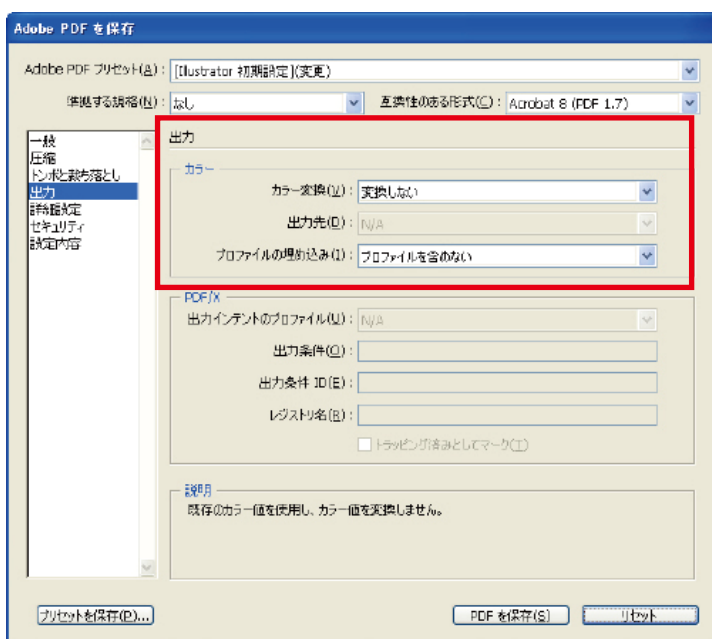
Illustrator のファイルメニューで「別名で保存」を選択し、ファイルの種類に「AdobePDF」を選択します。
以下のような保存ダイアログが表示されます。



このとき「互換性のある形式」は必ず、「Acrobat5(PDF1.4)」以上で保存します。
それ以前のバージョンは、透明効果やドロップシャドウに対応していません。
(可能な限り最新のバージョンで保存することをお奨めします。)



圧縮オプションはダウンサンプルしない
圧縮：JPEG（自動）
画質：最高
テキストとラインアートの圧縮：チェック ON
をお奨めします。
画像劣化がほとんどないまま、ファイル容量を大幅に圧縮できます。



出力タブでは色変換をかけないでください。
カラー変換：変換しない
プロファイルの埋め込み：プロファイルを含めないで保存します。

◆ ベクターデータの色が鮮やかでない

ベクター部分の色に鮮やかさが無い、または色が弱い。

【原因】

ベクター部分にカラーマネジメントをおこなうと、やや色に鮮やかさが無くなります。

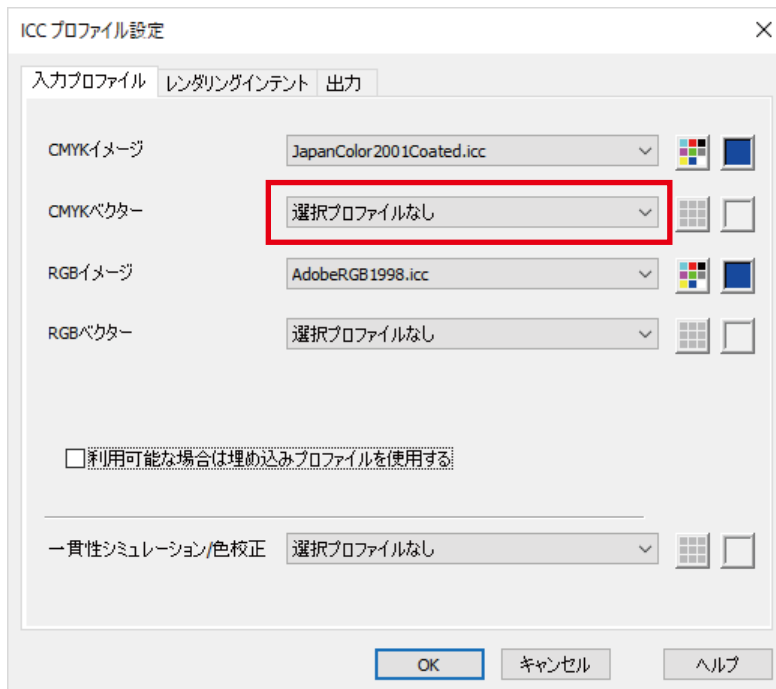
【対策】

ベクタのカラーマネジメントをオフにします。

【やり方】

Job Editor の「プリンタとメディア」タブから「プロファイルの変更」ボタンをクリックします。

「入カプロファイル」タブでベクターに対し「選択プロファイルなし」を設定します。



特定の色相ごとにカラーマネジメントをオフにすることもできます。

詳細は P.50 「純色で印刷したい」を参照してください。

◆ ジャギが発生する

オブジェクトの一部に解像度の低いガタガタになる領域（ジャギ）が発生する。（下図参照）



文字の一部に
ジャギが発生した例

【原因】

透明画像と重なった部分の RIP 処理に、解像度の不一致が発生したと考えられます。

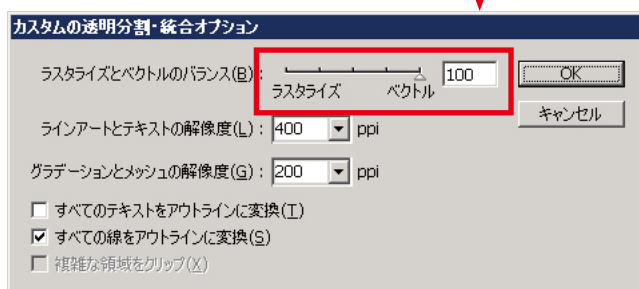
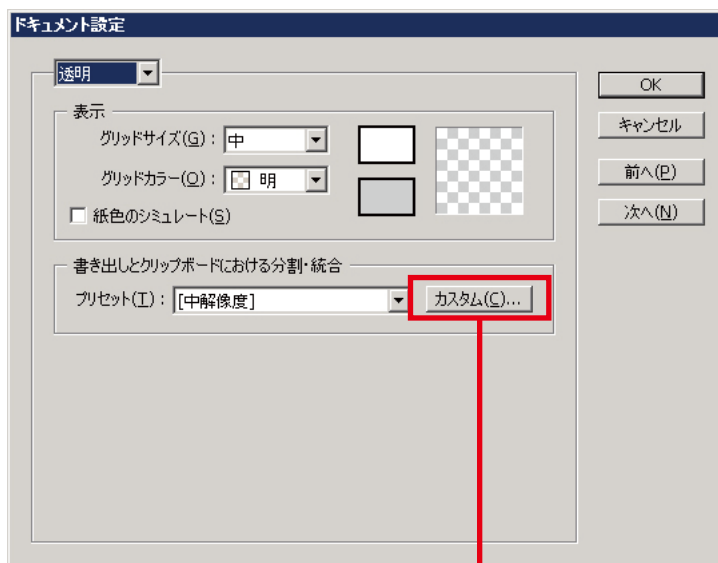
【対策】

Illustrator でデータを修正してください。（①，②の順でお試してください。）

① 「透明の分割・統合オプション」でスライダを「ベクトル」に寄せる

【やり方】

Illustrator でデータを開き、「ファイル」の「ドキュメントの設定」を選択で「透明」を選択します。



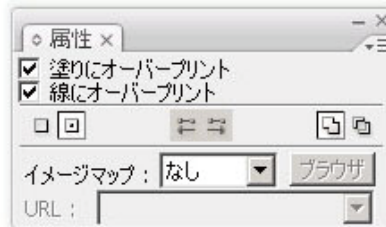
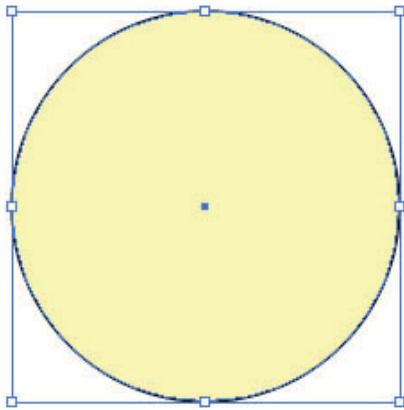
「カスタム」ボタンをクリックし、スライダを右端（ベクトル側）まで寄せます。

「OK」をクリックし、データを保存しなおします。

② ジャギの発生したオブジェクトを、最前面に持ってくる

【やり方】

Illustrator でデータを開き、ジャギが発生しているオブジェクトを選択します。



右クリックして「アレンジ」→「最前面へ」を選択します。

◆ Illustrator で配置した画像の色が沈む

画像を単独で印刷した場合と、Illustrator に配置した場合で色が異なる。

(多くの場合 Illustrator の方で色が沈む。)



単独で印刷



Illustrator に配置して印刷

【原因】

ビットマップ画像のカラーモードが RGB の場合にこの現象が起こります。RGB モードの画像を、Illustrator 上で CMYK モードのドキュメントに配置したときに、CMYK モードに変換されたことが原因です。

一般に写真や CG 画像の場合、RGB データの方が鮮明で美しく印刷されます。(ただし一部例外あり。)

Illustrator 上で CMYK モードのドキュメントに配置しても RGB の色彩を損ないたくない場合は、RGB モードを保持したまま配置する必要があります。

【対策】

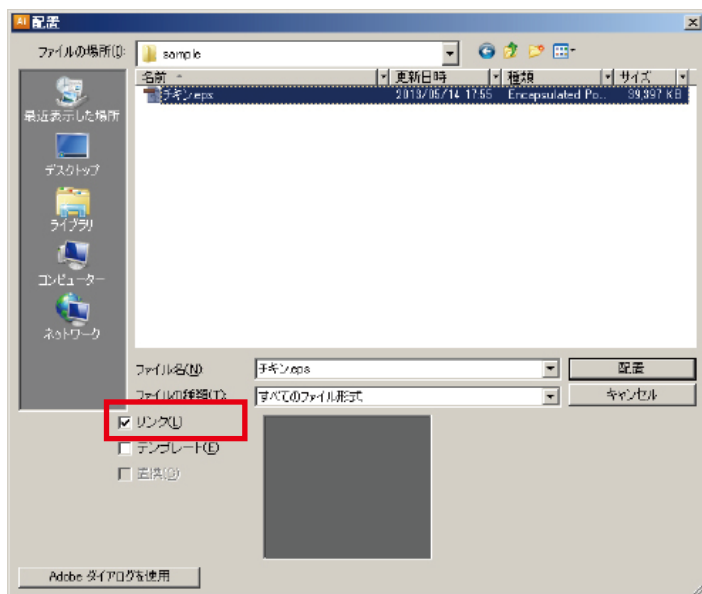
Illustrator で画像をリンクしなおします。

【やり方】

1. 画像のファイルのフォーマットが EPS 以外であれば、データを「**Photo Shop**」にて EPS 形式に変換します。
2. Illustrator 上で、EPS に変換したデータにリンクを張りなおします。(データの置き換え。)
3. この時「**画像埋め込み**」を行わないこと。埋め込む際に CMYK モードに画像変換され、色が沈んでしまいます。

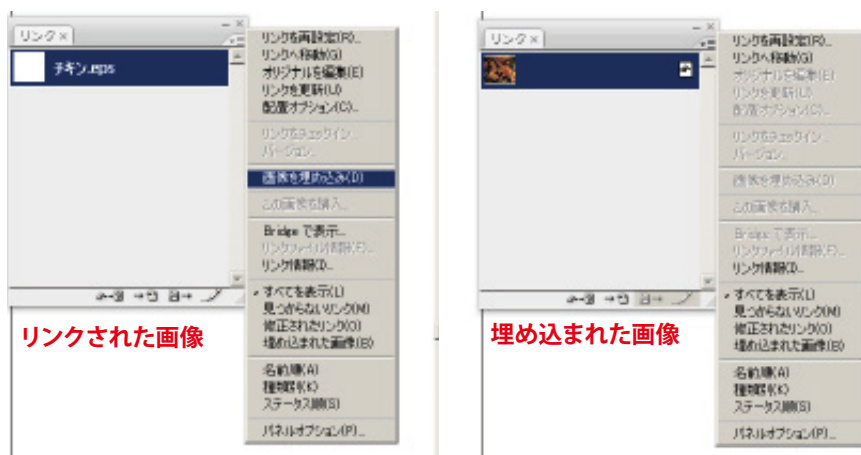
【参考：リンクと埋め込みについて】

① 新規の画像配置における「リンク」と「埋め込み」



Illustrator の「ファイル」メニューの「配置」を選択すると、上記のようなダイアログが表示されます。ここで「リンク」にチェックを入れると画像はリンクされ、外すと「埋め込み」になります。

② 既存の配置画像の「リンク」と「埋め込み」



すでに配置されている画像が「リンク」か「埋め込み」かを確認するには、「ウィンドウ」メニューから「リンク」を選択してリンクパネルを表示させます。「リンク」であれば左図のようにファイル名（チキン.eps）が表示され、メニューの「画像を埋め込み」が有効になります。すでに埋め込まれた画像であれば右の図のようにファイル名が表示されず、「画像を埋め込み」メニューが有効になりません。

◆ グラデーションを含むデータのトラブル①

RIP 処理が極端に遅い、または正常に印刷されないなど。

【原因】

Illustrator の持つグラデーションの複雑で高度なデータ表現を、RIP 側が処理できないために起こると考えられます。

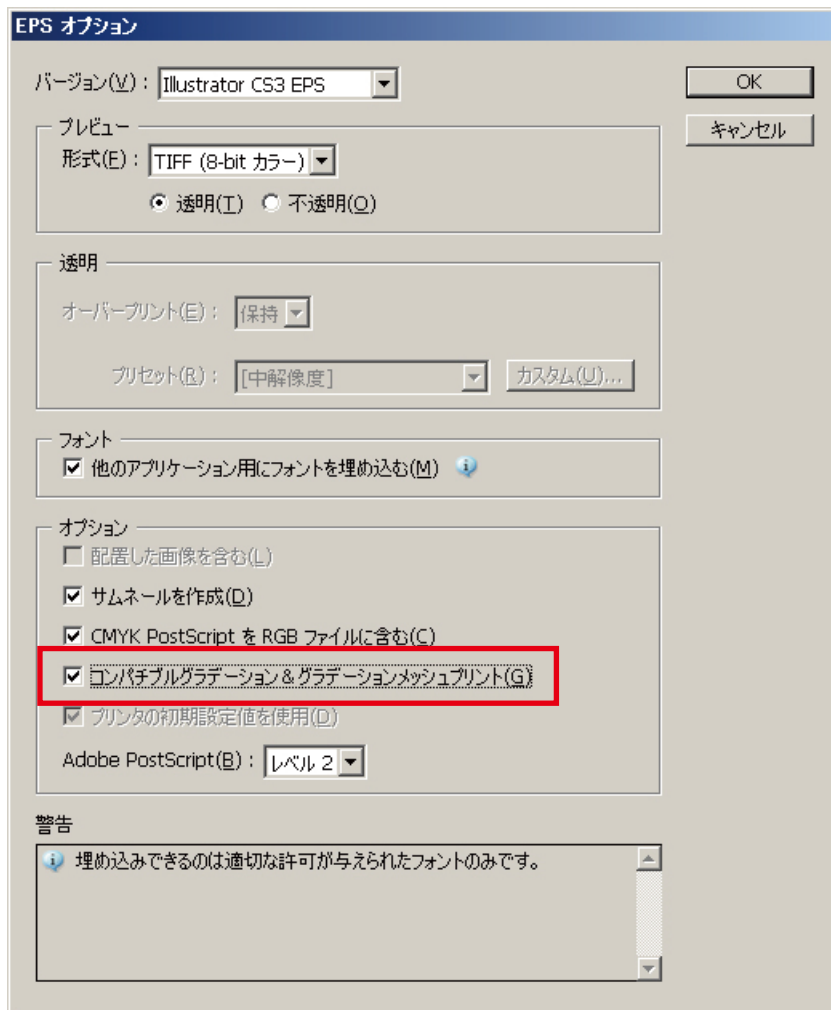
【対策】

Illustrator でデータを保存しなおします。

【やり方】

データを Illustrator で開き、「ファイル」メニューの「別名で保存」を選択します。

フォーマットには EPS を選択します。以下のようなダイアログが表示されます。



「コンパチブルグラデーション…」にチェックを入れて保存します。多くの場合これで現象が改善されます。

※ただしこのオプションは EPS にのみ有効です。PDF にはないのでご注意ください。

◆ グラデーションを含むデータのトラブル②

グラデーションのハイライト部分の表現に段差が見られ、なめらかでない。(下図参照)



【原因】

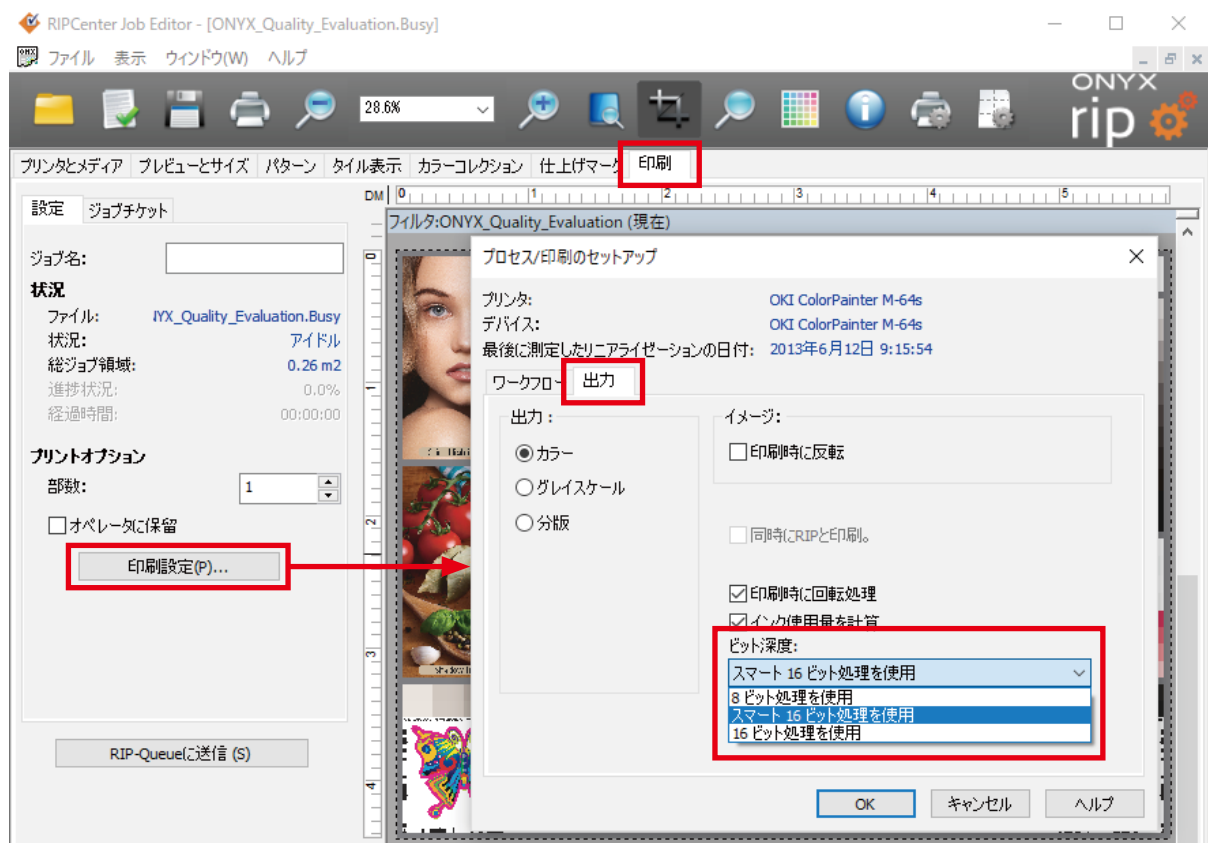
階調の滑らかさは、RIP側の処理ビット深度に依存します。8ビットで処理されるとハイライト部分が滑らかに表現されない場合があります。

【対策】

16ビット処理を使用します。

【やり方】

Job Editorでジョブを開き「印刷」タブを選択します。「印刷設定」ボタンをクリックし「出力」タブを選択すると、以下のようダイアログが表示されます。



ビット深度に「16ビット処理を使用」を選択します。

◆ Illustrator 上でのプレビューと印刷結果が異なる

Illustrator であるはずの文字が印刷では消えてしまう。(下図参照) またはあるはずの無いベタ塗りが表示されるなど。



Illustrator 上のビュー



印刷結果

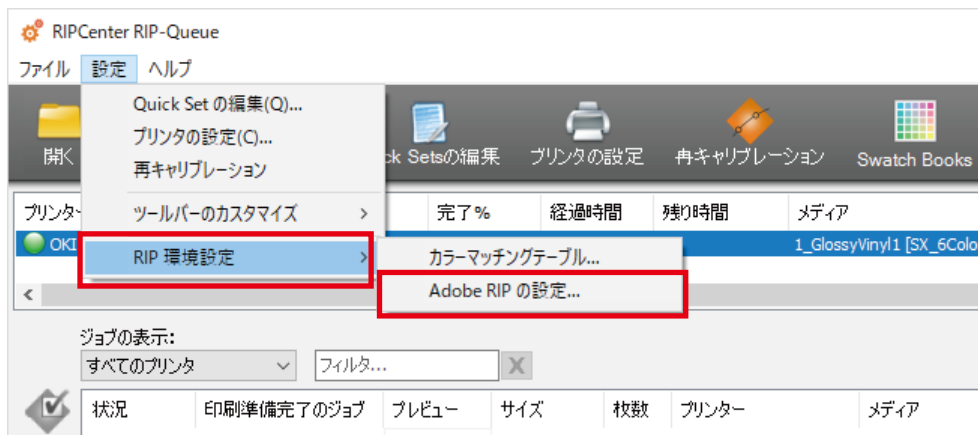
【原因】

Illustrator のオーバープリント効果が原因です。

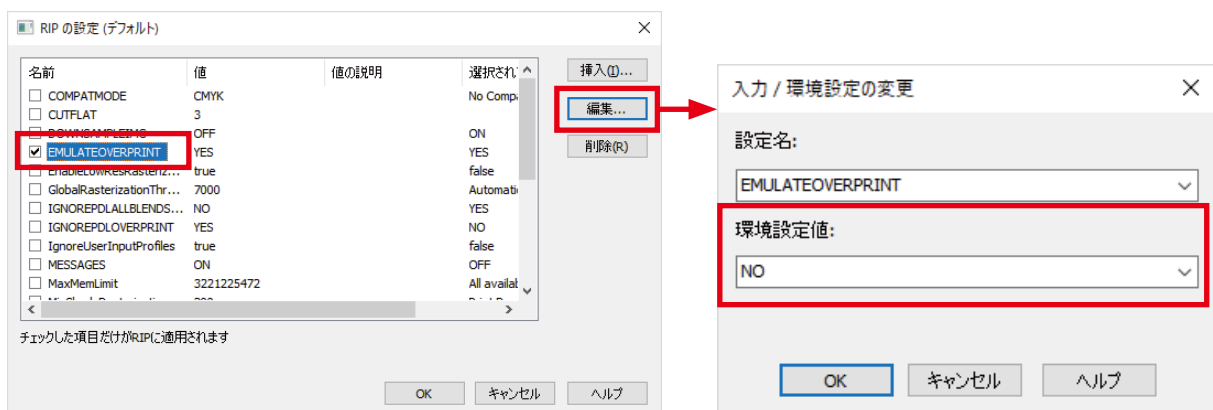
【対策】

RIP のオーバープリント設定を無効にします。

【やり方① デフォルトの設定を変更する】

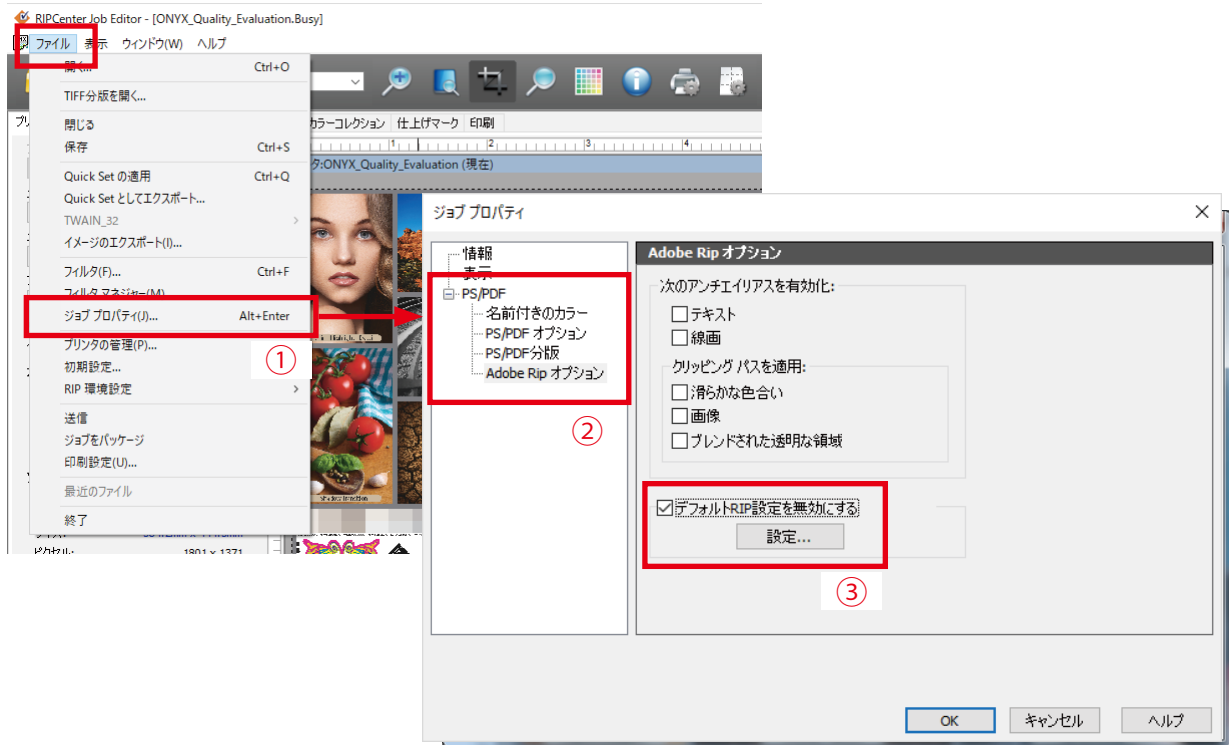


RIP キューの「設定」メニューから「RIP 環境設定」→「Adobe RIP の設定」を選択します。

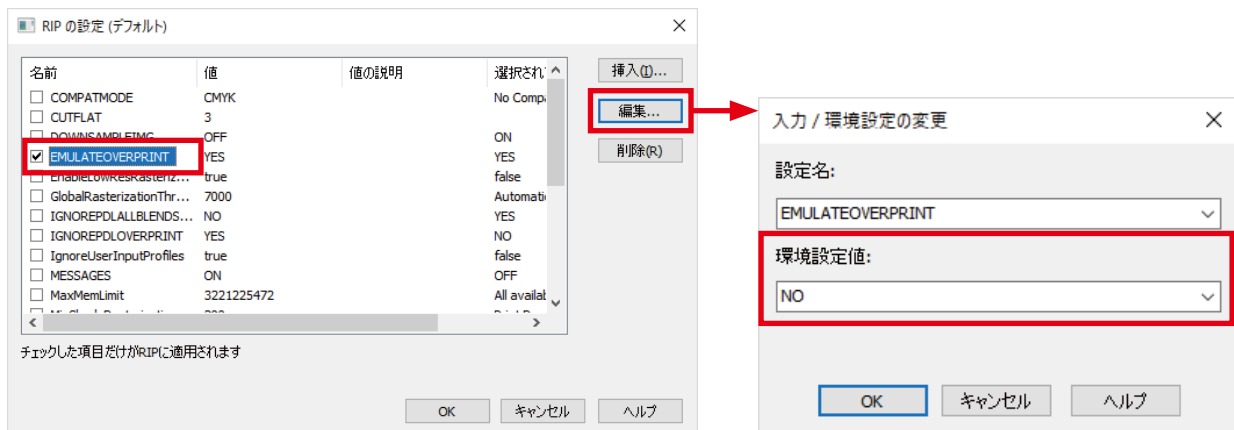


「EMULATEOVERPRINT」にチェックを入れて「編集」ボタンをクリックします。「環境設定値」を「NO」にすれば、オーバープリント効果は無効になります。

【やり方② ジョブごとに個別に設定する】



Job Editorでジョブを開き①ファイルメニューのジョブ プロパティを選択します。② PS/PDF 内の Adobe Rip オプションを選択し、③「デフォルト RIP 設定を無効にする」にチェックを入れて「設定」ボタンをクリックすると、以下のようなダイアログが表示されます。



「EMULATEOVERPRINT」にチェックを入れて「編集」ボタンをクリックします。「環境設定値」を「NO」にすれば、オーバープリント効果は無効になります。

【参考：オーバープリントとは】

オーバープリントとは、2つ以上のオブジェクトを重ねたときに下地と色を混ぜた色で表現する効果のことです。



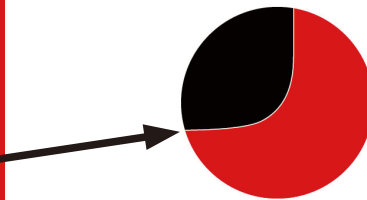
オーバープリント OFF



オーバープリント ON

もともとの目的は、「版ズレ」を防ぐための機能です。版ズレとは、例えば濃い色の上に墨文字などを載せた場合、機械的な精度の問題によって白い隙間が発生することがあります。（下図参照）

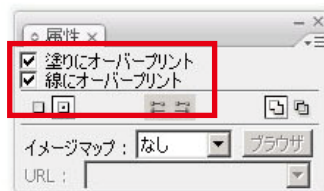
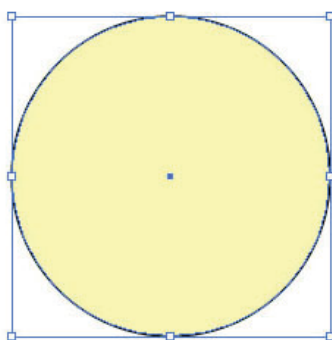
これを版ズレと言い、印刷業界では代表的な印刷不具合です。



「版ズレ」の例

この隙間を埋めたいときに、オーバープリントが効果を発揮します。ただし、図のような濃い色同士では問題ありませんが、白は下地の色と混ざると、下地と同じ色になってしまうため、前述のような白い文字が消えてしまうなどのトラブルを招くことがあります。

【Illustrator 上でのオーバープリント設定方法】



データを Illustrator で開き「ウィンドウ」メニューから「属性」を選択して、属性パネルを表示します。

オブジェクトを選択し、「塗りにオーバープリント」または「線にオーバープリント」にチェックを入れてください。

また Illustrator の上でもオーバープリントの効果をプレビューすることが可能です。「表示」メニューから「オーバープリントプレビュー」を選択すればオーバープリント効果が目視で確認できます。

◆ バンディング・スジムラが目立つ

以下を順に確認します。さらに詳細な対応方法については、プリンター本体の取扱説明書の「困ったときは」を参照ください。

- (1) プリントヘッドのノズル詰まりが無いことを、確認する。
 - ・ノズルプリントを印刷します。
 - ・抜けノズルがあれば、SNM（スマートノズルマッピング）でノズル番号を登録します。
- (2) メディアの送り調整値が正しいことを、確認する。
 - ・メディアの送り調整をおこなう（自動送り調整またはマニュアル送り調整にて）。
 - ・RIP 側（メディアプロファイルのモードオプション）で送り調整値を指定している場合、プリンター本体側で調整により求めた調整値よりも RIP 側の指定値が優先されます。

RIP 側の指定値がそのメディア向けの調整値になっていることを確認します。

※（たとえ同じ糊付塩ビでも）メディア製品ごとに送り調整の最適値は異なります。
必ずメディア製品ごとに調整をおこなってください。
- (3) ヒータの温度を下げしてみる。

カスレ・白スジの場合は、インクのドットが広がりにくいメディア製品を使用していることが原因の可能性があります。
3つのヒーターを一律 5℃下げてください。
（ヒーター温度を変更したら、メディア送り調整をやり直します。）
- (4) ヒータの温度を上げてみる。

黒スジの場合は、インクの乾きにくいメディア製品を使用していることが原因の可能性があります。
3つのヒーターを一律 5℃上げてみてください。
（ヒーター温度を変更したら、メディア送り調整をやり直してください）
- (5) 片方向で印刷してみる。

双方向印刷による、往路と復路のインク吹き出し順の違いが原因の場合、片方向印刷で解消します。
- (6) Natural プロファイルを使用している場合、Vivid プロファイルに変えてみる。

特にベタ部分は、Natural プロファイルの場合 インクを制限して印刷するため、ベタの埋まりが Vivid プロファイルに比べて弱くなる傾向があります。Vivid プロファイルに変更してみてください。
- (7) より高画質側のプリントモードに変更する。

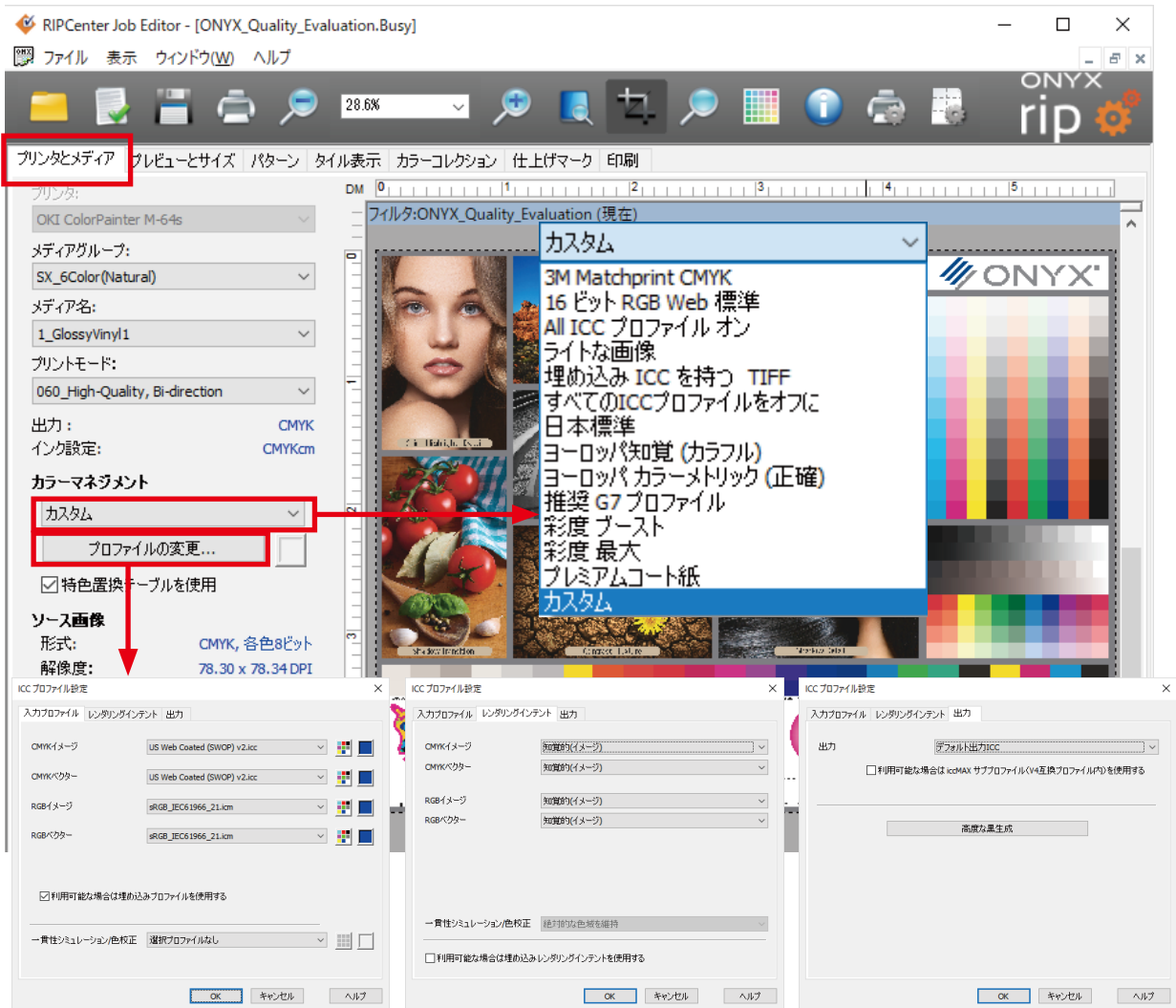
より高画質側のプリントモードへの変更は、上記全ての要因に対して有効です。

第5章 機能辞書

本章では Job Editor 上の各設定項目について説明します。

プリンタとメディア

メディアプロファイルや印刷モードを選択します。



メディアグループ、メディア名、プリントモード

RIP キューに設定された値が反映されます。

カラーマネジメント

入力プロファイルとレンダリングインテントの設定をまとめたものです。

「日本標準」を推奨します。

入力プロファイル (プロファイルの変更)

カラーマッチングのターゲットになるプロファイルです。

CMYK : JapanColor2001Coated RGB : AdobeRGB1998 を推奨します。

また「選択プロファイルなし」を選択すると、カラーマッチングを行いません。

ベクターは鮮やかな色が表現できるので、「選択プロファイルなし」を推奨いたします。

レンダリングインテント (プロファイルの変更)

知覚的 (イメージ) : 明るさと階調性重視。写真画に多く適用されます。

相対的な色域を維持 : 色再現性重視。メディアの色をシミュレートしません。

絶対的な色域を維持 : 色再現性重視。メディアの色をシミュレートします。

彩度 (グラフィクス) : 彩度重視。ベタ塗りに多く適用されます。

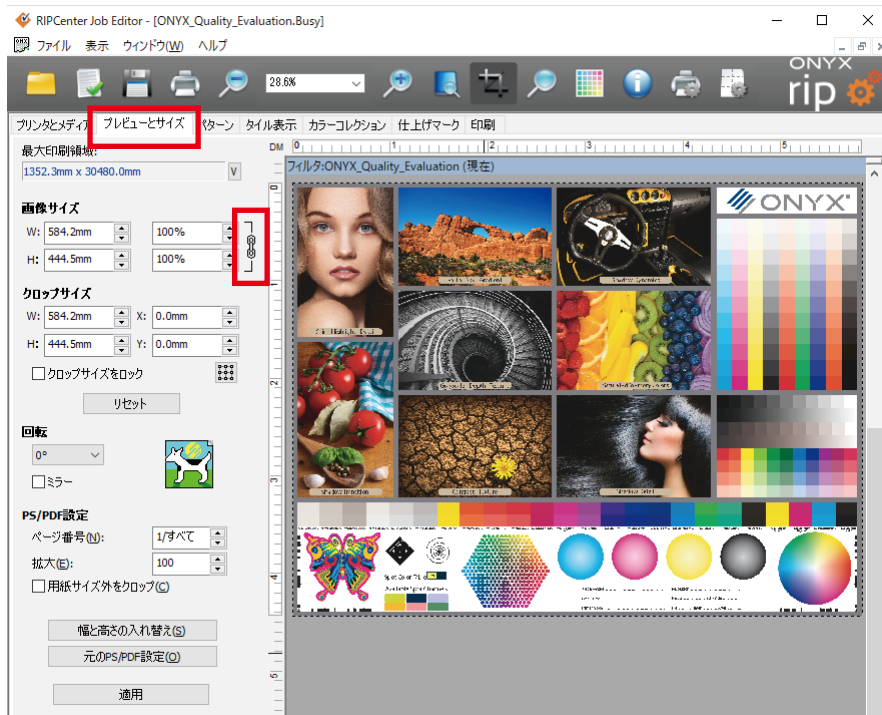
PosterColor : CMYK は相対的、RGB は知覚的に表現します。

出力 (プロファイルの変更)

プロファイルを外部的にインポートしたり、また黒生成手法の設定を行います。

プレビューとサイズ

拡大・縮小・回転・切り抜きなどの簡単なレイアウトを行います。



最大印刷領域

RIP キューに設定されている用紙幅が反映されます。

画像サイズ

印刷データのスケールリングを行います。📏 をクリックすることで、縦横比を個別に調整することも可能です。

クロップサイズ

画面左上を原点として、クロップ（切り抜き）枠の座標位置を数値表示します。

印刷データの縁にマウスカーソルを持っていくとカーソル形状が👉に変化し、画の範囲内でクロップ枠を自由に設定できます。

画像設定

回転およびミラーリングを行います。

PS/PDF 設定

この設定群は、ページ概念を持つフォーマット（PostScript や PDF など）でのみ有効です。

JPEG や TIFF といったラスタフォーマットでは有効になりません。

ページ数

複数のページのあるデータの場合、ページを指定できます。

拡大 (PS/PDF 設定)

ページサイズのみを拡大・縮小します。

100 より大きな値にするとページサイズが縮小され、小さな値にすると拡大されます。

用紙サイズ外をクロップ (PS/PDF 設定)

用紙サイズ外のデータを切り捨てます。

幅と高さの入れ替え (PS/PDF 設定)

ページサイズの幅と高さを入れ替えます。

元の PS/PDF 設定 (PS/PDF 設定)

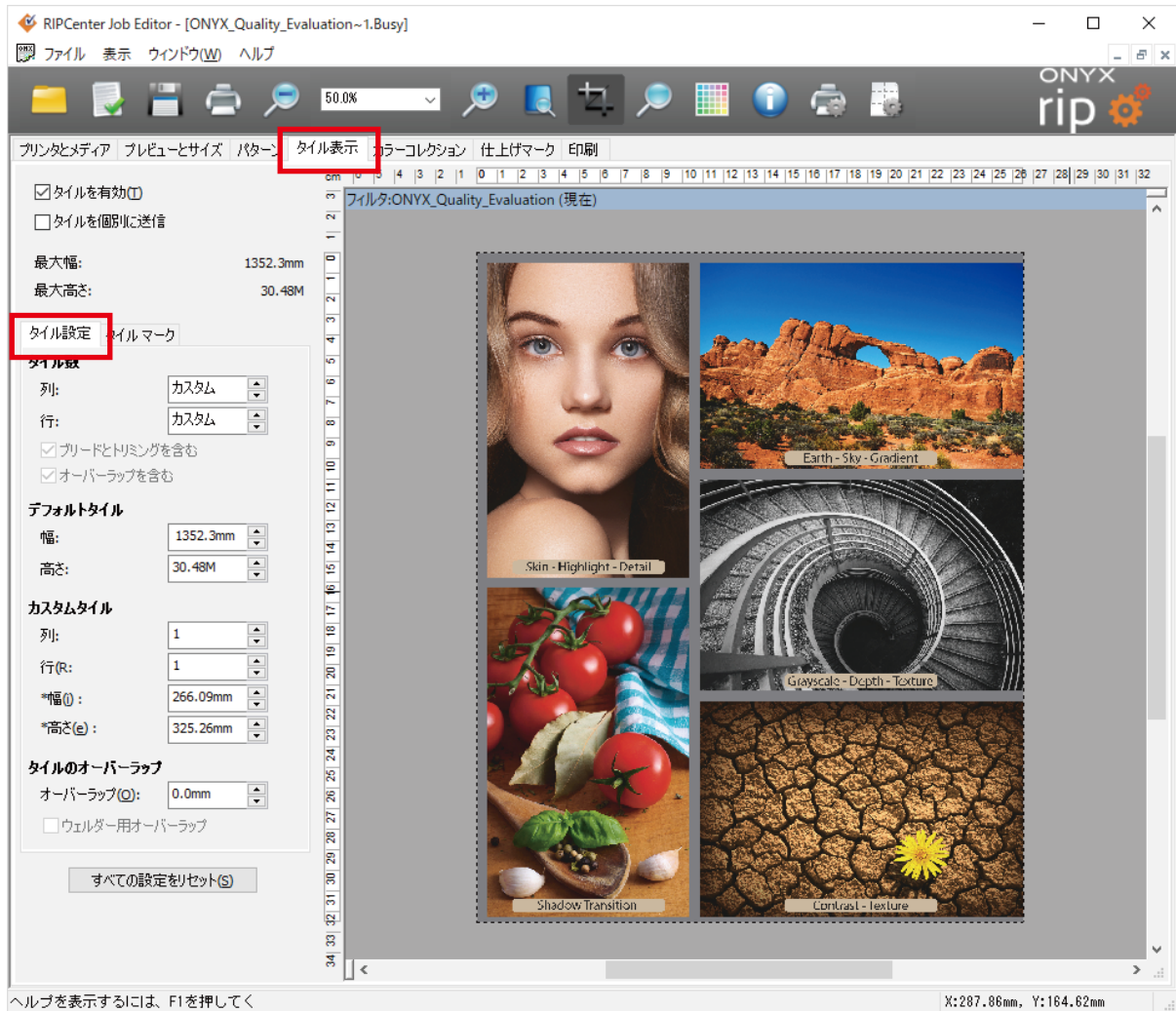
変更したページサイズ設定を、全て元に戻します。

適用

このボタンを押して設定が適用されます。送信前に必ずクリックしてください。

タイル設定

印刷データの分割を行います。



タイルを有効

ここをチェックすると、タイリング機能が働きます。

タイルを個別に送信

ここにチェックを入れると、1タイルを1個のジョブとして RIP-Queue に送信します。

(実際の選択作業は印刷タブで行います。)

列・行 (タイル数)

列と行のタイル数で分割数を指定します。

幅・高さ (デフォルトタイル)

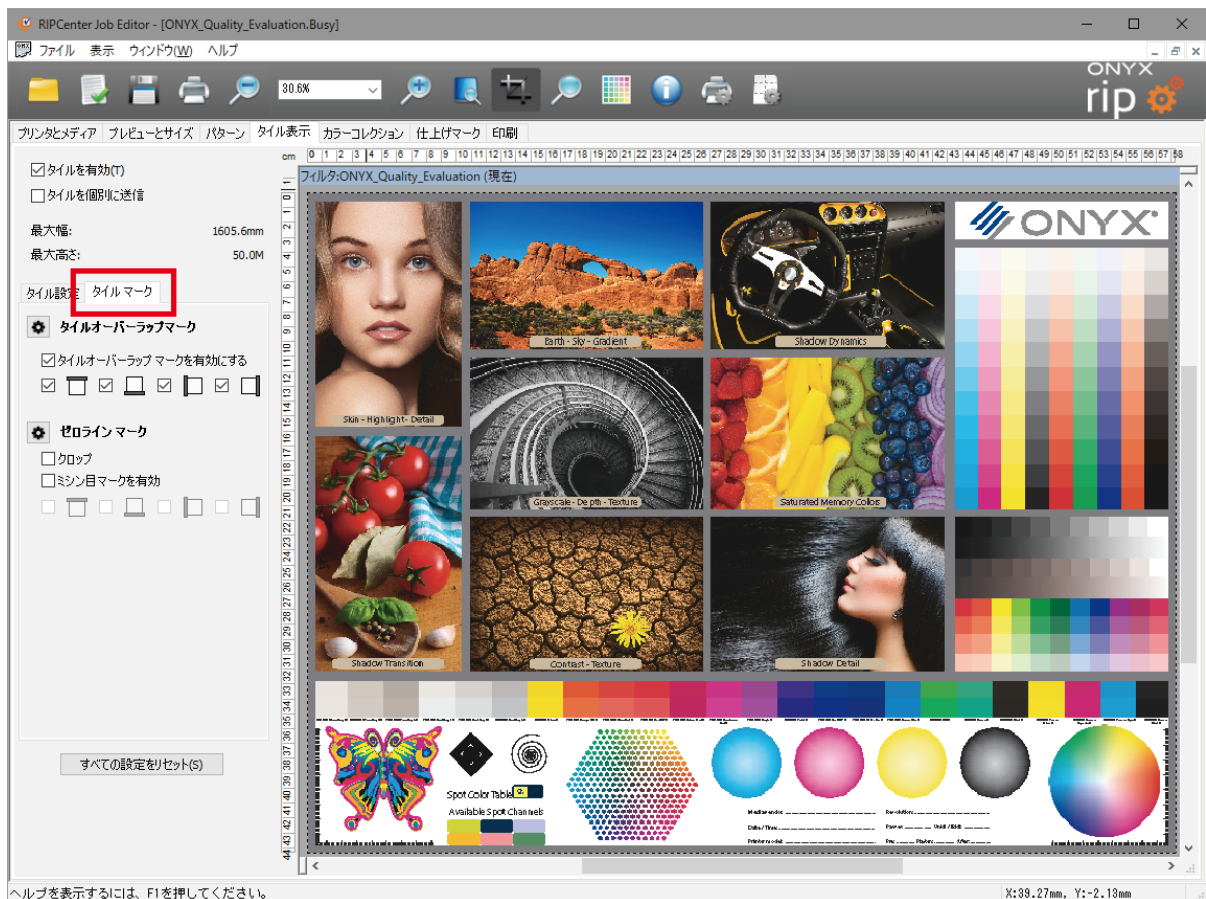
幅は RIP キューで設定されている用紙幅の印刷可能領域が反映されます。高さは 50mm です。

列・行 (カスタムタイル)

タイルの番号が表示されます。縦が列、横が行、画面左上からカウントされます。

幅・高さ (カスタムタイル)

タイルの大きさが表示されます。ここから数値入力も可能です。



タイルのオーバーラップ

オーバーラップ（重ねしろ）の設定です。

ゼロラインマーク

各タイルの重なり領域にマークを印刷する場合の設定です。

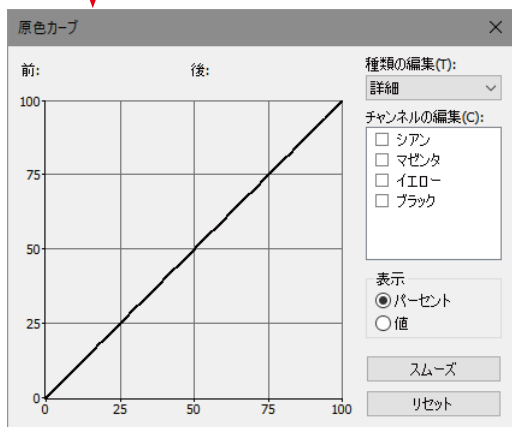
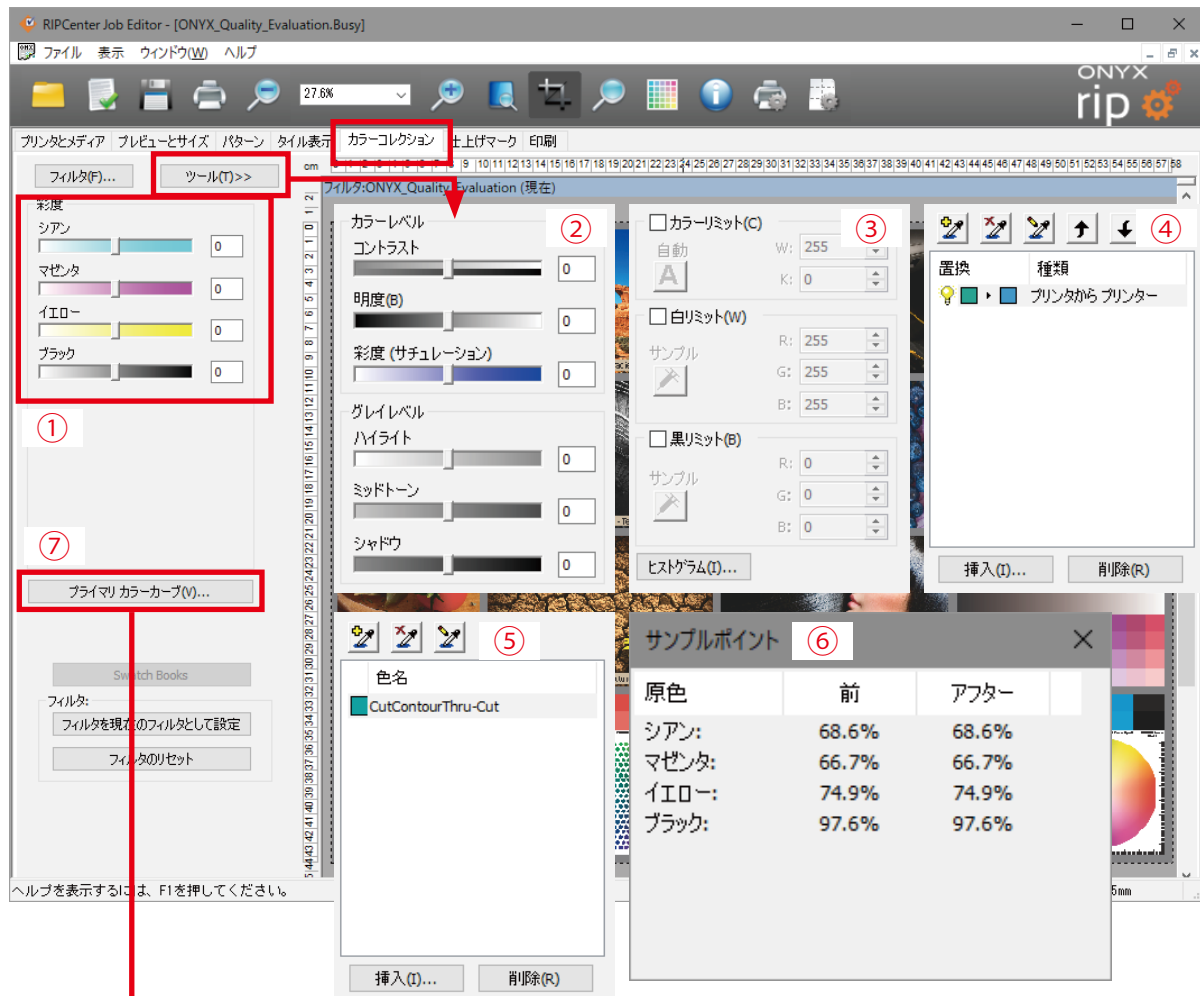
すべての設定をリセット

ここをクリックすると、全てのタイリング設定がリセットされます。

※具体的な手順については、P.44～47をご覧ください。

カラーコレクション

カラー補正を行います。



① プライマリーカラーレベル

彩度スライダーを左右に動かすことにより、チャンネルごとの彩度を調節することができます。

なお、値は極端に高い(または低い)値ではなく、中間域の値を設定してください。

またプライマリカラーカーブを使用することで、より繊細な色調整が可能です。

② カラー / グレイレベル

カラー画像の「コントラスト・明るさ・彩度」と、グレースケールの「ハイライト・ミッドゾーン・シャドウ」を調整することができます。

③ **白/黒リミット設定**

コントラストを変更せずに、画像をクリーンにすることができます。
スキャナで取り込まれたデータをクリーンにする場合などにお使いください。

④ **色置換**

Job Editor 上でデータの色を変換することができます。

⑤ **名前付きのカラー置換**

名前付きのカラーに対して、色を置換することができます。

⑥ **サンプルポイント**

現在カーソルがある位置の色について、カラー補正適用前後の情報を表示します

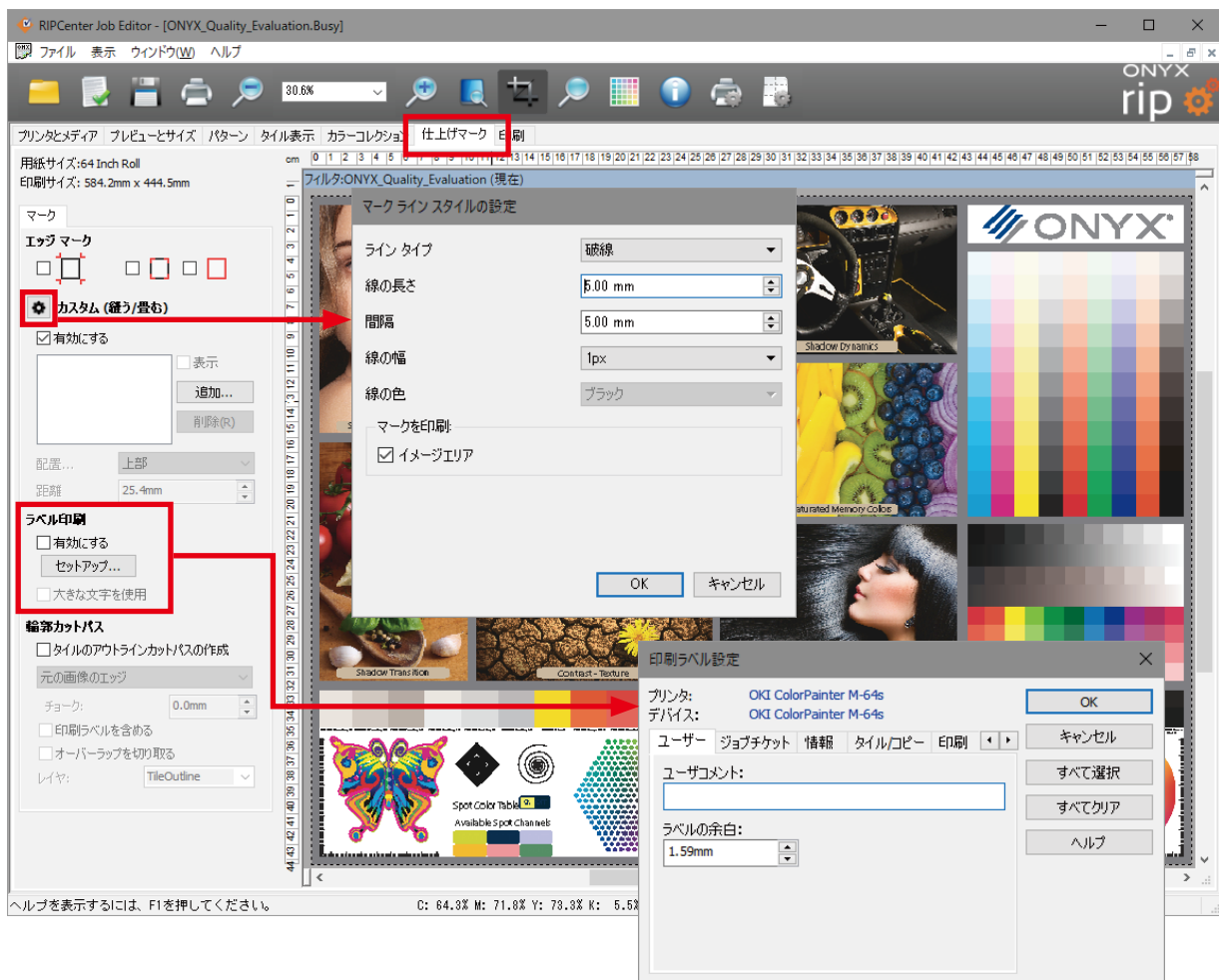
⑦ **プライマリ カラーカーブ**

画像に色補正のフィルターをかけることができます。

なおフィルタの作成・削除・インポート・エクスポートは、ファイルメニューの「フィルタマネージャ」から操作できます。

仕上げマーク

トンボや折りたたみ線を設定します。



エッジマーク

画像の四隅につけるトンボの形状を選択します。

レジスタマークとクロープマークを組み合わせて付けることも可能です。

カスタム

折りたたみ線（ソーイング線）を設定します。設定アイコンを押すと、線の詳細を設定できます。

上下左右、任意の位置に入れることができます。組み合わせたい場合は「追加」ボタンを押した後、配置や距離を設定してください。

印刷ラベル

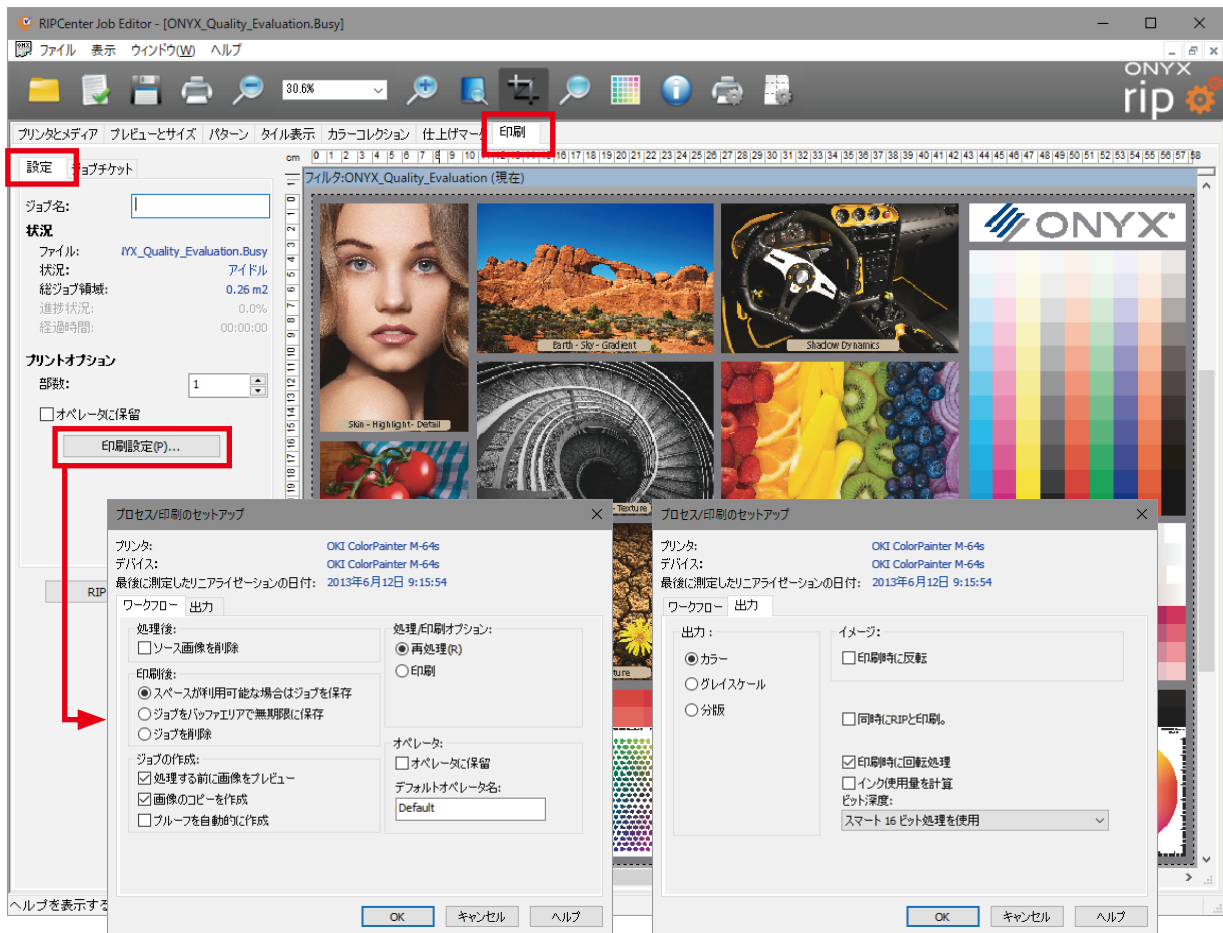
印刷時に画像の横にラベルを付けたい場合の設定を行います。「セットアップ」で、ラベル内容を設定できます。

輪郭カットパス

タイル設定した時の外枠のカットパスを設定するかどうかを設定します。

印刷

データを Job Editor から RIP キューに送信します。



部数

印刷コピー数を指定します。

オペレータに保留

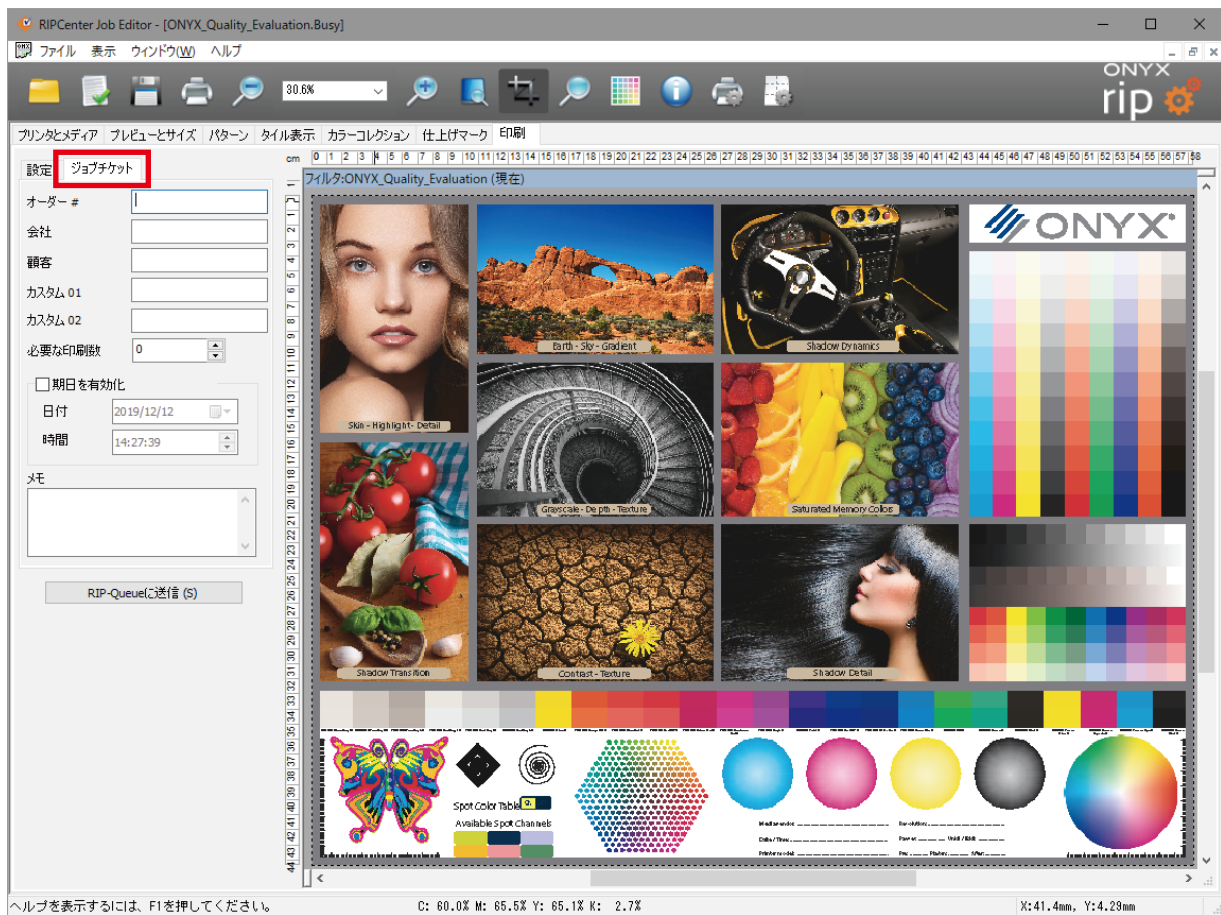
オペレータがジョブを印刷することを選ぶまで、印刷を待ちます。

印刷を開始するには RIP キュー上でジョブを右クリックし、「保留」のチェックを外してください。

印刷設定

ワークフロー：RIP キュー内部でのジョブの処遇に関する設定です。

出力：出力の方法に関する設定です。



ジョブチケット

RIP キューに大量のジョブを保存して運用する環境で、ジョブを顧客ごとに区別するためのラベルとしての情報を付与できます。

RIP-Queue に送信

データを RIP キューに送信します。

メディアプロファイルについて (M-64s の例)

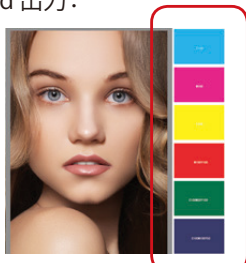
M-64s のプリンタドライバには、「標準プロファイル」が収録されています。お使いのメディア専用のプロファイルが無い場合は、下表の説明を参照し、標準プロファイルを使用してください。

| メディアプロファイル | 説明 |
|------------------------------|--|
| 1_GlossyVinyl1 1_ 光沢塩ビ 1 | <ul style="list-style-type: none"> 糊付白塩ビ、合成紙、布メディアなど、ターポリン以外のメディアには、まずこのメディアプロファイルを選択してください。 |
| 2_GlossyVinyl2 2_ 光沢塩ビ 2 | <ul style="list-style-type: none"> 「1_ 光沢塩ビ 1」を使うとインクがにじむ・泳ぐ傾向のメディアの場合、このメディアプロファイルを使います。 「1_ 光沢塩ビ 1」よりもインク量を少なめに設定しています。 |
| 3_Banner1 3_ ターポリン 1 | <ul style="list-style-type: none"> ターポリンには、このメディアプロファイルを選択してください。 このメディアプロファイルでにじみが気になる場合は、「2_ 光沢塩ビ 2」を使用してみます。 |
| 4_Clear1 4_ 透明塩ビ 1 | <ul style="list-style-type: none"> 透明塩ビ、乳白塩ビを電飾用途で使用する場合、このメディアプロファイルを使います。 高濃度モードのプロファイルのみを用意しています。 「高画質 高濃度」モードの使用を推奨します。 <p>より高速なモードのプロファイルも用意していますが、インク量が多いため巻取り時のブロッキングが発生しやすくなります。</p> <p>事前にお使いのメディアで評価を十分おこなってから使用してください。</p> |
| 5_BltBanner1 5_ 電飾ターポリン 1 | <ul style="list-style-type: none"> 電飾ターポリンを使用する場合、このメディアプロファイルを使います。 高濃度モードのプロファイルのみを用意しています。 「高画質 高濃度」モードの使用を推奨します。 <p>より高速なモードのプロファイルも用意していますが、インク量が多いため巻取り時のブロッキングが発生しやすくなります。</p> <p>事前にお使いのメディアで評価を十分おこなってから使用してください。</p> |
| 6_BlueBack1 6_ ブルーバック 1 | <ul style="list-style-type: none"> ブルーバックペーパーを使用する場合、このメディアプロファイルを使います。 一般に溶剤用コート紙は乾燥しにくいので、このメディアプロファイルではインク量を抑えめにしています。 標準プロファイルの中では、最もインク量を抑えたメディアプロファイルです。 <p>「1_ 光沢塩ビ 1」、「2_ 光沢塩ビ 2」、「3_ ターポリン 1」では乾燥せず巻き取れないメディアの場合、このメディアプロファイルをお試しください。</p> |

また製品に添付されている M-64s 用標準プロファイルには、1 種類のメディアに対し、Vivid と Natural の 2 種類のプロファイルを用意しているものがあります。

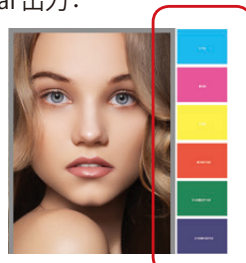
2 種類のプロファイルとクイックセットの組み合わせで、2 通りの色彩表現を簡単に実現します。(詳細は P.54 へ)

Vivid 出力:



B ベクターオブジェクトをカラーマネジメント無しで印刷すると、ビビッドな色味、ソリッドなベタ塗りが可能です。

Natural 出力:



ベクターオブジェクトもビットマップと同じカラーマネジメントを提供する印刷方法です。

注意!

Vivid 出力には、Vivid プロファイルを使う必要があります。

16ビットレンダリングと8ビットレンダリング

グラデーションの処理の精密さに関する設定です。16ビットで処理するとグラデーションをきれいに印刷できますが、RIP時間は8ビット処理に比べ長くなります。またグラデーションの無いデータを16ビット処理しても、RIP時間がかかるだけで画質は向上しません。

したがって、データにグラデーションがあるかどうかを自動的に判別する「スマート16ビット」の使用をお奨めします。

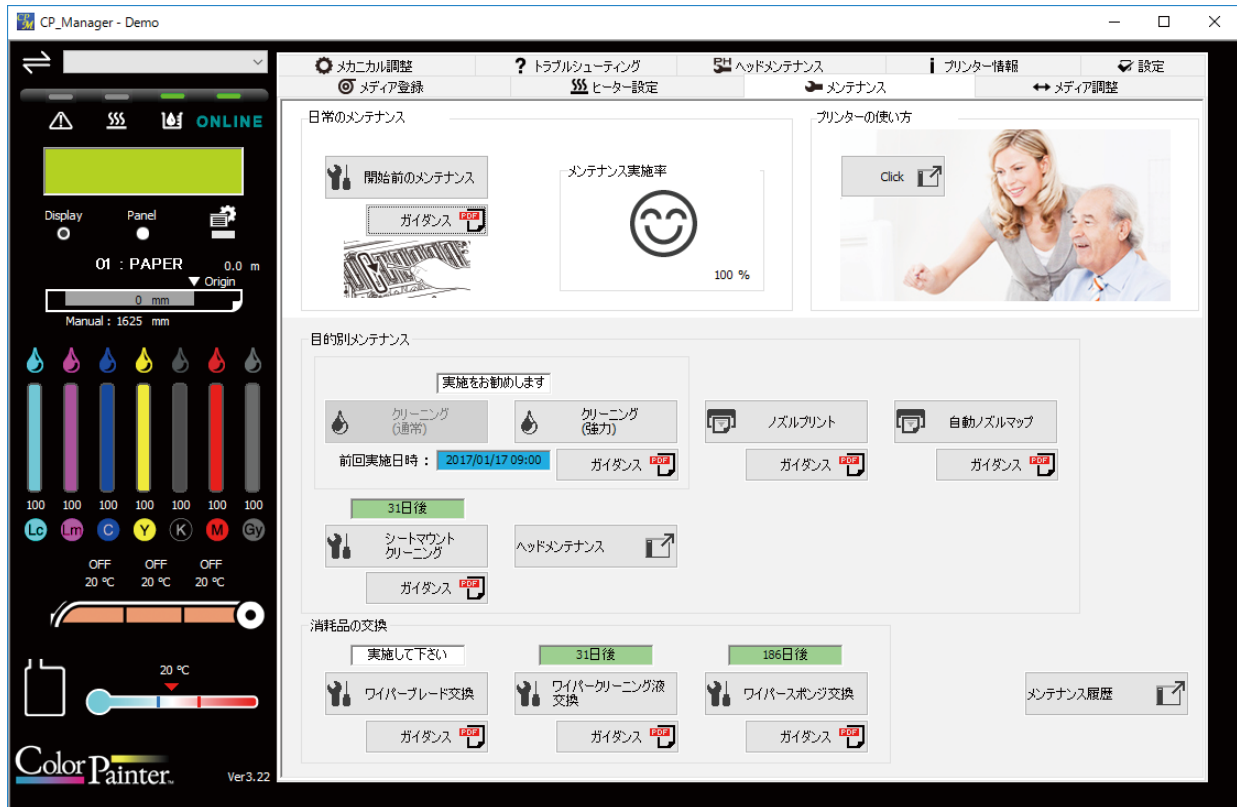
| | |
|-------------------------|--|
| 8ビット処理 | 処理は高速ですが、グラデーションのハイライト部分が滑らかに表現されない場合があります。 |
| スマート16ビット処理 (デフォルト値) | グラデーションを含むジョブのみ16ビットで処理します。 その他のジョブは8ビットで処理します。 |
| 16ビット処理 | ジョブを16ビットで処理します。 |

CP_Manager について

CP_Manager は、PC にインストールしてプリンターをコントロールするソフトウェアです。

CP_Manager を使えば、欲しい情報にすぐにたどり着け、分かりやすく操作することが可能です。

プリンター付属の Utility CD-ROM にインストーラ・取扱説明書が収録されていますので、是非ご活用ください。



付 録

OKI

ONYX®
rip



OKI Edition

輪郭カットワークフロー

Ripcenter™ 19

目次

| | |
|------------------------------|----|
| 輪郭カットとは..... | 1 |
| カットパスの定義..... | 2 |
| RIP-Queue の設定..... | 6 |
| Job Editor を使用しての輪郭カット..... | 11 |
| CUT-Server..... | 13 |
| レイヤーの使用..... | 23 |
| イメージを再印刷せずにカットファイルを生成する..... | 30 |
| CUT-Server でカットのみを使用する..... | 31 |
| トラブルシューティング..... | 34 |
| 用語..... | 35 |
| 実際のカット作業..... | 36 |

はじめに

この文書では、ONYX19 の輪郭カット機能に関するワークフローについて説明します。

輪郭カットとは

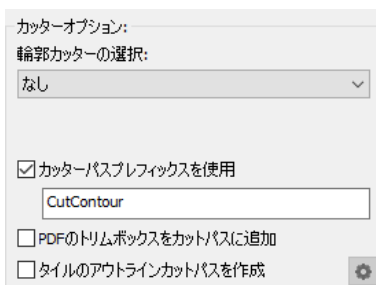
輪郭カットとは、画像ファイルをプリンターで印刷し、その印刷物のイメージやキャラクターなどをその輪郭に沿ってカッターデバイスを使ってカットすることを指します。（粘着メディアに漫画キャラクターのステッカーを印刷してカットするなど）

輪郭カットの概略ワークフローは以下のようになります。

1. イラストレーターなどで特色（スポットカラー）を使ってカットパス（⇒切り取り線）を描いた画像ファイルを作成します。
2. RIP-Queue でこの画像ファイルをプリンターに印刷します。
3. RIP-Queue が印刷を開始すると同時にカットファイルが生成され、CUT-Server にカットファイルが送信、保存されます。
4. 印刷物をカッターデバイスにセットし、カッターデバイスに必要な操作・設定を行います。
5. CUT-Server からカッターデバイスにカットファイルを送信し、印刷物をカットします。

参考）ONYX RIP はどのようにカットパスを認識（検出）しているか？

- ONYX RIP は画像ファイルの特別な名前が付けられた特色をカットパスとして認識（検出）します。カッターデバイスがどこをカットすべきかを定義できるようにするものが、この特色（の名前）になります。ONYX RIP は PDF、EPS、PS といったベクターファイルを RIP-Queue で開くときに、特色の有無・名前をチェックします。
- 特色に指定する名前は、RIP-Queue で指定するカッターパスプレフィックスの名前と一致させる必要があります。ONYX RIP はデフォルトではプレフィックス（接頭辞）が“CutContour”で始まる特色を探します。



このプレフィックス（接頭辞）はユーザがカスタマイズすることもできます。

- 特色の名前がカットパスのプレフィックス（接頭辞）で始まる場合、その色を使っているすべてのパスはイメージから引き出され、輪郭カットファイルを定義するために使用されます。RIP-Queue は特色をカットパスとして処理することにより、カッターデバイスのためのカットファイルを作成し、そのファイルを CUT-Server に送信します。
- 複数の特色を使用することにより、それらを異なるカット方法の指定に使用することができます。このとき、複数の特色名は全て同じプレフィックス（接頭辞）で始まる必要があります。例えば、「CutContour A」と「CutContour B」の2つの特色があるイメージの場合、ONYX RIP は両方のカラーをカットパスとして見なします。カットファイルは2つの異なる名前を区別し、CUT-Server でこれを反映します。

Adobe Illustrator でカットパスを定義する

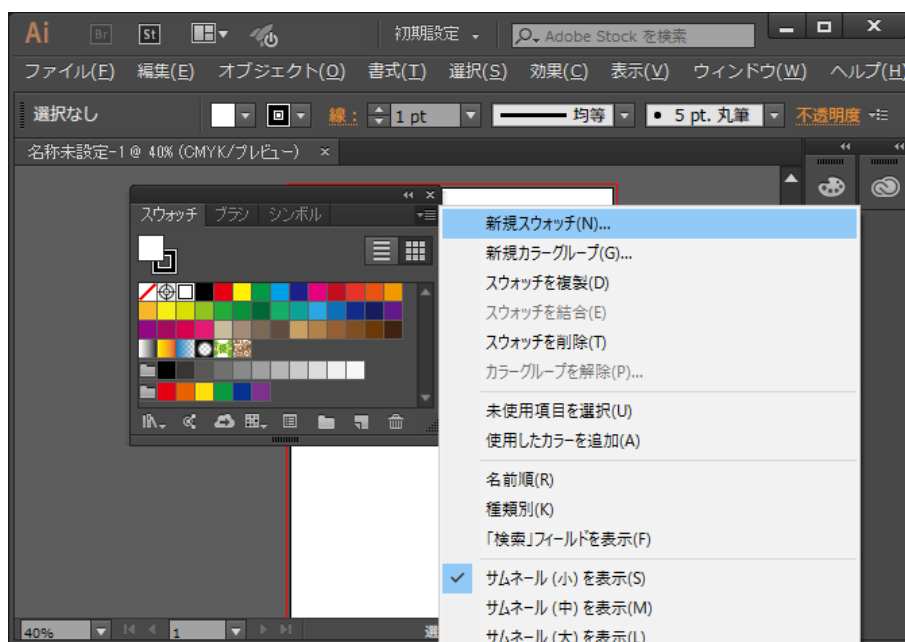
ここでは Adobe Illustrator を使って説明しますが、Corel DRAW など他のドローイングソフトも類似したステップとなります。

カットパスの定義

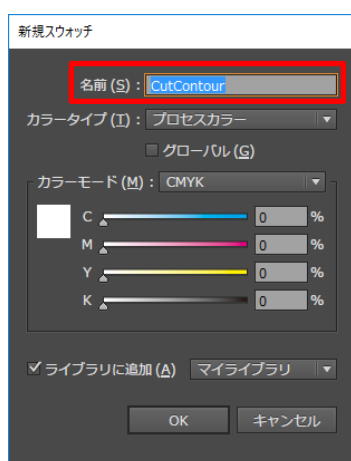
輪郭カットの画像ファイルをデザインする最初のステップは、特色を作成することです。

Adobe Illustrator でカットパスに特色を指定するには：

1. [スウォッチパレット]を開きます。[スウォッチパレット]が見当たらない場合は、「ウィンドウ」メニューから[スウォッチ]を選択します。
2. 二次メニューを表示するために[スウォッチパレット]の右上コーナーの矢印をクリックし、「新規スウォッチ」ダイアログを表示して[新規スウォッチ]を選択、もしくはスウォッチのツールバーで[新規スウォッチ]のアイコンをクリックします。



3. 「新規スウォッチ」ダイアログで、「輪郭カット」に使用するスウォッチカラーの名前を入力します。



名前は RIP-Queue で定義したプレフィックス(接頭辞)で開始する必要があります。

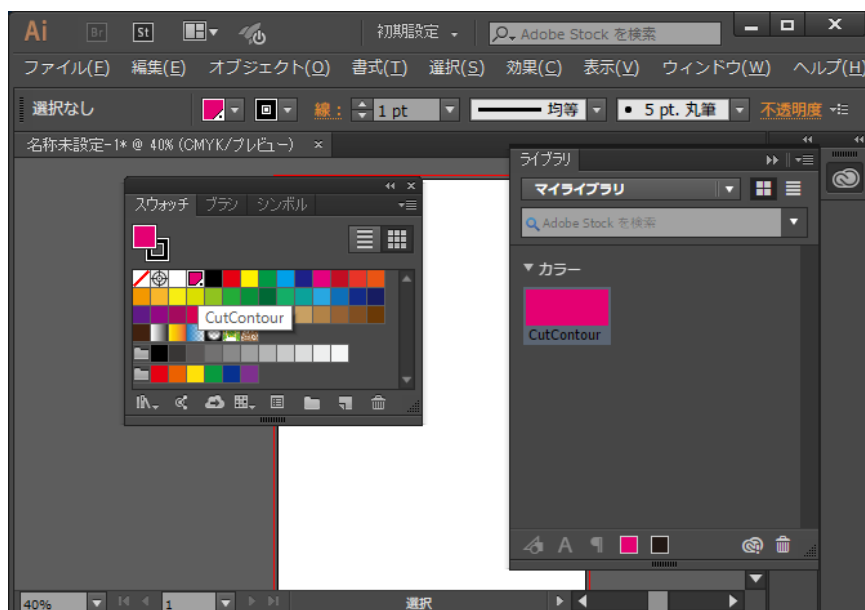
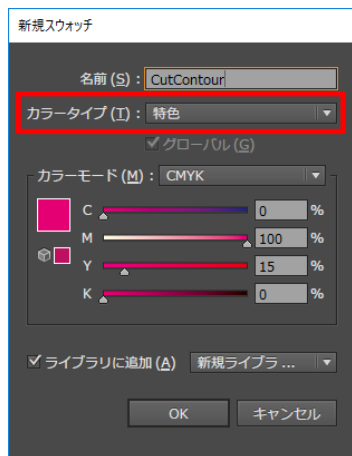
1つの特色だけを使用する場合、名前はプレフィックスのみとなります。(ONYX RIP のデフォルトは“CutContour”) 同じプレフィックス(接頭辞)を持つ複数の特色を使用することによって、カットパスの種類(カッターデバイスの設定)を分けることができます。

4. [カラータイプ]ドロップダウンメニューから「特色」を選択します。

CMYK カラーの作成にはスライダーバーを使用します。

なお、ここで指定する CMYK カラーは、モニターでプレビュー表示する際に用いる色を定義します。

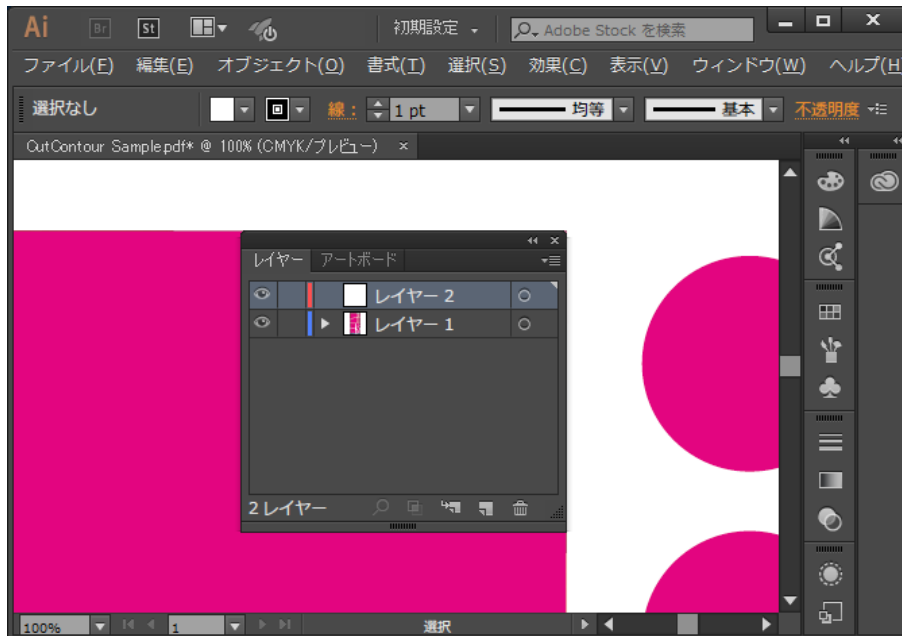
※ RIP-Queue が画像ファイルを印刷する際に、この特色部分はイメージの他の部分と一緒に印刷されることはありませんので、RIP-Queue 上で確実に認識できるように、容易に識別できる色にすることをお奨めします。(RIP を実行する際に、パス検出に問題があった場合に見やすくします)



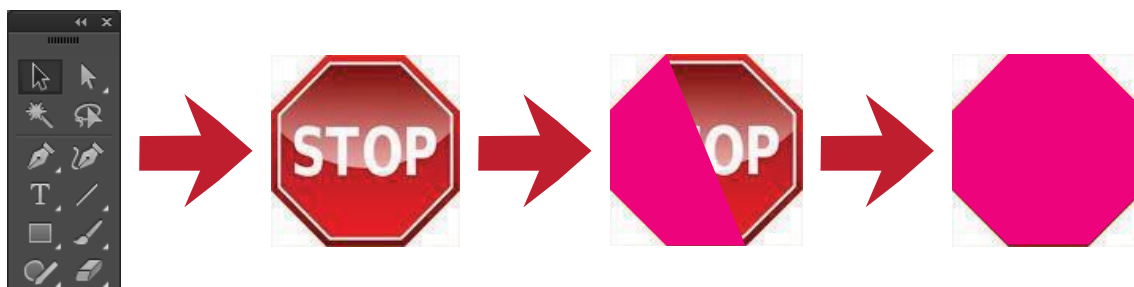
5. [OK]をクリックして「新規スウォッチ」ダイアログを閉じます。

Adobe Illustrator でカットパスを定義するには:

1. Adobe Illustrator で希望するファイルを開きます。
2. 新規レイヤーを作成し(ウィンドウ > レイヤー > 新規レイヤー)、レイヤーを選びます。



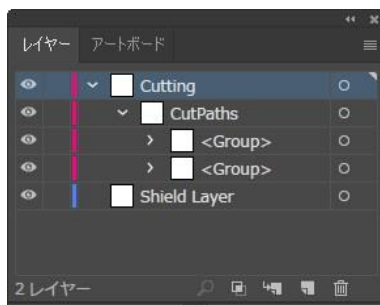
3. 長方形/楕円、ペン、またはペンシルツールを使ってカットパスを描きます。
塗り、またはアウトラインとして特色を指定するので、すべてのパスが閉じていることを確認します。



※ 最終出力ファイルが EPS の場合は、[線(ストローク)]ではなく[塗り]を使用します。
PDF の場合も[塗り]を使用します。([線(ストローク)]を使用すると不具合を起こしやすいため)

イメージにカットパスを追加した後、カットパスオブジェクトを一番上のレイヤーもしくはオブジェクト順に移動します。理想的には新規レイヤーを作成してこれを一番上のレイヤーに移動し、すべてのカットパスオブジェクトを新規レイヤーに配置します。

1. 「レイヤー」ウィンドウで[新規レイヤーを作成]ボタンをクリックし、名前を付けます。
2. 「レイヤー」ウィンドウのファイルで、すべてのカットパスオブジェクトを選択します。
3. すべてのカットパスオブジェクトを新しいレイヤーにドラッグします。



- カットパスオブジェクトを残りのイメージよりも上に置くことによって、カットパスの検出時に発生する潜在的な不具合を防ぐことができます。
- カットパスがどこにあるかによって、新しいレイヤーにカットパスオブジェクトを追加できない場合があります。カットパスがアートワークで遮られていない場合、カットパスは問題なく検出されます。
- デフォルトでは、EPS ファイルはイメージのアートボードサイズを配慮しませんが、アートワークがある場所は配慮します。Illustrator では「保存」ウィンドウに[アートボードを使用]のチェックボックスがあります。このオプションは、ファイルタイプを EPS に設定する際に利用可能となります。アートボードサイズを配慮する必要がある場合に、このボックスにチェックを入れます。

カットパスに「線」を使用した場合



カットパスに塗りを使用した場合



- PDF はアートボードのサイズが配慮されます。理想的には、ジョブを PDF のバージョン 1.6 以降で保存します。

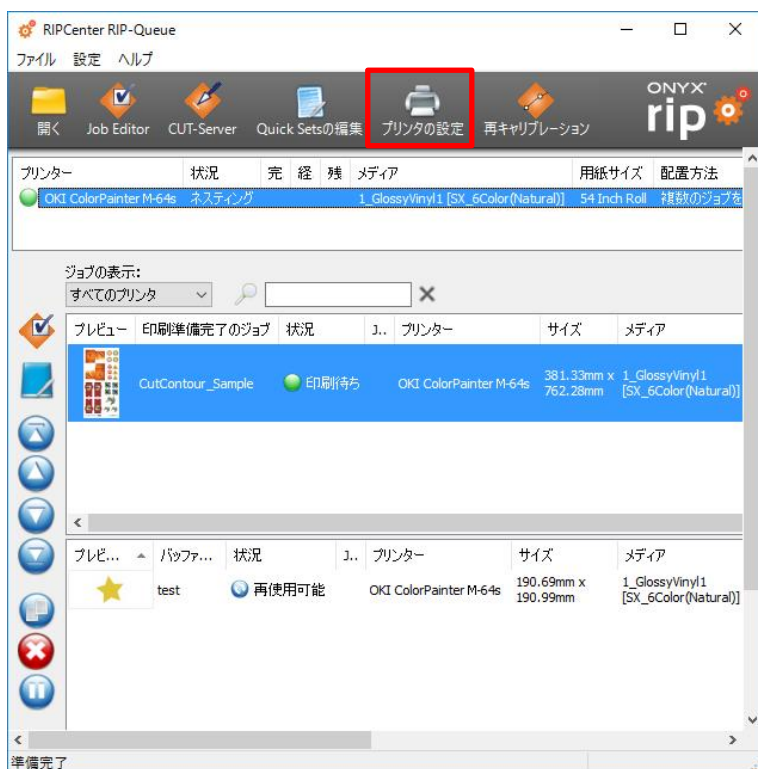
RIP-Queue の設定

輪郭カットファイルを印刷する前に、既存のクイックセットを変更、または新しいクイックセットを作成する必要があります。
(Job Editor を使用して手動で行うこともできます)
このとき、クイックセットで有効にしなければならない設定が 2 つあります。

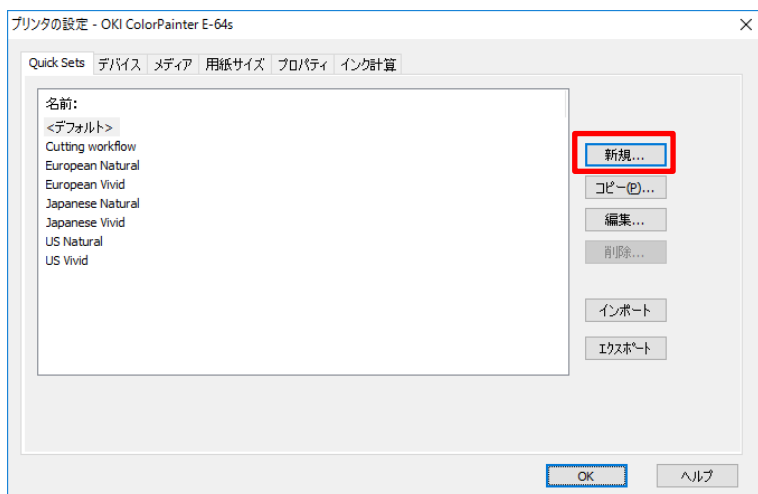
- ・ カッターパスプレフィックスの設定
- ・ 輪郭カッターの選択

輪郭カットの新規クイックセットを作成するには:

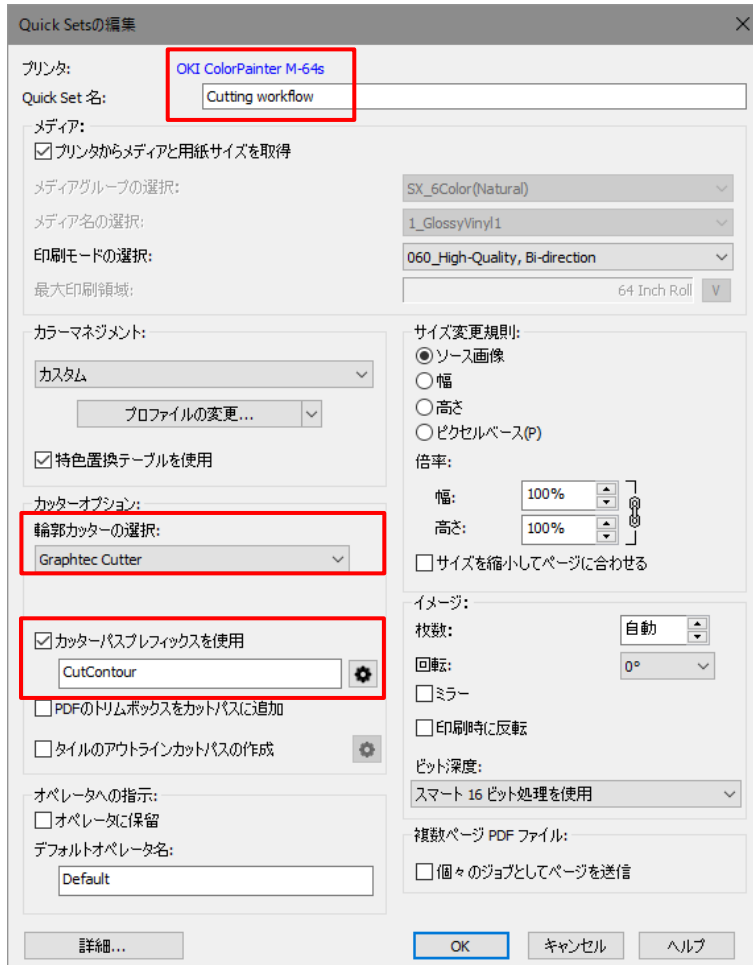
1. RIP-Queue で使用するプリンターをハイライトし、「プリンタの設定」をクリックします。



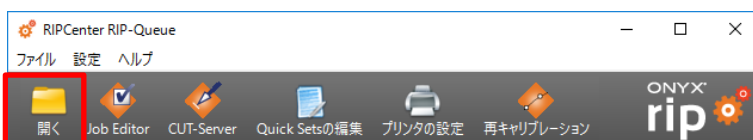
2. 「プリンタの設定」ダイアログで、クイックセットタブの右横にある[新規]をクリックします。



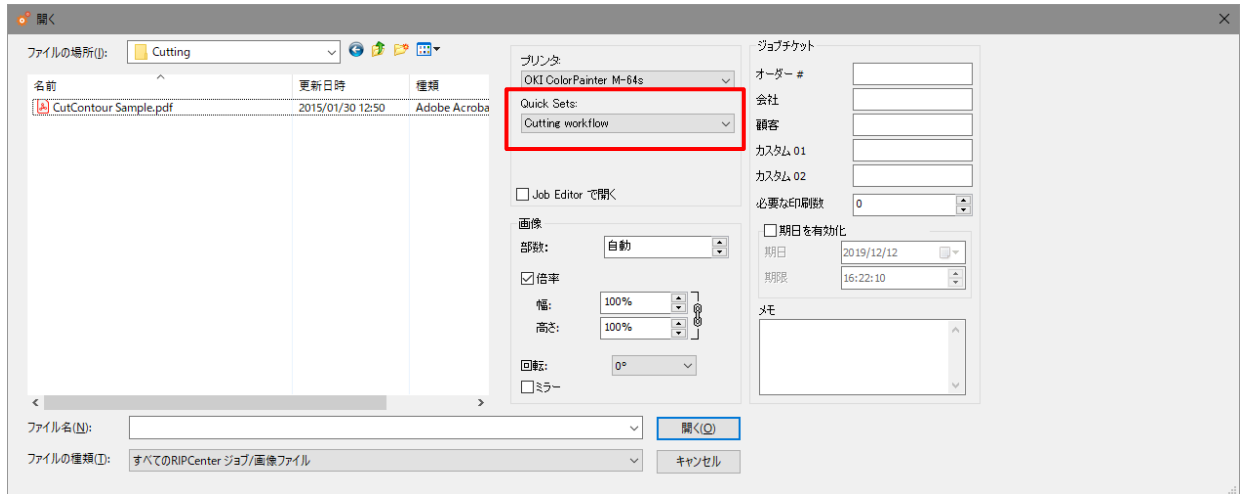
3. [カッターパスプレフィックスを使用]のボックスにチェックを入れます。



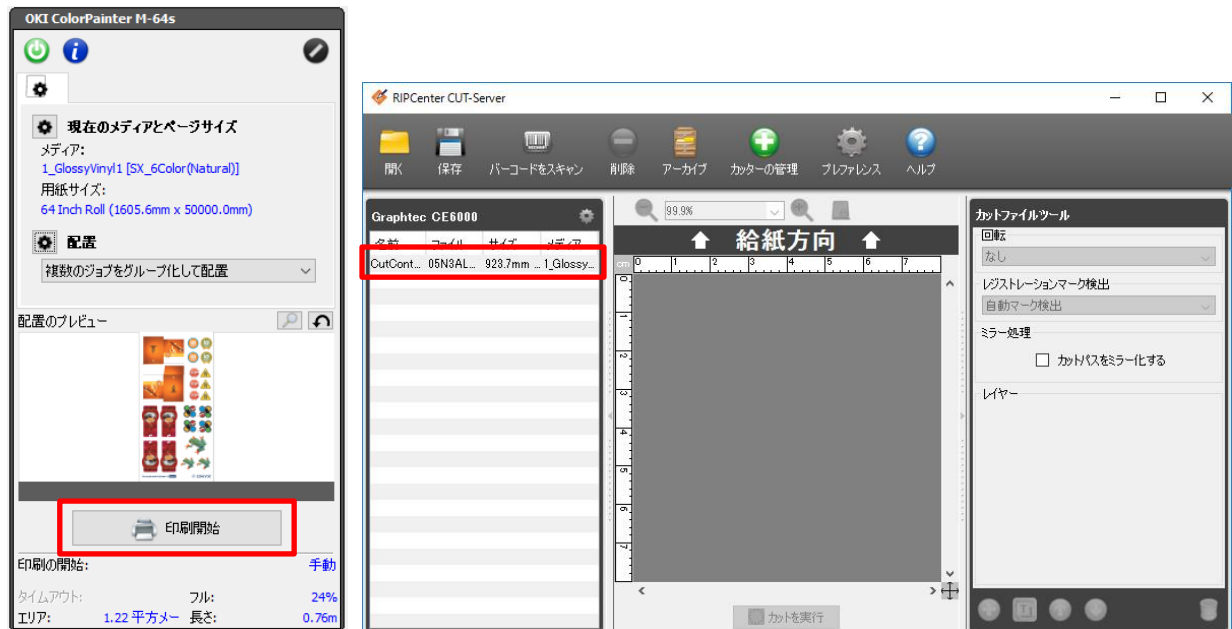
4. テキストボックスにイラストレーター等でカットパスに指定した特色のプレフィックス(接頭辞)名を入力します。
- ONYX RIP が画像ファイルにある特色を見る際に探すプレフィックス(接頭辞)の名前となります。
 - 必要に応じてデフォルトの[CutContour]から名前を変更します。
 - ここで指定したプレフィックス(接頭辞)から名前が始まる限り、カットパスに指定した特色はどのような名前でも付けることができます。
5. [輪郭カッターの選択]ドロップダウンメニューで、使用するカッターデバイスを選択します。
(ここでは“Graphtec Cutter”としています)
6. クイックセットの設定が完了したら、名前を付けて保存します。
(ここでは“Cutting workflow”としています)
7. ツールバーの「開く」ボタンをクリックしてジョブを選択します。



8. ジョブを開く前に新しいクイックセットが選択されていることを確認します。

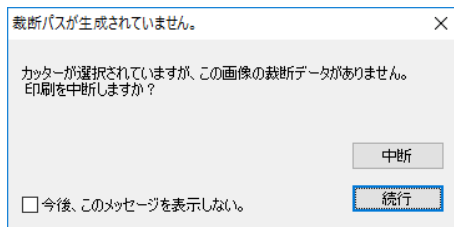


9. ジョブが RIP されたら、プリンターへ印刷を行います。



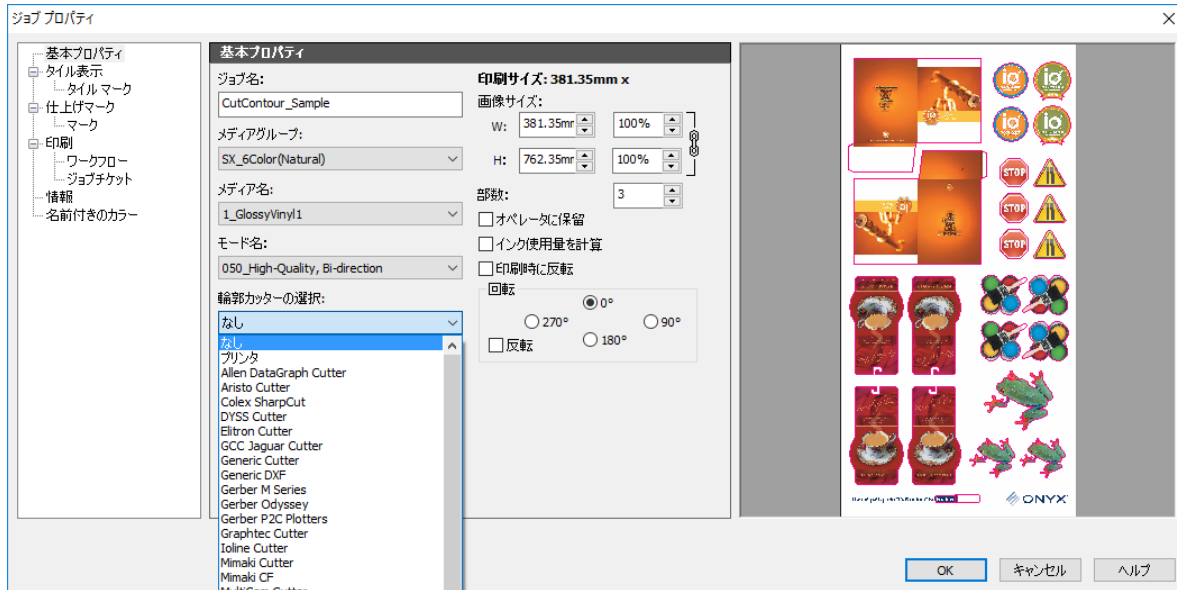
※ CUT-Server 用のカットファイルは、プリンターへの印刷開始後の初期段階で作成されますが、印刷時に必ずしも CUT-Server を起動しておく必要はありません。(カットファイルはホットフォルダに自動保存されます)
印刷開始後に CUT-Server を起動すると、作成されたカットファイルがカッターデバイス名の下に表示されます。

参考) カットパスが存在しない画像ファイルで輪郭カッターを選択して印刷を行うと、以下のようなメッセージが表示されます。



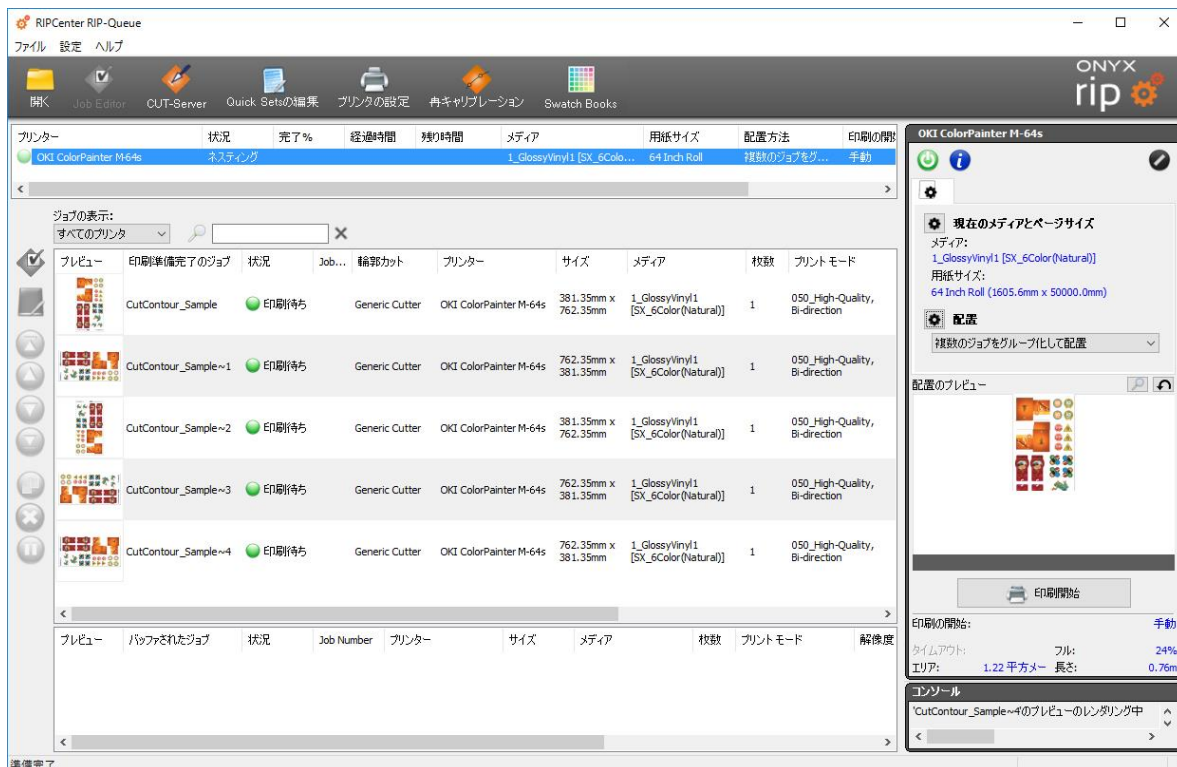
カッター設定の変更:

ジョブを右クリックして「ジョブ プロパティ」を選び、印刷ジョブのカッターデバイスの割り当てを変更することができます。ジョブ プロパティダイアログで新規カッターを選択、もしくは「なし」を選んでカッターマークをオフにすることができます。



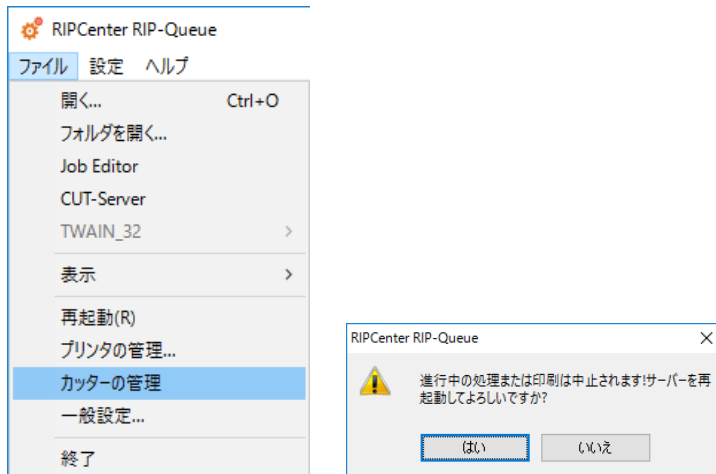
カッターを割り当て、ジョブをネストする:

「ジョブをネスト」が可能になるのは、同じカッターデバイスの割り当てがされているジョブのみになります。

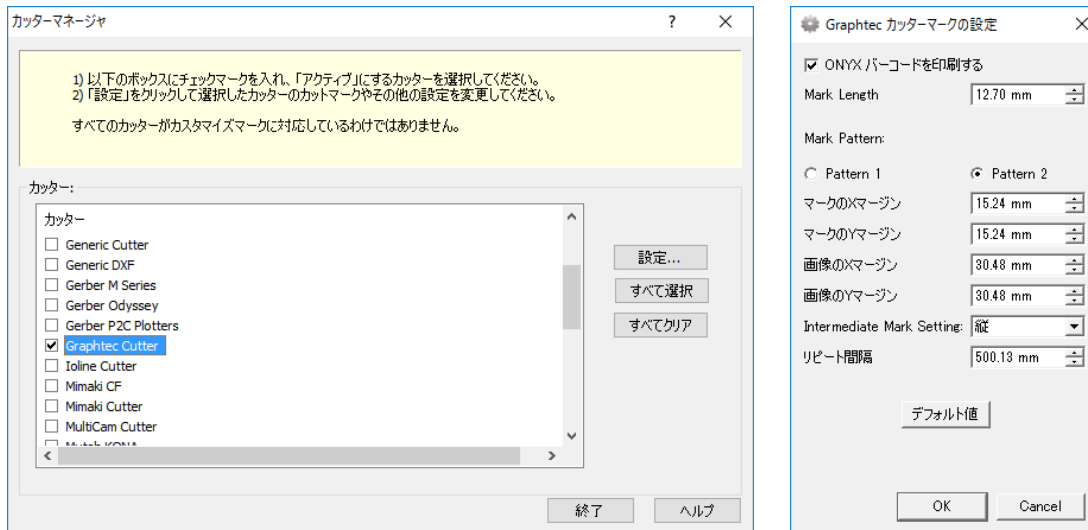


カッターマークの設定:

1. RIP-Queueの「ファイル」メニューから[カッターの管理]を選択し、[はい]をクリックしてサーバをシャットダウンします。



2. 使用するカッターデバイスを選択し、[設定]をクリックします。(ここでは“Graphtec Cutter”としています)カッターデバイス、また、どのカッターマークを使用するかによって、使用できるオプションは異なります。ここで **ONYX バーコードの印刷を無効にすることができます。**

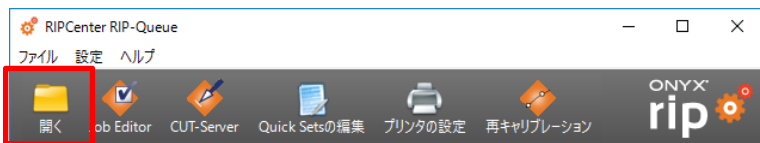


- ※ 使用するカッター以外のチェックを外しておくと、ジョブ プロパティや Job Editor の[輪郭カッターの選択]のプルダウンメニューのリストに使用するカッター以外は表示されなくなりますので、間違ったカッター(カッターマーク)を選択してしまうことを防ぐのに役立ちます。

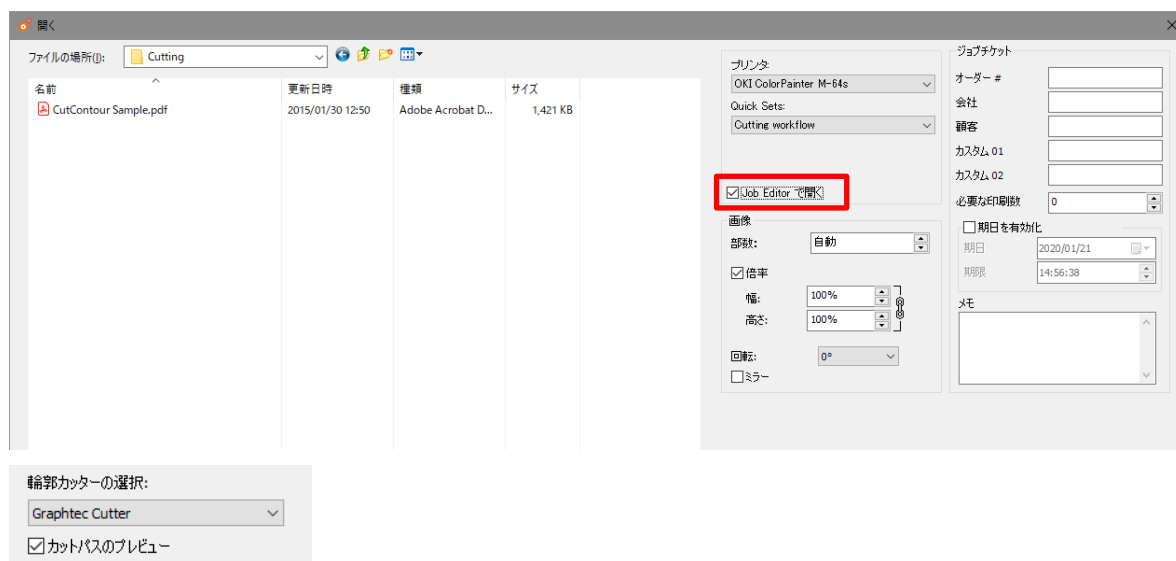
Job Editor を使用しての輪郭カット

RIP-Queue と同じステップを Job Editor を使用して手動で行うことができます。

1. RIP-Queue で「開く」をクリックします。



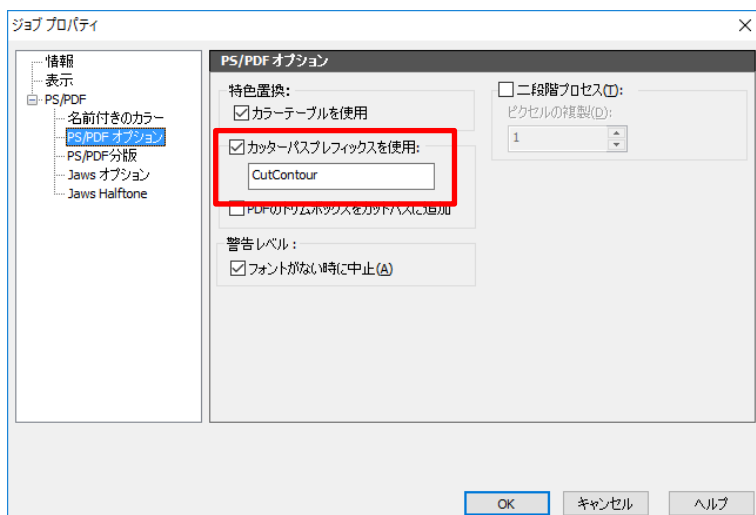
2. ジョブを選び、[Job Editor で開く]にチェックを入れて[開く]をクリックします。
3. [プリンターとメディア]タブで、[輪郭カッター]のプルダウンメニューからカッターデバイスを選択します。
(ここでは“Graphtec Cutter”としています)



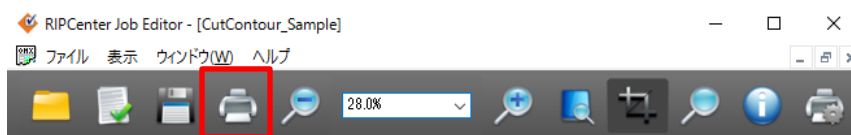
4. 「ファイル」メニューで、[ジョブ プロパティ]を選択します。



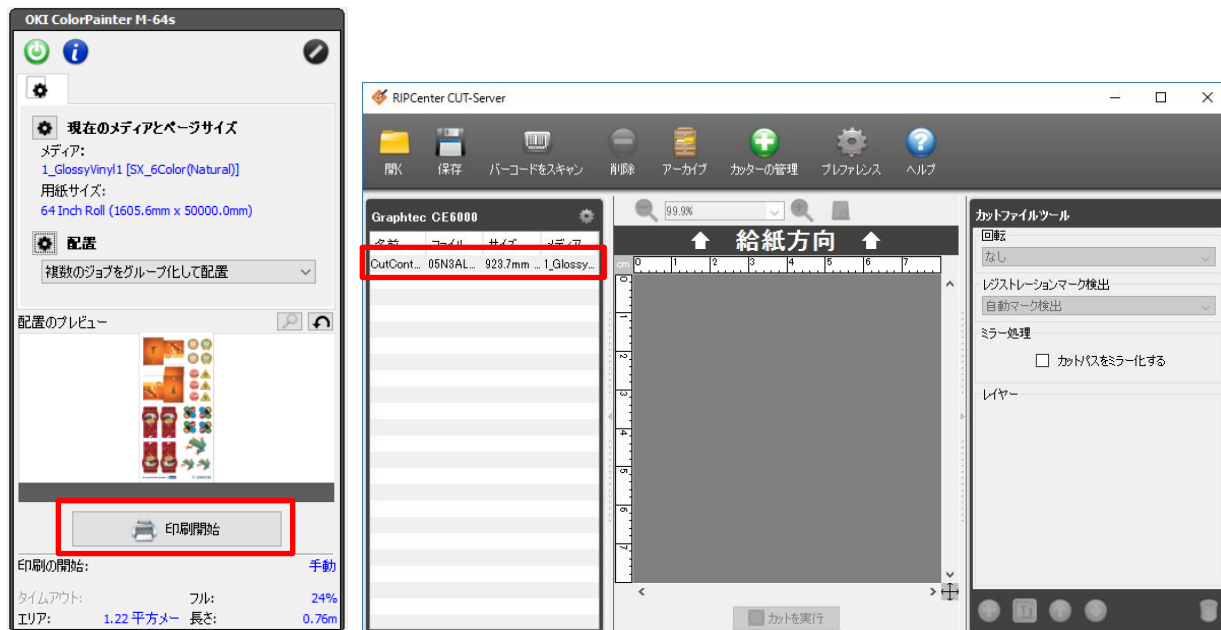
5. [PS/PDF オプション]を選び[ロカッターパスプレフィックスを使用]にチェックを入れます。



6. プレフィックスの名前(デフォルトは“CutContour”)を入力します。
7. [OK]をクリックします。
8. [送信]アイコンをクリックしてジョブを RIP-Queue に送ります。



9. ジョブが RIP されたら、プリンターへの印刷を行います。



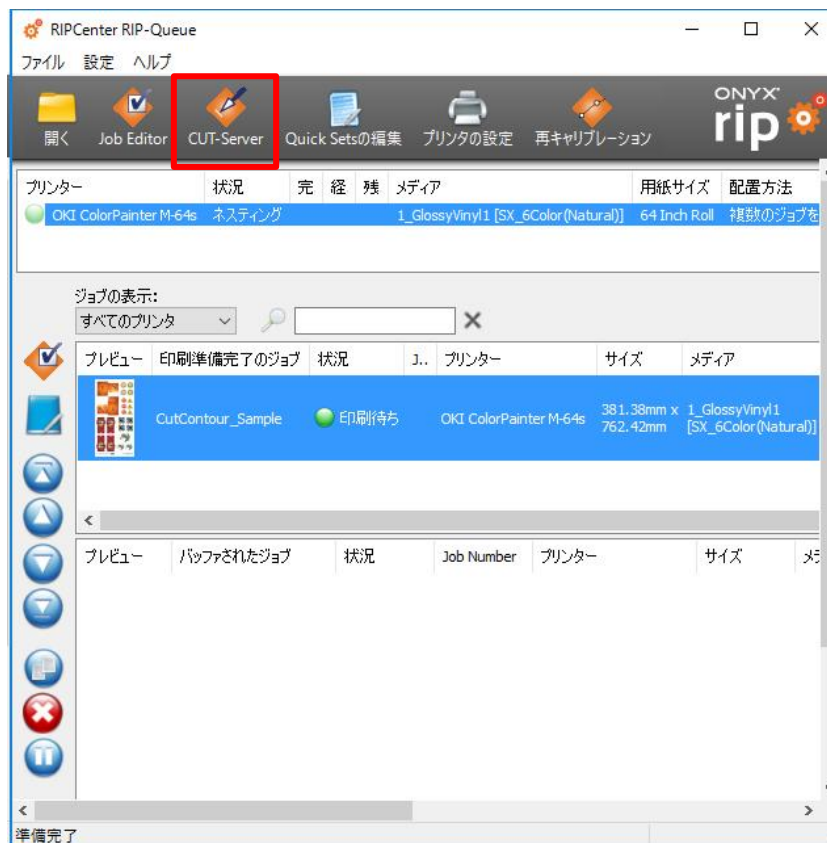
- ※ CUT-Server 用のカットファイルは、プリンターへの印刷開始後の初期段階で作成されますが、印刷時に必ずしも CUT-Server を起動しておく必要はありません。(カットファイルはホットフォルダに自動保存されます) 印刷開始後に CUT-Server を起動すると、作成されたカットファイルがカッターデバイス名の下に表示されます。

CUT-Server

CUT-Server は作成したカットファイルをカッターデバイスに送信するためのアプリケーションです。



CUT-Server は RIP-Queue のツールバーから、もしくは Windows のスタートメニューから起動します。



※ CUT-Server は USB ドングルなしで単独で起動することができます。

CUT-Server インターフェース:






CUT-Server のインターフェースは、4 つのセクションで構成されています:


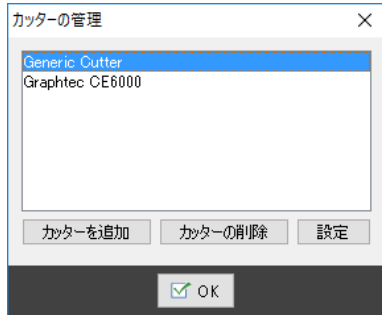


- ① ツールバー(画面の上部)
カットファイルを開くことができ、設定の修正および他の基本的な操作を実行することができます。
最初にアプリケーションを開始すると、CUT-Server が「カッターの追加」ダイアログを表示します。
- ② カットファイルエリア(画面の左側)
現在 CUT-Server で使用されている全てのカッターデバイスとカットファイルを表示します。
現在取り組んでいるファイルを選択してカッターエリアを使用することができます。
各カッターデバイスに対してウィンドウは別々に開きます
- ③ カットプレビュー(画面中央)
現在選択されているカットファイルのワイヤーアウトラインを表示します。
プレビューウィンドウの上部にあるズームボタンを使って拡大/縮小ができます。
- ④ カットファイルツール(画面の右側)
カットファイルを回転させるのに、「カットファイルツール」を使用することができます。
使用カッター設定を選び、カットレイヤーを設定します。



[ツールバー]には、次のオプションがあります。



| | |
|---|--|
|  <p>開く</p> | <ul style="list-style-type: none"> • ONYX RIP で生成したカットファイル、および SVG ファイルを開くために使用します。 • カットファイルを手動で開くには、ツールバーで「開く」をクリックしてカットファイルを参照します。認識されるカットファイルのファイル拡張子は「.xml」です。 • 使用するカットファイルがネットワーク、または他の場所で保存されている場合にこのオプションを使用します。 |
|  <p>保存</p> | <ul style="list-style-type: none"> • カットファイルリストでハイライトされているカットファイルに加えた変更を保存します。 |
|  <p>バーコードをスキャン</p> | <ul style="list-style-type: none"> • カットジョブの選択にバーコードリーダーを使用することができます。 • プリント出力のバーコードをスキャンすると、CUT-Server で正しいジョブが選択されます。 • 「バーコードをスキャン」を使って CUT-Server にカットファイルをインポートするには、 <ol style="list-style-type: none"> 1. メインツールバーにある「バーコードをスキャン」ボタンをクリックします。 2. フィールドにバーコードを入力、またはバーコードリーダーでバーコードをスキャンしてバーコードを入力します。 3. OK をクリックします。 <div data-bbox="432 927 740 1072" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>バーコードをスキャン</p> <p>バーコードを入力、またはスキャン:</p> <p><input type="text"/></p> <p><input type="button" value="OK"/> <input type="button" value="キャンセル"/></p> </div> |
|  <p>削除</p> | <ul style="list-style-type: none"> • ハイライトしたカットジョブを削除します。 |
|  <p>アーカイブ</p> | <ul style="list-style-type: none"> • CUT-Server を使用していると、カットファイル領域がカットファイルで混み合うようになります。古いカットファイルをアーカイブに送る（保存する）ことで、この領域をクリアにすることができます。CUT-Server のカットファイル領域から削除しても、アーカイブから復元することができます。 • カットをした後にカットファイルをアーカイブに自動的に送るには、初期設定 > ジョブ > カット後にジョブをアーカイブ をクリックします。 • アーカイブのダイアログには、カッターデバイス毎にカットファイル名がリストアップされます。ファイルを選び「ファイルを復元」をクリックすると、カットファイルエリアにファイルが復元され、再使用することができます。ファイルを選び「ファイルの削除」をクリックすると、アーカイブから削除されます。 <div data-bbox="395 1541 900 2047" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>アーカイブ</p> <ul style="list-style-type: none"> Graphtec Cutter <ul style="list-style-type: none"> 名前: CutContour_Sample ファイル: 0E069T9169S.xml 名前: test ファイル: 0K9QRVW169S.xml 名前: CutContour_Sample ファイル: 1L12ZX6169S.xml 名前: test ファイル: test.xml Generic Cutter <ul style="list-style-type: none"> 名前: CutContour_Sample.Printing ファイル: 0ETIMVA16AC.xml 名前: CutContour_Sample.Printing ファイル: 12LJQB16AC.xml <p style="text-align: center;"> <input type="button" value="ファイルを復元"/> <input type="button" value="ファイルの削除"/> </p> <p style="text-align: center;"><input checked="" type="button" value="開ける"/></p> </div> |

| | |
|--|--|
|  <p>カッターの管理</p> | <ul style="list-style-type: none"> カッターデバイスの追加、削除、また、設定を行います。 カッターウィンドウのデバイス管理セクションにカッターデバイスがリストアップされます。  <p>カッターの追加 新しいカッターデバイスを追加したい場合は、[カッターを追加] ボタンをクリックします。</p> <p>カッターの削除 カッターをリストから削除したい場合は、デバイスを選択して[カッターを削除]をクリックします。</p> <p>カッターの設定 カッターの設定を行いたい場合は、デバイスを選択して[設定]をクリックします。</p> |
|  <p>初期設定</p> | <ul style="list-style-type: none"> CUT-Server の追加の初期設定を行うことができます。(詳細は下記) ここには自動的にカットジョブをロードするための追加のホットフォルダの場所が含まれています。 |
|  <p>ヘルプ</p> | <ul style="list-style-type: none"> Web ブラウザを開き、ONYX のオンラインヘルプにアクセスします。 |

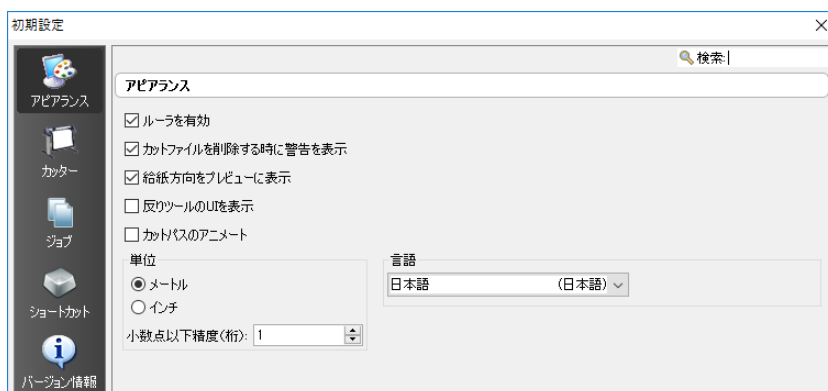


初期設定の詳細

- 初期設定は、アピアランス、およびアプリケーション機能をカスタマイズすることができます。
- アピアランス、カッター、ジョブ、ショートカット等を選ぶことができます。
- またアプリケーション情報を見るためにバージョン情報を選択することもできます。
- プレファレンスを設定するには、メインスクリーンツールバーの「初期設定」をクリックし、修正したいオプションを選択します。

① アピアランス

アピアランスは初期設定で表示される最初のダイアログです。
これらの設定を使用して、プログラムの一般的な表示を変更します。



- **ルーラーを有効**
このオプションは、ルーラーをプレビュー画面の上部および左側に表示します。
- **カットファイルを削除する際に警告を表示**
このオプションはカットファイルを削除する時に、確認のために警告メッセージとして表示します。

- **給紙方向をプレビューに表示**

このオプションは、プレビュー画面の上に給紙方向を示す矢印を表示します。
カットジョブを回転した場合、これはメディアの向きを示します。

- **カットパスのアニメート**

このオプションは、カットパスをアニメートされた点線として表示します。

- **言語**

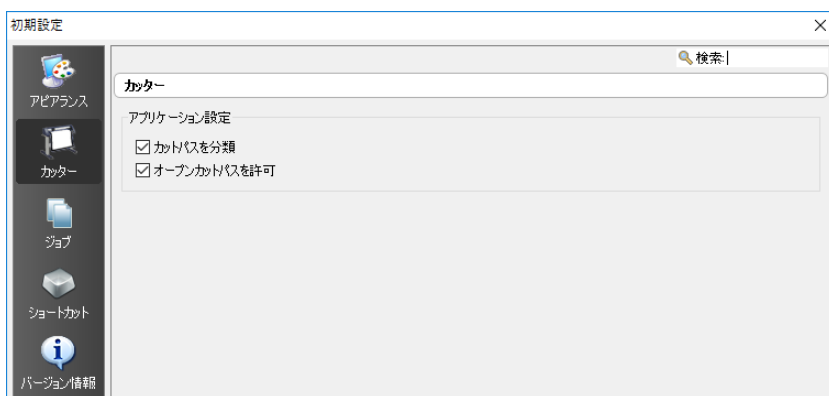
このオプションは、ユーザーインターフェイスの現在の言語を表示します。
ドロップダウンメニューを使用して、希望する言語を選択します。
変更を有効にするため、プログラムを再起動するよう促されます。

- **単位**

このオプションは、測定の単位を表示します。(メートルとインチでルーラーが変わります)

② カッター

カッターオプションを使って使用するカッターデバイスを管理することができます。



カッターウィンドウのアプリケーション設定で、「カットパスを分類」と「オープンカットパスを許可」のチェックボックスが表示されます。

- **カットパスの分類**

このオプションはデフォルトで有効にされています。

カット中にメディアのカット調整を低減する論理的な方法でカットパスの分類をすることにより、精密さと効率性を向上させます。

- **オープンカットパスを許可**

このオプションはカッターデバイスがオープンパスをそのまま残し、カッターの開始点に戻らないようにします。
これはカットパスを作成する時に、エラーのマーヅンを確保します。

③ ジョブ

ジョブを選択すると、アーカイブオプションとホットフォルダが表示されます。



アーカイブオプション

- **カット後にジョブに対して何もしない**

このオプションは、カットファイルを手動で削除するまでジョブリストのジョブをそのままにします。

ジョブを選択して右クリックメニューの「削除」、またはツールバーの「削除アイコン」を選択すると、ジョブリストのカットファイルを削除することができます。

- **カット後にジョブをアーカイブ**

これはジョブを自動的にアーカイブリストに移動します。

ジョブを選択し右クリックメニューの[アーカイブ]を選択すると、ジョブリストのジョブを手動でアーカイブすることができます。ツールバーの[アーカイブ]アイコンを使用して、アーカイブされたジョブを復元または削除します。

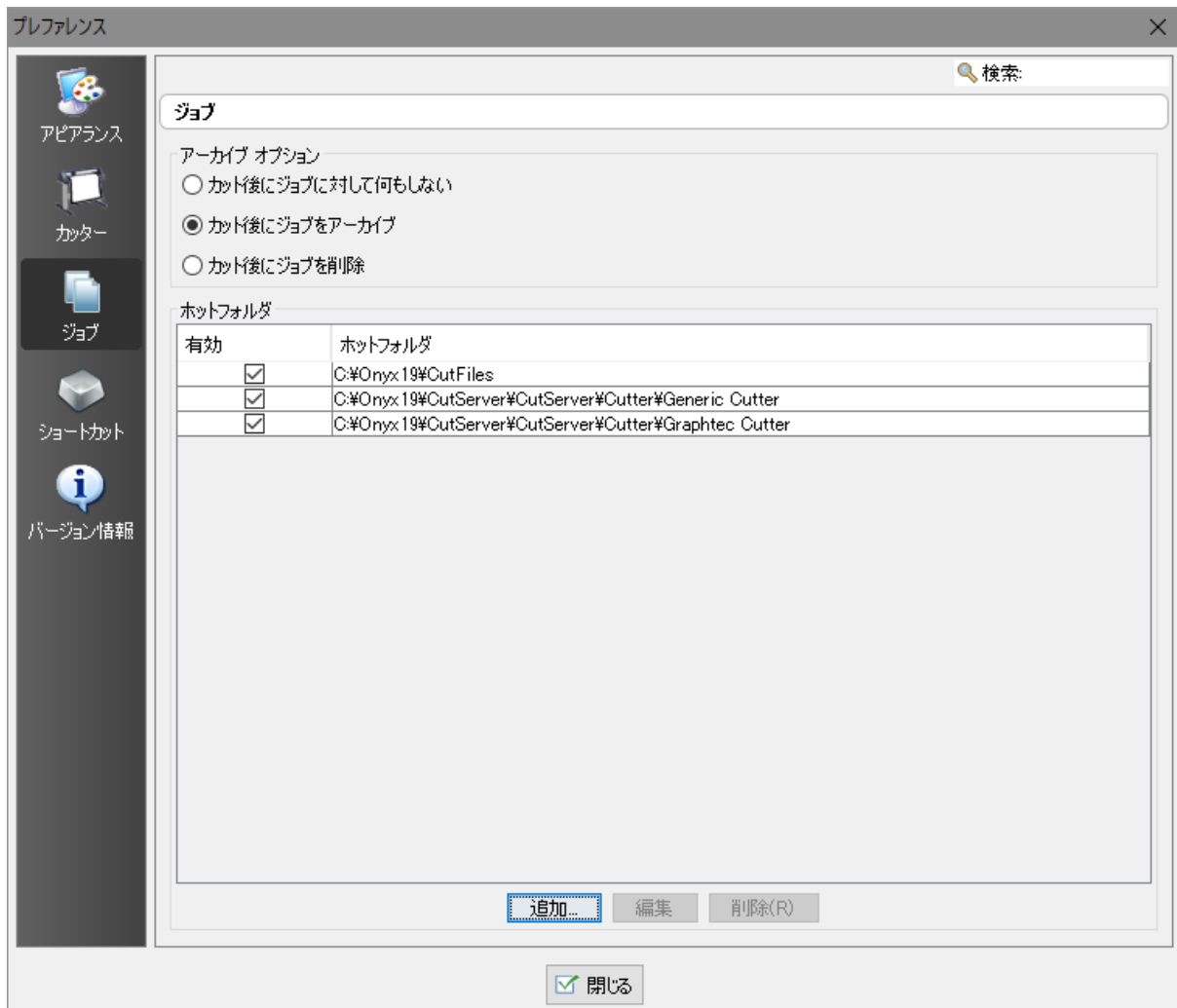
- **カット後にジョブを削除**

これはカット後にジョブをリストから削除します。

ホットフォルダ

CUT-Server はカッターホットフォルダを自動的に認識し、ネットワーク、または他のロケーションから[カスタムホットフォルダ]のリストを表示します。また、カットファイルを対象となるカッターデバイスのジョブリストに表示します。

RIP-Queue は画像ファイルを処理すると、カットファイルを作成して自動的に適切なカッター用のホットフォルダに保存します。



チェックボックスを使用してアクティブ ホットフォルダを有効にします。

- **追加**

CUT-Server がネットワークフォルダ、または、他の場所を認識できるように、カスタムホットフォルダを作成することができます。

カスタムホットフォルダを追加したい場合は、[追加]をクリックして場所を参照します。

ホットフォルダは無制限に追加することができ、また定義済みホットフォルダ内のカットジョブは全てジョブリストに表示されます。

- **編集**

リストのホットフォルダを編集したい場合は、リストをハイライトして選択し、[編集]をクリックします。

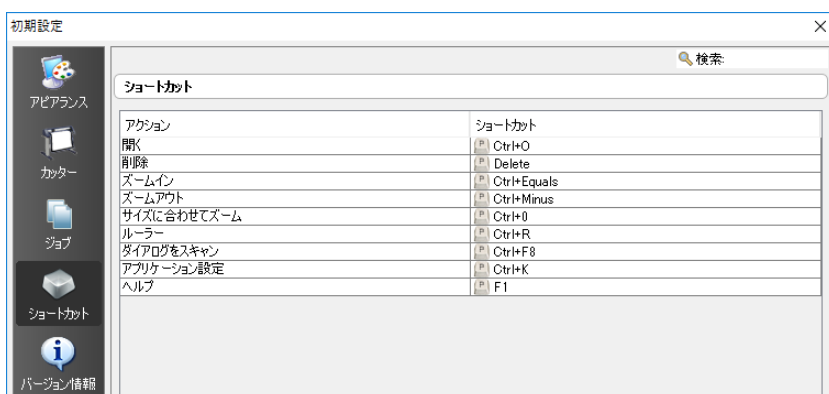
これで新しい場所を参照することができます。

- **削除**

リストのホットフォルダを削除したい場合は、リストをハイライトして選択し、[削除]をクリックします。

④ ショートカット

[ショートカット]アイコンを選択すると、ショートカットキーストロークを表示します。これらは表示されるのみで、編集することはできません。



⑤ バージョン情報

[バージョン情報]を選択すると、CUT-Server 情報を表示します。

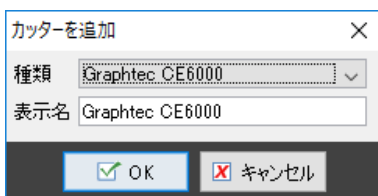


CUT-Server でカッターの追加と設定をするには:

1. CUT-Server の最初の起動時に、ドロップダウンメニューで使用するカッターデバイスを選択するように指示が出ます。



2. カッターデバイスを選択したら[OK]をクリックします。(ここでは“Graphtec CE6000”としています)

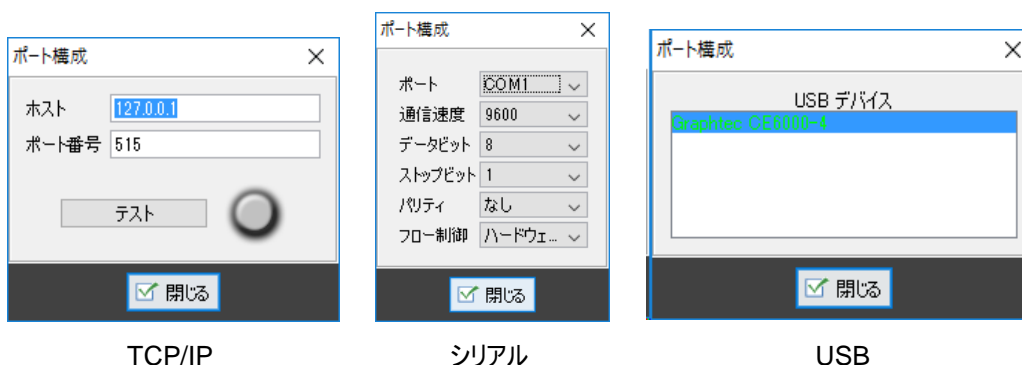


3. [ポート設定]で使用する接続ポートを選択して[設定]をクリック、選択したポートに応じた設定を行ったら[閉じる]をクリックしてダイアログを閉じます。
(USB で接続する場合、デバイスリストが表示されます。カッターデバイスを選び、[閉じる]をクリックします)



- ※ 自動転送
自動転送を有効にした場合、カットジョブが Queue に届くとすぐに自動的にカットされます。
いったんカットされると、ジョブはアーカイブされます。

- TCP/IP 用の IP アドレスの設定
- シリアル用の正しい COM ポートを設定
- カッターデバイスが USB 用に認識しているかを確認



TCP/IP

シリアル

USB

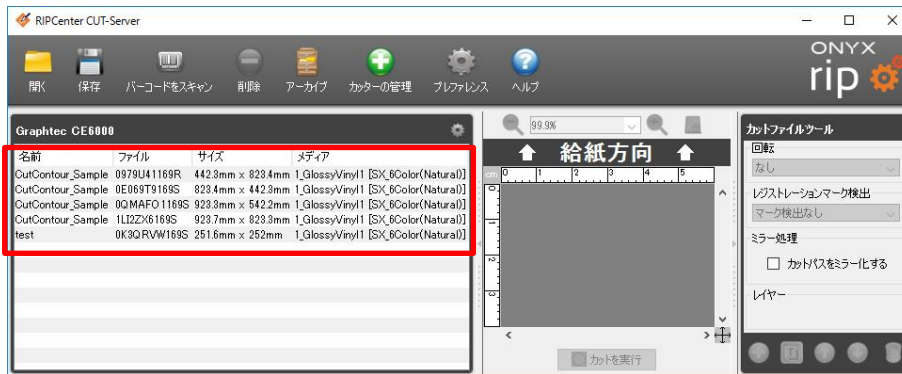
[ポート設定]の中には、使用するカッターデバイスによって[裁断ジョブの設定]や[裁断レイヤの設定]など、ナイフ圧、ナイフ速度、使用するツール等のようなオプションを定義するプリセットがあります。利用できるオプションは使用するカッターデバイスによって異なりますので、必要に応じて適切な設定を追加します。



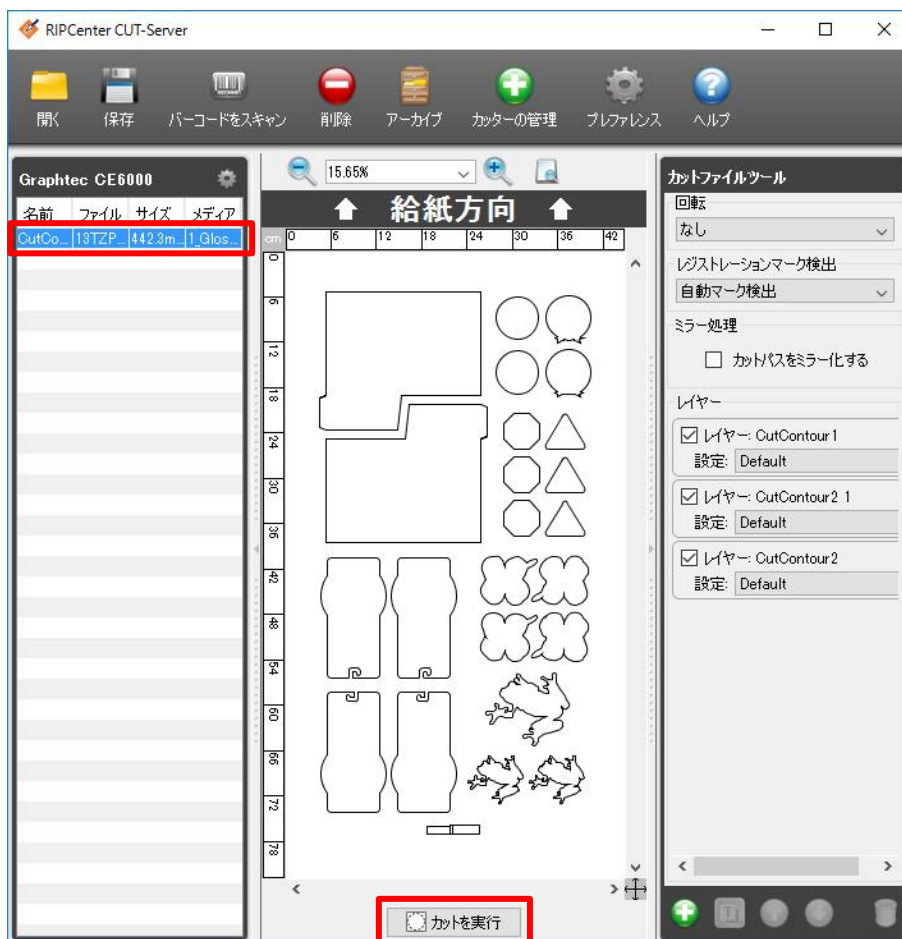
4. 使用するカッターデバイスの名前がウィンドウの左側に表示されます。



5. 画像ファイルを RIP-Queue で印刷すると、CUT-Server ウィンドウの左側の cutter デバイス名の下に、カットファイルが自動的に表示されます。(印刷することにカットファイルが蓄積されていきます)



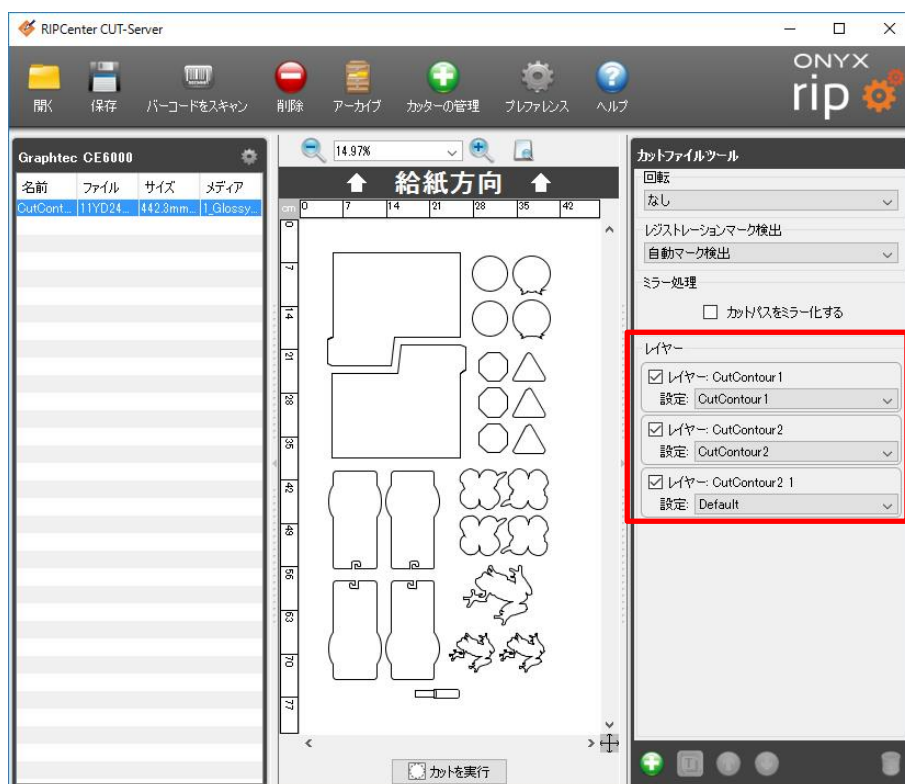
6. カットファイルを選び、[カットを実行]をクリックします。
データが送信され、cutter デバイスが起動します。
データが処理された際に、cutter デバイスによってはユーザの操作が必要になる場合があります。



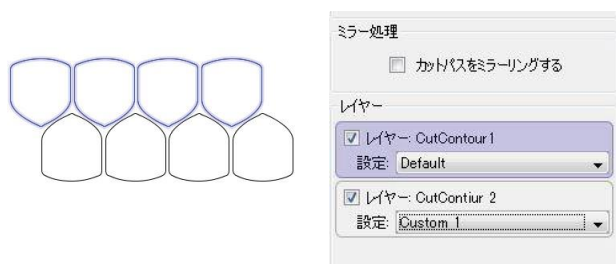
CUT-Server のメインウィンドウで作成したすべてのカットジョブは、左側に投入されます。これには回転、レジストレーションマーク検出、cutter 設定などを含むことができます。どのオプションが利用できるかは、使用する cutter デバイスによって異なります。

レイヤーの使用

CUT-Server のウィンドウ右側の「カットファイルツール」の下半分は、「レイヤー」のセクションです。



- 各カットジョブには、少なくとも 1 つのレイヤーがあります。
デフォルトでは、1 つのレイヤーだけがカットジョブのために自動的に作成されます。
- 元のソースファイルや RIP-Queue アプリケーションの設定により、カットジョブは自動的に生成された複数のレイヤーを持つことがあります。
カットパスの定義に特色を 1 色以上使用する場合、CUT-Server はそれぞれの特色に対してレイヤーを作成します。
- [レイヤー]はカットパスを送信する順番を整理する方法を提供します。
トップレイヤーのパスが最初にカットされ、下のレイヤーのパスが続いてカットされます。
- [レイヤー]は「オン」または「オフ」にすることもできます。
これは [レイヤー] でパスを非アクティブにするだけで、パスは削除しません。
パスがカッターデバイスに送信されないようにするためには、[レイヤー]の横にあるチェックマークを外します。
これは「Through Cut」や「Kiss Cut」といった複数のカット設定を受け入れないカッターデバイスに役立ちます。



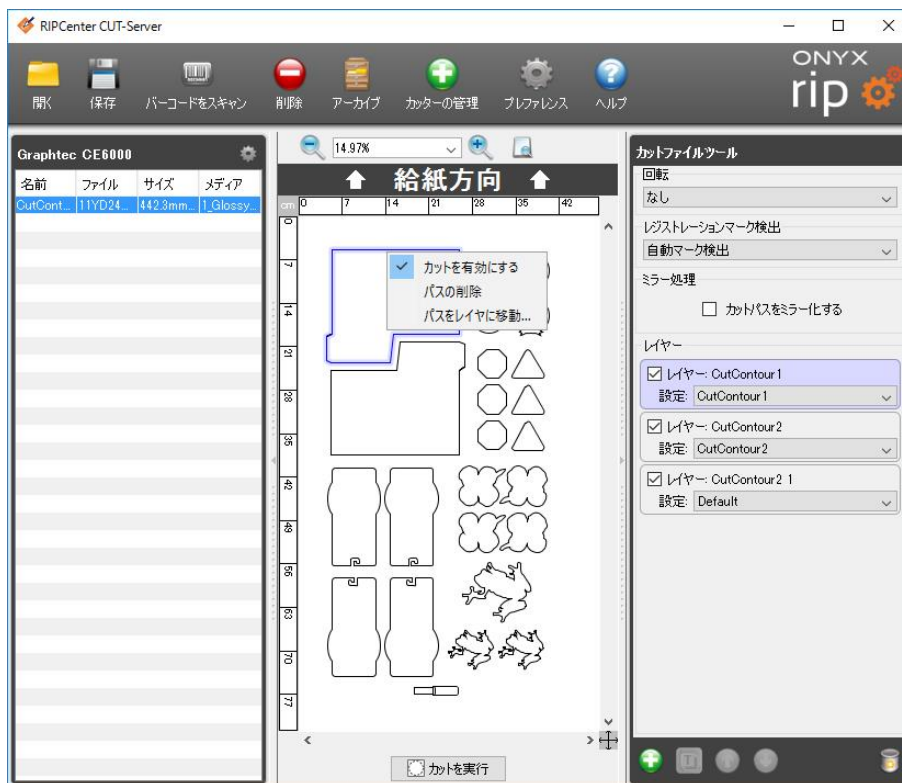
- 2 つの特色を「CutContour Kiss」や「CutContour Thru」といったパスの定義に使用している場合、カットジョブは 2 つのレイヤーをデフォルトに設定します。
- 最初の特色に定義したパスは最初のレイヤーに配置され、2 つ目の特色に定義したパスは 2 番目のレイヤーに置かれます。
- カスタム設定が特色と同じ名前を使用する場合、各レイヤーは特色名に基づいてカスタム設定を自動的に割り当てます。
言い換えると、レイヤーに特定の cutter 設定の選択を自動的にしたい場合は、カットレイヤーとして cutter 設定に同じ名前を付けます。
例えば、イメージに 2 つの特色「CutContour Kiss」と「CutContour Thru」があり、CUT-Server に同じ名前の「CutContour Kiss」と「CutContour Thru」がカスタム設定としてあるとします。



このとき、カットジョブを CUT-Server にロードすると、「CutContour Kiss」用のパスを含むレイヤーは同じ名前のカスタム設定が割り当てられ、2つ目のレイヤーは「CutContour Thru」を使用します。
 カットレイヤー名と一致するカッター設定の選択がない場合は、デフォルトのカッター設定がレイヤーに対して選択されます。

カットパスおよびレイヤーの管理:

パスを選択し、レイヤー情報パネルにドラッグしてカットパスを別のレイヤーに移動することができます。
 またパスの上で右クリックをしてレイヤーを割り当てることもできます。



パスがどのレイヤーに割り当てられているかを見るには、パスをクリックします。
 パスが割り当てられたレイヤー情報パネルがハイライトされます。
 またレイヤー情報パネルをクリックして、どのカットパスがレイヤーに割り当てられたかを見ることができます。
 レイヤーはレイヤー情報パネルにあるチェックボックスを使って有効、および無効にすることができます。

[レイヤー]セクションの一番下には、新しいレイヤーのコントロール、レイヤー名の変更、およびレイヤーの順序があります。

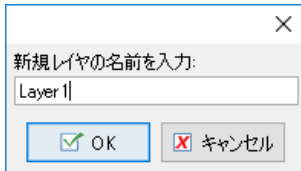


レイヤーの追加

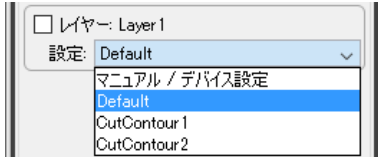
1. カットファイルツールパネルの下方にある「新レイヤーを追加」をクリックします。



- レイヤーに名前をつけ、OK をクリックします。(ここでは“Layer1”としています)



- 新レイヤーに「カッター設定」の選択を作成します。



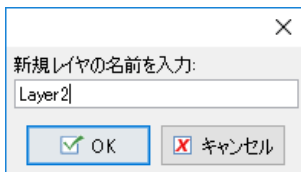
- 新レイヤーにカットパスを追加します。

レイヤー名の変更

- 名前を変更したいレイヤーの「レイヤー情報パネル」を選択します。
- カットファイルツールパネルの下方にある「選択したレイヤーの名前を変更」ボタンをクリックします。



- レイヤーに新しい名前をつけ、OK をクリックします。



レイヤーの再編成

- 移動したいレイヤーのレイヤー情報パネルを選択します。
- カットファイルツールパネルの下方にある「レイヤーを上に移動」ボタン、もしくは「レイヤーを下に移動」ボタンをクリックします。

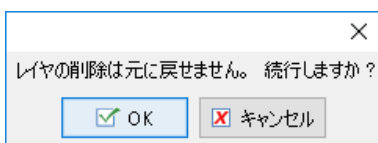


レイヤーの削除

- 削除したいレイヤーの「レイヤー情報パネル」を選択します。
- カットファイルツールパネルの下方にある「選択したレイヤーを削除」をクリックします。



- OK をクリックします。

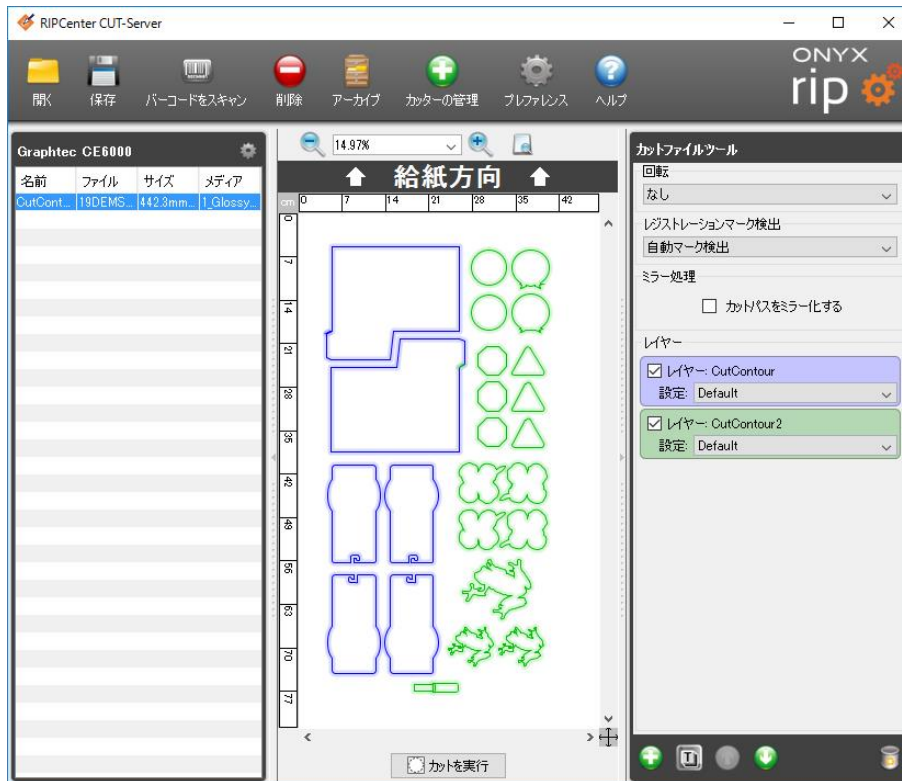


使用しているカッターが複数のレイヤーカットをサポートしていない場合：

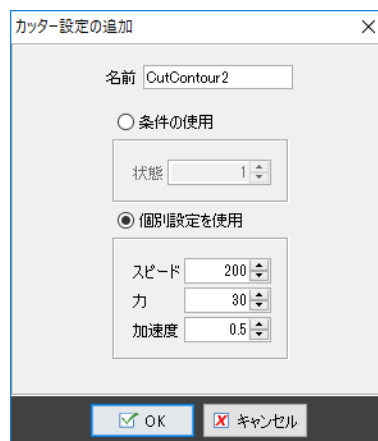
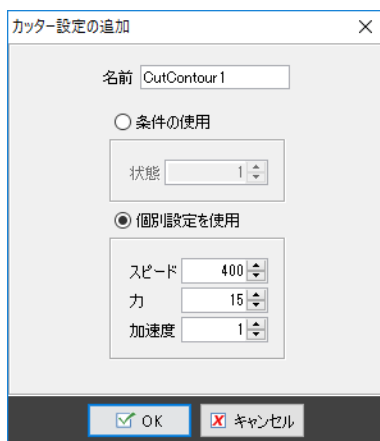
CUT-Server は異なる設定で個々のレイヤーをカットする方法を提供します。

一部のカッターデバイスは CUT-Server で複数の設定をサポートしていませんが、ジョブがカッターデバイスのナイフ圧や速度といった複数の設定を必要とすることがあります。このようなとき、Cut-Server のレイヤーを使用して解決することができます。

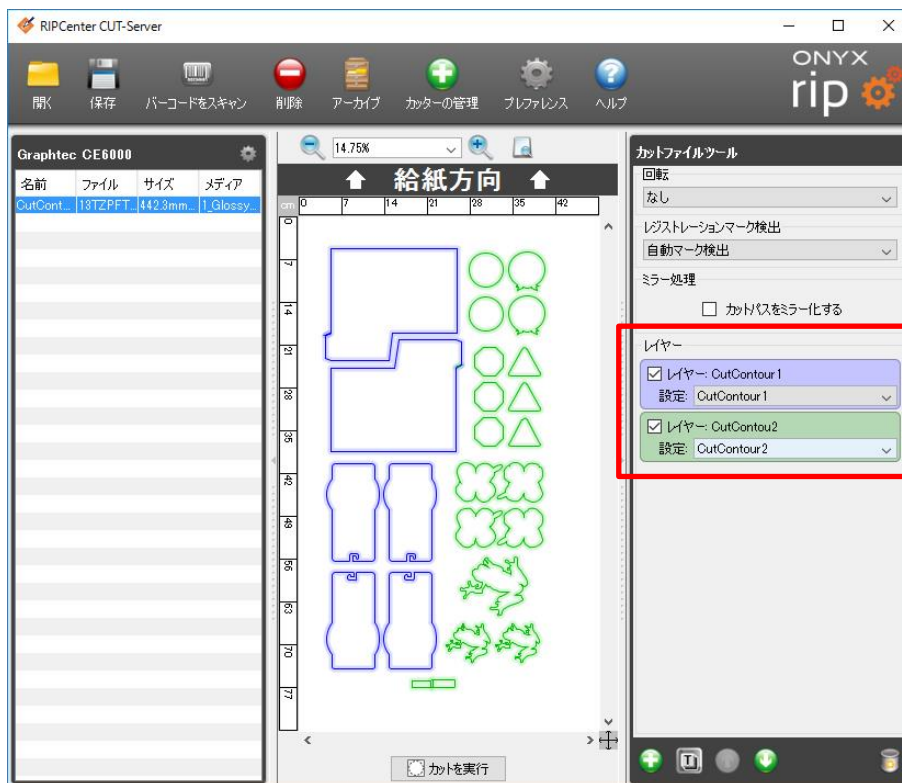
1. 以下のような 2 つのレイヤーを持ったカットファイルで説明します。



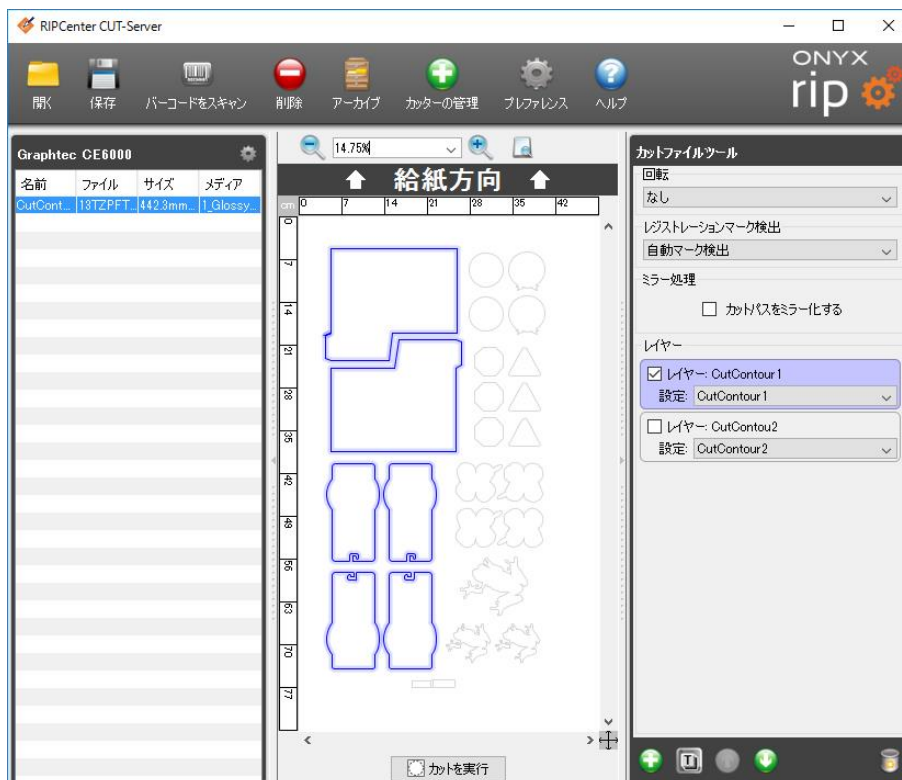
2. カッターのカスタム設定を作成します。(ここでは“CutContour1”と“CutContour2”としています)



3. 各レイヤーに[設定]のプルダウンメニューから作成したカッターの設定を適用します。

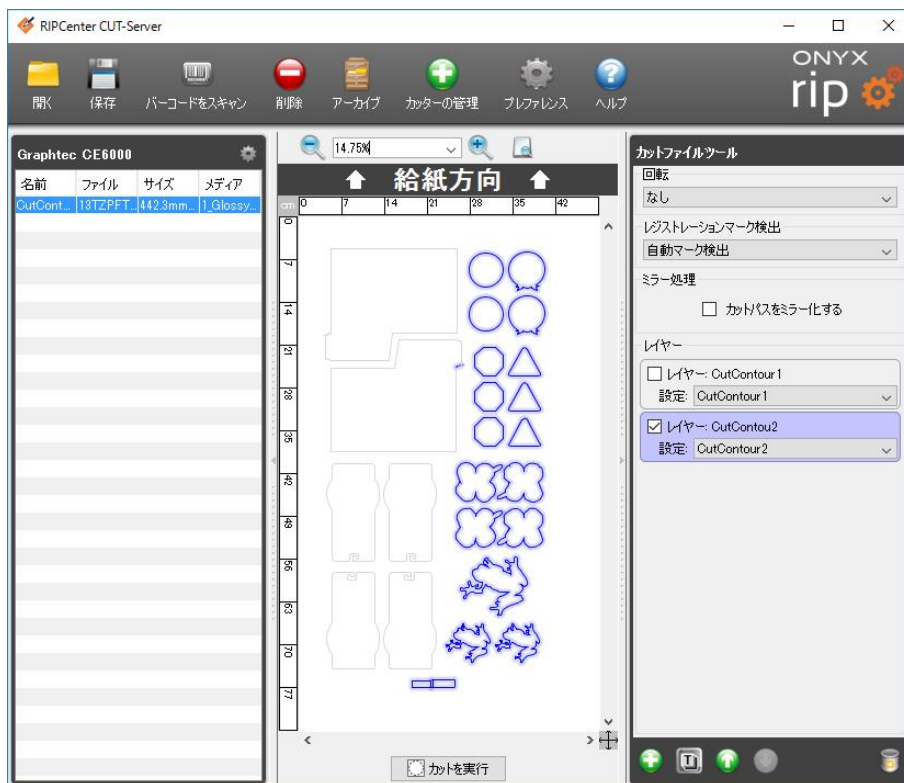


4. 一方のレイヤーのチェックを外し、[カットを実行]をクリックします。



チェックの入ったレイヤー（例では“CutContour1”）のパスだけがカットされます。

5. レイヤーを切り替え、[カットを実行]をクリックします。

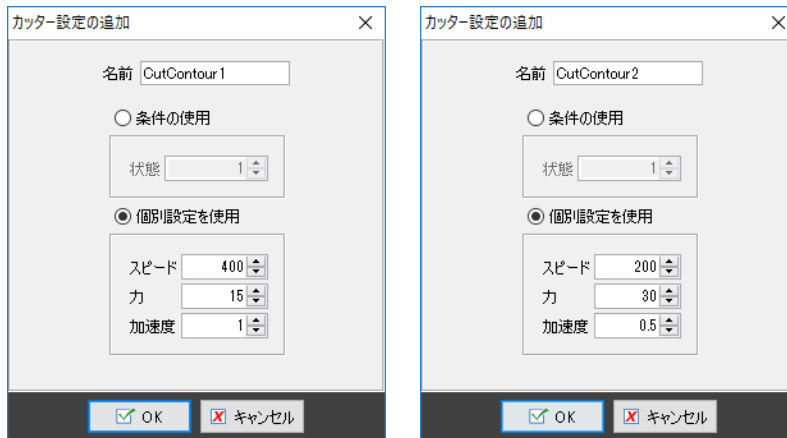


チェックの入ったレイヤー（例では“CutContour2”）のパスだけがカットされます。

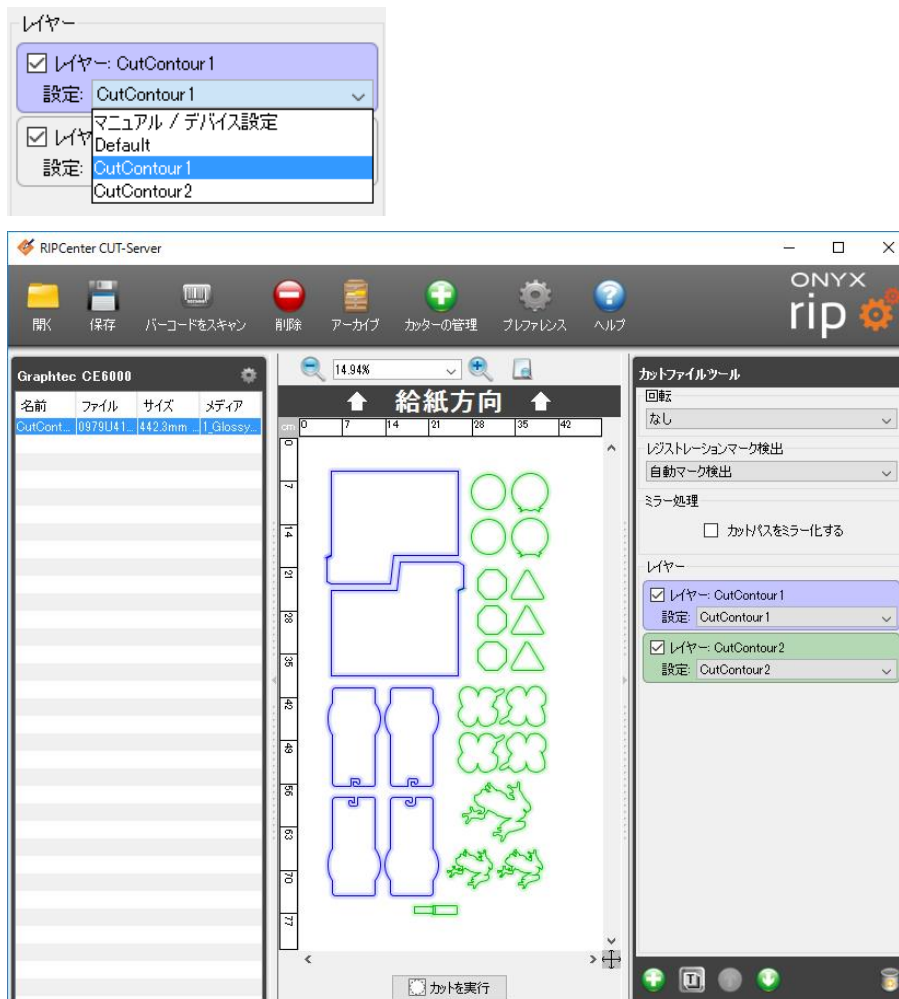
使用しているカッターが複数のレイヤーカットをサポートしている場合：

カットファイルツールセクションでリストされている各レイヤーは、カッターデバイスのナイフ圧や速度といった複数のカッター設定をレイヤーごとに設定して選択ができ、一度にカットすることができます。

1. まず必要なカスタム設定を作成します。(ここでは“CutContour1”と“CutContour2”としています)



2. 各レイヤーにこの設定を割り当ててカットを実行します。

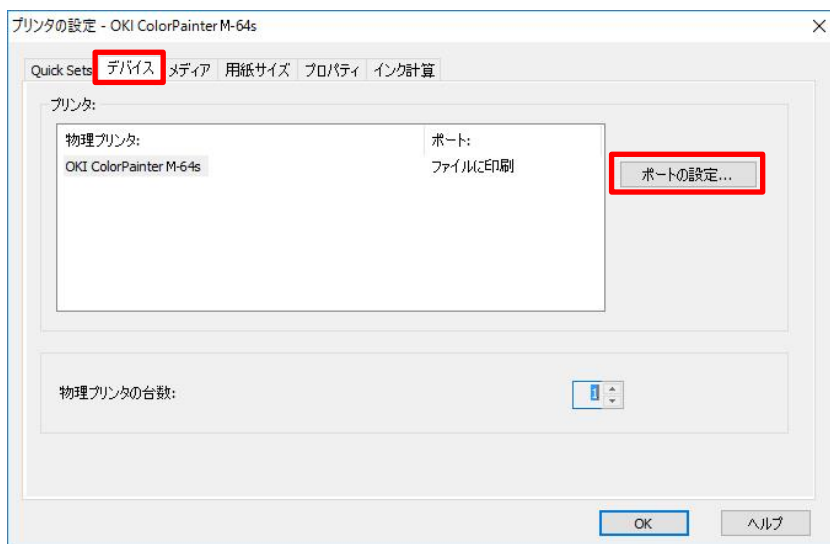


イメージを再印刷せずにカットファイルを生成する

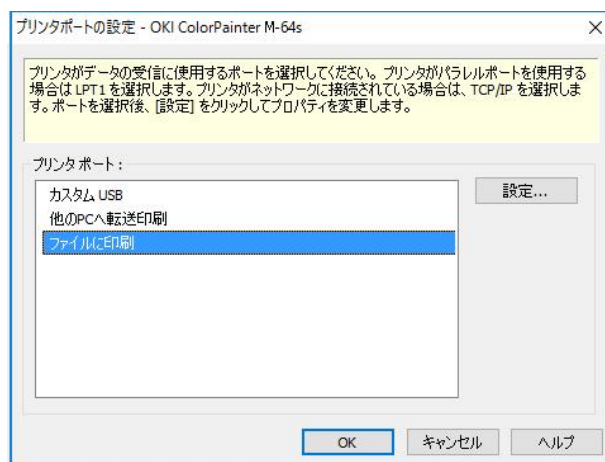
印刷はうまくできたにもかかわらずカットファイルを得ることができなかった場合：

イメージを再印刷せずにカットファイルを生成することができます。これを行うには、実際にプリンターに接続する代わりに、使用プリンターを「ファイルへ印刷」に設定します。

1. RIP-Queueで「プリンターの設定」に行き、[デバイス]タブをクリックします。



2. [ポートの設定]を選び、[ファイルへ印刷]を選びます。



3. [OK]をクリックしてメインウィンドウに戻ります。
4. 使用イメージを再処理せずにバッファ領域からプリントエリアにあるジョブにドラッグします。
5. [印刷]をクリックすると、RIP-Queueは物理的に印刷する代わりに使用コンピュータで小さなファイルを出力し、カットファイルが処理されます。
6. 最初の設定に戻り、接続を使用プリンターに戻すことを忘れず行います。

CUT-Server でカットのみを使用する

- 「カットのみ」は SVG ファイルで定義したカットパスを作成することで動作します。
- SVG ファイルは Adobe Illustrator、Corel、Inkscape といったベクターベースのプログラムで作成することができます。
- デザインの手順はデザインアプリケーションによって異なります。

重要な用語および定義

SVG: 「Scalable Vector Graphics」の略で、オープン標準ファイルタイプ。
これはベクターグラフィックを含む XML ベースのファイルタイプです。

ベクター: 点、曲線、形状を定義するために数学的表現を使用するグラフィックの種類。
利点は、イメージをピクセレーションなしで拡大できることです。

Adobe Illustrator、Corel、Inkscape、または他のベクタープログラム(デザインアプリケーション)でデザインする:

- 最終的な SVG ファイルにあるすべてのベクターパスはカットパスです。
- パスは特色またはオブジェクト順で定義されていません。
- カットパスを検証するために、ワイヤフレームモードでイメージを表示します。

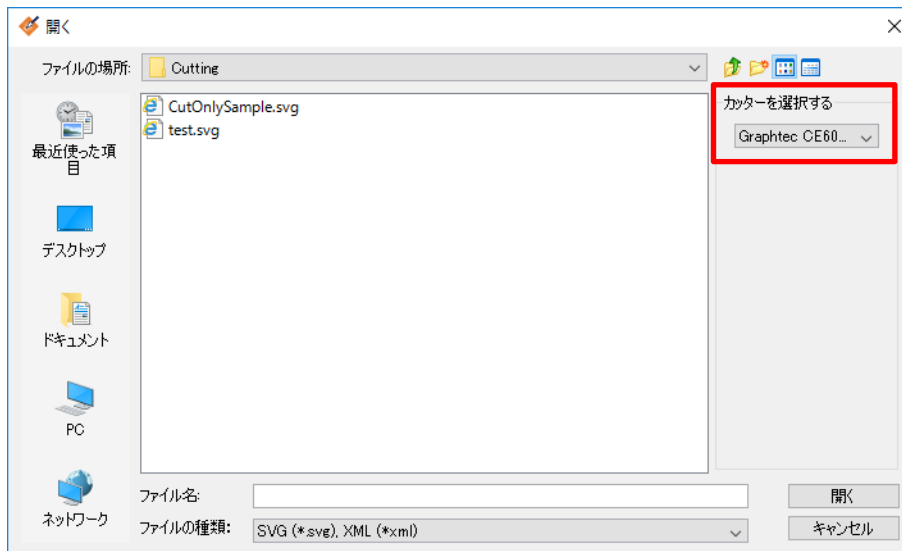


- 「カットのみ」のデザインをするには、ファイルを SVG ファイルとしてエクスポートする前に、追加の手順が必要な場合があります。
アウトライン化するすべてのフォントを変換します。
フォントとして残るフォントが正しくレンダリングされない場合があります。
SVG ファイルをエクスポートする前に、アウトライン化するフォントを変換します。
これはアウトライン化するフォントを変換する前に、母国語のデザインファイルとしてジョブを保存することをお奨めします。
- ベクタープログラム(デザインアプリケーション)はオブジェクトの外観を変えるオプションを提供しますが、パスに直接影響を与えません。
これには丸い角やオーバーラップするオブジェクトのグループ化といったオプションを含むことができます。
これらのオプションを使用する際に、追加の手順が必要となります。
パスは簡略化、組み合わせ、または拡大する必要があります。
これはオブジェクトの変更された外観に従ってパスを再定義します。
- [透明効果]または[オーバープリント]を使用しないでください。
「カットのみ」の使用には、デザインで透明効果やオーバープリントは必要ありません。
- 希望する出力の一部でない場合、[アウトラインのストローク]を使用しないでください。
[アウトラインのストローク]は、2つのカットパスを生む結果となります。
これらはストロークの各側にパスが存在します。
カットパスはストロークのオリジナルパスではなく、ストロークの形状に従います。
一部の例では、オブジェクトを拡大する際にストロークがアウトラインを得る場合があります。
これが起きた場合は、オブジェクトを拡大する前にストロークを削除します。

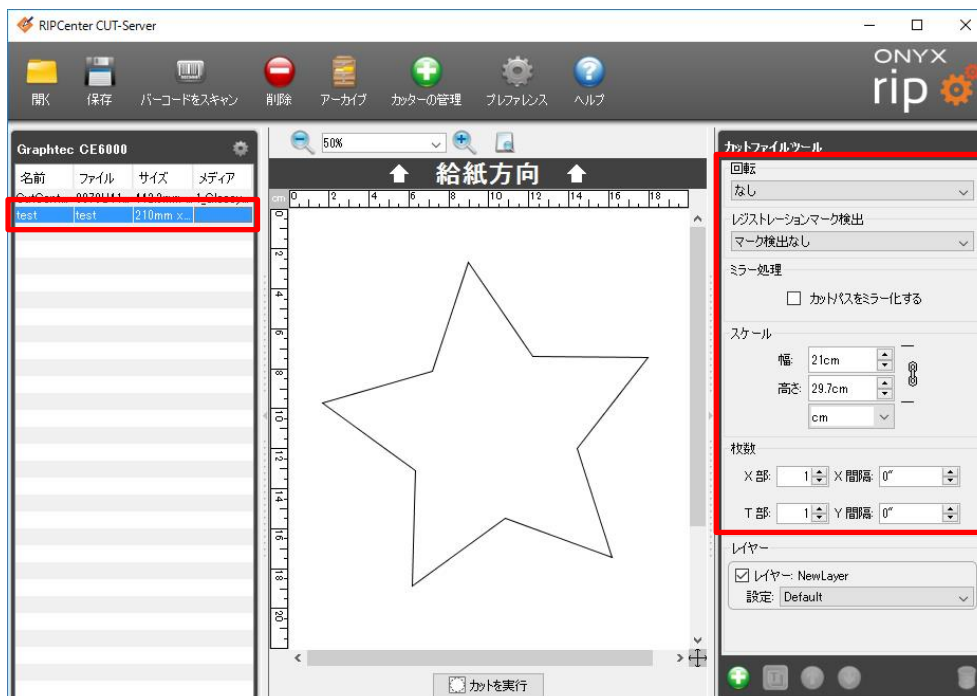
- 一部のアプリケーションにおいては、複数の SVG ファイルタイプがあります。
例えば Inkscape では Inkscape SVG と Plain SVG のファイルタイプがあります。
ONYX RIP では Plain SVG ファイルタイプを使用します。
Inkscape SVG ファイルタイプは CUT-Server で正しく動作しません。

CUT-Server に SVG ファイルを取り込む:

1. CUT-Server で「開く」ボタンをクリックします。
2. 「開く」ウィンドウの右側に[カッターを選択]のオプションがありますので、使用するカッターデバイスを選択します。
(ここでは“Graphtec CE6000”としています)

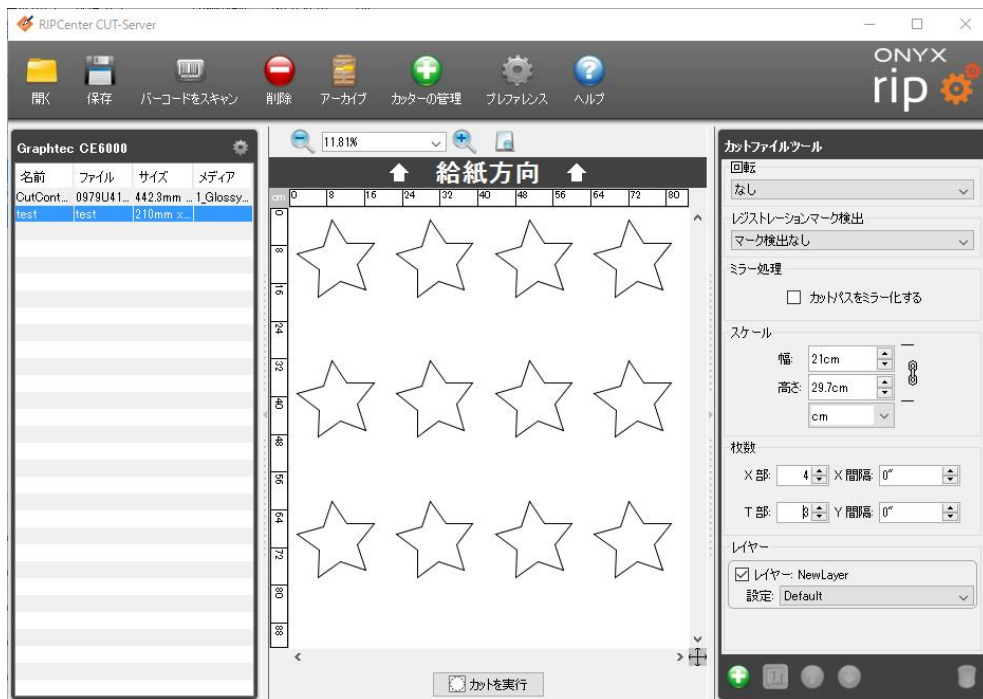


3. SVG ファイルを選び、カッターデバイスを選択して[開く]をクリックします。
4. ジョブをロードしたら、画面の左側に表示されます。カットパスを確認するために左側にあるジョブをクリックします。
「カットのみ」のオプションがカットファイルツールに表示されます。



5. [回転]、[ミラー]、[スケール]、[コピー間のギャップ]、および[カットジョブの設定]オプションがあります。

- [回転]は 90 度の増分 (90,180,270) でオプションを表示します。
「カットのみ」においてはレジストレーションマークの検出が必要ないので、すべての回転オプションはすべてのカッターデバイスで利用できます。
- [カットパスのミラー]はカットデータを読み取り、縦軸を基に反転します。
このオプションを有効にすると、カットデータはミラー化します。
- [スケール]は、カットジョブのサイズを調整することができます。
[変倍スケール]は[幅]と[高さ]の横にある“鎖”のアイコンを解除して行うことができます。
イメージを拡大縮小すると、カットのネストプレビューですべてのコピーに適用されます。
- [X 部]および[Y 部]を使ってコピーを指定する機能があります。
またコピーの隣に[X 間隔]と[Y 間隔]があります。
このオプションは、それぞれの繰り返しコピー間の距離を増やすことができます。



- [コピー]の下には、[カッターの設定]および[レイヤー]があります。
利用できるオプションはどのカッターデバイスを使用するかによって異なります。
6. 「カットのみ」のジョブを設定したら、ジョブをプリンターに送信するために[カットを実行]をクリックします。
カッターデバイスは決定したその基点からカットを開始します。

トラブルシューティング

| 問題 | 原因の可能性 | 解決法 |
|--|--|--|
| プリント時にエラーが表示され、「ファイルにカットパスがありません」と記載される。 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 特色名が正しいプレフィックスでないかもしれません。 2. パスの定義に使用したカラーが特色でないかもしれません。 3. EPS での透明効果がラスタライズされ、カットパスを排除しています。 4. カットパスはデザインファイルでアートワークの下にあります。 | <ol style="list-style-type: none"> 1. クイックセットで特色名のプレフィックスを確認します。大文字で始めることとスペースに配慮する必要があります。 2. デザインアプリケーションのスウォッチがプロセスカラーではなく、特色に設定されていることを確認します。 3. 透明効果がある場合、ファイルを PDF のバージョン 1.6 または 1.7 で保存します。EPS ファイルは透明効果をサポートしておらず、ラスタライズされます。 4. カットパスとして定義したオブジェクトを一番上のオブジェクト順に、またはレイヤーの一番上に移動します。 |
| CUT-Server が開かない。 | 不正バージョンの JAVA がインストールされているかもしれません | すべての ONYX®ソフトウェアを閉じます。 マイコンピュータ > ONYX X12 フォルダに行き、CUT-Server、Media Manager、Xrip フォルダにある Vendor フォルダと同様に、Vendor フォルダを削除します。 その後インストールで修正を実行します。 |
| カットファイルが作成されない。 | <ol style="list-style-type: none"> 1. [RIPとプリントのオンザフライ]が有効になっています。 2. [二段階プロセス]または[アンチエイリアス]が有効になっています。 3. カットパスが検出されていません。 | <ol style="list-style-type: none"> 1. [RIPとプリントのオンザフライ]をオフにします。このオプションはカットファイルの作成を妨げます。Job Editor で[印刷]タブに行き、[印刷設定]をクリックします。 [出力]タブで「<input type="checkbox"/> 同時に RIP と印刷」のチェックを外します。 2. [二段階プロセス]と[アンチエイリアス]をオフにします。これらはカットファイルの作成を妨げます。Job Editor で「ファイル」メニューから[ジョブ プロパティ]を選択します。 二段階プロセスは PS/PDF オプションで、アンチエイリアスは Jaws オプションで設定します。 3. カットパスがレイヤーの一番上にあり、特色名がクイックセットで定義したプレフィックス(接頭辞)を含んでいることを確認します。 |
| カットファイルは作成されたけれども、CUT-Server に表示されない。 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 間違ったカッターマークが使用されているかもしれません。有効なマークだけが自動的にカッターデバイス名の下に表示されます。 2. スポットデータがプロセスカラーで特色ではないかもしれません。 3. RIP-Queue でカッターマークが選択されていないかもしれません。 4. ユーザもしくはハードドライブに全読み取り/書き込み許可が無効かもしれません。 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 使用するカッターデバイスに対して、正しい RIP-Queue マークが選択されているか確認してください。カッターデバイスが正しいマークを使用するために、RIP-Queue でカッターマークを変更し、ジョブを再プリントします。 リモート CUT-Server ステーションを使用している場合、「ジョブ」セクションが選択した RIP コンピュータでカットフォルダがあることを確認します。 2. デザインアプリケーションでカットパスのカラーを描いたデータがプロセスカラーではなく特色となっているか確認します。 3. カッターマークの有効を確実にするために、RIP-Queue でバッファファイルをチェックします。 4. ローカルコンピュータ管理者としてログイン、または全読み取り/書き込み機能のフォルダパーミッションを変更します。 |
| CUT-Server でカットファイルが間違って表示される。 ・カットファイルで線がずれる。 ・カットファイルでカット線が見つからない。 | 「USECUTSPLINES」オプションが有効となっているかもしれません。一部のカッターデバイスは「CUTSPLINES(カットスプライン)」と呼ばれるオプションをサポートしていません。これはカットファイルで不良出力の原因となります。 | <ol style="list-style-type: none"> 1. RIP-Queue で、設定 > RIP 環境設定 > Jaws(または Adobe) RIP の設定と進みます。 2. 「<input type="checkbox"/>USECUTSPLINES OFF」にチェックを入れます。 3. ジョブを再リップして再プリントします。 |

| | | |
|---|--|--|
| [カットを実行]をクリックしても何も行わない。 | カッターデバイスの接続がセットアップされていないかもしれません。これはカッターデバイスと PC との通信が適切に設定されていない場合に発生します。 | [ポートの設定]で、接続が正しいか確認してください。カッターの通信を設定します。 1. [カッターの管理]をクリックします。 2. カッターデバイスを選び、[設定]をクリックします。 3. 正しい[ポート設定]を選び、[設定]をクリックします。(USB、シリアル、TCP/IP など) 4. 必要な情報を入力し、[閉じる]をクリックします。 カッターの設定には、カッターデバイス名の横にあるツールアイコンをクリックして入ることもできます。 |
| I-Cut または Zund カットファイルが CUT-Server で表示されない。 | これらのデバイスは、CUT-Server ではなく、メーカーのソフトウェアで動作します。 | 現在のメーカーソフトウェアとともに、カッターフォルダにある ONYX RIP で作成したカットファイルを開いてください。 |
| Preflight(Job Editor)ではカットデータを見ることができない。 | 1. [カッターパスプレフィックスを使用]の設定が有効になっていないかもしれません。 2. スポットデータが特色でなく、プロセスカラーになっているかもしれません。 | 1. RIP-Queue で、使用するクイックセット(詳細) > PS/PDF オプション タブ)で、[カッターパスプレフィックスの使用]が有効になっているか確認します。 2. デザインアプリケーションでカットパスを描いたデータが、プロセスカラーではなく特色となっているか確認します。 |

用語

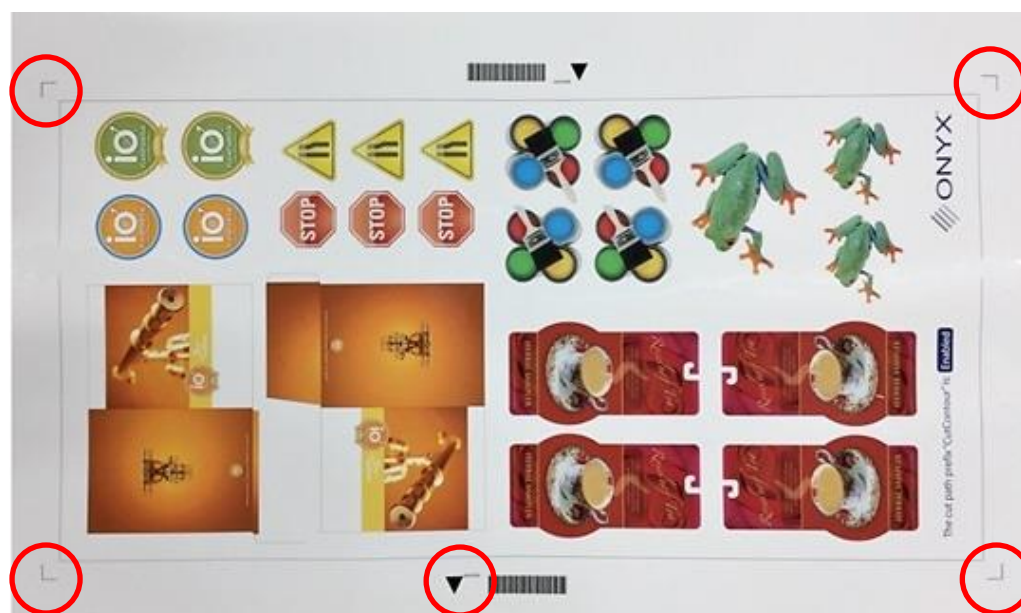
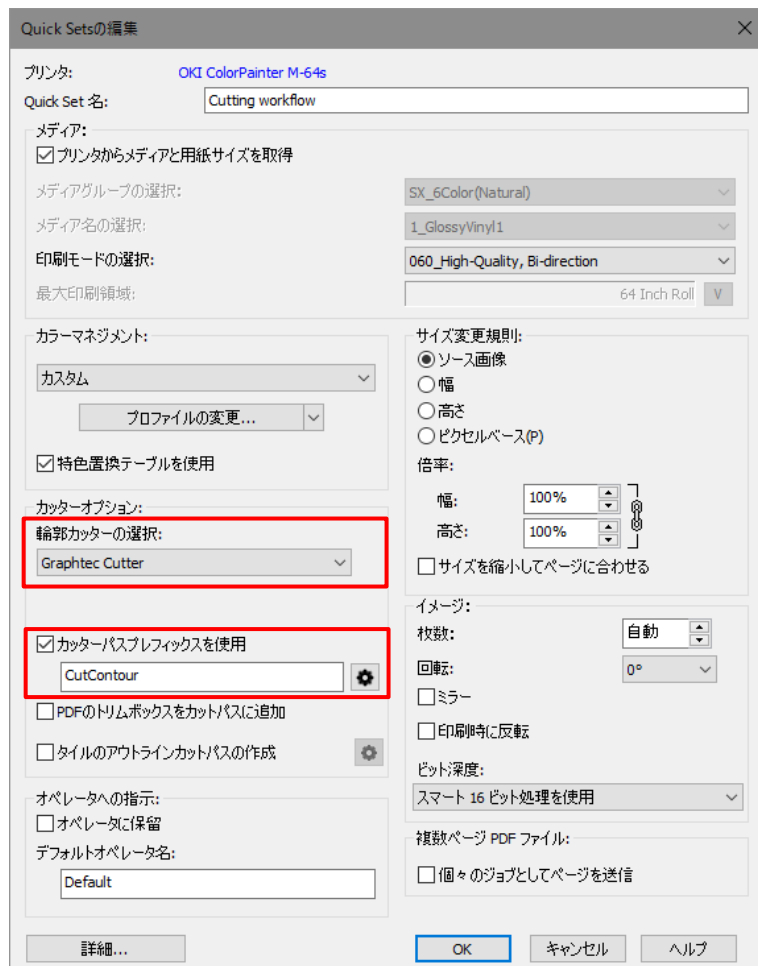
| | | |
|-----------------------|--------------|---------------------------------|
| ダイカット (型抜き) | die cutting | 台紙ごと切り込みを入れること。(die=金型) |
| ハーフカット/キスカット (半抜き) | kiss die cut | 台紙は切らずに粘着剤のついた表面材のみに切り込みを入れること。 |

実際のカット作業

実際にプリントされたメディアを輪郭カットするまでの手順を、カッティング・プロッター Graphtec CE6000 の場合を例にとり説明します。

Quick Sets の編集で、カッターオプションの[輪郭カッターの選択]のプルダウンメニューからカッターデバイス(ここでは“Graphtec Cutter”)を選択し、[カッターパスプレフィックスを使用]にチェックを入れてカットパスが含まれている PDF を開いて印刷すると、画像データの周辺にトンボマーク、印刷方向を示す三角形、カットデータファイル名が印刷されます。

(トンボマークの数は、印刷される画像の大きさによって変わります)



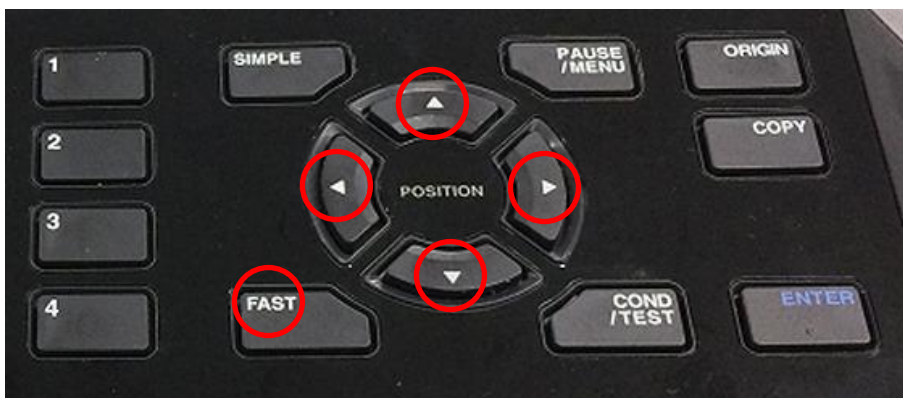
1. 印刷された三角形が手前を向くようにメディアをカッティング・プロッターにセットします。

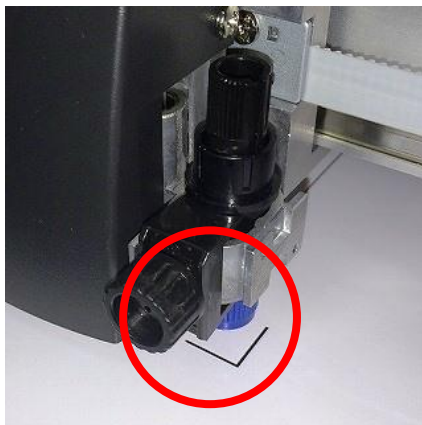
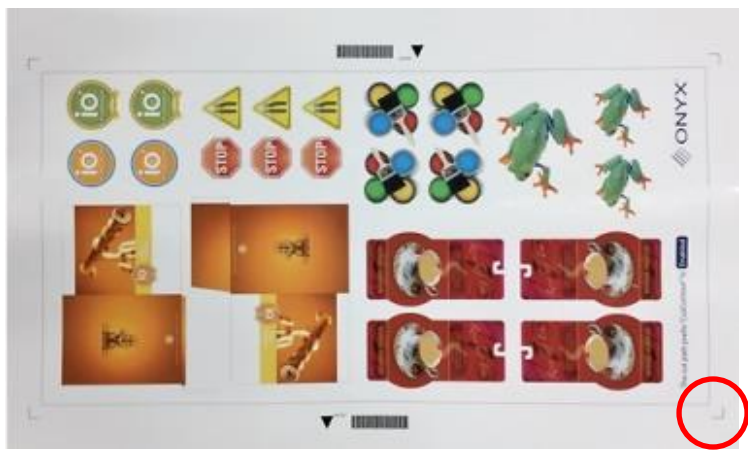


2. 三角形の横に印刷されたカットデータファイル名を確認します。

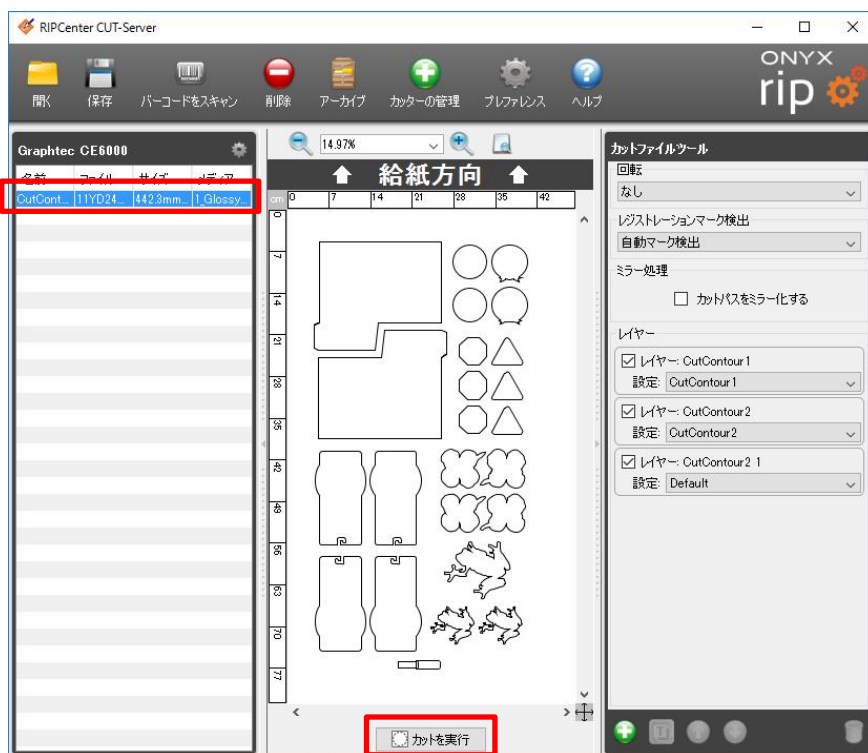


3. カッティング・プロッターの矢印キーを使って、カッターパンを右側手前のトンボマークの内側に移動します。





4. Cut-Server のカッターデバイス名の下に表示されたファイル名の中から、手順 2 で確認したファイル名を選択し、[カットを実行] ボタンをクリックします。



5. カutting・プロッターがトンボマークを自動的に検出したのち、輪郭カットを始めます。

これでカット作業は終了です。

